

1999(平成11)年度

講義内容

法学部

 駒澤大學

KUMAZAWA

1 專 門 教 育 科 目

(1) 法 律 学 科

講 義 內 容

目 次

1	專 門 教 育 科 目	
	(1) 法 律 学 科	5
	(2) 政 治 学 科	69
2	他 学 部 履 修 科 目	125
3	随 意 科 目	205
4	日 本 語 ・ 日 本 事 情 科 目	211
5	教 職 ・ 資 格 講 座	233

專 門 教 育 科 目	法 律 学 科 政 治 学 科
他 学 部 履 修 科 目	随 意 科 目
日 本 事 情 科 目	日 本 語
教 職 ・ 資 格 講 座	教 職 ・ 資 格 講 座

1 専門教育科目

(1) 法律学科

法	学	概	論	(北野かほる)	5
法	学	概	論	(高橋洋城)	6
憲			法	(斉藤寿)	7
民	法	総	則	(河野弘矩)	8
刑	法	総	論	(山口邦夫)	9
刑	法	総	論	(松村格)	10
会		社	法	(山田泰彦)	11
会		社	法	(荒木正孝)	12
行	政	総	論	(金子昇平)	13
国		際	法	(王志安)	14
物		権	法	(鶴井俊吉)	15
債	権	総	論	(青野博之)	16
刑	法	各	論	(山口邦夫)	17
有	価	証	法	(島原宏明)	18
裁		判	法	(杉浦智紹)	19
民	事	訴	法	(杉浦智紹)	20
刑	事	訴	法	(小木曾綾)	22
社	会	保	法	(一戸真子)	23
国		私	法	(笠原俊宏)	24
行	政	各	論	(斉藤寿)	25
国	際	紛	法	(王志安)	26
担	保	物	法	(鶴井俊吉)	27
労	働		法	(藤本茂)	28
保	險	・	法	(山田泰彦)	29
相		海	法	(竹中智香)	30
商	法	統	法	(関口雅夫)	30
親	族	・	法	(竹中智香)	31
政	治	学	論	(大塚桂)	32
政	治	原	史	(楠精一郎)	33
経	済	原	論	(浅野克巳)	34
法	思	想	史	(高橋洋城)	35
比	較	憲	法	(西修)	36
法	律	時	語	(休講)	
日	本	法	史	(茂野隆晴)	37
西	洋	法	史	(北野かほる)	38
刑	事	政	策	(斎藤静敬)	39
法	社	会	学	(小林弘人)	39
マ	ス	・	論	(相田敏彦)	40
行	政		学	(岡田彰)	41
英	米		法	(北野かほる)	42
独			法	(山口邦夫)	43
仏			法	(上井長久)	44
債	権	各	論	(林幸司)	45
税			法	(岸田貞夫)	46

財	政	学	(里	中	恆	志)	47							
經	濟	策	(森	岡	仁)	48	48							
社	会	策	(金	子	征	史)	48							
民	事	執	行	・	保	全	法	(梅	善	夫)	49			
法	哲	学	(高	橋	洋	城)	50							
倒	産	処	理	法	(馬	越	道	夫)	51					
知	的	財	産	權	法	(盛	岡	一	夫)	51				
環	境	法	(松	村	弓	彦)	52							
經	濟	法	(岡	田	外	司	博)	52						
証	券	取	引	法	(春	田	博)	53						
金	融	法	(川	田	悦	男)	54							
国	際	取	引	法	(岡	田	外	司	博)	55				
消	費	者	法	(青	野	博	之)	56						
航	空	・	宇	宙	法	(関	口	雅	夫)	57				
地	方	自	治	法	(富	井	幸	雄)	58					
国	際	関	係	論	(首	藤	素	子)	59					
外	交	史	(首	藤	素	子)	60							
政	治	思	想	史	(小	林	正	敏)	60					
外	書	講	読	[英	書]	(青	野	博	之)	61				
外	書	講	読	[英	書]	(金	子	昇	平)	61				
外	書	講	読	[独	書]	(松	村	格)	62					
外	書	講	読	[仏	書]	(小	木	曾	綾)	62				
外	書	講	読	[中	国	書]	(江	林	英	基)	63			
外	書	講	読	[ス	ペ	イ	ン	書]	(佐	藤	玖	美	子)	63

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
法 学 概 論	きたの 北野かほる	法 律 1 必	4

講義のねらい

これから法学を学んで行くための基本的観点と感覚を養うため、「法」と社会と人間との関わりについての一般的考察、「法」の社会的機能の要点、を概観し、「法学」の全般的機能を考察した上で、「法学」を学ぶことの意味を改めて考える。また、今後の学習の指針として、現代日本の法学の諸分野とその大まかな特徴を解説する。

講義の内容・
授業スケジュール

- 第1部 社会と法
 - 第1章 一般的考察
 - 第1節 人間と法
 - 第2節 規範と権力
 - 第3節 正義
 - 第2章 集団生活と規範
 - 第1節 社会集団
 - 第2節 規範
 - 第3節 法的思考
- 第2部 近代日本の法
 - 第1章 近代日本の系譜
 - 第1節 日本の法的近代化
 - 第1章 日本の法的近代化
 - 第1節 近代日本法の特徴
 - 第2節 日本近代法の分類
 - 第3節 現代日本法の動向

履修上の留意点

講義中の私語・騒音は厳しく制限する。予め十分留意すること。

成績評価の方法

論文式筆記試験（後期試験期間・年1回）

教 科 書

特に指定しない。

参 考 書 等

年度当初に指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
法 学 概 論	<small>たか</small> <small>はし</small> <small>ひろ</small> <small>き</small> 高 橋 洋 城	法 律 1 必	4

専 門 (法 律)

講義のねらい

- 本講義は、法学部の専門科目を学ぶための準備段階として、
- ・高校まで諸君がやってきた各科目の学習法とは違う、法学の学び方にふれてもらう。
 - ・法学や、法に関する思考の基本的な特質を理解してもらう。
 - ・そのために必要な最低限の基礎知識、基本概念を身につけてもらう。
 - ・主要法領域それぞれの役割、特質を概観し、自分自身の今後の学問的関心を形成してもらう。
 - ・我々と法の関わり方を問う、様々な現代的問題についての認識、関心を形成してもらう。
- といったところを講義の目的として考えている。

講義の内容・
授業スケジュール

高度に専門的な議論、各法領域に特有の細かな問題については、それぞれの専門科目に委ねなくてはならないが、できるだけ具体的な問題・事例にもふれながら、これから法を学びはじめる諸君の水先案内をつとめたいと思う。

- 講義スケジュールについては、さしあたり次のようなものを予定している（順不同）。
- ・法と法律・権利に対する基本的視座：法的思考を形成する基本的な諸概念の考察
 - ・現代日本法にまでいたる法発展史（西欧近代法の形成をふくむ）の概観
 - ・近現代法の基礎的原理の概観。とりわけ現行憲法の諸原理と諸規定の概括的把握
 - ・公法と私法、民事法と刑事法、実体法と手続法等々、各法分野の特質と差異の概観
 - ・現代社会固有の問題に対する法的視角からの検討 etc.

ただしこれはあくまで現時点での予定であり、詳細は講義開始時にあらためて伝えることとするが、さらに聴講者の反応に応じて、臨機応変に変更していくことも想定されるのであらかじめ了承されたい。また講義時間内あるいは短期の宿題として小レポートを課することがあるかもしれない。

成績評価の方法

成績評価は後期終了後の記述式試験によって行なうが、上記の小レポート等を実施した場合には当然これも評価対象とする。

教 科 書

大久保治男著『改訂 法学概説』（葦書房）。教科書の内容を順次説明するという形式をとるわけではない。ただし、講義で言及できない部分を教科書の記述に委ねることがあり、そうした場合は口頭、板書で触れなかったことがらでも試験の範囲となりうると考えて欲しい。

参 考 書 等

『法学入門1999』別冊法学セミナー（日本評論社）
その他の参考文献、資料は講義の中でそのつと指示する。

そ の 他

毎回使用するわけではないが、六法を持参のこと。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
憲 法	さいとう ひまし 齊 藤 寿	法 律 1 必	4

講義のねらい

「憲法原理の究明」

1年間・全体を通して、極めて楽しい雰囲気の中で、憲法原理の究明を、興味深く行います。特にこの講義は、理論とともに生きた事例と判例を重視しながら行います。

講義の内容・
授業スケジュール

- 第1回 憲法概念-権力と国家と憲法-について
- 第2回 近代憲法と現代憲法の基本原理について
- 第3回 明治憲法の成立と特質について
- 第4回 日本国憲法の成立と制定法理について
- 第5回 日本国憲法の動向について
- 第6回 日本国憲法の体系と基本原理について
- 第7回 天皇の地位と権能について
- 第8回 国民の基本的人権について
- 第9回 平等権規定の態様と原理について
- 第10回 精神的自由権規定の態様と原理について
- 第11回 経済的自由権規定の態様と原理について
- 第12回 人身的自由権規定の態様と原理について
- 第13回 人身保護権規定の態様と原理について
- 第14回 救済権規定の態様と原理について
- 第15回 参政権規定の態様と原理について
- 第16回 社会権規定の態様と原理について
- 第17回 新しい人権について
- 第18回 国民の義務について
- 第19回 平和主義と日本国憲法について
- 第20回 統治機構と権力分立制について
- 第21回 国会の地位と構成と権能について
- 第22回 内閣の組織と権能と責任について
- 第23回 裁判所の地位と構成と権能について
- 第24回 憲法訴訟原理と違憲審査制について
- 第25回 財政の原則と予算と決算について
- 第26回 住民自治と団体自治の原理について
- 第27回 憲法保障の意義と方法について
- 第28回 国法の諸形式について
- 第29回 試験

履修上の留意点

※履修への対応 (Attitude of Your Lessons)

- ① Preparation (予習)
 - ② Marginal Note (余白ノート) の作成
 - ③ Review (復習)
- については、毎回指導します。

成績評価の方法

試験の成績とレポートの成績を合せて、学年の成績とします。

教科書

拙著の中から講義の際、選択・指示します。

参考書等

シラバス参照。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
民 法 総 則	こ 野 の ひろ の り 河 野 弘 矩	法 律 1 必	4

講義のねらい

民法とは、実質的意義においては、私法関係を規律する原則的・一般的な法を指し、形式的意義においては民法典を指している。民法典は、財産法領域を物権と債権に分け、それに家族法領域の親族と相続に関する規定を加え、それらの通則として最初に「総則」規定を置くといった五編から構成されている。「総則」規定は、財産法領域の総則であり、家族法領域にはそのまま適用されない。民法典の編纂にあたり最初に抽象的命題を置き、次に具体的な法命題へと下降するといった手法を採用したため、最初の編である民法総則は、抽象的で、理解しにくい規定が多く、民法典の中では比較的難解な編であると言われている。本講義では、可能な限り具体的事例を通して、抽象的理論の理解をより容易にし、受講者の知的好奇心・学問的興味を深めていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

民法総則は、その全体が「権利」を中心に、先ず「権利の主体」、「権利の客体」、続いて「権利の変動」といった順序による体系的な構成を採用している。本講義もその体系にしたがい進行する。一年間の前半で「権利の客体」までを終了し、「権利の変動」については夏休み以降を行う予定である。講義の中で、民法の条文は当然のこと、それ以外の特別法の条文をも参照する機会が多いため、必ず六法を持参して受講されたい。

講義は、民法総則の体系に従い次の順序で行う。

- 一 序論 (民法の意義、基本原則、信義則と権利濫用)
- 二 権利の主体
 - (1) 自然人 (権利能力、意思能力、行為能力、無能力者の相手方の保護、住所、不在者)
 - (2) 法人 (公益法人の設立、能力、機関、権利能力のない社団)
- 三 権利の客体 (物の概念、不動産と動産、主物と従物、元物と果実)
- 四 民法総則前半についての質疑応答
- 五 権利の変動
 - 1 法律行為 (法律行為の意義、種類、法律行為の解釈)
 - 2 意思表示
 - (1) 意思と表示の不一致 (心裡留保、虚偽表示、錯誤)
 - (2) 瑕疵ある意思表示 (詐欺、強迫)
 - (3) 意思表示の効力発生時期
 - 3 法律行為の代理 (代理の概念、代理権、代理行為、復代理、無権代理)
 - 4 法律行為の効力 (無効、取消)
 - 5 法律行為の効力の制限 (条件、期限)
- 六 時効 (序論、取得時効、消滅時効)
- 七 民法総則全体についての質疑応答
毎回の講義終了後の教場か研究室 (第二研2838) においても質問を受ける。

履修上の留意点

毎週、必ず出席をすること。継続しての受講が理解の早道です。

成績評価の方法

期末試験の成績により評価する。評価に出席状況を加味するか否かは未定。

教科書

河野弘矩『民法総則講義』(八千代出版) 3,200円

参考書等

基本コンメンタール『民法総則』(日本評論社)
六法全書は、本講義に関する限り、ポケットサイズの六法全書でも、また年度の古いものでも良いです。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
刑 法 総 論	やまぐちくに お 山 口 邦 夫	法 律 1 必	4

講義のねらい

一年次の専門科目として、高校時代の学習あるいは予備校時代の勉強方法から、一日も早くぬけ出し、大学における真の学問を学ぶ姿勢になってもらうことを主眼に講義をする。大学生の自覚をもって、講義や読書を通じて、みづから積極的に研究する態度を身につけるように諸君も努力してほしい。

講義の内容・授業スケジュール

一年間を次の4期に分けて講義をする。Ⅰ期(4・5月)、Ⅱ期(6・7月)、Ⅲ期(9・10月)、Ⅳ期(11・12月)、1月の1回は、質問日とする。
Ⅰ期。学問とは何か。特に学問の限界について考える。それから、法律学とは何か。法学の体系における刑法学の位置づけへと進む。
Ⅱ期。刑法における刑罰と犯罪概念を中心に、法治国家の原則として罪刑を法定しておくことの意味を検討する。
Ⅲ期。ドイツの構成要件論を手がかりに、犯罪論の構築の仕方について、数種のパターンを考えて講義をする。その際、違法と責任との区別を峻別する立場から解説をする。
Ⅳ期。犯罪の既遂・未遂について、昔の学派の対立を考慮しながら、未遂処罰の根拠、さらに過失犯に実行行為があるか否かを考えながら、故意犯と過失犯との区別について検討する。最後に二人以上の犯罪者が加わる共犯の問題について論究し、刑法学の概説を終る。

履修上の留意点

年間を通じて、原則として出席はとらない。ただし、上記の各期ごとのまとめとして、小テストを時間内に行う予定である。
質問時間は、研究室2719号に掲示してある。毎週2～3時間は、毎年確保しているのので、この時間内は、自由に質疑が可能である。

成績評価の方法

上記の小テストが実行できれば、その結果を、年一回の期末試験の成績と一緒に評価し、単位を認定する。

教科書

教科書は、原則として使用せずに講義をすすめ、参考書はその度に紹介するので、積極的に読書してほしい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
刑 法 総 論	まつ 村 格 むら いたる	法 律 1 必	4

講義のねらい

刑法(刑罰法規)は、歴史的には支配者が市民を抑圧する最強の手段として長い間悪用されてきたし、近年に入ってからファシストたちから悪用された。今日、刑法は、市民の自由と権利を保障する機能をもつものとして把握されなければならない。そのためにも、刑罰権の発動と処罰の範囲をできる限り制限する理論操作が必要である。市民と行為者と被害者のそれぞれの人権保障を考えながら刑法理論を構築しなければならない。授業では、刑法総論を中心に講義していくが、もちろん、刑法各論とのかかわりを無視することなく具体的な事例を参考にしながら刑法総論を学ぶことによって、刑法学の全体像を理解できるようにしていきたい。

講義の内容・
授業スケジュール

前 期

- 第1回 (刑法システムとその余のシステムとの関係および刑法システムと隣接領域システムとの関係)
- 第2回 (刑法および刑法学システムとその部分システムとの関係ならびに刑法総論とその部分システム)
- 第3回 (刑法の意義と機能および犯罪の意義)
- 第4回 (刑罰論と罪数論=刑罰の本質と機能および目的/罪数論の意義)
- 第5回~6回 (刑法の原理・原則論=罪刑法定主義/責任主義/謙抑主義)
- 第7回~9回 (行為と構成要件の理論=行為論/犯罪の主体と客体/故意と錯誤の理論/不作為犯論/因果関係論)
- 第10回以降 (違法性の理論=違法性の本質と実質/正当防衛と緊急避難/自救行為/正当業務行為とくに治療行為/臓器移植/安楽死・尊厳死)

後 期

- 第1回~3回 (責任論=責任の本質/責任能力/故意と違法性の意識/期待可能性)
- 第4回~5回 (未遂論=未遂の意義と処罰根拠/中止未遂/実行の着手/不能未遂)
- 第6回~9回 (共犯論=共犯の意義と形態/処罰根拠/正犯と共犯の区別と関係/共同正犯/共犯と身分/共犯の諸問題)
- 第10回~最終回 (補足)

履修上の留意点

刑法学は、きわめて体系的な学問なので、継続的に出席して講義を受けないと理解できなくなる。できる限り具体的な事例を利用して説明するが、それでも観念的思考が入りこむので、考える力を必要とする。教科書以外のことをたくさん話すので、講義をよく聴き、必ずノートをとることが大切である。ただし、黒板に書くことは最小限度必要な事項だけであるから、それを筆記するだけでは意味がない。六法全書・教科書・ノートを毎回持参することが必要条件である。

成績評価の方法

成績の評価は、学年末の定期試験とその他の小テストの成績を総合して判断する。

教 科 書

松村格『刑法学への誘い』(八千代出版)
松村・神田・都築・野崎『刑法総論』(ミネルヴァ書房)

参 考 書 等

別冊ジュリスト『刑法判例百選I総論(第4版)』(有斐閣)
斉藤誠二編『演習ノート刑法総論』(法学書院)
『刑法基本講座(全6巻)』のうち1~4巻(法学書院)

そ の 他

授業の方法は、すべて講義方式で行なう。必要に応じてプリントを配布することがある。その場合には、そのプリントに沿って講義をする。

科目名	担当者名	配当学科	単位
会社法	やま だ やす ひこ 山 田 泰 彦	法律 2 必	4

講義のねらい

会社——特に、株式会社は、現在の経済活動における不可欠の組織である。この講義では、株式会社の組織・運営に関する法規制、株式会社法を中心にその制度の体系および構造を概観する。会社法といっても、学生諸君にすれば、会社という場に身を置いていないこともあって、それは別世界のことであり、あまり身近に感じられない遠い世界でもあるかのようである。しかし、私たちの生活は、高度な経済社会の営みの上に展開しているのであり、それは、企業活動の単位としての株式会社によって支えられているといっても過言ではない。私たちは、会社に就職することで直接的な関係を持つ場合のみならず、この社会で生活していること自体、すでに会社と間接的に結ばれているといえよう。このような会社という存在に、法の側面から、この講義では接近する。

さて、株式会社とは、出資単位を均一の細分化した株式にして、社会に潜在している資本を効率よく集めるために、考案されたものである。したがって、立法制定者は、相当大きな資本を擁する複雑な構造をもった組織として、典型的な株式会社の姿を法典の上に描いて見せたが、現実には、個人企業や組合に等しいような株式会社が多い。このような株式会社にとって株式会社法は、身の丈に合わないだぶついた服となっており、法と現実との遊離といった問題が生じている（そもそも、こうした小さな企業がなぜ株式会社という選択をするのだろうか。講義ではこの点にも触れる）。他方、株式を証券市場に上場しているような会社は、その資本金も株主の数も多く、中にはそれ自体が一個の社会的権力にも比肩できるような巨大会社もめずらしくないが、これら会社にとって株式会社法は、むしろスモール・サイズの服となっている。株式会社法は、この両極において、困難な問題に直面しているといえよう。講義では、株式会社法の基本的な制度内容に十分配慮しながら、株式会社法制度の根幹にかかわる困難な問題が、株式会社法の個々の制度・規制について、どのように問題となっているかについても触れてみたい。同時に、現実の紛争において問題になってくる株式会社法の具体的な制度をめぐる判例および学説の錯綜する解釈上の論点についても、ポイントを押さえて、講義する。

講義の内容・授業スケジュール

講義内容は、会社法の中でも、最も重要な株式会社法を中心とする。そこでまず、①会社法総論として、会社の経済的機能、法的意義、法的特色を押さえた後、株式会社の特質を位置付ける。次いで、②株式制度として、株式の意義、種類、株主平等の原則、株式譲渡自由の原則とその例外、株券、株主名簿、名義書換、株式金融、単株制度・端株を順次、取り上げる。③会社の運営を観る。具体的には、機関総論、株主総会、取締役・取締役会、監査役を講義する。このようにして、株式会社の基本的内容を観た後、④株式会社の設立に入る。設立手続の内容、定款の作成、変態設立事項、出資の履行、設立登記とその効果とその具体的内容となる。余裕があれば、⑤資金調達にも入りたい。⑥株式制度の途中で、夏季休暇に入るものと予定している。

履修上の留意点

講義での私語は厳禁する。六法全書は、必ず持参すること。講義では、必ず条文を参照する必要がある。六法がないと、そこで理解がスムーズに行かなくなる。なお、平成9年に改正があったので、平成10年度の六法を持参して下さい。

成績評価の方法

成績評価は、期末試験での評価による。出席は、取らない。これまでの私の経験から言えば、不可を取る学生の数は、およそ、出席していない学生の数にほぼ相当すると感じている。大体、履修登録者数の半分前後が、出席しているが、この位の数で、単位を取得しているからである。

教科書

荒木正孝『現代企業法第2版』（成文堂）

参考書等

長浜洋一『株式会社法』（有斐閣）3,914円 『会社法判例百選』（第6版）（有斐閣）1,900円

その他

株式会社法を勉強するにあたっては、各種制度の目的を十分に理解することが大事である。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
会 社 法	あら き まさ たか 荒 木 正 孝	法 律 2 必	4

講義のねらい

この講義では、会社法（総則、合名会社、合資会社、有限会社、株式会社）の基礎的かつ基本的な事項について解説するが、とくに現代の経済活動において重要な役割を果たしている株式会社の法規制について多くの時間を割くつもりである。

講義の内容・
授業スケジュール

大企業は全て株式会社の形態をとり、その株式会社が現代の経済を担い、多くの人々に商品やサービスを提供し、労働の場を提供するという社会的機能を通して国民の生活に計り知れない大きな影響を及ぼしている。そこで、この講義では、株式会社の生成、機能、構造、消滅などの私法的側面を中心に規制する株式会社法に重点を置き、そこでの重要問題を採り上げ、判例や学説の対応、実務の取り扱いなどを検討し、会社法の基本原理を理解してもらうつもりである。

履修上の留意点

会社法は商法の重要な部分であり、その中心は、商法第二編会社、有限会社法などの規定である。商法は、民法を一般法とする特別法であるから、会社法に限らず、商法を学ぶ際には、その基礎となる民法総則、物権法、債権法などの知識があると一層理解しやすい。ただ、講義の内容を理解するために必要な範囲で民法＝財産法の規定や基本概念にも触れるつもりであるから、財産法の全てを履修していなくても受講には差し支えない。

成績評価の方法

年度末に行なわれるペーパーテストの点数で評価します。

教 科 書

荒木正孝著『現代企業法』（成文堂）

参 考 書 等

鴻・落合・岩原・江頭編『会社判例百選』（第6版）（有斐閣）
奥島・中島編『商法演習Ⅰ（会社法）第2版』（成文堂）

科目名	担当者名	配当学科	単 位
行政法総論	かね 金子 しょう 昇 平	法律2選必	4

講義のねらい

現代の行政法は、従来、対象とされていない新たな法分野が続出しているといえる。例えば、行政手続法の制定をはじめ、今後、立法化が予想される、情報公開法、プライバシー保護法、環境アセスメント法等を挙げることが出来るが、これらの法領域に対応すべく行政法の理論を考えていかなければならない。

そこで講義においては、行政法総論での、基本的な原理や原則に対する、よりアップ・ツー・デートな課題を積極的に掲示し、諸君とともに、問題発見と問題解決のための法的手法を考えてみたい。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1) 行政と法の関係
 - ①法律による行政の原理 ②行政法の意義と範囲 ③行政法の法形式 ④行政上の法律関係
- 2) 行政主体と私人
 - ①行政主体と行政客体 ②国の行政組織 ③地方公共団体の行政組織 ④行政機関・公務員
 - ⑤行政情報と法
- 3) 行政手段法
 - ①行政立法 ②自治法 ③行政計画 ④行政行為 ⑤行政契約 ⑥行政指導 ⑦行政調査
 - ⑧行政強制 ⑨行政罰
- 4) 行政手続の法
- 5) 行政救済法
 - ①国家賠償法 ②行政上の苦情処理 ③オンブズマン ④行政上の不服申立 ⑤行政訴訟

履修上の留意点

行政法は、きわめて数多くの法律が登場してくるので、六法全書を必ず持参すること。

成績評価の方法

期末試験の成績により評価する。

教科書

阿部泰隆『行政のシステム』（有斐閣）

参考書等

塩野宏他編『行政判例百選』（第三版）（有斐閣）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
国 際 法	おう し あん 王 志 安	法律 2 選 必	4

専 門
(法 律)

講義のねらい

国際法学の基礎知識を習得し、国際関係の現状を法的側面から理解する能力を養う。

講義の内容・
授業スケジュール

国際法学の全体を様々な基礎的課題に細分し、毎回の講義においてできるだけ一つの課題を絞り、それぞれ基礎概念、理論体系、そして事例分析の形で解明する。前期においては、国際法の史的展開、国際法と国内法との関係、国際法の法的性質といった基礎知識から着手し、国家及び国際機構にかかわる様々な法的問題を取り上げていきたい。たとえば、国家の分裂や統合に生じた国家の承認や承継の問題、違憲的な政府変更やクーデターに関する国際的対応の法的性格、国内裁判における未承認政府や国家の地位、そして国連を中心とした国際機構の法的地位や機能の形態などを分析する。

後期では、前期の基礎知識の習得を踏まえて、領域に関する管轄権、国際的人権保障、条約関係の理論及び外交関係の法的仕組みを検証する。具体的には、国家領域の法的地位や取得に関する理論及び実行、国際地域、国際海域及び宇宙空間といった国際区域の法的地位、外国人の法的地位、人権保障に関する国際制度の展開、条約の締結、形式及び効力に関する法規則、外交関係及び領事関係における特権及び免除などを取り上げる。

履修上の留意点

国際関係を法的側面からとらえる視点の養成を常に心構えとする。個々の概念、理論、事例を解明する戦術的な能力がまず重要視されるべきであるが、政治、外交、経済、文化といった様々な形態で展開される国際関係を法という枠内でとらえる戦略的な資質をのばすことも見失われてはならない。そのためには、教科書に取り上げられた学説を理解するだけでなく、講義に取り上げられた課題の視点、問題意思をしっかりと習得する必要もある。配布される参考資料や聴講ノートを参照しながら、教科書の理解を深めてもらいたい。

成績評価の方法

成績は年末の定期試験で決定する。ただし、講義出席の状況も成績を評価する際に考慮される。

教 科 書

松田幹夫編著『現代国際法』（八千代出版）1997年 2,700円

参 考 書 等

市販されている国際条約集

そ の 他

授業はすべて講義方式で行い、適宜に参考資料を配付し、板書する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
物 権 法	つる い しゅん きち 鶴 井 俊 吉	法律 2 選 必	4

講義のねらい

この講義では、民法典の第二編「物権」のうち総則、占有権、所有権、地上権、永小作権、地役権を対象とする。所有権を中核とする物権法は、今日の社会構造の法的土台をなしており、憲法上の私有財産制度の骨組を定めたものである。その意味で、物権法は民法の中で最も基礎的な重要な部分であるといえる。

講義の内容・授業スケジュール

講義の主な内容は、不動産売買をめぐるトラブルがどのように解決されているのかなど、物権変動を中心に、不動産利用権、物権的支配の秩序維持についての制度を解説する。
講義では、物権法の基礎的な考え方を理解できるように、できるだけ判例等の具体例を入れ、図解してわかりやすいように心掛ける予定でいる。

履修上の留意点

物権法は、解釈学上においても体系的理解が困難な分野であるといわれている。それは立法の沿革に基づいている。現行民法がドイツ民法を継受してできあがっているにもかかわらず、物権法の主要な部分については、フランス民法の影響を強く受けているからである。それゆえに講義に出席しないとなかなか興味が持てないし、理解しづらい分野であるので、毎時限の出席と予習を強く希望する。

教科書

遠藤・川井他編『民法(2)物権』（有斐閣双書）を予定している。

参考書等

講義の最初に指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
債 権 総 論	あおのひろゆきの野博之	法律 2 選必	4

講義のねらい

債権総論とは、民法典のうち第3編「債権」の第1章「総則」をいう。
 売買契約によって代金支払債権が発生し、賃貸借契約によって賃料支払債権が発生するが、両方とも金銭債権であるということでは共通する。売主が買主に代金を支払えというのも、賃貸人が賃借人に賃料を支払えというのも金銭を払えということでは同じである。また、買主が売主に品物を引き渡せという引渡債権も、債権という点では、金銭債権と共通する。つまり、債権者が債務者に何かをせよと（またはしてはいけないと）請求するという点では共通する。
 このように、債権の共通点を中心にして、債権の性質、その効力などを考察するのが、債権総論である。

講義の内容・授業スケジュール

- 序 論
- 債権の目的（債権の内容）
 - 特定物債権・種類債権
 - 金銭債権
- 債権の効力
 - 履行の強制
 - 債権不履行（契約責任の要件）
 - 損害賠償（契約責任の効果）
 - 受領遅滞
- 責任財産の保全
 - 債権者代位権
 - 債権者取消権
- 多数当事者の債権関係
 - 連帯債務
 - 保証債務
- 債権譲渡
- 債権の消滅
 - 弁 済
 - 相 殺

履修上の留意点

質問は大歓迎である。出席者がそれほど多くなければ、私から受講者に質問しつつ、受講者に民法の条文を読み上げていただくことになると思われる。

成績評価の方法

出席して質問をした回数、およびその質問の内容を重視する。出席者に対して私から質問をするので、これに答えてくだされば、これもカウントに入れる。正しい答えでなくともよく、自分で考えた答えであればよい。自分で考えることに意味がある。答えられなかったとしても不利には扱わないので、安心して質問に答えてほしい。

なお、受講生がそれほど多くなければ、質問および応答の平常点だけで成績を評価する。しかし、平常点で成績を評価することができないほど受講生が多ければ、年度末の試験を行う。なお、試験を行う場合には、いっさいの持ち込みを不可とする。

教 科 書

野村豊弘・栗田哲男・池田真朗・永田真三郎著『民法Ⅲ－債権総論〔第2版〕』（有斐閣）1,680円
 教科書は上記のものを使うが、ほかに自分が気に入ったもの、手持ちのものがあれば、それでもよい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
刑 法 各 論	やまぐちくに お 山 口 邦 夫	法 律 2 選 必	4

講義のねらい

1年次の必修科目、刑法総論の単位を取得済みの者を前提に授業を進める。できれば、単位未
取得者は履修を遠慮していただきたい。3年次の履修でも遅くはないはずである。

講義の内容・
授業スケジュール

1年間を次の4期に分けて講義をする。
I期（4・5月）、II期（6・7月）、III期（9・10月）、IV期（11・12月）、1月の1回は、質問
日とする。

I期 犯罪の分類について。犯罪の分類は何のためにするのか、何を基準にして分類するのか、
などいろいろな犯罪についての一般論を検討する。犯罪の分類は、犯罪学や刑事政策にとっては
有用であっても、解釈学にとってはそれほど有用とも思われない。分類することよりも、各犯罪
類型を厳格に解釈することの方が重要であることを指摘する。

II期 通説ともいえる3分類の意義についてふれたあと、いわゆる個人法益に対する罪につい
て検討する。

III期 いわゆる社会法益に対する罪について。

IV期 いわゆる国家法益に対する罪について。

II期、III期、IV期と順次検討する予定であるが、場所によっては、II期の対象を中心に1年間
が終り、II・III期の対象は、そのつど関連する個所で、加味してやることになるかもしれない。

履修上の留意点

履修者が50名以内であれば、年間を通じて出席をとりたい。出席カードをもとに、毎回数名の
人との質疑や問答を中心としたコロキウム方式で授業を進めたい。

成績評価の方法

履修者が50名を越えた場合は、各期ごとに小テストを行う予定である。そして4回のテストと
期末試験の結果を総合して単位を認定する。少人数の時は、平常時の履修態度を中心に、期末試
験を省略して単位を認定したい。

教 科 書

特に指定しない。履修者は数種類の参考書を読んでから出席してもらいたい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
有 価 証 券 法	しま はら ひろ あき 島 原 宏 明	法 律 2 選 必	4

講義のねらい

現代の経済社会における企業間の取引では、手形や小切手等の有価証券が数多く使用されている。中でも手形と小切手は典型的な有価証券であって、その流通に関する法規制の多くは商法上の他の有価証券にも及んでいる。したがってその体系の理解は有価証券全般を理解する上で不可欠なものである。また、手形や小切手は金銭債権と結びついた証券であるため、これに関する法体系は債権法の一部として把握され、民法の債権総論と密接な関係にある。

講義の内容・
授業スケジュール

手形法は第一編為替手形と第二編約束手形の二編から成り立っており、為替手形についての規定の多くを約束手形に準用するという構成になっている。ただし、わが国においては為替手形がほとんど用いられていないという現実があり、また為替手形に比べて約束手形の方が仕組みが単純であるため、条文の順序とは一致しないが講義では約束手形を中心に説明を行い、適宜為替手形、および為替手形と基本的な仕組みを同じくする小切手についての説明を付け加えていくという形をとる。

なお、企業活動に関わったことのない学生諸君には手形や小切手の世界は現実感が乏しく興味が起こりにくいいため、なるべく具体的な判例を示して解説をしていくつもりである。

成績評価の方法

成績評価は期末試験による。

教 科 書

開講時に指示する。

参 考 書 等

倉沢康一郎『手形判例の基礎』（日本評論社）2,600円

科目名	担当者名	配当学科	単 位
裁 判 法	すぎ 杉 浦 智 紹	法律 2 選 必	4

講義のねらい

現代社会では、人は裁判とかかわりなしに生きることが、むしろ難しくなっている。従って、国民 1 人 1 人が自分の権利を守っていく為にも、裁判に関心を持つことが必要である。そこで、この講義では、法が裁判によって自己実現をとげていく仕組みについて、裁判の担い手である人の側面、また国家制度としての側面、手続過程としての側面から、日本の裁判の特色を浮きぼりにしつつその解明を試み、また民事訴訟法や刑事訴訟法について三年次以後に具体的に勉強されるであろう学生諸君に、手続法の学習の基礎が形成できるように、現代の裁判の抱えている問題を一つ一つ採り上げながら、出来るだけ分かり易くしかも的確に理解してもらえよう講義を進めていきたいと考えている。

講義の内容・
授業スケジュール

- I. 総論的に、
 ①現代社会における裁判とのかかわりあい、裁判の役割と限界 ②現代裁判制度の沿革と特色
 ③裁判所の機構論及び裁判官論 ④検察庁の組織及び検察官論 ⑤弁護士制度論
 ⑥公証人制度 ⑦裁判過程論 ⑧法律扶助と国選弁護 ⑨法曹教育問題——比較法的見地に立脚して——
- II. 各論的に
 ⑩民事裁判の手続論 ⑪刑事裁判の手続論 ⑫国民の司法参加の課題 ⑬違憲審査制度論 ⑭捜査の必要性、捜査機関、捜査の適正化に必要な方法論 ⑮裁判における証拠の重要性と証拠裁判主義並びに事実認定における証拠の扱い方 ⑯裁判の遅延と促進をめぐる問題 ⑰誤判とその救済制度論 ⑱日本人の裁判に対する特異性 ⑲裁判の目的と実現の方法論 ⑳裁判における判例の役割と機能 ㉑行政訴訟、人事訴訟、家事審判制度、等を中心に、実務的体験をもとに、基本的課題は勿論のこと、各種手続法の up-to-date な問題点についても出来るだけ個別に採り上げて、手続法の基礎が形成できるように努力を傾ける。

履修上の留意点

活きた法律を学ぶには、裁判の傍聴は極めて有効な手段と思われるので、この講義を受講する学生諸君は、夏期休暇中に裁判の傍聴が義務づけられ、夏休み明けに、傍聴所見をレポートとして提出することが必要である。法学部の学生として、一回は現実の裁判を傍聴することは不可欠であろう。裁判を傍聴した学生は異口同音に、裁判を身近なものと感じ後期から法律の勉強に意欲的に取り組む姿勢が感じられるので頑張って欲しい。

成績評価の方法

出席、レポート及び定期試験を総合的に判断し評価する。

教 科 書

杉浦智紹・梅善夫編著『裁判と法』（八千代出版）1999

参 考 書 等

兼子一・竹下守夫著『裁判法（第三版）』（有斐閣）1994
 小島武司編『現代裁判法』（三嶺書房）1988
 渡部保夫保他『現代司法』（日本評論社）

そ の 他

その他、講義項目に関連する詳細な文献については、講義の進行にあわせて、その都度紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
民 事 訴 訟 法	すぎ 杉 浦 とも 智 紹	法律3・4選必	4

講義のねらい

民事訴訟は、その対象が日常生活をめぐる法的紛争（民事紛争）であることから、その法的紛争を解決する方法としての民事訴訟法学の理論的考察には、取り分け実体法との関連性を重要視し、訴訟法理に実体法理を包摂するとの基本的構想を採る必要があると考えている。また、講義では判決手続を中心に、憲法との関連性をも重視しつつ、適正且つ迅速な裁判をするには、裁判所と当事者との協働作業が不可欠であることを充分認識した上で、民事訴訟法の基礎理論からはじめて、訴訟構造論、訴訟主体論・訴訟客体論、訴訟過程論、裁判論、等について論及する。具体的には、訴提起の段階、口頭弁論・証拠調べの段階、訴訟終了の段階に対応した、民事訴訟法上の主要な論点について、「問題の所在」を示し、学説・判例の動向を整理・紹介し、どのような角度から問題にアプローチし、また結論を導くべきかに重点をおいて、考察・検討するという方法をとる。特に訴訟過程において、訴訟主体が主体的役割を果たしたか、また果せたかが、裁判の効力に影響することを、大きな課題として、講義を進める予定である。

講義の内容・授業スケジュール

- I 民事訴訟の基礎理論
 - ① 民事訴訟と民事紛争 — (1)民事訴訟の意義と目的 (2)民事訴訟と他の法律上の手続の違い (3)判決手続の流れ (4)民事訴訟法
 - ② 民事訴訟の基本原則 — (1)処分権主義 (2)弁論主義 (3)必要的口頭弁論の原則 (4)民事訴訟の憲法的保障
 - ③ 訴訟の構造理論
 - ④ 現代型訴訟と問題の所在
- II 民事訴訟の主体論
 - ① 裁判所 (1)構成と管轄 (2)裁判所の除斥・忌避・回避
 - ② 当事者 (1)当事者概念 (2)当事者をめぐる諸問題 (3)当事者能力 (4)訴訟能力 (5)当事者の確定 (6)当事者適格 (7)訴訟における代理・代表
- III 訴訟客体論
 - ① 訴と請求 (1)訴の概念と種類 (2)訴訟要件 (3)許の利益
 - ② 訴訟における審判対象 (1)審判対象の特定 (2)訴訟要件の調査と審理順序 (3)訴訟物の構成 (4)訴訟物論争問題 (5)訴提起の効果
- IV 訴訟過程論
 - ① 訴訟の審理 (1)審理手続の進行と裁判所の訴訟指揮 (2)期日・期間・送達 (3)当事者の欠席 (4)訴訟手続の停止
 - ② 口頭弁論及びその準備 (1)審理方式に関する原則 (2)口頭弁論の必要性 (3)口頭弁論の準備と争点整理 (4)口頭弁論の概意 (5)口頭弁論調書
 - ③ 事案の解明 (1)弁論主義 (2)釈明権
 - ④ 当事者の訴訟行為 a) 意義と種類 b) 訴訟契約=訴訟上の合意 c) 訴訟行為と私法規定 d) 訴訟行為の瑕疵と治療 e) 形成権の訴訟上の行使
 - ⑤ 証 拠
 - (1) 事実認定と証拠 a) 証拠の必要性 b) 要証事実・不要証事実 c) 証拠の意義
 - (2) 証拠調べの実施 a) 証拠調べ通則 b) 各種の証拠調べ c) 自由心証主義
 - ⑥ 訴訟における主張と証明
 - (1)主張責任と証明責任 (2)弁論主義による証明責任の機能の拡大 (3)証明責任の分配基準
 - (4)証明困難軽減の諸方法 (5)証明責任における当事者の対等性の原則
- V 訴訟の終了
 - ① 訴の取り下げ、請求の放棄・認諾、訴訟上の和解
 - ② 判決 (1)裁判の種類及び判決の種類 a) 中間判決 b) 終局判決 c) 訴訟判決と本案判決 d) 判決の成立 e) 判決の瑕疵
 - ③ 判決の効力
 - ④ 既判力 (1)意義 (2)既判力理論 (3)既判力を有する裁判 (4)既判力の作用 (5)既判力の範囲
 - a) 時的範囲 b) 客観的範囲 c) 主観的範囲 d) 争点効および反射効
 - ⑤ 執行力・形成力・附随的效果
- VI 訴訟における訴訟参加
 - ①補助参加 ②独立当事者参加 ③共同訴訟参加・共同訴訟的補助参加
- VII 訴訟における複数請求審理
 - ① 複数請求訴訟 (1)訴の客観的併合 (2)訴の変更 (3)中間確認の訴 (4)反訴
 - ② 訴の主観的併合=共同訴訟 (1)通常共同訴訟

(2) 必要的共同訴訟 a) 固有必要的共同訴訟 b) 類似必要的共同訴訟

(3) 共同所有関係と必要的共同訴訟

VII 訴訟における不服申立て制度

① 裁判と不服申立て ② 控訴 ③ 上告 ④ 抗告 ⑤ 再審

IX 略式訴訟手続 ① 手形・小切手訴訟 ② 少額訴訟手続 ③ 督促手続

履修上の留意点

手続法は実体法の理解とは異り、体系的に連続しているので、講義には必ず出席し、また講義が楽しくなるかは、予め問題意識をもっているか、または関心があるかにかかっているため、講義対象は前週に指示しておくので、参考書等に目を通して受講されることが望ましい。また法律の勉強は理解することにあるので、それには先づ以って条文を読むことが大切である。従って、六法全書に親しむ習慣を是非つけてほしい。

成績評価の方法

民事訴訟法の試験は、(1) 期末の定期試験でペーパーテストを行い、これを成績評価の重点項目とするが、(2) 前期段階で小テストを行う。どの程度の理解が出来ているかを確認するため、講義をした主要な事項について、設問形式で結論と理由づけを三行以内で書かせる方式を採り、テスト終了後、設問に対する解答及び理由づけを開示する。(3) 学生との信頼関係の下、年間使用できる受講カードを配付し、毎時間の授業項目を記載させ、単位を必要とする者には、これを自己管理させ、期末に提出させる。以上の三点を総合判断して成績の評価を行う。

教科書

特に指定はしない。

参考書等

1. 伊東眞著『民事訴訟法』(有斐閣)
 2. 松本博之・上野泰男『民事訴訟法』(弘文堂)
 3. 中野／松浦／鈴木編『新民事訴訟法講義』(有斐閣)
 4. 新堂幸司著『新民事訴訟法』(弘文堂)
 5. 三ヶ月章著『民事訴訟法』(弘文堂)
 6. 上田徹一郎著『民事訴訟法』(法学書院)
 7. 『民事訴訟法の争点(新版)』ジュリスト(有斐閣)
 8. 『民事訴訟法判例百選Ⅰ、Ⅱ』ジュリスト(有斐閣)
- その他、講義の進行に応じて適宜、詳しい文献の紹介は行う。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
刑 事 訴 訟 法	お ぎ そ 小 木 曾 りょう 綾	法律3・4選必	4

専
門
（
法
律
）

講義のねらい

刑事手続の基本について理解することが目的である。
 犯罪の予防、摘発と、国家機関の権限の適正な行使によって個人の自由や市民社会の安全は維持されている。外国法にも目を向けながら、前期は捜査について、個人の自由を保障しつついかに効果的な法執行を実現するかを考え、後期は公判の諸原則を学びながら、最も厳しい制裁である刑罰を科すための手続的な公正さ・手続的正義について考える。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 任意捜査と強制捜査
2. 逮捕
3. 搜索・押収
4. 検証・鑑定
5. 明文の定めのない捜査方法とその規律
6. 身柄拘束下の取調べ
7. 被疑者の弁護権
8. 職務質問、所持品検査
9. 訴追裁量
10. 公判構造
11. 起訴の方式と訴因
12. 証拠開示
13. 排除法則
14. 自白調書の証拠能力
15. 伝聞法則
16. 無罪推定
17. 裁判とその効果
18. 上訴

履修上の留意点

社会に生起する事件や法律問題に常に関心をもってほしい。六法は必携である。

成績評価の方法

年度末の筆記試験による。

教 科 書

渥美東洋編青林法学双書『刑事訴訟法』（青林書院）

参 考 書 等

渥美東洋編著『刑事訴訟法基本判例解説』第3版（三嶺書房）
 渥美東洋『刑事訴訟法』（有斐閣）
 田宮裕『刑事訴訟法』（有斐閣）
 田尾浩也『刑事訴訟法（上）（下）』（弘文堂）

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会保険法	いちのへしんこ 一戸真子	法律3・4選必	4

講義のねらい

21世紀を目前にして現在、社会保険法制度の見直しが求められてきている。経済不況、少子・高齢社会、人々の生活水準の上昇とニーズの多様化・複雑化など、戦後50年が経過し大きく変容した現代社会にふさわしい社会保険への修正が迫られている。

本講義では、社会保険の歴史的発展や原理の理解と、人間が社会で安心して生活していく為に必要な医療、所得、福祉それぞれの法制度の仕組みを理解し把握することを第一のねらいとする。さらに、社会保険法の基本的視点をとらえた上で、海外の社会保険法制度の比較を通して、今後の法制度のあるべき姿を探る。

講義の内容・
授業スケジュール

講義は以下の内容に沿って行う。

- ① 少子、高齢社会と社会保険
- ② 社会保険の歴史的発展
- ③ 社会保険法の基本原理
- ④ 各論
 - a) 医療保障制度（健康保険法、国民健康保険法、老人保健法、診療報酬制度）
 - b) 年金保険（年金保険制度改革と沿革、国民年金法、厚生年金保険法）
 - c) 労働保険（労働災害と法、雇用保険法）
 - d) 社会福祉制度（介護保険制度、児童・家族福祉、高齢者福祉、障害者福祉）
 - e) 生活保護
- ⑤ 海外の社会保険法制度

履修上の留意点

積極的な参加により自分なりの理解、吸収を心がけて欲しい。

成績評価の方法

前期はレポート、後期は試験を実施し、出席状況と合わせて総合評価する。

教科書

教科書は特に指定しない。資料は必要に応じて講義ごとに配布する。

参考書等

久塚純一他著『社会保険法』（日本評論社）
山田省三編著『ブリーメール社会保険法』（八千代出版）

その他

各単元終了毎に、ディスカッションを実施し、理解を更に深める。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
国際私法	かさ ほう とし ひろ 笠 原 俊 宏	法律3・4選必	4

講義のねらい

渉外的要素を有する私法問題の解決を目的とするのが国際私法である。それは、狭義において、準拠法の選定を主たる役割とする。その意味において、国際私法は、民法や商法のように私法問題の判断基準となる法律とは、規律する領域を異にしており、異なる次元に位置づけられるものとして、上位規範などと呼ばれることがある。講義においては、国際私法のこのような特質を明らかにしつつ、実質法における理念の変化が国際私法にとっても無縁でないことを実証的に論じたいと考えている。時として難解な科目であるといわれることがあるが、最近の身近な問題を具体例として取り上げるなどして、できる限りわかりやすいものとなるよう工夫したい。

講義の内容・授業スケジュール

講義の内容およびスケジュールについては、ほぼ次のように予定している。

1. 国際私法総論（4月、5月）
2. 国際家族法（6月、7月、9月、10月）
3. 国際財産法（11月、12月）
4. 国際民事訴訟法（1月）

履修上の留意点

基礎となる他の科目、就中、家族法について、基礎知識を有することが好ましく、民法についても併せて学習することを期待する。

成績評価の方法

成績評価は、学年末の筆記試験によって行なう予定である。

教科書

教科書として、笠原俊宏著『国際家族法（新版）』（高文堂出版社）を使用する。

参考書等

いずれかの六法を常に携帯することを望む。

その他

授業は普段講義によって進行するが、時折、事例を設定して、皆で一緒に考えることも予定している。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
行 政 法 各 論	さいとう ひさし 芥 藤 寿	法律3・4選必	4

講義のねらい

「各種行政法原理の究明」

1年間・全体を通して、極めて楽しい雰囲気の中で、各種行政法の法理究明を、興味深く行います。特にこの講義は、生きた行政法を重視しながら行います。

講義の内容・
授業スケジュール

- 第1回 「行政組織法」の概要について。
- 第2回 国家行政組織法について。
- 第3回 内閣法について。
- 第4回 行政官庁について。
- 第5回 府・省・委員会・庁・地方支分部局について。
- 第6回 人事院と会計検査院について。
- 第7回 地方自治法について。
- 第8回 地方公共団体の種類と性質と区域と名称について。
- 第9回 大都市の特例と特別地方公共団体について。
- 第10回 公共組合と営造物法人について。
- 第11回 地方公共団体の議決機関と執行機関について。
- 第12回 地方公共団体の住民の諸権利と事務と権能について。
- 第13回 国と地方公共団体の関係について。
- 第14回 公務員法の概要について。
- 第15回 国家公務員法について。
- 第16回 地方公務員法について。
- 第17回 公物法について。
- 第18回 営造物法について。
- 第19回 「行政作用法」の概要について。
- 第20回 警察法・消防法・防衛法について。
- 第21回 警察行政における五大原則と規制手段について。
- 第22回 統制法について。
- 第23回 公企業法について。
- 第24回 公用負担法について。
- 第25回 公用取用について。
- 第26回 財政法について。
- 第27回 会計法について。
- 第28回 租税法について。
- 第29回 試験

履修上の留意点

※学生への要望

この講義は、楽しくかつ役に立つ講義です。私といっしょになって、「行政法各論」を楽しく研究してみませんか。

— 私が、みなさんを、「水飲み場」へ、道案内します。

目には火を、顔には光をい দিয়ে、ついてきて下さい。

Rouse up, O, Young Men of the New Age! (目覚めよ、新時代の若者たちよ!) — との、イギリスの詩人、ウィリアム・ブレイクの叫びを、この際、みなさんに送ります。

成績評価の方法

試験の成績とレポートの成績を合わせて、学年の成績とします。

教 科 書

拙著の中から、講義の際、選択・指示します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
国 際 紛 争 解 決 法	おう し あん 王 志 安	法律3・4選必	4

講義のねらい

国際法における紛争処理の様々な手段について、それぞれの形態、機能、限界及び適用可能性を把握し、国際紛争解決の法的仕組みを理解する。

講義の内容・
授業スケジュール

国際紛争の処理を具体的な法制度、手続きの側面から取り上げ、一回の講義で一つの課題を絞り、それぞれ制度の展開、機能及び事例検証の形で解明する。前期では、国際紛争の基本構造、紛争解決手段の基本的枠組みを講義した上で、外交的手段による紛争解決、国連における紛争解決及び世界貿易機構（WTO）の紛争処理制度を取り上げる。具体的には、国際義務違反の責任形態、紛争の平和的解決の意義、交渉、仲介、国際調査及び調停といった制度の展開及び適用、国連における紛争処理の制度的展開及び現状、そして WTO の紛争処理制度の発展、手続き及び制度の意義を講義する。後期では、仲裁裁判及び国際司法裁判を取り上げる。具体的には、国際裁判の史的展開、仲裁裁判制度の確立及びその手続き、国際商業仲裁の現状、国際司法裁判所の組織、管轄権、適用法規則、手続規則などを講義する。

履修上の留意点

参考資料を適宜に配布し、教科書の内容を補足しながら講義を進めていく。要点を板書するので、聴講ノートをしっかり取ってもらいたい。

成績評価の方法

学年末の筆記試験によって評価する。

教 科 書

松田幹夫編著『現代国際法』（八千代出版）1997年 2,700円

参 考 書 等

市販されている国際条約集及び国際判例集。これらにつき開講時に詳しい情報を提供する。

そ の 他

授業は主として講義方式で行うが、判例の分析につき学生のもまとめ報告を求めることがある。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
担保物権法	つるい しゅんきち 鶴井 俊吉	法律3・4選必	4

講義のねらい

この講義では、民法典の第二編「物権」のうちで、留置権、先取特権、質権、抵当権を中心に、譲渡担保、仮登記担保等が対象となる。担保物権制度は、資本主義経済の発展に伴って、その重要性がますます増大している。今日、財産法領域で最も変化の多いところであり、取引界の要請により、新しい法令が制定され、年々歳々進展し、著しく変動している。

講義の内容・授業スケジュール

私たちが土地を買い、建物を建てる、あるいは自動車を買うという場合に、多くは金融機関から融資を受けることになるが、金融機関では何らかの担保を要求してくる。この場合に、抵当権や質権といった担保物権を金融機関に設定する。このように小は個人の資金調達のため、あるいは大は、企業の活動資金獲得のために担保は重要な役割を担っている。担保物権法のもつ経済的意義は極めて重要である。

しかし、学生にとって担保物権法は、民法の中で最も難解なところと感じられ、また比較的なじめない領域だと思われる。それは、多数の関係当事者が複雑に絡み合い、また解釈上でも技術的性格が強いことに原因がある。

そこで講義では、担保物権法の基礎的な考え方を理解できるように、できるだけ判例等の具体例をとりあげ、図解してわかりやすいように心掛ける予定である。

履修上の留意点

学期の初めには、担保物権法の主要な部分についての概略の説明を予定している。それによって担保制度の全体像がおおよそ把握できるであろう。それゆえ、最初から講義に出席しないと理解できなく、なかなか興味が持てなくなるので、毎時限の出席と予習を強く希望する。

教科書

遠藤・川井他編『民法(3担保物権)』(有斐閣双書)を予定している。

参考書等

講義の最初に指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
労働法	藤本 茂 <small>ふじもと しげる</small>	法律3・4選必	4

講義のねらい

今日、労働関係は、雇用調整・リストラ、あるいは、出向・転籍や年俸制の導入に見られるように大きく変貌しています。終身雇用や年功型賃金体系といった従来の日本的雇用慣行に見直しながされています。現在は、激動期にあるといえましょう。労働法は、労働関係において生じる紛争を法的に解決する方法を検討する法領域です。この変動に無関係ではられません。労働法もまた、社会構造の変化とともに変わっていかざるをえません。

労働組合を中心に扱う集团的労働関係法領域では、労働条件決定に組合の及ぼす影響をみておく必要があります。

この激動期において、労働者個人に降りかかるさまざまな事象は、労働保護法領域において、顕著であるといえましょう。労働基準法の改正、(裁量労働、労働時間の弾力的運用の拡大、有期雇用契約の期間の拡大、解雇制限といった分野)で見られます。男女雇用機会均等法の見直しなども見られます。

解釈においては、何が、変わるのかまた、このような中であっても変わるべきでないものは何か。基本的な事項について、基礎的な知識を得ることは、重要なことであると思います。

労働法は、皆さんが、将来どのようなところに職を得ようとも、もっとも身近な法であります。会社もまた、労働法に関する十分な知識なしには円滑な人事管理が行い得ないことは、常識です。労働法は、皆さんが労働生活の節目節目で選択を迫られるとき、自ら考え自らを処していく上で、知っておくべき必要な知識であり、知っているかいないかは、よりよい選択をする上で、とても重要であると思います。

(1) 授業では、(2)にあるような事項について、基本的なことを中心に論じて、現代的課題に言及しようと思います。

(2) 内容、スケジュールについては、第1回日の授業のときに、配布するプリントで述べます。

ここでは、一応のアウトラインを述べるに止めます。

- ① 労働法の基礎的考え方
- ② 労働関係の主人公－労働者、使用者、労働組合
- ③ 労働条件の最低基準の法定－労働基準法の特徴
- ④ 雇用における平等－同一労働同一賃金、雇用機会均等法、セクシュアルハラスメント
- ⑤ 労働条件を決定しているもの－就業規則、労働契約、労働協約
- ⑥ 組合が自由に活動できる環境の整備－不当労働行為
- ⑦ 雇用の入り口－採用、採用内定、試用期間
- ⑧ 人事異動－配転、出向、転籍
- ⑨ 雇用の出口－解雇、定年、退職
- ⑩ 賃金、諸手当、退職金
- ⑪ 労働時間、時間外労働
- ⑫ 休憩、休日、休暇
- ⑬ 労働災害など

履修上の留意点

出席しましょう。また、積極的に質問をしてください。

成績評価の方法

成績は、出席等を加味することはありますが、学年末試験がメインです。

教科書

教科書は、指定しません。しかし、道しるべとしての参考書は用意してください。参考書として適当と思われる概説書をいくつか、第1回日の授業で、紹介します。これを参考にして受講者は必ず、1冊は用意してください。

その他

皆さんが各々の事項について何が法的には論点になるのか、イメージを描きやすいように、裁判例など具体的な例を掲げながら、授業を進めることを心掛けます。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
保 険 ・ 海 商 法	やま だ やす ひこ 山 田 泰 彦	法律3・4選必	4

講義のねらい

私たちの生活は、いろいろな危険に満ちている。私たちは、それにあまり気が付かず生活していたりするが、時には、不幸な事故に巻き込まれたり、あるいは逆に事故を引き起こしたりもする。こうした不幸への危険性は、この社会に生き、活動しているすべての人々（すなわち法主体、当然、会社も人である）に程度の差こそあれ、無縁ではない。危険が現実のものとなったとき、そこに通常、損害が発生する。この損害は、どのように処理すれば良いのだろうか。事故を引き起こした者がいるのであれば、この者が損害を負担すべきである。しかし、この者に資力がなかったならば、被害者の受けた損害は回復されずに酷いことになる。さらに、加害者も存在していないような場合には、どうすれば良いのだろうか。こうしたことへの不安は、人が生き活動して行く上での不安であり、今に始まったことではない。人類は、古くから、このための種々の方策を考えてきたが、複雑・高度化した現代社会は、かつてないほどの、不安と危険のジャングルとなっているのである。保険は、そのための方策の中で、最も高度に洗練された仕組みである。私の講義では、保険という仕組みが法的にどのように制度化されているかを見る。

ところで、保険は、他面において賭博に似ている（どちらも偶然の出来事により、多額の金銭を取得できるではないか）。そして、海の危険に満ち満ちた海上企業活動は、かつては、冒険企業の典型であった。保険が考案され発展したのは、中世地中海世界が育んだ海上企業活動においてであったということは、保険と海商との賭博的な共通の色彩の賜といえるのかもしれない（やがて保険制度は、海から陸にも上がり、今日見られるような隆盛を迎える）。当時の海上企業は、現在の海上企業とはかなり異なっていたし、（法的制度としての株式会社に先駆していたのであるが、株式会社の登場は後年のことである）、その企業活動も海賊が立派な企業活動として認知されていたことから明らかなように、現在と大部隔っている面があった。しかし、近代的国家が形成される前から活発に行なわれていたイタリアの海港都市等に端を発する海事慣習は、その後一定の地域的広がりを得ながら、ヨーロッパのその他の港にもそれぞれの海事慣習の形成を促がし、それらがようやく確立する国家の法典に、取捨選択されつつ、結実し、その過程において、民商法の源流の一つを形成したのである。

さて、そこで海商法である。海商法は、船舶を手段とする海上企業活動に関する法である。当然のことながら、船舶の活動する舞台ともいべき海は、世界へとつながっている。経済活動が、狭い一国の地域的空間にのみ終止するのであれば格別、現在のように、世界的基盤での市場が形成され、経済活動も世界的広がりを持つにいたると、原料やその加工品である商品の流通は、血管を流れる血液のように確保されなければならない。船舶による海上運送は、いわば、血液の中の血晶板のようなもの——または、血液そのものである。船舶を利用して遂行される海上運送は、その国々の経済体制を支えるものであり、世界経済に重要な貢献を果すものである。私の講義では、この海上企業活動を、商法の視点から捉え、そこに働らく基本的な法原則を見ることにしたい。

講義の内容・授業スケジュール

前期は、保険法を中心にする。①保険制度と保険法、②保険契約の当事者・関係者、③保険契約の成立と終了、④保険契約の内容と効果、⑤損害保険契約の意義・内容、⑥損害保険に特有の効果、⑦保険担保、⑧火災保険と地震保険、⑨責任保険と自動車保険、を中心項目とする。

後期は、海商法を取り上げる。①海商法の意義と発展、②海上企業の物的組織、③海上企業の主体、④海上企業の責任と制限、⑤海上物品運送契約の意義と種類、⑥海上物品運送契約の履行（海上物品運送人の義務と権利）、⑦海上物品運送人の責任、⑧船荷証券の意義および種類と発行、⑨船荷証券の効力、⑩海上売買、を中心とする。

保険法および海商法も1項目につき1時間ないし2時間を予定する。

履修上の留意点

講義には、六法を持参して下さい。

成績評価の方法

出席は、毎時限、取ります。これは、期末試験での成績評価の際に考慮します。

教科書

山野嘉郎・山田泰彦編著『現代保険・海商法30講』（中央経済社）3,800円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
相 続 法	たけ なか ち か 竹 中 智 香	法律3・4選必	4

講義のねらい

民法典第五編にあたる「相続法」の講義を行う。わが国の相続法は、戦前の家督相続から戦後の均分共同相続へと変遷し、さらに今日においては遺言制度の利用も増加するなど、大きく変化している。本講義では、こうした動向とその背景の理解とともに、財産法の応用問題といわれるほど難解な相続法の理解を図りたい。

講義の内容・授業スケジュール

わが国の相続法の変遷とその背景を検討したうえで、相続人・相続の効力・相続の承認および放棄・財産の分離・相続人の不存在・遺言・遺留分について、順次論説していく。

履修上の留意点

教科書を読んだうえで講義に出席することが望ましい。

成績評価の方法

おもに定期試験によって成績を評価するが、出席状況などの平常点も加味する。

教 科 書

遠藤浩ほか編『民法(9)相続〔第4版〕』（有斐閣双書）1,648円

参 考 書 等

久貴忠彦・米倉明編『家族法判例百選〔第5版〕』（有斐閣）2,200円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
商法総則・商行為法	関 口 雅 夫 くわい ぐさ かつ	法律3・4選必	4

講義のねらい

専門科目としての商法学は、商法全体についての概観的な知識、商法に対する基本的な考え方、および個々の法律問題への取りくみ方など、商法についての最も基礎的であると考えられる問題の理論的そして体系的な解明を目的とする学問である。この講義は、商法学の内、商法総論、商法総則および商行為法を中心に行う。

講義の内容・授業スケジュール

商法総論においては、商法の意義、商法の特徴、商法の体系、商法の適用の四つのテーマを論ずる。次に、商法総論においては、営業の主体、営業行為、営業の人的組織、営業の物的組織、営業の譲渡、商業登記の六つのテーマを論ずる。そして商行為法においては、商行為の概念、商行為法の総則、商事売買、交互計算、匿名組合、仲立営業、運送取扱営業、運送営業、寄託の十の主要な問題を考察する。一年間で25回の講義を予定する。

履修上の留意点

ここに選ばれた20のテーマは、商法の特定分野に関するものではあるけれども、これから商法を体系的に学んで行こうとする諸君にとって、欠かすことの出来ないと思われる問題を取りあつかっている。もっとも、この講義は、全ての学生のニーズを満すものではない。この講義が特に必要であると考えられる学生は、将来自営業を志したいと考えている学生、会社員になりたいと考えている学生、および司法試験を受験したいと考えている学生である。この意味で、学生諸君は、自分で自分の将来計画を明確にし、受講すべきか否かを決定することが肝要である。

成績評価の方法

平常点と期末試験を重視する。

教 科 書

関口雅夫編著『現代商法Ⅰ〔総則・商行為〕』（八千代出版）2,800円を使用する。六法全書は、毎回持参すること。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
親 族 法	たけ なか ち か 竹 中 智 香	法律1・2選	4

講義のねらい

民法典第四編にあたる「親族法」の講義を行う。親族法は最も身近な家族生活を規制する部分であることから、民法の他の部分に比べて、初めて法律を勉強する者にとっても取り組みやすいと思われる。本講義では、家族という身近な問題の検討を通して民法になじみ、法的な視点・考え方を身につけることを目指す。

講義の内容・授業スケジュール

親族法の講義ではあるが、民法の初学者にとってわかりやすい私法入門であることも目指したい。民法の中でも親族法は、家族生活を規制する法律であるために、財産法の領域と異なる特徴を有している。この相違と親族法の特徴、さらに欧米家族法と比較したときのわが国の親族法の特徴を示しつつ、親族・婚姻・離婚・親子・親権・後見・扶養について順次論説していく。また、親族法に関する今日的な問題にも、できる限り触れたい。

履修上の留意点

教科書を読んだうえで講義に出席することが望ましい。

成績評価の方法

おもに定期試験によって成績を評価するが、出席状況などの平常点も加味する。

教 科 書

遠藤浩ほか編『民法(8)親族〔第4版〕』（有斐閣双書）1,648円

参 考 書 等

久貴忠彦・米倉明編『家族法判例百選〔第5版〕』（有斐閣）2,200円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
政 治 学 原 論	おお つか かつら 大 塚 桂	法律1・2選	4

講義のねらい

I 自己紹介

私は、いままでイギリスの政治的多元主義・新自由主義、ならびにフランスの社会連帯主義を研究してきました。現在は、日本における多元的国家論の受容過程に関して勉強をしています。このような私の研究経歴からして、講義は少しばかり哲学的、観念的なものになるかもしれません。政治学のみならずひろく隣接領域（法学・哲学・歴史学・社会学・経済学）にもふれながら一年間の授業をしてみたいと思います。

私の研究室は、第二研究館八階（2835）にあります。研究上支障が生じたときや質問があるときには訪問してください。なお、研究室の電話番号は、3418-9377(直)です。

II 講義の目的

政治学原論はカリキュラム上、基礎的部門に属しています。政治学原論は政治学の総論であるとともに、基礎理論としての意味合いをもつものです。講義の目的の第一は、現代政治学の体系的な理解を深めることにあります。目的の第二は、実際の政治の理論的説明と解明ができるように基礎的的原理的知識を修得することです。目的の第三は、近い将来履修するであろう他の専門学科目の研究上必要な知識を提供することです。

講義の内容・授業スケジュール

III 講義のすすめかた

現代政治学のアウト・ラインを理解してもらうために、一回一テーマ主義でかなり広範囲な問題にふれていきます。それだけに、授業のペースは少しばかりはやくなります。講義はテキストに準拠しつつすすめます。学生諸君は授業に出席することはもちろんのこと、予習・復習・自主研究などの研鑽をつんでください。教員と学生、それぞれの努力によって学習効果をあげていきたいと考えています。

IV 講義の内容

おおよそ、以下の諸問題を取り上げる予定です。

A 政治学の課題と対象、および方法

B 政治の原理的究明

① 政治的なもの

～政治的空間、政治権力、正当性、権威、政治倫理、抵抗と不服従

② 共同体的なもの

～国家、社会、主権、法

③ イデオロギー的なもの

～イデオロギー、正義、自由、平等、人権（シティズンシップ）

C 政治の実体論的究明

① 制度論的究明

～権力分立、議会、選挙、地方自治、官僚制

② 機能論的究明

～政党、圧力団体、市民参加、マスコミ、政治教育、政治的社会化

成績評価の方法

V 成績評価

単位の認定は、ペーパー試験を中心におこないます。

成績評価は

中間試験：40%

学年末試験：50%

その他（出席・レポート）：10%

以上の割合によるものとします。

なお、追・再試験も実施します。

教科書

大塚桂『政治学原論序説』（勁草書房）3,296円

大塚桂『政治哲学入門』（法律文化社）2,900円

参考書等

上記教科書の巻末にある参考文献を参照のこと。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
政 治 史	くすのき 楠 せい いち ろう 精 一 郎	法 律 1 ・ 2 選	4

講義のねらい

近代日本の政治権力に関する歴史的な分析。幕末から昭和戦前期まで、人物を中心に考察する。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 幕藩体制の動揺と崩壊
2. 明治国家の形成
3. 政府批判と宥和策
4. 明治憲法と初期議会
5. 日清戦争と日露戦争
6. 政党政治の発展
7. 対華21カ条とシベリア出兵
8. ワシントン体制の成立と崩壊
9. 軍部の台頭
10. 満州事変と連盟脱退
11. 日中戦争と総動員
12. 日米戦争と戦時議会

履修上の留意点

履修にあたっては、とくに日本史の知識を必要としないが、歴史に関心を持つ学生の受講を希望する。

成績評価の方法

成績は筆記試験によって行なう。

教 科 書

富田信男・楠精一郎他『日本政治の変遷』（北樹出版）2,600円

参 考 書 等

猪木正道『軍国日本の興亡』（中公新書）760円。その他随時授業のなかで指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
経済原論	あさの 浅野 かつみ 克巳	法律1・2選	4

講義のねらい

現実の経済の動きを念頭におきながら、現代経済学の基礎理論を解説する。なお、公務員試験（その他の国家試験）の受験対策としても役立つように必要に応じ問題練習も行うので、下記の問題集も用意されたい。

講義の内容・授業スケジュール

- | | |
|--|--|
| <p>I マクロ経済学の理論</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済循環と国民所得の概念 2. 国民所得の決定 3. 経済の変動と成長 4. 賃金・物価・インフレーション <p>III 公共政策</p> | <p>II ミクロ経済学の理論</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 消費者行動の理論 2. 企業行動の理論 3. 市場と価格決定 4. 市場・企業・産業 <p>IV 国際経済学</p> |
|--|--|

〈授業を受けるために必要な勉強〉

現代経済学の勉強で不可欠なことは、現実の経済問題に関心をもつことである。とくに『日本経済新聞』には毎日必ず目をとおり、必要な記事はスクラップに整理しておくこと、授業だけでなく将来の就職試験などにも大いに役立つであろう。

成績評価の方法

成績は筆記試験とレポートによって行う。

教科書

浅野・荒木・浅田『エコノミックス』（成蹊堂）1995年

参考書等

上記テキストの巻末には、各章ごとに必要な参考書が一括して掲げられているので参照されるとよい。

その他

〔問題集〕青山『経済原論の頻出問題』（実務教育出版）1996年

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
法 思 想 史	たか はし ひろ き 高 橋 洋 城	法律1・2選	4

講義のねらい

西欧の様々な法思想を跡づけ再吟味する営みを通じて、近代法の環境の中で自明のものと考えられている思考のワクを相対化し、批判する視点を持つためのきっかけとしたい。こうした作業は、揺れ動く現代の法状況へ対峙してゆくの必要であると思われる。

講義の内容・授業スケジュール

ここでは大まかなアウトラインしか述べることはできないが、重点をおくトピックおよび思想家として、以下を予定している。

- (前期) ヨーロッパ法思想の核となったギリシャの法思想（プラトン、アリストテレス）、キリスト教思想（アウグスティヌス）、中世自然法論（トマス・アクィナス）
- (後期) 前近代から近代への世界像の転換、近代法の基礎理論とも言える自然権論や社会契約思想（ホッブズ、ロック、ルソー）、これを批判的に受け継ぐ啓蒙期の法思想（カント）、ドイツ観念論の法思想（ヘーゲル）

履修上の留意点

基本的には、時代を順に追い、代表的な思想家と思索を共にする形で述べていくことになるが、断片的な紹介ではなく、影響関係や重要な概念枠組の変遷などを重視し、明らかにできればと思う。また狭い意味での法学理論史の枠にとらわれず、各々の法思想を、その時代の人間観やコスモロジーの中に位置づけて検討し、そうした作業を通じて最終的には、近代という時代が獲得したものと忘却してしまったものについて考えてみたい。なお、時間の都合上、最大限順調に講義が進んだとしても、19世紀前半の法思想までをカバーするのが精一杯だと思う。19～20世紀以降の法思想ないし法学理論の諸潮流については、法哲学講義の一環として取り扱うつもりである。

成績評価の方法

定期の記述試験（後期終了後1回）を主たる評価基準とする。その他に任意提出課題として、講義で紹介した思想家の著作を読んでレポートを提出してもらえば、一定範囲内で評価に加える。

教 科 書

ここでは、三島淑臣『法思想史』[新版]（青林書院）4,854円を挙げておくが、講義の補完、通常の学習には自分にあった概説書を選んでもらってもかまわない。詳細については講義のはじめに紹介する。

参 考 書 等

講義の概要、参考資料を必要に応じて配布する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
比 較 憲 法	にし 西 <small>おさむ</small> 修	法律1・2選	4

講義のねらい

何年か前に発表された日米教育比較に関する米側専門の報告書によると、日本の大学教育は完全に失敗していると診断しています。「授業は貧弱で、大学生はいたって不勉強」というのがその結論です。日本の大学改革が叫ばれているいま、このような診断が誤りであることを証明する必要がありますとおもいます。

私は、次のような授業方針でのぞみますので、了解されたい。

- ① 私の教師になってからのモットーは「授業は休まず、遅く始めず、早く終らず」というものです。したがって、受講生諸君は講義には必ず出席し、かつ授業時間に遅れないように。
なお、今年度は短期国外留学が予定されていますので、その埋め合わせ方法は授業中に伝えます。
- ② あらかじめ講義計画（シラバス）を立て、その計画にそって授業を進めます。この講義計画は別に配布しますが、キーポイントと参考文献が示してあるので、理解を深めるのに役立ちます。
- ③ 授業中の私語・遅刻は、他人の迷惑になるので、絶対に謹んでほしい。
- ④ 成績は平常点を重視。私が独自に作成した出席カードを利用し（質問欄あり）、双方向性を大切にした授業内容にします。
- ⑤ 授業内容は、コピーの配布、ビデオ、スライド、OHPなどの活用をはかり、できるかぎり理解を容易にするよう工夫をこらします。

講義の内容・
授業スケジュール

取り扱う主な項目は、以下のとおり。

- ① 比較憲法の意義、効用
- ② 世界の憲法はいま
- ③ アジアの憲法
- ④ イギリス憲法の特徴
- ⑤ アメリカ大統領の選挙のしくみ
- ⑥ ドイツ憲法と日本国憲法の比較
- ⑦ フランス憲法体制の特異性
- ⑧ 社会主義憲法の生成、発展、そして終焉（？）
- ⑨ 中国憲法と台湾憲法
- ⑩ 韓国憲法と北朝鮮憲法
- ⑪ イスラム教諸国の憲法体制
- ⑫ 国際憲法学の確立に向けて

成績評価の方法

成績評価の目安は、おおむね以下のとおり。

前期試験30%、後期試験40%、出席・レポート30%

要するに、講義内容を生き活きたものにし、受講生から知的関心を引きだし、知的満足感をもって終了するというのが、最大のねらいです。

教 科 書

開講時、参考書などとともにシラバスで指示。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 法 制 史	しげのたかはる 茂野隆晴	法律1・2選	4

講義のねらい

歴史学には、単に歴史(学)と呼ばれる一般史のほか、多くの個別史がある。これは医学における医学史のごとくで、一つの学問には必ずその史学がある。

法学を学ぶ者にとって最も身近な史学が法制史 (Legal History, Rechtsgeschichte) である。本学には西洋法制史と日本法制史とが設置されている。わたくしの講義は、日本法制史であるが、それは、「日本国民の法生活の歴史的考察」(隈崎渡博士の定義) である。とするならば、法制史が過去における国家の制定法規を羅列して、その解釈に留まるものではないことが明らかであろう。

ともあれ、法学教育において、法制史などの基礎法学を学ぶということは、実定法の理解をヨリ深化させるとともに、リーガル・マインドの形成に有用であり、さらには、法学教育の総合化を図るのに有用であるはずである。

講義の内容・
授業スケジュール

夏休み前までに上古(建国か大化改新まで)、中古(大化改新から鎌倉幕府開府まで)、中世(鎌倉幕府開府から織豊時代まで)までの3期を概説する。その進み具合は、従って比較的早い。それというも、特にその後の近世法に時間を掛けるようにしたいからに他ならない。

夏休み後は近世法について主にみるが、近代法、現代法についても成る丈ふれるようにし、比較法的な効果を挙げられるようにしたい。

講義では、諸種の事例を挙げ成る可く平易に講述していきたい。特に近世法の知識は、歌舞伎などの伝統芸や多くの時代小説や時代劇などの理解に少なからず役立つことも多いことであろうから、一層の興味が湧くようにしたい。

成績評価の方法

出席回数を平常点とし重視する。敢て、期末試験では頑張り具合がみられるようにし、頑張りも重視して採点したい。

教 科 書

大久保治男・茂野隆晴共編『日本法制史史料60選』(芦書房) 2,300円

参 考 書 等

大久保治男・茂野隆晴著『日本法制史』(高文堂出版社) 2,650円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
西 洋 法 制 史	きたの 北 野 かほる	法律1・2選	4

専
門
（
法
律
）

講義のねらい

イギリスの法制度の歴史を、社会の法的構造と国家統治機構のかかわりを軸に解説する。イギリスの法制度の歴史を、特に注目される法的現象を挙げながら、各時代毎の法制度の全般的特徴と、基本的社会・政治構造との関連について考察する。

講義の内容・
授業スケジュール

- 第1部 総論
 - 第1章 法制史学概説
 - 第1節 法制史学の方法と対象
 - 第2節 法制史学の目的と効用
 - 第3節 イングランド法制史学の対象と方法
 - 第2章 イギリス歴史学の基本的知識
 - 第1節 時間的範囲
 - 第2節 空間的範囲
- 第2部 イングランド法制史
 - 第1章 古代
 - 第1節 歴史過程
 - 第2節 社会構造
 - 第3節 法構造
 - 第2章 中世（1066-1350）
 - 第1節 歴史過程
 - 第2節 社会構造Ⅰ 中世ヨーロッパの封建制
 - 第3節 社会構造Ⅱ イングランドの封建制
 - 第4節 統治構造 封建制の解体
 - 第3章 近世（1350-1650）
 - 第1節 歴史過程
 - 第2節 社会構造
 - 第3節 統治構造
 - 第4節 法構造

履修上の留意点

講義中の私語・騒音は厳しく規制する。予め十分留意すること。

成績評価の方法

論文式筆記試験（後期試験期間・年1回）

教科書

特に指定しない。

参考書等

年度当初に指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
刑事政策	さいとう やしゆき 斎藤 静 敬	法律1・2選	4

講義のねらい

人間は、なぜ罪を犯すのであろうか。どうすれば、この世の中から犯罪を防止することができるのであろうか？ たしかに、犯罪のない社会を実現させることは非常に困難なことである。しかしながら、実現不可能であるとして、何の努力もせずには、何の解決策にもならない。少しでもよから犯罪のない社会の実現にむけて、われわれは努力すべきである。刑事政策を学ぶということは、まさにこの犯罪のない社会の実現にむけて貢献することにある。

講義の内容・授業スケジュール

刑事政策は犯罪を防遏するための合理的、合目的な手段、方法を探究するものである。そこで、

- 1 犯罪現象の類型的考察（例えば、少年犯罪、女性犯罪、性犯罪、暴力団犯罪、公務員犯罪、公害犯罪、精神障害者の犯罪、薬物乱用犯罪、交通犯罪、外国人犯罪）。
- 2 犯罪者の処遇（例えば、受刑者の法的地位、刑務作業、拘禁の形態、仮釈放）。
- 3 犯罪者に対する制裁（例えば、死刑、自由刑、財産刑、保安処分）。
- 4 犯罪の司法的処理（例えば、起訴猶予、執行猶予）……などについて概説する。

履修上の留意点

1. 講義には、毎回かさかさ出席して欲しい。
2. 毎日、新聞の犯罪記事に目を通しておく。

成績評価の方法

筆記試験

その他

講義方式

科目名	担当者名	配当学科	単位
法社会学	こばやし ひろと 小林 弘 人	法律1・2選	4

講義のねらい

法社会学の概念についての理解、法社会学の対象と方法、具体的事例についての解説が授業の主たる内容である。

講義の内容・授業スケジュール

日本および諸外国の法社会学史について前期一杯講義する。具体的には、まず日本の法社会学の学説史について解説する。その後、ヨーロッパおよびアメリカの法社会学史について説明する（例えば、モンテスキュー、イェーリング、マックス・ウェーバー、マリノウスキーやギェルヴィッチ、ホームズ、パウンドなどの学説の紹介である）。次いで、法社会学の方法論について解説する。また、法社会学に関連する法学の諸分野と社会科学との関連についても解説する。

後期からは、法と社会との関連性について全体社会と法、部分社会と法について、具体的事例をあげながら説明する。立法過程、司法過程、農村、都市のかかえる課題の対応には時間をさきたい。

履修上の留意点

とくになし。資料はかなり配布するが、該当日以外は、配布しないので、注意すること。

成績評価の方法

レポートと期末テストを勘案して行う。

教科書

及川伸著『法社会学講義』（法律文化社）2,781円

参考書等

講義初日に説明する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
マス・コミュニケーション論	^{あい} 相 ^だ 田 ^{とし} 敏 ^{ひこ} 彦	法律1・2選	4

講義のねらい	マス・コミュニケーションの機能、影響について、広い視野から検討する。
講義の内容・ 授業スケジュール	<p>1. 報道と真実 この問題はいろいろな次元で考えられるが、ここでは記号論を援用して、原理的に掘り下げて検討する。</p> <p>A. イコン記号について、 文字の意味とちがひ、写真の意味（何を表しているか）は習わずしてわかると大抵の人は思うが、果してそうか。映像（テレビなど）についても同じような問題がある。</p> <p>B. 写真による世論誘導——ケース・スタディ 新聞の写真によって、読者は気づかぬうちに、真実ならざる「真実」を植えつけられ得ることを具体例によって確認する。</p> <p>C. 表象理論とミメシス理論 写真や映像はそれを見る人にどのような「真実」を伝えるかの理論をまとめとして学ぶ。</p> <p>2. 意識培養分析 〈客観的現実〉は〈シンボリック現実〉を媒介として、どのような「主観的現実」として人びとの心に植えつけられるか。</p> <p>3. 意味構築の理論 メディアによる、また、視聴者・読者による意味付与、意味解釈とは何か。</p> <p>4. ヤコブソンのコミュニケーション・モデル コミュニケーションとは単純に記号による一つの意味の受け渡しだろうか。通常、あまり意識されずに、いくつかの次元で意味の読みとりがなされている。ヤコブソンのモデルは、この問題を系統だてて考えるのに役立つ。</p>
履修上の留意点	マスコミについて授業をききながら、自ら積極的に考える姿勢を強く望みたい。そのため、授業中にこちらから質問を發し、挙手または指名によって回答を求める。
成績評価の方法	前期：レポート 後期：試験
参 考 書 等	リップマン『世論』主として上巻（岩波書店） 田崎馬郎・兒島和人（編著）『マス・コミュニケーション効果研究の展開』（北樹出版） カラン・グレヴィッチ（編著）『マスメディアと社会』（勁草書房）

科目名	担当者名	配当学科	単位
行政学	おかだ あきら 岡田 彰	法律1・2選	4

講義のねらい

行政学は政治学の中でも新しい分野である。わが国では明治時代にドイツの官房学の紹介として始まった。そして戦後はさらにアメリカ行政学の影響も受けることになる。

行政学と関連する学問は①行政法学（公法）②経営学（組織論）③財政学④政治学が主なものであるが、国によって関連領域への関心も異なる。日本では行政法学の影響が強いが、アメリカではむしろ経営学との関連などに関心が置かれており、それぞれの歴史を反映したものとなっている。行政学は地味なもので、それだけ学生諸君には取りつきにくいように思われるかもしれないが、いずれ社会で活躍すれば、必ず出会う問題でもある。

講義の内容・授業スケジュール

- 1 行政学の対象と方法
- 2 行政学説史
- 3 アメリカ行政学
- 4 官僚制
- 5 官僚制の生理と病理
- 6 行政統制と行政責任
- 7 内閣制度
- 8 公務員制度

履修上の留意点

遅刻や私語は遠慮して下さい。

教科書

教科書：森田朗『現代の行政』（放送大学）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
英 米 法	またの 北野かほる	法 律 2 選	4

専
門
（
法
律
）

講義のねらい

近現代法治国家の主要法系のひとつである英米法系について、日本法を含む大陸法系と比較しての基本的特徴を外観し、その主要な理由をなすと考えられる、法形成における裁判の意味について、司法機構と判例法を中心に考察する。

講義の内容・
授業スケジュール

- 第1編 概論
 - 第1章 法系論
 - 第1節 西洋近代法の法系
 - 第2節 英米法系の特色
 - 第2章 英米法の特徴
 - 第1節 法内容の歴史性
 - 第2節 法観念の社会性
 - 第3節 法思考の実務性
 - 第3章 判例法の理論
 - 第1節 総論：「判例法主義」
 - 第2節 先例拘束性の原理
 - 第3節 判決における「法」
 - 第4節 法形成作用
- 第2編 司法制度
 - 第1章 裁判所制度
 - 第1節 イギリス
 - 第2節 アメリカ合衆国
 - 第2章 訴訟過程
 - 第1節 英米訴訟制度の特徴
 - 第2節 陪審

履修上の留意点

講義中の私語・騒音は厳しく規制する。予め十分留意すること。

成績評価の方法

論文式筆記試験（後期試験期間・年1回）

教 科 書

特に指定しない。

参 考 書 等

望月礼二郎『英米法（改訂第二版）』（青林書院）現代法律学全集55 5,150円
その他の参考書：年度当初に指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
独 法	やまぐちくに お 山 口 邦 夫	法律 2 選	4

講義のねらい

外国法の一種類としてのドイツ法全般について一年間で講義をすることは不可能なので、日本が明治以降、政治上の理由から、先進国の外国法を多数継受してきたなかで、ドイツ法のはたした役割を中心に講義をする。したがって、ドイツ法の歴史も近世以降に限定し、特に19世紀以降の立法と日本が継受する際に最も強く影響を受けた点を中心としたい。明治期の仏法・英法の影響については、各自学習することが望ましい。

講義の内容・授業スケジュール

- 一年を次の4期に分けて講義をする。
- I期 4/5月、II期 6/7月、III期 9/10月、IV期 11/12月。
- I期 プロイセン憲法と明治憲法との関連、特に Kaiser と天皇との比較。次にドイツ民法第一草案と日本民法との関連。パンデクテンシステムの導入。行政法の分野について。
- II期 一般ドイツ商法典と日本の商法との関連。民商統一論。社会法、経済法など。
- III期 刑法及び手続法（特に民事訴訟法と刑事訴訟法）の分野において、ドイツ法が日本法に与えた影響について。
- IV期 ドイツの法思想家のうち、I期からIII期において対象とした分野で影響を与えた法学者の思想をドイツの原書を参考に解説する。

履修上の留意点

当然ドイツ語を履修した2年生以上の学生を念頭において講義をする。授業中にドイツ語の条文などが登場するので、他の外国語の履修者には不適當と考えるが、単位取得を目的としなければ聴講可能である。

成績評価の方法

毎年10人前後の小クラスなので、毎回出席をとり、平常点に、年2回のレポート提出によって単位の認定を行う。いわゆる学年末試験は行わない。

参考書等

Gerd Kleinheyer / Jan Schröder, Deutsche Juristen aus fünf Jahrhunderten. 2. Aufl. 1983. (初版の和訳あり) (IV期用参考書)

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
仏 法	うえ い たけ ひさ 上 井 長 久	法 律 2 選	4

講義のねらい

本講義は、フランス法のうち、とくにフランス私法の根幹をなす諸問題を対象として、フランス私法の基底を理解することを目的とする。近現代の私法の基本的問題ばかりでなく、古代フランク時代と封建制度下の中世の法とにわけられる古法の時代、および自由と平等を旗印とした大革命に始まる革命期の法すなわち中間法の時代の私法をも本講義の課題としているのはそのためである。フランスの近現代法は、19世紀初頭に統一的な成文法により樹立され発展したが、それまでの法を基礎として統一・整備されたものである。フランスの近現代の私法を深く理解するためには、古法、中間法をも学ぶ必要がある。本講義は、そのようなフランスでいわゆるフランス私法の序論と歴史と称する領域を原典資料（法文、判例、学説、一般論述等）により理解しようとするものである。

講義の内容・授業スケジュール

本講義は、まず、近現代のフランス公・私法の基礎であるフランス人権宣言と19世紀におけるその開化を学び、次いでフランスの革命期および近現代の私法の基本的問題を検討し、後に、その基本的問題さらには近現代の私法の個別的問題と出来るだけ関係づけながら古法における私法の歴史を考察する。講義の内容は、具体的には以下の通りであるが、その各項目について原典資料を解説しながら講義を進める。なお、フランスの革命期から今日までの政治、行政、裁判制度についても、適宜折り込み説明する。

- I 革命期および近現代の私法の基本的問題……（前期）
 - 1. 人権宣言と自由の確立
 - ①人権宣言の着想の背景・精神・性質・効力・趨勢 ②人権宣言の内容 — 基本的人権、各種自由権、法の下での平等、法律の支配、政治組織の原理（国民主権、権力分立） ③公的自由と私的自由
 - 2. 法典編纂とその後の私法の変遷
 - ①法典化の意義・目的 ②ナポレオンの5法典と王令・中間法 ③法典編纂の経緯と問題点 ④近現代における私法の変遷
 - 3. 判例の効力
 - ①判決の構造と判例 ②判例観の変遷（古法、中間法） ③判決の既判力、判例の拘束力と創造力 ④法律の解釈と法学の法律学化（注釈学派、科学学派）
- II. 私法の歴史……（後期）
 - 1. フランク王国の法
 - ①法源（法の属人性） ②社会経済制度 — 人の身分、土地（個人、共同）所有形態、形式主義的契約、教会と家族財産（相続、贈与、遺贈）、フランクの家族共同体とローマの個人的家族制度 ③訴訟制度
 - 2. 高期中世（制限王政期）の法
 - ①法源（法の属地性、ローマ法の再生、教会法の編纂、慣習法） ②社会経済制度 — 階級制、封建的土地所有（分割所有権）と自由地、形式主義的契約と合意主義的契約、家族制度（教会婚、自由処分分と家族遺留分、夫婦財産共有制） ③都市の社会経済制度 — ブルジュア身分大市・市の組織と取引、同業組合の組織と規約
 - 3. 絶対君主制（旧体制）の法
 - ①法源（慣習法の編纂、ローマ法の第二の再生、王令） ②社会経済制度 — 階級制の変遷、封建的土地所有制度の変遷

履修上の留意点

フランス法とフランス語に興味があれば、楽しく受講してもらえます。

成績評価の方法

成績評価は、学年末の定期試験で行う。

教科書

拙著プリント版 *Introduction au droit privé* 及び *Histoire du droit privé*（最初の講義の時に配付する予定）

参考書等

ジャン・アンベール著三井哲夫＝菅野一彦訳『フランス法制史』（白水社文庫クセジュ）
山口俊夫『概説フランス法 上』（東大出版会）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
債 権 各 論	はやし こう じ 林 幸 司	法 律 2 選	4

講義のねらい

- 1：民法、特に債権各論について、受講生に「基礎的な理解」が身につくよう目指すこと
- 2：この分野の諸テーマにつき、「具体的な事例問題を通して理解を深める方法」を修得してもらい、それによって受講生の「民法に対する興味」を触発すること

講義の内容・授業スケジュール

債権各論は、債権の「発生原因」を扱う分野であり、①契約、②事務管理、③不当利得、④不法行為がその主要な原因である。これらは全て、諸君が日常生活で無意識のうちに触れているものばかりであり、具体的な問題がほとんどである。これらについて研究し理解を深めることは、民法の「具体的なイメージを把握するための突破口」となるはずである。

履修上の留意点

- 受講生に望むこと（受講に際しての注意）
- 1：私語の厳禁 あまりにも当然過ぎて、ここで触れることすら情けないのだが、大学生にもなって、講義中の私語が許されると思っている者がいるようである。強く注意して、やっとな静かになるというのが現状であるが、不思議にも、本人に全く反省の色がなかったり、何か悪いことをしたのか（又は「なぜ俺だけが」と言わんばかりに睨み返してくるということもある。このテの者にはその場で『登録抹消』を通告するという強い態度で臨むので覚悟してもらいたい。
 - 2：他の履修科目について できれば債権総論も受講してほしい。この分野は、各原因によって発生した様々な債権に「共通する事項や性質」などを扱う領域で、債権各論を理解する上でも重要な分野だからである。もちろん、発生原因を扱う債権各論から先に手をつけようという人がいても一向に構わないし、理論上何の問題もないが、いずれは債権総論も修得してほしいものである。

成績評価の方法

後期試験による評価が中心となるが、講義後に回収する質問や意見などにも受講生の理解度や積極的な姿勢が現れていることが多い。これらに対しても若干のプラス評価を行うつもりである。

教 科 書

内田貴著『民法Ⅱ債権各論』（東京大学出版会）3,600円

そ の 他

- 講義の方法
- 1：板書中心の講義であること 私独自の観点からポイントを整理するため板書中心の講義を行い、途中で適宜、教科書・参考書の該当箇所を指示・解説するという方法を採用。その際、かなり多くの図や表を必要とするが、それも主に板書によってカバーする。
 - 2：意義・要件・効果の整理に重点をおくこと 私も学生の頃は、ただ闇雲に教科書や判例解説集に書いてあることをダラダラと覚えようとしたものである。しかし、それは、山の中で、地図も磁石盤もなく、ただ地面を見て石ころを数えている姿に似ていると感じ、むなしい気持ちに苛まれる結果となった。本講義で整理の中心に位置付ける「意義・要件・効果」は、講義中、諸君が立っている位置を知るための『座標軸』だと思ってほしい。そのことの意味はとてもここでは書き切れない。詳しくは、講義で聴いていただきたい。
 - 3：具体的な「事例問題」または「判例」を素材とすること 事例問題集をプリントして配布し、あるいは、指定した参考書の中から判例を示し、意義・要件・効果と結び付けて解説する。具体的な事例を想定しての理解以外に、真に納得のいく理解はないと信ずるからである。
 - 4：受講生からの質問を講義に反映するよう努力すること 毎回講義前に用紙を全員に配布し、質問・意見・感想・要望などを書いてもらい、その中で、「これは！」と思うものを次回の講義に反映することを心掛けるつもりである（質問への解答が中心となる）。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
税 法	岸 田 貞 夫 <small>きし だ さだ お</small>	法律3・4選	4

専 門
(法 律)

講義のねらい	税法の体系を法的な見地から検討し、所得税法等の規定の解釈を中心として、税法の意義、役割、問題点等を研究する。
講義の内容・ 授業スケジュール	税法の意義、機能、体系、租税法律関係の特色、租税の確定手続き、所得税法における納税義務者、課税所得の意義、所得の種類、収入及び必要経費の範囲等について順次、講義する。
履修上の留意点	予習の上、問題意識をもって授業に参加されたい。
成績評価の方法	前期及び後期の試験の結果により評価する。
教 科 書	岸田貞夫等著『現代税法の基礎知識』（ぎょうせい）2,100円 又は岸田貞夫著『税法条文解釈の基石集知識』（税務経理協会）1,800円
参 考 書 等	金子宏著『租税法』（弘文堂）
そ の 他	授業は講義方式で行う。なお、レジュメを配布する予定である。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
財 政 学	さと なか つね し 里 中 恆 志	法律 3・4 選	4

専 門 (法 律)

講義のねらい

経済生活の中で公共部門の占める比重は確実に増加しつつある。財政学は公共財政経済を対象とする学問であるが、そこでは市場経済原理とは異なる原理が作用する。国民が財政意志の形成に参加する方法は民主主義の手続きをとおしてであるから、有効な財政政策の実現のためには、国民が財政をコントロールするルールと、その背後に作用し合う諸力について理解していなければならない。また国民は財政政策に対する基礎的な判断基準をもっていなければならない。このような観点から財政意志の形成過程、租税徴収による負担の配分、歳出の効率と合理性、財政の総需要管理政策について講ずる。

講義の進め方はまず財政意志の形成過程では予算の編成手続きの理解から入る。歳入面については租税収入を主要税種別に扱い、つぎに歳出面について主要経費別の考察を進める。さらに財政の総需要管理政策としてフィスカル・ポリシーを論ずる。

講義の内容・
授業スケジュール

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| (第1週) 講義内容の紹介と年間授業計画の説明 | (第2週) 公共財と公共部門 |
| (第3週) 財政の歴史概略 | (第4週) 予算編成と主計局査定 |
| (第5週) 予算編成と政党政治 | (第6週) 予算政府案と議会審議 |
| (第7週) 予算の執行と競争入札 | (第8週) 予算の政治過程 |
| (第9週) 租税原則学説 | (第10週) 給与所得税と課税の普遍性 |
| (第11週) 申告所得税と累進課税 | (第12週) 法人税と徴税技術 |
| (第13週) 国際化と移転価格税制 | (第14週) 一般消費税と付加価値 |
| (第15週) 地方税と地方歳出 | (第16週) 地方財政費と財政調整の制度 |
| (第17週) 機関費と純粋公共財 | (第18週) 公共事業費と公共財産の形成 |
| (第19週) 社会保障関係費と所得再分配 | (第20週) 補助金とスビルオーバー |
| (第21週) 国債費と公債負担 | (第22週) 総需要管理とフィスカル・ポリシー |
| (第23週) 国民所得の決定と乗数理論 | (第24週) 課税乗数と均衡予算定理 |
| (第25週) 公債による財源調達と債券価格 | (第26週) 大量国債の累積とその限界 |
| (第27週) 財政金融政策と国債収支 | (第28週) 財政投融资と政府貯蓄 |
| (第29週) 試験と評価についての説明 | (第30週) 試験 |

授業の配当曜日によって年度授業回数に若干の異動があり、予定どおりの時間数が組めないことがある。その場合は一部予定を割愛することがある。

履修上の留意点

法学部には関連科目として経済学分野の「経済原論」及び「経済政策」の講義が設けられている。「財政学」は経済と政治の学際的な分野の科目であるから、こうした関連科目を履修することが望ましい。他学部履修の制度も活用が望まれる。

成績評価の方法

成績評価は学期末テストとして行われる試験による。試験は論述式による。自筆のノート持ち込み可。

教科書

里中恆志・八巻節夫編著『新財政学』（文眞堂）3,200円

参考書等

大蔵省大臣官房調査企画課長編『図説日本の財政』各年度版（東洋経済新報社）
野口悠紀雄著『公共政策』モダン・エコノミックス12（岩波書店）2,000円
中谷巖著『入門マクロ経済学』（日本評論社）3,300円

科目名	担当者名	配当学科	単位
経済政策	もり 森 おか 岡 じん 仁	法律3・4選	4

講義のねらい	経済学の実践部門としての経済政策が自由主義経済に成立した過程と、そこではたす役割を明らかにする。人口高齢化や少子化の経済的帰結にも言及し、最後に高齢化社会における経済政策と人口政策の関係を論ずる。
講義の内容・授業スケジュール	I. 現代経済と経済政策 II. 経済政策学の発展 III. 現代経済政策の課題 IV. 経済の成長政策 V. 経済の安定政策 VI. 産業組織政策 VII. 社会均衡化政策 VIII. 経済政策と人口政策
履修上の留意点	日常生活に生起する経済問題に日頃から関心を抱き、自分達の身の回りにある経済問題の解決手段として経済政策を考え、学ぶことが大切である。
成績評価の方法	学年末の定期試験、授業の出席状況
教科書	森岡他著『現代経済政策』（千倉書房）1975年

科目名	担当者名	配当学科	単位
社会政策	かね 金子 まさ 征史 ふみ	法律3・4選	4

講義のねらい	社会政策の学問内容は時代とともに変せんするものであるが、この講義では、近年の社会政策の対象として重要な事項のひとつである労働時間政策と、これまで一定の意味をもっていた労働組合政策などについて考察してみたい。もちろん、今日の社会政策は社会保障、福祉、高齢化など、重要な事項もあるので、これらの問題も時間の許すかぎり考察することも考えている。
講義の内容・授業スケジュール	前期は、社会政策の総論および労働組合の問題を考えてみる。具体的には以下の項目を検討する。 ① 社会政策の対象 ② 社会政策の研究手法 ③ 社会政策学の歴史 ④ 労働組合の発生と社会政策の必要性 ⑤ 労働組合の機能 ⑥ 日本における労働組合の歴史——戦前 ⑦ 日本における労働組合の歴史——戦後 ⑧ 組織上の問題と対策 ⑨ 労働組合の将来 後期は、労働時間および雇用対策について検討する。具体的には以下の通りである。 ① 労働関係と労働時間問題の発生 ② 労働時間政策の歴史——ヨーロッパ ③ 労働時間政策の歴史——日本の戦前 ④ 戦後の労働時間政策の変せん ⑤ 8時間労働制 ⑥ 時短政策 ⑦ 1987年労基法改正 ⑧ 今日の労働時間政策 ⑨ 時短の将来 ⑩ 雇用構造の変せんと対策
履修上の留意点	講義に出席すること。ノートをとること。静かに受講すること。その他、開講時に指示する。
成績評価の方法	試験およびレポートにて評価する。
教科書	未定。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
民 事 執 行 ・ 保 全 法	とが 梅 よし 善 お 夫	法 律 3 ・ 4 選	4

講義のねらい

社会において重要な役割を果たしている民事執行法と民事保全法について講義します。民事執行法は、権利の事実上の実現手続きです。民事保全法は、将来の権利実現を保全する手続きです。民事執行法、民事保全法の解釈と両法律の基本原則、重要判例についての理解を目的とします。

講義の内容・
授業スケジュール

講義は、以下のような順序と内容で行います。なお、より詳しい年間の予定表は第一回目の講義のときに配付します。

- ① 私法上の権利の実現方法
- ② 強制執行法の改正と民事執行法の成立
- ③ 仮差押え・仮処分法の改正と民事保全法の成立
- ④ 民事保全法
- ⑤ 民事執行法総則
- ⑥ 強制執行法総論
- ⑦ 強制執行法各論
- ⑧ 担保権の実行としての競売

履修上の留意点

民事訴訟法を履修しているか、併行して履修する人の履修を希望しています。

成績評価の方法

成績の評価は、学年末の筆記試験のみによって評価します。

教 科 書

内田武吉編著『民事執行・保全法要説』（成文堂）1995年

参 考 書 等

竹下守夫・伊藤眞編『民事執行法判例百選』（有斐閣）1994年
 中野貞一郎『民事執行法（新訂三版）』（青林書院）1998年
 その他参考書については、授業の際に必要なに応じてその都度紹介します。

科目名	担当者名	配当学科	単位
法 哲 学	たか はし ひろ き 高 橋 洋 城	法律3・4選	4

講義のねらい

- ・法哲学は、「法学」の基礎的一分野であると同時に、「哲学」でもある。法制度や法的思考をめぐる基礎理論や根本的諸問題を考察しながら、法と関わりつつ生きる人間という存在者をどのように把握していけばよいのかという視点を常に持って、一緒に考えてゆきたい。
- ・出来上がった知識の体系を伝えることが講義の目標ではない。極論すれば「わかっていづもりのこと」をわからなくする、一度根底から疑ってみる、ということが講義のねらいといってもよい。とはいえ、一人で内省しているだけでは自ずからその思考の広がりにも限界がある。法と人間・社会の関わりにおいて、どのような問題があり、どのような考え方が提起されているのか、さまざまな議論に触れることで、各自の思考の自由度を広げてもらい、参加者各人自分自身で考える。その手がかりを本講義でつかんでもらえるならば講義としては成功である。

講義の内容・授業スケジュール

昨年度（平成10年度）までの講義内容からかなり変更を行ない、本年度は、法と現代思想の動向とのかかわりを大きなテーマとして設定する予定である。これまでの自明の前提とされてきた人間像、社会像は今日大きな懐疑・批判にさらされており、法や法律学と言えども、それと無縁ではない。また逆に法律学的な問題とされてきた諸事象が、実は人間観、世界観の問題と密接に絡み合っているということもある。人文諸科学や社会科学のなかで展開されてきた様々な考え方が示唆するものに対して、法を学ぶものとしても、その問題提起を真剣に受け止めなければならぬ状況に至っている。こうした基本的関心から、法をめぐる議論を哲学・思想一般の領域での議論、論争史の文脈に位置づけながら考察していきたい。したがって、講義の中では、実定法の議論の参照はもちろんだが、他の人文・社会科学、とりわけ哲学、倫理学、社会学などの知見にしばしば言及することになる。狭い意味での法律学を超えた問題関心が求められる。

個別の項目としては、たとえば以下のようなものを考えているが、現段階ではあくまで予定であり、詳細は講義開講時に伝える。

- ・近代法原理への懐疑、批判と擁護
- ・リベラリズム正義論とそれに対する批判
- ・解釈的存在としての人間と法的判断の問題
- ・法実証主義と自然法論
- ・生命倫理・環境倫理的問題状況からのインパクト

講義の進め方としては、できるだけ具体的な諸問題の紹介・検討から入り、その根底にある根源的な思考や原理を洗い出していく、という方式をとりたいと考えているが、ある程度は抽象度の高い議論にもチャレンジし、自分自身でそれを具体的・日常的問題と関連づけていく、という姿勢も参加者に求めることになるだろう。

成績評価の方法

前期終了後のレポート、後期終了後の定期試験、この二つを主たる評価対象とする。

教科書

田中成明『法理学講義』（有斐閣）2,900円を挙げておく。ただし、講義はこのテキストの叙述にとらわれず進めていくので、あくまで講義を補完する意味で推薦するものと考えてもらいたい。また法思想史の背景的知識を前提に話さなければならぬことも多いので、できれば法思想史関係の概説書も手許に置き自学自習に役立ててほしい。

参考書等

その他の参考文献については、講義の進行過程でテーマに応じてそのつど紹介する。

その他

上で述べたとおり、法哲学という学においては知識の獲得・整理が目標ではないのだから、講義ならびに概説書だけでなく、こちらから指示する参考文献を含め、様々な著作、思考、問題に自ら直接あたり、自分なりの思索を行うつもりでのぞんでほしい。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
倒産処理法	馬越道夫	法律3・4選	4

講義のねらい

倒産処理法とは破産法・和義法・商法上の会社整理・清算に関する規定、会社更生法など倒産に関する諸法規の総称である。倒産処理法という名称の法典が六法全書に存在するわけではない。なお、倒産とは債務者が経済的に破綻し、(債務の弁済が極めて困難になった状況をさす。倒産処理法には目的の異なる二種の法規が存在する。一つは債務者の財産を清算し、債権者への平等弁済を図る制度である(例・破産法)。他の一つは債務者の財産を全面的に清算することなく、取引関係を整理し企業の再建を図る制度である(例・会社更生法)。上記二種の法規について判例を挙げ具体的に講述したい。

また、今日国際的取引の拡大や多国籍企業の高発に伴い、一企業の破産もその影響は国内に止まらず破産の処理も国際的規模が要求される。かかる渉外破産の問題点についても平易に講座したい。

講義の内容・授業スケジュール

4月・5月 倒産処理法の概説
 6月・7月・9月 破産法
 10月・11月・12月・1月 会社更生法
 ※授業時間ごとに、その時間の講義要旨を記載したプリント(レジュメ)を渡します。

履修上の留意点

受講者は民法・民事訴訟法の基礎知識を習得していることが望ましい。

成績評価の方法

定期試験の結果及び出席状況を参考にします。

教科書

桜井孝一編 馬越道夫著『演習ノート破産法』(法学書院出版) 1,800円

参考書等

石川明『破産法』(日本評論者発行) 2,800円
 馬越道夫編著『論点国際刑事訴訟法』(不磨書房出版)

科目名	担当者名	配当学科	単 位
知的財産権法	盛岡 一夫	法律3・4選	4

講義のねらい

知的財産権法には、狭義の工業所有権法(特許法・実用新案法・意匠法・商標法)および著作権法等が含まれている。知的財産権法は知的所有権法または無体財産権法といわれることもある。知的財産権法全般についての基礎理論を理解できるように、わかりやすく講義したいと考えている。学説・判例の対立している点については、これに関連する学説・判例を紹介し、問題点の所在をあきらかにしたい。

特許法においては、発明の定義、特許を受けるための要件、従業者が発明をした場合の法律関係、特許権の侵害に対する救済方法、実施契約等について、実用新案法においては、特許法との相違について、商標法については、商標登録要件および類似商標について詳しく解説する。著作権法および不正競争防止法についても講義する。

講義の内容・授業スケジュール

前期:特許法・実用新案法
 後期:意匠法・商標法・著作権法・不正競争防止法

成績評価の方法

後期に行なう平常試験および学年末試験によって評価する。

教科書

盛岡 一夫『工業所有権法概説-知的財産権法の基礎〔第3版〕-』(法学書院)

参考書等

特許庁編『工業所有権法逐条解説』(発明協会) 中山信弘『工業所有権法上』(弘文堂)
 鴻・紋谷・中山編『特許判例百選』(有斐閣) 齊藤・半田『著作権判例百選』(有斐閣)

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
環 境 法	まつ 村 弓 彦 まつ むら ゆみ ひこ	法律 3・4 選	4

講義のねらい

環境問題を事実と法律論の両面から理解する。私法からのアプローチを中心とするが、現在我が国が当面している環境法上の重要課題については、公法・国際法の分野の問題を含めて勉強する。

講義の内容・
授業スケジュール

教科書と判例（必要に応じて配布する）を中心とし、概ね以下の項目にわたる。
 (1) 環境法の背景・歴史・理念等
 (2) 環境保全法制
 (3) 環境責任
 (4) 費用負担
 (5) 特殊問題——我が国が当面する諸問題

履修上の留意点

事実を踏まえた法理論の理解を深めること。

成績評価の方法

論文式試験（年1回）および授業中の報告の評価による。

教 科 書

拙著『環境法』仮題（成文堂）

参 考 書 等

森島昭夫ほか編『公害・環境判例百選（別冊ジュリスト126号）』（有斐閣）2,300円

そ の 他

授業の方法：テーマに応じて講義形式とゼミ形式を併用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 済 法	おか だ と し ひろ 岡 田 外 司 博	法律 3・4 選	4

講義のねらい

独占禁止法は、企業の経済活動に関する世界共通のルールとしてますます重要になりつつあるのみならず、実は私達の生活にも深く関わっている。ところが、独占禁止法の条文を見ると、一般になじみのうすい抽象的な用語が並んでいて難解であり、その理解は決して容易ではない。そこで、本講義では、最初数回は理論的問題にも触れるが、その後は独禁法の規制の内容とその実際の解釈運用について、具体的事例を多くふまえてできるだけわかりやすく解説することを目標にしたいと考えている。

講義の内容・
授業スケジュール

講義は2回に1枚プリントを配布し、そのプリントに書かれた設問にこちらの方で答えて行くという方法をとる。

履修上の留意点

プリントを受け取らずに講義を聴いても意味がないので、出席は取らないが、講義に出席して少なくともプリントを受け取ることを勧める。

成績評価の方法

試験（後期1回のみ）によって判定する。

参 考 書 等

初回の講義の時に紹介する

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
証 券 取 引 法	はる 春 田 博 <small>ひろし</small>	法律 3・4 選	4

講義のねらい

証券取引法は会社の発行する株式・社債等の有価証券の発行・流通を規制の直接の対象とするが、その内容には、有価証券の定義、ディスクロージャーの規制、証券業と銀行業の業際問題、公開買付、5%ルール、インサイダー取引や相場操縦の規制等、数多くの現代的な問題が含まれており、また、実質的に会社法を補完する役割を担っていることもあって、今日その重要性を著しく増しつつある法分野である。本講義では、これら時事性のある問題にも可能なかぎり具体的に言及しながら、証券取引法による規制がどのような考え方や定義にもとづき、誰を名宛人とし何を目的に行なわれているかについて、わかり易く論じてゆくことにしたい。戦後に制定された若い法律であるため、母法であるアメリカ法の動向とも密接な関連を有しているが、こうした事情についても講義で伝えることができればと考えている。

講義の内容・
授業スケジュール

ほぼ法律の規定の順序に即して進める予定である。

履修上の留意点

履修者は会社法の履修を終え、あるいは自習している等、会社法に関する一応の理解を有していることが望ましい。また、出席に際しては必ず六法全書を持参すること。

成績評価の方法

学年末に実施される教場試験の結果によって行なう。

教 科 書

近藤光男・吉原和志・黒沼悦郎著『証券取引法入門』（商事法務研究会刊）3,500円

参 考 書 等

必要に応じ教室においてその都度指示する。

そ の 他

授業は講義形式で行なう予定である。

科目名	担当者名	配当学科	単位
金融法	かわ 川 田 悦 男	法律3・4選	4

講義のねらい

わが国の金融界は、今かつて経験のない変革激動のなかにある。バブル後遺症として不良債権問題が経営の根幹を揺るがしており、その早期脱却を迫られる一方、急激に押し寄せる金融のグローバル化、自由化という大きな流れにそって進められる金融ビッグバンのもとで、21世紀に向けて生き残りをかけた業務戦略の構築に迫られるという、いわば相反する二つの重要な経営課題に直面している。毎日がまさに生きた教材を提供する渦中にあるといえよう。

これを利用者の側からみると、現代社会は企業も個人も金融機関と極めて密接な関わりあいをもっており、経済社会はもちろん個人の生活に至るまで銀行取引なしには成り立たないといっても過言ではない。

本講義は、このような認識のもとで、われわれ一般市民として、また将来の金融人・企業人として必要な金融取引に関する基礎的な法律知識と諸問題について、できるだけ実社会の生きものとして学ぶことを狙いとしており、さらには実学の楽しさについても学びとっていただければと考えている。

講義の内容・授業スケジュール

金融法はまだ新しい科目分野であるが、その対象領域はかなり広く関係する法律も多い。本講義では、これらを主に具体的な取引法の観点から学ぶこととし、制定法の規定が現実にはどのように修正されて実際取引に適用されているのか、また、金融環境の変化がどのような新しい法律問題を生じさせているのかなど生きた学問として学習する。

講義内容は次を予定している。詳しくは初回講義の際に資料配布する。

- I 金融法の特質、わが国の金融制度、金融機関の業務内容
- II 預金取引、為替取引、付随業務
- III 手形交換と取引停止処分制度、相続、差押
- IV 貸出取引、消費者取引、担保・保証、倒産・回収

成績評価の方法

学年末試験を基本に評価する。

教科書

最初の講義のときに話します。

その他

講義形式による。毎回プリントを配布（サブテキスト配布）、一部ビデオ利用。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
国 際 取 引 法	おかだとしひろ 岡 田 外 司 博	法律 3・4 選	4

講義のねらい

本講義では、国際取引に関連して生ずる法律問題として、国際私法上の問題、国際民事訴訟法上の問題、国際公法上の問題を広くとり上げ、国際取引に関する現在の法制度について全体像を得ることを目標としている。

講義の内容・授業スケジュール

講義を前半と後半の2つに分け、前半については、国際取引に関連する私法的な問題を国際的な取引紛争の解決過程を念頭において順次検討する。後半は、国際取引に関する公法的規制として GATT/WTO 体制について述べる。

履修上の留意点

前半部と後半部の内容は異なるということを留意されたい。

成績評価の方法

試験による。

教科書

特に指定しない。

参考書等

講義の中で適宜紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
消 費 者 法	あおのひろゆき 青野博之	法律3・4選	4

講義のねらい

消費者法は、新しい科目である。民法、行政法などこれまで履修した科目の考え方、知識をすべて使って、いろいろと受講生自身が考えてほしい。
担当する私の専攻の関係で、民法およびその特別法である割賦販売法、訪問販売法などを取り扱うことが多くなる。

講義の内容・
授業スケジュール

- (ア) 講義内容
消費者法の現在・過去・未来
消費者取引と法
消費者取引の適正化と法
訪問販売
割賦販売
消費者被害の救済と法
製造物責任
- (イ) 成績評価の方法に掲げるレポートに関連して講義・討論をしたい。
(ウ) 月に一度は、月刊誌「国民生活」などから最近の記事を取り上げ、講義・討論をしたい。
(エ) (イ)(ウ)は、消費者法が日々変化する(現在進行形の)法であることに鑑みたものである。
(オ) 年に一、二回は、ビデオを見て、講義・討論をしたい。

履修上の留意点

質問は大歓迎である。出席者はそれほど多くないことが予想されるので、私から受講者に質問しつつ、また受講生からの質問に私が答えながら、私の講義を聞いていただくことになると思われる。

成績評価の方法

出席して質問をした回数、およびその質問の内容を重視する。出席者に対して私の方から質問をするので、これに答えてくだされば、これもカウントに入れる。正しい答えでなくともよく、自分で考えた答えであればよい。自分で考えることに意味がある。答えられなかったとしても不利には扱わないので、安心して質問に答えてほしい。
ほかに、年に6回、新聞記事から受講生自身が興味を持ったものを探し、その切抜き(またはコピー)とともにその感想、批評をレポートにして提出していただく(つまり、5月、6月、7月、10月、11月、12月に一度ずつ提出日を定める)
受講生がそれほど多くなければ、発言(質問と応答)とレポートだけで成績を評価する。
受講生がレポートなどの平常点で評価することができないほど多ければ、定期試験で成績を評価する。なお、試験を行う場合には、いっさいの持込を不可とする。

教 科 書

伊藤進・木元錦哉・村千鶴子著『テキストブック消費者法』(日本評論社)2,625円

参 考 書 等

平松毅・井上善雄・田上富信著『判例・事例で学ぶ消費者法』(有斐閣)2,415円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
航 空 ・ 宇 宙 法	せき ぐち まさ お 関 口 雅 夫	法 律 3 ・ 4 選	4

講義のねらい

専門科目としての航空・宇宙法学は、航空法と宇宙法の全体についての概観的な知識、航空法と宇宙法に対する基本的な考え方、および個々の法律問題への取りくみ方など、航空法と宇宙法についての最も基礎的であると考えられる問題の理論的そして体系的な解明を目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

航空法も宇宙法も新しい学問領域である。特に宇宙法は、航空法に比較しても極めて新しい学問領域である。学理的には、航空法も宇宙法も国内法としての航空法と宇宙法と、国際法としての航空法と宇宙法に分けられる。沿革的にみると、そこにはまず、一般的に国際法として成文化された航空法と宇宙法が生まれ、その内容が各国に浸透して国内法化される傾向がある。この意味で、航空法と宇宙法を体系的に学ぶためには、まずはじめに国際航空法と国際宇宙法の理解が不可欠になる。この講義の内容は、国際航空法と国際宇宙法を中心に進めて行く。

国際航空法は、国際航空公法と国際航空私法に大別出来る。国際航空公法の法源は、現在世界の170カ国が批准しているシカゴ条約（日本の正式名称は「国際民間航空条約」）やヨーロッパ連合（EU）の理事会指令のような地域協定および現在世界に1500ほど存在すると言われる例えば日米間航空協定のような二国間航空協定よりなっている。本年は、アメリカのノースウエスト航空やフェデラル・エクスプレス航空がアジア市場に進出し、そこでいわゆる「過大な以遠権を行使すること」が、日米航空協定に違反するか否かというような具体的事例を通して、国際航空公法の基礎理論を理解してもらうことにする。国際航空私法は、三つのテーマを研究する。その第一は国際航空事故が生じて旅客に人身事故が生じた場合の国際航空運送人（航空会社）の責任問題について、中華航空機名古屋空港事故を例にとりて論考する。第二のテーマは航空機事故が発生し、地上の第三者とその財産に損害を与える場合の解決策を考えてみることにする。第三のテーマは、航空機事故と保険制度の関係を検討することである。

国際宇宙法も、国際宇宙公法と国際宇宙私法に大別することができる。国際宇宙法の中核的法源は、別名基本的条約と称する宇宙条約である。本講義の第一のテーマは、この宇宙条約に定められた基本原理の内容を検討することに置く。次に、救助協定、登録条約、月条約を順次解説して行く。国際宇宙私法の中心には、「宇宙物体が引」起した損害についての国際的責任に関する条約（責任条約）が存在する。第二のテーマとして、この内容を解説する。第三のテーマは、現在そこには国際宇宙運送条約が存在していないが、何故存在していないのか、存在させるとしたらどの様な責任原理が採用されるべきかを検討する。第四のテーマは、宇宙物体・宇宙機の事故と保険との関係をみることにする。

履修上の留意点

この講義は、新しいかつ特殊な学問分野の講義であり、全ての学生が履修すべき科目とは考えられない。この科目を履修すべき学生は、何らかの意味で、航空機に関係する仕事につきたいと思う人、宇宙関係の仕事につきたいと思う人に適当なものである。

成績評価の方法

平常点と期末試験の結果により評価する。

教 科 書

関口雅夫著『国際航空運送人の責任制度』（成文堂）3,700円＋税 を使用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
地 方 自 治 法	とみ い ゆき お 富 井 幸 雄	法律 3・4 選	4

講義のねらい

日本国憲法下における地方自治の法制度を体系的に理解する。すなわち、昭和22年に制定された地方自治法が具体的にいかなる意味をもち現実化されているか、憲法の意図する地方自治の理念がそこに具体化されているかを批判的に検討する。その際、現在進行している地方分権推進のシナリオは参考になる。

講義の内容・
授業スケジュール

地方自治法の体系に沿って講義を行う。前期は、憲法と地方制度の関係を比較法的ならびに歴史的に考察を行った後、地方公共団体の概念、住民の地位、自治立法権について議論を行う。後期は、地方公共団体の事務、組織、財政、地方公務員制度について勉強する。

成績評価の方法

前期試験（40%）と学年末試験（60%）で総合的に評価する。なお、出席は適宜とる予定である。単位認定のとき考慮することがある。

教 科 書

南博方他『行政方(3)（第3版）』（有斐閣双書）1,800円

参 考 書 等

原田尚彦『地方自治の法としくみ』（学陽書房）、『地方自治判例百選（第2版）』（別冊ジュリスト）

なお制度の概要を大まかに理解するには、鈴木正明他『図解 地方自治法』（良書普及会）は便利。地方自治の制度的問題を勉強するには、新藤宗幸『地方自治』（岩波書店）、同他『概説日本の地方自治』（東京大学出版会）は必読。

そ の 他

講義では頻繁に法律の条文に言及するので六法（『地方自治小六法』（学陽書房）があるがポケット六法でよい。）は必携。その都度チェックすること。憲法や行政法の履修者が望ましいが、少なくとも両法分野について高い関心を持つこと。わからないことは遠慮なく質問に来て欲しい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
国 際 関 係 論	しゅ とう もと こ 首 藤 素 子	法律 3・4 選	4

講義のねらい

現代の国際関係が抱える課題について、知識と理解を深めることを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

次のような項目をほぼ3週分の授業を割当てながら進める予定。

1. 国際政治理論の展開
国際政治の冷戦後の新たな視座
2. 冷戦後の大地域主義の生成
3. 地域紛争と安全保障の課題
国連の安全保障分野の機能
地域紛争と地域組織の機能
4. 国連の開発戦略と南北格差の問題
近代化理論の変遷と従属論の影響
世銀・IMFの機能と問題
5. 国際政治と人権保障の制度化
人権保障の法的枠組みの展開と課題
人権 NGO と国際社会
6. 1970年代以降の経済のグローバル化
政策協調と国際交渉の多様化
Global Governance の課題
7. 経済発展と途上国の政治体制
権威主義的政治体制と民主化の課題
8. 地球環境と国際関係の課題
地球環境問題の現状と政策的対応
「発展の権利」と「持続可能な発展」
人口問題の現状と課題

成績評価の方法

定期試験および課題提出物により評価する。

教科書

とくに毎時間使用するわけではないが、次の文献を入手し、授業に関連する項目を各自で勉強しつつ、授業に出席することをすすめる。

細谷千博監修、横山・野林編『国際政治の21世紀像』（有信堂）1992年（第2版）2,987円

科目名	担当者名	配当学科	単位
外交史	しの とう もと こ 首 藤 素 子	法律3・4選	4

講義のねらい

西欧国家体系の成立後、主として19世紀末から20世紀後半の時代を対象に、西欧世界と東アジアで展開した近代外交の特徴とその変容について講義する。その主な目的は当時の外交政策を形成する主体がどのような政治勢力であり、またどのような外交認識をもち、さらにその時代の国際環境が外交政策形成にどのような影響を与えたかを理解することにある。

講義の内容・授業スケジュール

- おおよそ次のテーマを取り上げ、各テーマにつきほぼ2週分の授業を割り当てる予定。
- 近代外交の成立と西欧国家体系の特質
近代アジアの国際体系の特徴
 - ドイツ帝国の成立とビスマルク外交の展開
フランス（1880年代～1900年代）外交の展開
 - イギリスの外交政策の変遷（1860年代～1910年代）と大英帝国の植民地政策の展開
 - 近代日本の大陸政策の形成と展開および日英同盟、日露協商の形成と更新
 - 日米外交関係の課題（1910年代）
 - アメリカ外交の伝統的特質と変容（1910年代まで）
 - 第1次大戦期のアメリカ外交と講和会議
 - 1920年代の独仏関係の変化、ワイマール共和制の憲法と政治過程
 - ワシントン体制の形成と日米関係
 - 1930年代の日本の大陸政策の形成と展開
 - 日本の南進政策と東南アジア軍政の展開
 - 対日講和条約と戦争賠償交渉

履修上の留意点

受講者数によるが、小規模であれば外交文書等資料のコピーも活用したい。

成績評価の方法

課題レポートや定期試験による。

教科書

特に固定的な使用はしない。

参考書等

池井優『日本外交史概説』（慶応通信）1992年 3,914円
細谷千博『日本外交の軌跡』（日本放送出版協会）1993年 860円

その他

授業は講義形式で行うが、少なくとも3～4回はビデオを併用する予定。

科目名	担当者名	配当学科	単位
政治思想史	こ ばやし まさ とし 小 林 正 敏	法律3・4選	4

講義のねらい

古代から現代に至る東洋的社会と西洋的社会の特質を比較し、なぜ「西洋」において多様な政治学説の発生を見るにいたったかという視点を重視する。また思想家の政治観の根底にある人間観、歴史観のもつ意味も併せて考察したい。

講義の内容・授業スケジュール

プラトン、アリストテレスから現代に至る政治思想史、政治学説史について、思想家を中心に、その時代背景にもふれながら論述する。前期はほぼN. マキアベリあたりまで、後期はJ. ボーダン以後になると思われる。

成績評価の方法

学年末試験の成績を中心に評価する。

教科書

特定のテキストは用いない。

参考書等

参考書、原典等は、講義の必要に応じて紹介していきたい。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
外書講読（英書）	あおのひろゆき 青野博之	法律3・4選	4

講義のねらい

英米法総論（たとえば、判例法、裁判所制度、法曹）または英米私法（たとえば、契約法、不法行為法）に関する、著書（の一部）または論文を、受講生とともに読み、後に具体的な判例を読む。これにより、英米法の考え方・知識を学び、日本法のそれと比較する能力を養う。

講義の内容・授業スケジュール

講義のねらいに述べた範囲から、受講生と相談して決める。

履修上の留意点

英語、英米法、比較法に関心のある学生は、ぜひ受講してほしい。予習をしたうえでの出席が不可欠である。

成績評価の方法

平常点で成績を評価する。

教科書

プリントを配布する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
外書講読（英書）	かねこしょうへい 金子昇平	法律3・4選	4

講義のねらい

講義のねらいは、アメリカの憲法や法律、あるいは重要と思われる論文や判例を読むことによつて、単なる法知識を得ることのみならず、その基本的な考え方をつかみとっていきたい。すなわち英語を読むだけでなく、考える講義をしていきたい。

そのためには、基礎的学習として法律英語を知ることであり、英単語やテクニカル・タームを豊富に身につけることである。

講義の内容・授業スケジュール

前期は、主にアメリカ合衆国憲法等の基本的なものを選び講読する。憲法は、構成要素としての統治機構（立法権、行政権、司法権）や、基本的人権について、どの様に規定しているのか、それぞれの意義及び内容について検討してみる。

後期は、受講生の希望をとり入れて、法律・論文、最高裁判所の判例等、いずれかを選択し、講義する。

履修上の留意点

英和辞典（和英辞典）は、持参すること。英単語の意味がわからないからこそ、辞典が必要である。受講生は、出来るだけ多く、辞典に当たることを身につけて欲しい。

成績評価の方法

講義への出席状態と、発表の評価で成績評価を行う。

教科書

開講時にプリントを配布する。

参考書等

講義内容に応じて適宜指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
外書講読（独書）	まつ 松 村 格	法律3・4選	4

講義のねらい

外書講読の授業は、大学生活のなかで本格的な専門書に親しむことによって真の学問の妙味を味わうことにある。小中高の受験語学ではできない学問のすばらしさを体験する時間である。この授業では、ドイツ語の原書を読むことによってその体験をする。受講生の語学力に合わせて読み合せていくので心配はない。

講義の内容・
授業スケジュール

教材には、刑法の基本をわかりやすく説明した文献を使用する。

履修上の留意点

何よりも意欲と熱意と関心が肝要である。ドイツ語力を必要とするが、初めてドイツ語に接する学生でも2年間で飛躍的に上達して、大学院にドイツ語で受験して合格していった卒業生が過去数名いた。興味のある専門書を通して語学力をのばすこともできるのである。

成績評価の方法

成績の評価は、毎週の努力度によって行うだけである。試験はしない。

教 科 書

教材は、上記のテーマに関係するものをコピーして渡す。

参 考 書 等

その都度指示する。

そ の 他

授業は、順番に翻訳部分を分担し、問題点を議論していく。原書の読み方は、丁寧に指導するから心配ない。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
外書講読（仏書）	お ぎ そ 小 木 曾 綾	法律3・4選	4

講義のねらい

外国人の著した書物を著者の国の言葉で読むことは、翻訳を読むこととは異なる意味をもつ。言語は文化のひとつであるので、言葉そのもの（語学）が「よくできる」といっても、その背景にある文化や、書かれている分野についての知識が欠ければ、「文法は判るが内容は理解できない」という事態になりかねず、これでは外国語で著された書物を読む意味がない。したがって、ひろくフランスおよびフランス語圏の文化や社会制度に興味をもつことが重要である。

法律や政治制度に関する、あまり専門的ではない、内容の理解し易いテキストを選んで、ある程度正確に読むことができるようになったら、できるだけ多く読むことを目指すので、意欲のある学生の参加を期待している。

成績評価の方法

出席と平常点による。

教 科 書

開講時に指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
外書講読（中国書）	江 林 英 基 <small>こう りん ひで もと</small>	法律3・4選	4

講義のねらい

現在の中国は経済の改革・開放政策をとっており、これを実現するため、1982年に四回目の新憲法を制定・施行し、その後二回にわたる改正を行った。その他の法律もこの憲法に基づき、“雨後春筍”のようにつぎつぎ公布された。“一衣帯水”の隣国である中国を認識することが必要である以上、その法制から着手しなければならないのである。

講義の内容・
授業スケジュール

この授業は中国憲法138条の条文に書かれている中国の内政と外交方針、国民の基本権利と義務、人民代表大会の権限、人民政府の組織など主な内容とする。

履修上の留意点

授業の進捗は一週間5ページ程度である。学生諸君に朗読させ、法律用語、条文の構造(文型)を説明しながら立法理由と現在状況を論評する。

成績評価の方法

出席率、学習態度、レポートなどを判断基準として総合的に評価する。

教科書

江英居著『中国憲法』（大学書林）3,500円

参考書等

『中華人民共和国法律滙編』（北京人民出版社）

その他

学生への要望：授業中私語禁止。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
外書講読（スペイン書）	佐 藤 玖 美 子 <small>さ とう くみこ</small>	法律3・4選	4

講義のねらい

スペインにおける今世紀最大の歴史学者であり、社会学者でもある Amé rico Cástro 著 “Iberoamérica” の講読を行います。1年間で全冊を読破することは到底不可能なので、中南米各論の中の何国かを受講者の希望によって順次ピックアップしてゆきたいと思います。皆さんが1、2年で習得したスペイン語の知識の深化、発展を図ると共に中南米諸国がたどって来た苦難、屈折の歴史を知り、中南米の現状に対する理解を深め、その将来を考えることを試みたいと思います。

履修上の留意点

必ず次回講読部分の予習をして来て下さい。

成績評価の方法

出席状況、平常の学習態度並びにレポートによって成績評価を行います。

教科書

テキストはコピー使用。

1 專門教育科目

(2) 政治学科

1 専門教育科目

(2) 政治学科

政治学概論	(浦田早苗)	69
政治学概論	(小林正敏)	69
政治学概論	(前田英昭)	70
憲法	(竹花光範)	71
政治学原論	(大塚桂)	73
日本政治論	(上條末夫)	74
東南アジア政治論	(首藤素子)	75
中東政治論	(伊能武次)	75
ヨーロッパ政治論(1)	(中野裕二)	76
ヨーロッパ政治論(2)	(小林正敏)	76
アメリカ政治論	(小堀訓男)	77
中南米政治論	(岸川毅)	78
中国政治論	(竹花光範)	78
日本政治史	(寺崎修)	79
行政法総論	(山岡公一)	79
国際法	(齋藤洋)	80
政治制度論	(前田英昭)	81
行政学	(岡田彰)	82
外交史	(首藤素子)	83
国際政治学	(小堀訓男)	84
政治社会学	(中野裕二)	85
政治思想史	(小林正敏)	86
マス・コミュニケーション論	(相田敏彦)	86
現代政治理論	(休講)	
政治心理学	(上條末夫)	87
投票行動論	(休講)	
ヨーロッパ政治史	(浦田早苗)	88
環境政策	(休講)	
行政法各論	(富井幸雄)	88
地方自治法	(富井幸雄)	89
国際関係論	(首藤素子)	90
比較政治学	(岩崎正洋)	91
国家安全保障論	(小堀訓男)	92
外交政策論	(休講)	
地方行政	(休講)	
国際行政学	(福田耕治)	93
国際組織論	(山田敦)	94
情報社会学論	(上條末夫)	95
議会関係法	(休講)	
立法過程論	(前田英昭)	96
政策決定論	(早川純貴)	97
政治過程論	(休講)	
現代国家論	(大塚桂)	98
社会学原理	(渡辺源樹)	99

比較社会論	(中野裕二)	100
財政学	(里中恆志)	101
国際経済学	(徳永俊明)	102
経済原論	(浅野克巳)	103
日本法制史	(茂野隆晴)	104
西洋法制史	(北野かほる)	105
経済政策	(森岡仁)	106
社会政策	(金子征史)	106
比較憲法	(西修)	107
刑法	(松村格)	108
民法〔総則・物権法〕	(大宮隆)	109
英米法	(北野かほる)	110
会社法	(荒木正孝)	111
労働法	(藤本茂)	112
経済法	(岡田外司博)	113
時事英語	(宝利尚一)	113
外書講読 I・II〔英書〕	(相田敏彦)	114
外書講読 I・II〔英書〕	(梅木崇)	114
外書講読 I・II〔英書〕	(前田英昭)	115
外書講読 I・II〔独書〕	(早川純貴)	115
外書講読 I・II〔仏書〕	(小木曾綾)	116
外書講読 I・II〔中国書〕	(江林英基)	116
外書講読 I・II〔スペイン書〕	(佐藤玖美子)	117

科目名	担当者名	配当学科	単位
政治学概論	浦田 卓苗	政治1必	4

講義のねらい

世界は今、大きな転換期にある。冷戦構造の崩壊と社会主義体制の変革、高度産業化に伴う社会の変質などによって、国家や政党、制度や組織、国民や民族などの概念に基本的な再検討が迫られている。国内では政治改革、行政改革、税制改革が政治経済の緊急課題となり、これまでの政治のありかたに変更が求められている。本講座は、激動の現代政治を誤りなく把握する上で必要な基礎知識を概論し、併せて政治学の専門分野への導入をはかるものである。政治と政治学の基礎用語の解説、及び政治の機構、理論、過程を考察していくが、政治的視野拡大のため適宜時事問題も取り上げていく。99年度は以下の講義を予定している。

講義の内容・授業スケジュール

○伝統的政治学と現代政治学 ○政治権力とリーダーシップ ○投票行動と政治参加 ○近代社会における公共性 ○議会政治の諸原理 ○世界各国の政治制度 ○現代社会と官僚制 ○政治的コミュニケーション ○国際社会の構造 ○現代社会の問題点

成績評価の方法

年5～6回行う小テスト－簡単な政治論評－は出席点代わりとし、学年末試験に加算する。試験はあらかじめ指示した5問から2題出題する（ノートの持ち込みは不可）。

教科書

特に教科書は指定はしないが、さらに詳細に研究を望む学生には適宜参考書を推薦する。参考書は必読でないが、常に新聞を「読む」ことが全員に義務づけられている。

専門（政治）

科目名	担当者名	配当学科	単位
政治学概論	小林 正敏	政治1必	4

講義のねらい

本講座は、1年次生の「政治学入門」のために設けられているものである。したがって、政治学がいかなる学問であるかを理解するとともに、専門的な政治の領域を学ぶ上で必要とされる基礎的知識を身につけることを目的としている。

講義の内容・授業スケジュール

この講座は、基礎的、一般的であると同時に、選挙制度、政治思想、民主政治論、国際機構などにも論及し、今後、政治学原論等の専門科目を学ぶためのステップとして役立つようにしたい。講義に際しては、随時、カレントな問題をも取りあげて、理論と現実との融合をはかるように努めたい。

成績評価の方法

学年末試験の成績、出席状況などを中心に評価する。

教科書

小林正敏他著『政治学講義』（成文堂）

参考書等

開講後に必要に応じて指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
政治学概論	まえ だ ひで あき 前 田 英 昭	政治 1 必	4

講義のねらい

政治学とは一体どのような学問でしょうか。この1年次の政治学の基礎としての「政治学概論」では、政治学のおもしろさがわかるように、具体的な例をあげつつ、政治学についてわかりやすく説明していきます。

政治学についてはいろいろな誤解や間違ったイメージがあります。誰でもが語る1億総評論家のような「床屋談義」としての政治学などは、それなりのわかりやすさと、おもしろさがありますが、本来の意味の政治学ではありません。この講義では、政治学を学問的に学ぶ際の入門として位置づけます。

講義の内容・
授業スケジュール

この講義では以下の順序で行う予定であり、関連する時事問題を加える。

1 主権者としての国民、2 選挙制度の種類と問題、3 政治とテレビ、4 国会の役割、5 内閣総理大臣とその他の大臣、6 議院内閣制と大統領制、7 政党政治、8 官僚と政治、9 政治と金、10 政治改革、11 参議院問題、12 国会の歴史、13 外国の議会政治（イギリス、アメリカ、フランス、ドイツ）、14 情報公開、15 規制緩和。その他、ビデオによる授業。

履修上の留意点

必ず出席して受講すること。

成績評価の方法

中間テスト、期末テストと平常点の総合点で成績を評価する。

参 考 書 等

参考書は、講義の際に紹介するが、担当者の著書に以下のものがある。『イギリス議会政治の研究』『イギリスの上院改革』『政治腐敗防止法を考える』『エピソードで語る国会の百年』『国会の立法活動』など。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
憲 法	たけ はな みつ のり 竹 花 光 範	政 治 1 必	4

講義のねらい

本講義は、憲法とは何か、憲法はどうあらねばならないかといった視点からの考察を中心に、日本国憲法の存在性格を明らかにすることを目的としている。すなわち、日本国憲法が、どのようにして存在するにいたったのか（憲法の成立過程）、日本国憲法は、どのような憲法として存在しているのか（憲法の性格と特色）、日本国憲法の存在が、どのような結果を生ぜしめているのか（憲法の施行状況）といったことを明らかにしようというのである。

講義の内容・授業スケジュール

そのため、全体を二つに分け、前半は総論的講義、後半は各論的講義を行う。前半の総論的講義は、次のような章節から構成される。

- 第一章 憲法の概念と歴史
 - (一) 憲法とは
 - (二) 憲法の種類
 - (三) 憲法の歴史
- 第二章 日本国憲法成立の経緯と法理
 - (一) 日本国憲法成立の経緯
 - (二) 日本国憲法成立の法理
- 第三章 日本国憲法の特質
 - (一) 日本国憲法の基本原理
 - (二) 日本国憲法の特異性

各章節の内容は、それぞれの表題からほぼ明らかなものと思われるが、第一章では、憲法とはどのような規範か、憲法にはどのような種類があるのか、成文の憲法はどのようにして生まれ、どのような発展をとげて今日にいたっているのかについて述べる。なお、我が国における憲法の歩みということで、明治憲法の成立過程、同憲法の主な内容、成立後の展開についても概説する。

第二章では、現行日本国憲法が、どのようなプロセスをへて成立するにいたったのか（アメリカの対日政策、極東委員会の動き、日本政府の対応、GHQ 民政局の役割、第九〇帝国議会での審議状況等）、日本国憲法の成立を法理上どのように説明したらよいのか（明治憲法との関係、占領下の改憲をどう考えるか、八月革命説、改正憲法説、無効論の是非等）を論じる。

第三章では、憲法の分類上から認められる日本国憲法の特異性（例えば、民定憲法なのか、欽定憲法なのか、協約憲法なのか、はたまた占領憲法とよぶべき憲法なのかといった、憲法を成立せしめた主体をめぐって争いがある点等）を指摘し、そのような日本国憲法が、どのような基本原理に依って立っているのか（国民主権の原理、象徴天皇制の原理、平和主義の原理、基本的人権尊重主義の原理）を明らかにする。

一方、後半の各論的講義は、本来なら、日本国憲法の逐条（日本国憲法は世界でも有数の簡略な憲法であるが、それでも全体で、前文と本文十一章103カ条に及ぶ）解説ということであろう。しかし、限られた時間内では、それは、ほとんど不可能に近い。そこで、とりあえず、各章ごとに規定内容や問題点を整理し、一部に立法論的指摘（どこにどのような不都合があり、それをどのように改めたらよいのかといった指摘）も加味しつつ、全体として、日本国憲法の性格と特色が理解できるような講義としたい。

もちろん、第九条をはじめ、解釈上の対立が大きい条項や多くの問題を抱えている条項については、判例の紹介をはじめ、比較憲法的な考察を行うなど、特別に時間を割きたいと考えている。

履修上の留意点

講義は教科書を用いて進めるが、時事的な憲法問題をとり上げ解説するなど立体的な講義を心がける予定であり、「教科書を読む」ような講義ではまったくないので、でき得る限り講義に出席することが望まれる。

成績評価の方法

成績評価は、論述型（「について述べよ」ないし「について論じよ」といったタイプの問題）のペーパーテストによって行う。評価に際しては、問いに答えているか（出題された問題に関係のないことを書いた場合は大幅な減点とする）、必要なことが書き込まれているか（簡にして要を得た内容であること、余計なことを多く書いても加点されない）、論理展開に説得力があるか（単なる箇条書きでは論述型の問題に対する解答とはいえない、全体として一つの小論文となっていること）、誤字、脱字がどの程度か（専門用語の誤まりは大幅な減点となる）などをチェックする。

教科書

竹花光範著『憲法学要論』（成文堂）3,300円

参考書等

必要に応じて、参考書の紹介、資料の配布等も考えている。

そ の 他

いずれにしても、学生諸君が、憲法に関心をもち、憲法問題を積極的に考えていくやすがとなるような講義を心がけるつもりである。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
政 治 学 原 論	おお つか かつら 大 塚 桂	政 治 2 必	4

講義のねらい

I 自己紹介

私は、いままでイギリスの政治的多元主義・新自由主義、ならびにフランスの社会連帯主義を研究してきました。現在は、日本における多元的国家論の受容過程に関して勉強をしています。このような私の研究経歴からして、講義内容は少しばかり哲学的、観念的なものになるかもしれません。政治学のみならず隣接領域にもふれながら一年間の授業をしてみたいと思います。

私の研究室は、第二研究館八階（2835）にあります。研究上支障が生じたときや質問があるときには訪問してください。なお、研究室の電話番号は、3418-9377(直)です。

II 講義の目的

政治学原論はカリキュラム上、基礎的部門に属しています。政治学原論は政治学の総論であるとともに、基礎理論としての意味合いをもつものです。講義の目的の第一は、現代政治学の体系的な理解を深めることにあります。目的の第二は、実際の政治の理論的説明と解明ができるように基礎的原理的知識を修得することです。目的の第三は、近い将来履修するであろう他の専門学科学科目の研究上必要な知識を提供することです。

講義の内容・ 授業スケジュール

III 講義のすすめかた

現代政治学のアウト・ラインを理解してもらうために、一回一テーマ主義でかなり広範囲な問題にふれていきます。それだけに、授業のペースは少しばかりはやくなります。講義はテキストに準拠しつつすすめます。学生諸君は授業に出席することはもちろんのこと、予習・復習・自主研究などの研鑽をつんでください。教員と学生、それぞれの努力によって学習効果をあげていきたいと考えています。

IV 講義の内容

おおよそ、以下の諸問題を取り上げる予定です。

A 政治学の課題と対象、および方法

B 政治の原理的究明

- ① 政治的なるもの
～政治的空間、政治権力、正当性、権威、政治倫理、抵抗と不服従
- ② 共同体的なるもの
～国家、社会、主権、法
- ③ イデオロギー的なるもの
～イデオロギー、正義、自由、平等、人権（シティズンシップ）

C 政治の実体論的究明

- ① 制度論的究明
～権力分立、議会、選挙、地方自治、官僚制
- ② 機能論的究明
～政党、圧力団体、市民参加、マスコミ、政治教育、政治的社会化

成績評価の方法

V 成績評価

単位の認定は、ペーパー試験を中心におこないます。

成績評価は、

- 中間試験：40%
 - 学年末試験：50%
 - その他（出席・レポート）：10%
- 以上の割合によるものとします。

なお、追・再試験も実施します。

教 科 書

大塚桂『政治学原論序説』（勁草書房）3,296円
大塚桂『政治哲学入門』（法律文化社）2,900円

参 考 書 等

上記教科書の巻末にかかげた参考文献を参照のこと。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 政 治 論	かみ じょう すえ お 上 條 末 夫	政治1・2・3・4選必	4

講義のねらい

政治の理論を学ぶためには、その実態を知ることが不可欠である。また、各国の政治事情を理解するためには、まず自国の政治事情を把握していなければならないことは理の当然である。

本講義においては、現代の日本の政治の実態を明らかにすることをねらいとする。そのため、まず大衆社会化が始まった大正時代中期から第1次世界大戦（太平洋戦争）終了までの政治の流れを概観する。次いで、戦後政治の特徴を時系列的に分析し、体系的に日本的民主政治の実態を把握する。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 大衆社会の発生から政党政治の崩壊まで（4月～5月）

- ① 大衆社会化と護憲運動
- ② 普通選挙の実現
- ③ 政党政治の問題点
- ④ 軍部の台頭と戦争
- ⑤ 政党の解消と翼賛体制

2. 新政治原理の移入と独立の回復（6月）

- ① 占領の意味と戦前日本の否定
- ② 憲法改正と国民主権
- ③ アメリカナイズと講和問題
- ④ 保守党優位と官僚政治の萌芽

3. 自民党の長期政権の基盤形成（7月）

- ① 労働組合と社会主義政党
- ② 政党の再編と「55年体制」
- ③ 安保改定と革新勢力の挫折

4. 外交問題の処理と「戦後」の精算（9月）

- ① 経済成長と都市化の影響
- ② 日韓問題の処理
- ③ 沖縄返還と佐藤内閣

5. 内政問題への傾斜と「田中支配」（10月）

- ① 田中内閣の誕生と日中国交正常化
- ② 金権政治と政治腐敗
- ③ 与野党接近と連合政権構想
- ④ 野党の多党化

6. 「飽食の時代」の政治意識（11月）

- ① 「都市の保守化」と「農村の革新化」
- ② 政治関心の低下と野党の無力化
- ③ ガバナビリティの低下と政治不満
- ④ 政治の「ゲーム化」と「数の論理」

7. 政治改革と政界再編成（12月～1月）

- ① 政治改革と選挙制度の改正
- ② 政界再編成と政党の曖昧化
- ③ 連立政権の功罪
- ④ 新選挙制度と行政改革

成績評価の方法

定期試験の成績およびレポートなどによって評価する。

教 科 書

特になし

参 考 書 等

その都度指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
東南アジア政治論	しゅ とう もと こ 首 藤 素 子	政治1・2・3・4選必	4

講義のねらい

東南アジア地域の諸国が第2次大戦後国家建設を行う過程で、政治的、経済的にどのような問題をかかえていたかについて理解すること、および現在の東南アジア地域とりわけASEANを構成する9か国のうち、ブルネイを除く構成国について、その政治体制の変容、1960年代以降現在までの外交政策や経済政策の進展と現状の課題について、理解を深めることを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

- 次の諸項目についてはほぼ2週分の授業を割当てる予定で進める。
1. 第2次大戦後の国際関係における東南アジア地域の位置付け。東南アジアにおける地域主義の諸様相。
 2. ASEANの形成、設立の背景と当初の機能。ASEANの組織的拡張と機能の多様化。
 3. インドネシアの国家建設と国民統合の課題。政治的多元主義の挫折とスカルノ体制。
 4. スハルト政権下のインドネシアの政治体制の変化と特徴。政党と行政機構の性格。
 5. マラヤ連邦の結成と国民統合の課題。マレーシア連邦結成の背景と多民族社会。
 6. マレーシアの1970年代以降の政治制度と経済政策の課題。
 7. シンガポールの国家形成過程。人民行動党の諸政策と行政機構の特徴。
 8. タイの政治制度と政治機構の特徴（1932年の立憲革命から1950年後半まで）。
 9. サリット・タノム体制下のタイの政治体制、官僚機構の特徴および外交政策。
 10. フィリピンの議会制度とコモンウェルスの形成。
 11. フィリピンの独立後の政治構造の特徴と経済外交政策。
 12. ベトナムの刷新路線とASEAN加盟。
 13. ASEAN諸国と日本との外交関係の課題。

教 科 書

開講時に教科書および参考文献を示し、随時資料等配布する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
中 東 政 治 論	い のう たけ し じ 伊 能 武 次	政治1・2・3・4選必	4

講義のねらい

エジプトの現代政治を比較政治および国際政治の視点から考察する。

講義の内容・
授業スケジュール

エジプトの政治を、中東の国際政治、統治エリート、イスラーム、宗派関係、中央・地方関係に焦点をあてて検討する。また、エジプトおよび中東諸国の時事的な問題についても、その都度、取りあげる。

履修上の留意点

高校世界史程度の知識を最低限必要とする。

成績評価の方法

定期試験のほか、コメント・ペーパーの提出による

教 科 書

伊能武次『エジプトの現代政治』（湖北社）

参 考 書 等

ジル・ケベル『宗教の復讐』（晶文社）
 中村廣治郎『イスラームと近代』（岩波書店）
 永田雄三他『中東現代史Ⅰ』（山川出版社）
 藤村信『中東現代史』（岩波新書）
 鈴木董『オスマン帝国』（講談社）
 ヨーク『湾岸諸国』（サイマル出版会）
 鈴木八司監修『エジプト』（新潮社）
 ヘイカル『ナセル』（朝日新聞社）
 サダト『サダト自伝』（朝日イブニングニュース社）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
ヨーロッパ政治論(1)	なかのゆうじ 中野裕二	政治1・2・3・4選必	4

講義のねらい

本講義では、現在の西ヨーロッパの政治や社会をできるだけ理論的に把握することを目標とする。政治や社会と一口でいっても、その範囲は広いので、本講義では「移民問題」「民族問題」「EU統合」などに焦点を絞って、現象を理解するための理論的枠組みとともに具体的現象の紹介を行う。

講義の内容・
授業スケジュール

前期は私の専門領域であるフランスを扱い、移民問題の現状と移民問題に対するフランス社会の反応を検討する。
後期は、その他の西ヨーロッパ諸国とEUを扱う予定である。

成績評価の方法

年数回の小テスト、課題レポート、学年末試験を総合的に評価する。ただし、学生の積極的参加（意見、質問）は別個に高く評価する。

教 科 書

中野裕二『フランス国家とマイノリティ』（国際書院）1996年 2,718円
宮島喬編『現代ヨーロッパ社会論』（人文書院）1998年 2,600円

参 考 書 等

適宜紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
ヨーロッパ政治論(2)	こばやし まさとし 小林正敏	政治1・2・3・4選必	4

講義のねらい

この講義は、ヨーロッパのなかでも東欧—つまり旧ソ連圏、旧ワルシャワ条約機構加盟諸国の政治、社会と国際関係を対象とするものである。この地域の政治の現状を主たるテーマとするが、歴史的経緯や対日関係をも視野に入れて講義を進めたい。

講義の内容・
授業スケジュール

1989年以来の大変革によって、政治的概念としての「東欧」は変容した。各国は多様な道をたどっているが、今年度は混迷のなかにある「大国・ロシア」を中心に論述する予定である。

履修上の留意点

カレントな問題も少なくないので、東欧、ロシアなどに関する新聞、雑誌の報道、論評、解説等には注意して目を通すことを希望したい。

成績評価の方法

期末試験ばかりでなく、年間1～2回のレポート（書評などを含む）も参考にして成績の評価を行う。

教 科 書

特定のテキストは用いない。

参 考 書 等

参考書、雑誌論文など、講義のなかで指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
ア メ リ カ 政 治 論	こ ぼり のり お 小 堀 訓 男	政治1・2・3・4選必	4

講義のねらい

本講義のねらいは、“アメリカ政治の特質”を理解することにある。そのため、最初にアメリカ史と合衆国憲法を概観する。つまり、アメリカという国家の成立過程を、ヨーロッパ近代革命の枠組のなかでとらえ、国家の成立過程と合衆国憲法を考えることにより、アメリカという国家の特殊性を考察する。

第二に、アメリカ政治の大きな転換期であるニューディール体制をとりあげ、ニューディール体制前のアメリカと、体制後のアメリカの政治が、どのように変化したのか、また、それ以後のアメリカ政治に、どのような影響を与えたのかを考える。殊に、フーバー大統領とルーズベルト大統領の内政の比較をしながら見ていく。

第三に、トルーマン大統領の内政と外交を冷戦構造の開始との関係で見ながら、米ソのイデオロギーの対立のもとで、アメリカ政治がどのように変化したか、展開していったかを考える。

第四に、冷戦構造のもとでの、歴代大統領の内政・外交政策をみる。内政では、60年代の社会変動と人種差別問題、70年代の女性の社会進出を中心に、アメリカ社会の変化を考察する。外交では、ベトナム戦争がアメリカ政治をどのように変質させたかを考える。

第五として、冷戦終結後のアメリカの内政と外交を考える。レーガン、ブッシュ、クリントン各大統領の内政と外交を概観し、ソ連邦崩壊後のアメリカ政治の変化と世界政治の変化を考察する。

専門（政治）

履修上の留意点

ルーズベルト以後の各大統領の内政と外交政策については、受講生も研究発表をおこない、全員で討論しながら理解を深めていきたい。積極的に授業に参加することを望む。

成績評価の方法

研究発表30%、定期試験70%で評価。

教科書

授業中に指示する。

参考書等

授業中に指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
中南米政治論	岸 川 毅 <small>きし かわ たけし</small>	政治1・2・3・4選必	4

講義のねらい	現代中南米の政治体制の基本的性格を比較政治学的視点から検討する。
講義の内容・授業スケジュール	前期は、中南米地域の政治史を概観するなかで、その政治的伝統（軍の政治介入、個人独裁、寡頭支配、恩顧関係、中央集権、教会の影響など）が、様々な形の権威主義体制の形成をもたらす過程をみるとともに、20世紀に加わった要素（社会主義、ゲリラ闘争、テロリズム、麻薬など）が伝統的政治過程にいかなる形で組み込まれてきたかを解説する。後期は、1980年代に始まる民主化の流れに焦点を当てる。これらの国々が民主主義体制に「移行」し、またその「定着」を目指すなかで、どのような課題に直面しているかを、事例に則しつつ、実証的・比較論的に分析していく。
履修上の留意点	積極的参加・質問を期待する。
成績評価の方法	期末試験。
教科書	松下洋・乗浩子編『ラテンアメリカ：政治と社会』（新評論）1993年 3,296円
参考書等	講義のなかで紹介する。
その他	講義が中心となるが、できればビデオ教材なども使いたい。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
中国政治論	竹 花 光 範 <small>たけ はな みつ のり</small>	政治1・2・3・4選必	4

講義のねらい	当科目は、地域研究入門講座的な性格をもって設けられたものであり、中国政治の歴史と現状について、正しい理解を得ることを目的としている。
講義の内容・授業スケジュール	授業内容は、中国の政治制度と政治事情の変遷（辛亥革命以後、最近に至るまで）が中心になるが、とくに（新中国建国後は）、そうした変遷が、国家の最高法規であるはずの憲法の上に、どのように反映しているかについて詳述する予定である。もちろん、いわゆる「中国の特色をもった社会主義」、すなわち社会主義市場経済体制の特色、並びに問題点についても論及する。
履修上の留意点	時事的な問題を取り上げて解説するなど立体的な講義を心がけるので、できる限り講義には出席すること。
成績評価の方法	成績の評価は、論述型のペーパーテストによって行う。 前もって数題提示し、その中から出題することになるものと思う。
教科書	竹花光範著『中国憲法論序説』（成文堂）3,500円
参考書等	参考書（とくに、中国政治史、中国共産党史や現代化路線に関するもの）は、必要に応じて講義の中で紹介する。
その他	中国は「近くて遠い国」といわれる。地理的には、まさに隣国とってよく、歴史的にも深い関わりがありながら、お互いの理解は、必ずしも充分とはいえない。そのことが両国の間に不必要な軋轢を生んでいるといっただけであろう。学生諸君が、正しい中国認識をもって、「あるべき日中関係」を考えるよすがとなるような講義を心がけるつもりである。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 政 治 史	てら さき おさむ 寺 崎 修	政治2・3・4選必	4

講義のねらい

政治を歴史的にアプローチする立場から、近代日本の政治社会の形成と展開の過程を実証的に検討する。

講義の内容・授業スケジュール

本年度の講義内容は、おおむね次の通りである。

- | | |
|--|---|
| <p>I 立国の時代</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大政奉還と明治政権の成立 2. 自由民権運動とその裁判 3. 明治憲法体制の成立 4. 条約改正と法典編纂 | <p>II 大正デモクラシーの時代</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大正政変の政治過程 2. 普通選挙制度の成立 3. 大正デモクラシーの意義と限界 |
|--|---|

履修上の留意点

履修にあたっては、とくに日本史の知識を必要としないが、「歴史」に興味を持っている諸君の受講を希望している。

成績評価の方法

成績評価は、学年末のペーパー・テスト（持ち込み可）によっておこなうが、合格点をとるためには、講義内容をふまえた解答（賛否にはこだわらない）が要求される。

教 科 書

寺崎修『明治自由党の研究』下巻（慶応通信）3,200円

参 考 書 等

中村菊男『日本政治史読本』（東洋経済社）
 手塚豊『自由民権裁判の研究』上・中（慶応通信）
 坂野潤治『明治憲法体制の確立』（東大出版会）
 松尾尊兌『普通選挙制度成立史の研究』（岩波書店）

専 門
（ 政 治 ）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
行 政 法 総 論	やま おか こう いち 山 岡 公 一	政治2・3・4選必	4

講義のねらい

行政法の基礎理論、行政過程論、行政救済論を体系的に述べる。1年間の講義で、これら全ての分野をカバーするつもりである。行政法は、難解な法律であると言われるが、こつこつ努力して勉強すれば、必ずやマスターできるものである。公務員試験を受験しようとする者は、行政法が、法律科目の中で最も比重が高い科目であることを銘記しなければならない。将来民間企業に就職希望の者も、行政法の知識が必要な場合が多いので、本講義を履修してもらいたい。しかし、授業に毎回出席し、教科書を丹念に読み、条文に親しむ覚悟が無い生徒は、履修を見合わせてほしい。公務員志望の諸君のために、毎回2問程度の択一問題の演習を行なう。

成績評価の方法

7月の授業の時に試験をする。さらに、12月にレポートを提出してもらう。これは、事例式の問題を出題し、B4サイズの用紙の裏表に、解答を書くものである。学年末の定期試験も行なう。これらの試験やレポートの結果や授業態度等を総合的に判断して、成績を決定する。

教 科 書

塩野宏『行政法Ⅰ』『行政法Ⅱ』（有斐閣）の最新版を使用する。本書は、諸君にとって少し難解かもしれないが、法律概念の定義がしっかりしていて、かつ、重要判例が網羅しており、行政法の勉強の基礎固めのために良い教科書である。論文試験にも対処できる内容を持っている。講義は教科書に即して説明するが、予め熟読して授業にのぞむ積極性が求められる。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
国 際 法	さいとう ひろし 齋 藤 洋	政治2・3・4選必	4

講義のねらい

国際法学の基礎知識の修得を目指す。

講義の内容・
授業スケジュール

いずれの大学でも行われているようなオーソドックスな順序で講義する。国際法学の基礎理論、静的固定的秩序および動的秩序の説明が主な内容であり、受講生の理解度を観ながら、できるだけ広範囲に内容が及ぶようにしたい。

履修上の留意点

例えば数学でも加減乗除を知らないと微積分などができないように、国際社会秩序に関する法的基礎知識なしに現代国際社会を理解することはできない。いかなる学問でも基礎部分の修得は大変に退屈で苦勞するものであり、国際法学も例外ではない。しかし一度この基礎知識を修得したならば、日々生起する国際社会の様々な現象を法的視点をもって容易に理解することができ、何が問題の中心かを見いだすことができるであろう。受講生は苦勞の後の楽しさを思い描いて講義を受けてもらいたい。授業中に疑問のある点について、そのときの授業にかかわりなく、気軽に質問してもらえれば、それに答えるなかで他の様々な国際法のルールが説明できるので、おおいに質問を歓迎する。

成績評価の方法

成績は主として年末の定期試験で決定するが、授業中の報告やレポートの提出も考慮に入れる。

教 科 書

藤田久一編『現代国際法入門〔改訂版〕』（法律文化社）2,987円

参 考 書 等

特に指定しないが、市販されている条約集及び国際判例集があれば好ましい。

そ の 他

講義では板書はほとんどないので、受講生は自分自身で自分なりのノートを作成してもらいたい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
政 治 制 度 論	まえだ ひであき 前 田 英 昭	政治2・3・4選必	4

講義のねらい

講義では、政治制度のうち特に議会制度を中心に取り上げ、憲法上の議会制度に関する諸規定を前提にして、その背後にある議会運営の慣習とか原則や、それを動かすアクターを学び、その上で、多様に展開される議会政治の現実の生きた姿を理解することに力を置く。

講義の内容・授業スケジュール

前期には、イギリスの議会政治を学び、次いでそれをモデルにして生まれた各国の議会制度・政治を学び、それらを比較研究しながら、後期には、前期で得た知識をもとに、我が国の議会制度の特色と議会政治の実態を学び、併せて、今日、我が国において当面する議会政治の諸問題を取り上げ、それについての正しい見方を学び、改革の方途を考える。ビデオも利用する。
〔取り上げるテーマ〕

イギリス議会政治の発生・発展・現状、米・独・仏の議会政治の現状と特色、憲法と議会制度、政党政治、意思決定方法、選挙制度（小選挙区制、大選挙区制、比例代表制、多数代表・少数代表）、金権政治と政治倫理、二院制、代表民主主義と国民投票制、開かれた国会、政治資金、政党への公的助成、政権交代論、立法過程、国政調査と証人喚問、政治改革、国会と地方議会、政治腐敗、戦争と議会、その他（順不同）。

履修上の留意点

履修の仕方、単位取得方法については開講時に指示する。
できるだけ出席して、講義内容を正確に理解するとともに、周辺の時事問題にも耳を傾けて視野を広げることが望ましい。

教科書

前田英昭『現代政治制度』（高文堂出版社）2,600円

参考書等

ラスキ（前田英昭訳）『イギリスの議会政治』（日本評論社）
 前田英昭『イギリス議会政治の研究』（渓林出版社）
 同 『世界の議会・イギリス編』（ぎょうせい）
 同 『イギリスの上院改革』（木鐸社）
 同 『エピソードで綴る国会の100年』（原書房）
 同 『政治腐敗防止法を考える』（信山社）
 バジョット『イギリスの議会政治』（中央公論社『世界の名著』60）
 グリフィス、ハートレー（浦田、元山訳）『イギリス憲法』（三省堂）
 堀江 湛『国会改革の政治学』（PHP 研究所）
 藤本一美『世界の議会改革』（東信堂）
 田口富久治、中谷義和『比較政治制度論』（法律文化社）
 佐藤 功『比較政治制度』（東京大学出版会）
 野村敬三『比較政治制度』（有信堂）
 水木惣太郎『議会制度論』（有信堂）
 辻 清明監修『世界の議会』（全12巻）（ぎょうせい）
 坪郷 実『統一ドイツのゆくえ』（岩波新書）
 平島健司『ドイツ現代政治』（東京大学出版会）
 奥島孝康、中村紘一『フランスの政治』（早稲田大学出版部）
 桜井陽二『フランス政治体制論』（芦書房）
 デュヴェルジュ（時本義昭訳）『フランス憲法史』（みすず書房）
 阿部 斎『アメリカの政治』（弘文堂）
 日本国際交流センター『アメリカの議会・日本の国会』（サイマル出版会）
 前田英昭『国会の立法活動』（信山社）
 中村睦男『議員立法の研究』（信山社）
 比較立法過程研究会『議会における立法過程の比較法的研究』（勁草書房）
 GHQ 正史（前田英昭訳）『国会の民主的改革』（日本図書センター）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
行 政 学	おか だ あきら 岡 田 彰	政治2・3・4選必	4

講義のねらい

行政学は政治学の中でも新しい分野である。わが国では明治時代にドイツの官房学の紹介として始まった。そして戦後はさらにアメリカ行政学の影響も受けることになる。

行政学と関連する学問は①行政法学（公法）②経営学（組織論）③財政学④政治学が主なものであるが、国によって関連領域への関心も異なる。日本では行政法学の影響が強いが、アメリカではむしろ経営学との関連などに関心が置かれており、それぞれの歴史を反映したものとなっている。行政学は地味なもので、それだけ学生諸君には取りつきにくいように思われるかもしれないが、いずれ社会で活躍すれば、出会う問題でもある。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1 行政学の対象と方法
- 2 行政学説史
- 3 アメリカ行政学
- 4 官僚制
- 5 官僚制の生理と病理
- 6 行政統制と行政責任
- 7 内閣制度
- 8 公務員制度

履修上の留意点

遅刻や私語は遠慮して下さい。

教 科 書

森田朗『現代の行政』（放送大学）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
外 交 史	しゅ とう もと こ 首 藤 素 子	政治2・3・4選必	4

講義のねらい

西欧国家体系の成立後、主として19世紀末から20世紀後半の時代を対象に、西欧世界と東アジアで展開した近代外交の特徴とその変容について講義する。その主な目的は当時の外交政策を形成する主体がどのような政治勢力であり、またどのような外交認識をもち、さらにその時代の国際環境が外交政策形成にどのような影響を与えたかを理解することにある。

講義の内容・
授業スケジュール

おおよそ次のテーマを取り上げ、各テーマにつきほぼ2週分の授業を割り当てる予定。

1. 近代外交の成立と西欧国家体系の特質
近代アジアの国際体系の特徴
2. ドイツ帝国の成立とビスマルク外交の展開
フランス（1880年代～1900年代）外交の展開
3. イギリスの外交政策の変遷（1860年代～1910年代）と大英帝国の植民地政策の展開
4. 近代日本の大陸政策の形成と展開および日英同盟、日露協定の形成と更新
5. 日米外交関係の課題（1910年代）
6. アメリカ外交の伝統的特質と変容（1910年代まで）
7. 第1次大戦期のアメリカ外交と講和会議
8. 1920年代の独仏関係の変化、ワイマール共和制の憲法と政治過程
9. ワシントン体制の形成と日米関係
10. 1930年代の日本の大陸政策の形成と展開
11. 日本の南進政策と東南アジア軍政の展開
12. 対日講和条約と戦争賠償交渉

履修上の留意点

受講者数によるが、小規模であれば外交文書等資料のコピーも活用したい。

成績評価の方法

課題レポートや定期試験による。

教科書

特に固定的な使用はしない。

参考書等

池井優『日本外交史概説』（慶応通信）1992年 3,914円
細谷子博『日本外交の軌跡』（日本放送出版協会）1993年 860円

その他

講義形式で行うが、少なくとも3～4回はビデオを併用する予定。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
国 際 政 治 学	こ ぼり のり お 小 堀 訓 男	政治2・3・4選必	4

講義のねらい

国際社会に展開する政治現象を、政治学的アプローチで論及し、国際政治の本質を理解することが、本講義のねらいである。

前期の講義は、国際政治とは、いかなるものか、分かり易く概説する。具体的には、国家、権力、民族、階級、国際政治における権力と道義、国内政治と国際政治等をテーマに“国際政治の本質”について考察する。つぎに、より理解を深めるために、“国際政治の基調”と題して、国際政治が展開し、現在に至るまでの、各時代の国際政治の基調を、歴史的に概観する。

後期では、“国際政治の問題”と題して、冷戦後の国際政治、ナショナリズム、地域的安全保障、エネルギーと環境問題、国連の使命と限界、地域統合と国家の役割の変化等の、国際政治学が取り組むべき課題を、理論的かつ実証的に解明しながら、受講生と共に考えたい。

講義の内容・
授業スケジュール

講義のテーマ、内容については予告する。受講生は、必ず予習をして、講義に出ること。基本的な知識については、共通の理解を徹底したいので、全員で討論しながら授業をすすめたい。よって、積極的な参加を求める。

成績評価の方法

1年間に数回程度、授業中に30分のショートテストを実施する。これは講義の理解の程度を知るためであるが、このテストの評価を30%とし、定期試験を70%の評価とする。

教 科 書

必要に応じて講義のなかで紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
政 治 社 会 学	なかのゆうじ 中 野 裕 二	政治2・3・4選必	4

講義のねらい

本講義は政治学の発展段階で目指された「科学化」をキーワードとする。政治学の「科学化」にとって重要な理論家やその理論を検討することで、現代政治学の現状と課題を明確化する。

講義の内容・
授業スケジュール

本講義は次のような構成となる。

イントロダクション…政治社会学について

第1章 政治社会学の歴史

1. 19世紀以前の政治社会学
2. 19世紀以降の社会学
3. 20世紀の政治社会学

第2章 政治システム

第1節 システムの一般理論

第2節 パーソンズ・モデル

1. 行為の一般理論
2. 社会システムと社会
3. 政治的下位システム
4. タルコット・パーソンズの貢献

第3節 イーストン・モデル

1. 環境の中の政治システム
2. インプット-アウトプット分析
3. デビット・イーストンの貢献

第3章 政治的機能

第1節 機能と機能主義

1. 機能概念
2. 機能主義と社会諸科学

第2節 機能主義と政治科学

1. 政治システムの諸能力
2. 変換機能
3. システムの維持・適応機能
4. 機能分析の貢献

第4章 政治的コミュニケーション

第1節 サイバネティクス

第2節 ドイッチュ・モデル

第3節 政治的コミュニケーションの機能

成績評価の方法

年数回の小テストと学年末試験によって評価する。ただし、学生の積極的参加（質問、発言）は別個に高く評価する。

教科書

教科書は用いないが、参考文献は適宜紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
政治思想史	小林正敏	政治2・3・4選必	4

講義のねらい	古代から現代に至る東洋の社会と西洋の社会の特質を比較し、なぜ「西洋」において多様な政治学説の発生を見るにいたったかという視点を重視する。また思想家の政治観の根底にある人間観、歴史観のもつ意味も併せて考察したい。
講義の内容・授業スケジュール	プラトン・アリストテレスから現代に至る政治思想史、政治学説史について、思想家を中心に、その時代的背景にもふれながら論述する。前期はほぼN. マキアヴェリあたりまで、後期はJ. ボーダン以後になると思われる。
成績評価の方法	学年末試験の成績を中心に評価する。
教科書	特定のテキストは用いない。
参考書等	参考書、原典等は、講義の必要に応じて紹介していきたい。

科目名	担当者名	配当学科	単位
マス・コミュニケーション論	相田敏彦	政治2・3・4選必	4

講義のねらい	マス・コミュニケーションの機能、影響について、広い視野から検討する。
講義の内容・授業スケジュール	<p>1. 報道と真実 この問題はいろいろな次元で考えられるが、ここでは記号論を援用して、原理的に掘り下げて検討する。</p> <p>A. イコン記号について 文字の意味とちがひ、写真の意味（何を表しているか）は習わずしてわかると大抵の人は思うが、果してそうか。映像（テレビなど）についても同じような問題がある。</p> <p>B. 写真による世論誘導——ケース・スタディ 新聞の写真によって、読者は気づかぬうちに、真実ならざる「真実」を植えつけられ得ることを具体例によって確認する。</p> <p>C. 表象理論とミメシス理論 写真や映像はそれを見る人にどのような「真実」を伝えるかの理論をまとめとして学ぶ。</p> <p>2. 意識培養分析 〈客観的現実〉は〈シンボリック現実〉を媒介として、どのような「主観的現実」として人びとの心に植えつけられるか。</p> <p>3. 意味構築の理論 メディアによる、また、視聴者・読者による意味付与、意味解釈とは何か。</p> <p>4. ヤコブソンのコミュニケーション・モデル コミュニケーションとは単純に記号による一つの意味の受け渡しだろうか。通常、あまり意識されずに、いくつかの次元で意味の読みとりがなされている。ヤコブソンのモデルは、この問題を系統だてて考えるのに役立つ。</p>
履修上の留意点	マスコミについて授業をききながら、自ら積極的に考える姿勢を強く望みたい。そのため、授業中にこちらから質問を発し、挙手または指名によって回答を求める。
成績評価の方法	前期：レポート 後期：試験
参考書等	リップマン『世論』主として上巻（岩波書店） 田崎馬郎・児島和人（編著）『マス・コミュニケーション効果研究の展開』（北樹出版） カラン・グレヴィッチ（編著）『マスメディアと社会』（勁草書房）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
政 治 心 理 学	かみ じょう すえ お 上 條 末 夫	政治2・3・4選必	4

講義のねらい

民主政治は「参加の政治」といわれているが、それは国民がどのように政治に参加するかが政治を決定づけることを意味している。換言すれば、国民の政治行動が決め手になる政治であるということである。

本講義においては、国民の政治行動を心理的に分析し、そのあり方を探るのがねらいである。まず政治意識の形成過程とその問題点から始めて、世論の形成とあり方までを対象とする。特に高学歴者および若者の政治行動がガバナビリティを低下せしめ、民主政治を危機的状況にいたらしめる重要な一因となっていることを問題とする。

講義の内容・ 授業スケジュール

1. 政治心理学の性格と方法（4月）
 - ① 政治心理学の概念と性格
 - ② 政治研究と心理学的アプローチ
 - ③ 社会調査方法と分析手法
2. 政治意識の形成とその構造（5月）
 - ① 政治的社会化
 - ② 政治意識の構造
 - ③ 政治的態度
 - ④ ライフスタイルと政治意識
3. 政治心理の特徴（6月）
 - ① アイデンティティと青年
 - ② 権威主義的パーソナリティ
 - ③ アノミーと疎外
 - ④ 高学歴化と政治的無関心
4. 政治的リーダーシップ（7月）
 - ① 大衆社会と平準化
 - ② 管理社会と平等化
 - ③ 意思と能力のアンバランス
5. 群衆心理と操作（9月）
 - ① 群衆の特徴と心理
 - ② 高度大衆社会と公衆の群衆化
 - ③ 大衆操作の政治的影響
6. 政治宣伝（10月）
 - ① 政治宣伝の歴史と心理戦争
 - ② 政治宣伝の定則
 - ③ 政治宣伝の手段と効果
 - ④ 選挙と政治宣伝の実態
7. 世論の形成とその機能（11月）
 - ① 世論の概念と「世論政治」
 - ② 世論の形成と擬似環境
 - ③ マス・メディアと報道姿勢
 - ④ 世論操作と多数の形成
8. 現代の組織論（12月～1月）
 - ① 大衆心理と組織
 - ② 派閥の社会心理
 - ③ 官僚の心理と官僚政治

成績評価の方法

定期試験の成績およびレポート、出席などによって評価する。

教科書

堀江・富田・上條編著『政治心理学』（北樹出版）2,300円

参考書等

その都度指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
ヨ ー ロ ッ パ 政 治 史	うら た き なえ 浦 田 早 苗	政治2・3・4選必	4

講義のねらい

現代西ヨーロッパの政治は、そこから多くのことを学んできた我々の先達が描いたほど理想的な状態で機能しているわけではなく、数々の矛盾にみちている。自由、平等の精神なり、『華やかにし議会政治』の概念は、激動の現代政治のなかにあっては時として空虚な響きを投げかけてくることは否定できない。しかし、国家や政党、国民や民族といった西洋で生まれた近代政治の概念に再検討が迫られている今ほど、そうした概念の本質を成立した歴史過程のなかで考察することの重要性が問われたときはなかった。本講義では、近代ヨーロッパの歴史全般を概説しながら、ヨーロッパが抱える問題の本質を明らかにすること及び、現代政治を誤りなく把握するために必要な基礎概念を検討することに視点がおかれている。

講義の内容・授業スケジュール

- 近代の始点—ルネサンス期と18世紀
- 英国革命とIRA
- ジャコバイトと英国王室
- 議院内閣制の成立変遷過程
- 英国における政治腐敗防止過程
- フランス革命と国家の概念
- フランス政治におけるジャコバン主義
- 「後発国型近代化」の問題点—ドイツの場合—
- 統合ヨーロッパの源流

成績評価の方法

前期レポート—7～8×400字—は任意ではあるが、年5～6回とる出席点とともに学年末試験に加算する。試験はあらかじめ指示した5問から2題出題する。(ノートの持ち込みは不可)

教科書

特に教科書は指定しないが、さらに詳細な研究を望む学生には適宜参考書を推薦する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
行 政 法 各 論	とみ い ゆき お 富 井 幸 雄	政治2・3・4選必	4

講義のねらい

行政法各論の守備範囲については画一的な議論があるわけではない。行政組織法、地方自治法、警察法、租税法、社会保障法、教育法など、各論の下で包括的に論じる学問的整合性もなく、そもそも時間的に不可能である。昨年はそれでも行政手段論(行政組織法、地方自治法、公務員法、公物法)を講じたが、受講者に行政法総論の履修者があまりいなかったので、いろいろと難しい面があった。そこで今年度は、行政における私人の権利主張の問題を議論する。具体的には、情報公開法制度、行政手続法(これらは前期に講義する)、そして救済法(国家賠償法、損失補償関連法、行政不服審査法、行政事件訴訟法)を体系的に論じる。これらは総論で研究されるものではあるが、周知のように重要性が増して詳細な勉強を要するようになって来ているにもかかわらず、総論では時間的限界があること、公務員試験等では勿論のこと行政法学の分野でも国民(住民)主体の行政法の再構築が叫ばれていることから、本講義で理解を深めていく意義があると考えらる。

成績評価の方法

前期試験(40%)と学年末試験(60%)で総合的に評価する。なお出席は適宜とる。

教科書

南博方他『行政法(2)(第三版)』(有斐閣双書)

参考書等

適宜指示する。

その他

実定法の学習は、法律の条文と判例の理解が基本である。六法(なんでもよい)は講義にも必要なアイテムであり、言及の際には必ずチェックすること。判例(『行政判例百選II』別冊ジュリストは便利)も可能な限り授業で研究していくつもりである。憲法や行政法総論の学習も深めていって欲しい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
地 方 自 治 法	とみ い ゆき お 富 井 幸 雄	政治2・3・4選必	4

講義のねらい

日本国憲法下における地方自治の法制度を体系的に理解する。すなわち、昭和22年に制定された地方自治法が具体的にいかなる意味をもち現実化されているか、憲法の意図する地方自治の理念がそこに具体化されているかを批判的に検討する。その際、現在進行している地方分権推進のシナリオは参考になる。

講義の内容・
授業スケジュール

地方自治法の体系に沿って講義を行う。前期は、憲法と地方制度の関係を比較法的ならびに歴史的に考察を行った後、地方公共団体の概念、住民の地位、自治立法権について議論を行う。後期は、地方公共団体の事務、組織、財政、地方公務員制度について勉強する。

成績評価の方法

前期試験(40%)と学年末試験(60%)で総合的に評価する。なお、出席は適宜とする予定である。単位認定のとき考慮することがある。南博方他『行政法(3)(第3版)』、有斐閣双書、¥1,800

参 考 書 等

原田尚彦『地方自治の法としくみ』(学陽書房)、『地方自治判例百選(第2版)』(別冊ジュリスト)

なお制度の概要を大まかに理解するには、鈴木正明他『図解 地方自治法』(良書普及会)は便利。地方自治の制度的問題を勉強するには、新藤宗幸『地方自治』(岩波書店)、同他『概説日本の地方自治』(東京大学出版会)は必読。

そ の 他

講義では頻繁に法律の条文に言及するので、六法(『地方自治小六法』(学陽書房)があるがポケット六法でよい。)は必携。その都度チェックすること。憲法や行政法の履修者が望ましいが、少なくとも両法分野について高い関心を持つこと。わからないことは遠慮なく質問に来て欲しい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
国 際 関 係 論	しゅう どう もと こ 首 藤 素 子	政治2・3・4選必	4

講義のねらい

現代の国際関係が抱える課題について、知識と理解を深めることを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

次のような項目をほぼ3週分の授業を割当てながら進める予定。

1. 国際政治理論の展開
国際政治の冷戦後の新たな視座
2. 冷戦後の大地域主義の生成
3. 地域紛争と安全保障の課題
国連の安全保障分野の機能
地域紛争と地域組織の機能
4. 国連の開発戦略と南北格差の問題
近代化理論の変遷と従属論の影響
世銀・IMFの機能と問題
5. 国際政治と人権保障の制度化
人権保障の法的枠組みの展開と課題
人権 NGO と国際社会
6. 1970年代以降の経済のグローバル化
政策協調と国際交渉の多様化
Global Governance の課題
7. 経済発展と途上国の政治体制
権威主義的政治体制と民主化の課題
8. 地球環境と国際関係の課題
地球環境問題の現状と政策的対応
「発展の権利」と「持続可能な発展」
人口問題の現状と課題

成績評価の方法

定期試験および課題提出物により評価する。

教 科 書

とくに毎時間使用するわけではないが、次の文献を入手し、授業に関連する項目を各自で勉強しつつ、授業に出席することをすすめる。

細谷千博監修、横山・野林編『国際政治の21世紀像』（有信堂）1992年（第2版）2,987円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
比 較 政 治 学	いわ さま まさ ひろ 岩 崎 正 洋	政治2・3・4選必	4

講義のねらい

この科目で取り扱うテーマは、現代世界の民主主義国の政治に関する問題を、現代の比較政治学の理論の観点から検討することである。科目名は、「比較政治学」であるが、広義に捉えれば、「現代政治分析論」ということもできよう。

本講義では、比較政治学の基本的な理論の検討を通して、「比較政治学は現実政治を考える上でどのように役立つのか」という点を考える。比較政治学が研究対象とするのは、世界のあらゆる国々である。それ故、焦点を向けるのは、先進諸国だけではなく、また発展途上国だけだということでもない。先進国同士を比較することもあれば、発展途上国同士を比較することもある。さらには、先進国と発展途上国との比較を行うこともある。

本講義では、各国の政治現象を説明するさまざまな議論に言及し、現実政治の理解と政治理論の理解との間を架橋することを目的とする。この講義でとり上げる比較政治学の諸理論は、各国の政治の類似点や相違点を明らかにするための視点を提供することになるだろう。

講義の内容・授業スケジュール

以下のような項目に従って、比較政治学の理論を広範に見渡し、現実政治が政治理論によってどのように説明され、捉えられているのかを明らかにする。それにより、現実政治と政治理論との間の橋渡しを行うこととする。

- I 比較政治学の課題と方法
- II 政治システム
- III 政治発展
- IV 政治文化
- V 政治体制
- VI 連立政権
- VII コーポラティズム
- VIII 福祉国家
- IX 民主化
- X 政党システム

なお内容・スケジュールについては、現実政治の変動を受けて、若干変更することもあるので、その点に留意されたい。

履修上の留意点

この科目のみが学部内の政治学に関連する科目として独立して存在するのではないため、関連分野の他の科目と併せて履修することが望ましい。

しかし、本講義のテーマに関心をもつ者が初学者であったとしても、何ら履修上の差し支えはない。受講者の知識の習得と理解の増進に役立つような授業展開としたい。

日常の生活や研究においても、この科目に関連する情報を、新聞や雑誌、ニュース、インターネットを通じて収集し、理解増進に役立てられたい(例えば、各国の選挙結果についてのデータ・アーカイブや政党や政府のホームページなど)。

成績評価の方法

原則として、定期試験およびレポートの評価を総合して行う。前期もしくは後期のいずれかを試験とし、もう一方の学期をレポートとするような形態を考えている。

ただし履修者の数などにより、その方式に変更がありえることを念頭に置かれたい。

教科書

教科書というかたちで、何か特定の書物を一年間にわたり使用することはないが、授業中に適宜、参考書および関連文献を提示する。

参考書等

講義の際に詳細な文献目録を提示するが、さしあたり、以下に挙げる書物は、比較政治学について考える際に役立つだろう。

- *M. ドガン&D. ペラッシー／櫻井陽二訳『比較政治社会学』(芦書房)1983年
- *西川知一編『比較政治の分析枠組』(ミネルヴァ書房)1986年
- *H. J. ウィアールダ編／大木啓介他訳『比較政治学の新動向』(東信堂)1988年
- *砂田一郎・藪野祐三編『比較政治学の理論』(東海大学出版会)1990年
- *青木一能・野口忠彦・岩崎正洋編『比較政治学の視座』(新評論)1998年
- *Jan-Eric Lane and Svante O. Ersson, *Politics and Society in Western Europe*, 3rd ed., Sage, 1994.
- *Jan-Eric Lane and Svante O. Ersson, *Comparative Politics: An Introduction and New Approach*, Polity Press, 1994.

その他

基本的に講義中心とする。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
国 家 安 全 保 障 論	こ ぼり のり お 小 堀 訓 男	政治2・3・4選必	4

講義のねらい

カントがその著、『永遠平和のために』において「相共に生活する人々間の平和状態は、決して自然状態なのではない。自然状態はむしろ戦争状態である。すなわち、たとえつねに敵対行為が勃発しているのではないにしても、絶えずそれによって脅かされているのである。だから平和状態は樹立されなければならない」と述べているごとく、人間が、その長い歴史のうちで不断に希求してきたものは永遠平和であって、戦争それではなかったのである。カントによって提起された「永遠平和」という、この哲学的命題は、皮肉にも彼の夢想曲に終始してきたのが現実の歴史過程の常態である。本講では、「人は何故集団社会を形成するのか、集団を単位とした闘争と、個人のレベルでの闘争は何処がどのように違うのか」をテーマに、国家の安全保障を考える。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 人は何故集団社会を形成するのか。
2. 近代国家の特質。
3. 国家安全保障の意味・機能・手段。
4. 国家安全保障に関する諸見解。
5. 国家安全保障の理念と現代的課題。

履修上の留意点

「人はなぜ闘争するのか」ということに興味をもっている学生への積極的な参加を望む。

成績評価の方法

ディスカッションでの発言点と期末試験で評価する。

教 科 書

小堀・志鳥共著『国家安全保障の研究』（高文堂出版）1,200円

参 考 書 等

授業中に随時指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
国際行政学	福田耕治	政治2・3・4選必	4

講義のねらい

近年、経済のグローバル化に伴い、国や地方行政の「国際化」への対応が要請されている。国際機関の行政は、これにどのようにかかわっているのだろうか。国民国家の枠を超える行政現象に注目し、国際機構内部の行政管理、国際行政と国内行政の関係、国際公共政策の管理や国境を越える政府間関係をめぐる諸問題を扱う「国際行政学」という新しい学問分野が拓けてきた。国際機関の行政は、その加盟国の中央行政や地方行政とどのような関係を持ち、いかにして国際政策を形成し、実施していくのか。国際行政学は、このようなグローバルな視点、人類共通の利益（国際公益）の実現という観点に立って、国際社会に貢献することを目的とする実施的性格をもった新しい研究領域である。

講義の際に、年間講義計画とレジュメ、資料等を順次配布するのでファイルして学習に役立ててもらいたい。また OA 機器、視聴覚教材なども利用し、受講者数なども考慮して可能であればシミュレーション・ゲーミングやパネル・ディスカッションなどの方式も取り入れてみたい。学生諸君の積極的な参加を希望する。

講義の内容・ 授業スケジュール

- 1 「国際行政学の対象と方法」
- 2 「国際行政の歴史と国際行政学の研究」（国際行政思想史・国際行政史・国際行政理論・学説史）
- 3 「国際機構の人事行政と国際公務員制度」（国際人事行政管理論）
- 4 「国際機構の財源調達と財務行政」（国際財務行政管理論）
- 5 「国際公共政策過程と政策科学」（国際公共政策過程論）
- 6 「国際官僚制と国家官僚制の連繋制度」（国際行政と国内行政の行政組織関係論）
- 7 「国際協力行政と国境を越える政府間関係」（国際協力行政・政府間関係論）
- 8 「国際行政統制、国際行政情報論、国際オンブズマン制度論」（国際行政統制論）
- 9 「国際機構の行政改革と加盟国行財政」（国際行財政改革論）
- 10 「国際行政学の課題」

参 考 書 等

拙著『現代行政と国際化－国際行政学への序説（第二版）』（成文堂）、『EC 行政構造と政策過程』（成文堂）、その他の参考文献は、講義のなかで適宜紹介し、資料等は必要に応じ、プリントして配布する。

成績評価の方法

前期・後期の試験による。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
国 際 組 織 論	やま だ あつし 山 田 敦	政治2・3・4選必	4

講義のねらい

ポスト冷戦の世界において、国連をはじめとするさまざまな国際組織がいかなる役割を果たしているかを考察する。いくつかの国際政治理論を手がかりに、安全保障、国際貿易、環境保護、人権問題などの問題領域で、代表的な国際組織の可能性と限界を考えていく。

講義の内容・
授業スケジュール

主として以下の国際組織を取り上げる。詳しい授業のスケジュール表は、第1回目の講義で配布する。

- 1 イントロダクション
- 2 国際組織について考えるための「理論」
- 3 UN（国際連合）
- 4 WTO（世界貿易機関）
- 5 地域的な国際組織－欧州のEU、北米のNAFTA、アジアのAPECなど
- 6 非政府組織（NGO）
- 7 国際組織と日本

履修上の留意点

さまざまな国際組織の仕組みを「丸暗記」してもらうことが目的ではない。転換期にある今日の世界における国際組織の可能性と限界については、専門家の間でも意見が大きく分かれている。出席者ひとりひとりが、この講義をもとに考え、意見を形成していくことを望む。授業中の質問、反論、激論を歓迎する。

成績評価の方法

中間レポートと学期末試験による。どちらも①論旨明快であるか（発想だけで裏付けがなければ不可）、②みずからの意見を述べているか（参考書の丸写しは不可）を評価基準とする。7月第1週目の講義で、中間レポートの課題を発表する。中間レポート未提出者は学期末試験を受けられないので留意されたい。

教 科 書

特定の教科書は使用しない。

参 考 書 等

さらに詳しく勉強したい出席者のために、講義中に項目別の参考文献リストを配布する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
情 報 社 会 論	かみ じょう すえ お 上 條 末 夫	政治2・3・4選必	4

講義のねらい

科学技術の進歩にともなって、情報伝達媒体としてのメディアが発達し、その巨大化は多種多様な情報を大量にかつ同時に伝達している。またメディア自体の多様化によってマルチメディア時代を招来している。こうした情報化社会においては、社会のあらゆる分野において情報の役割がますます増大し、情報の選択と処理が決定的重要性をもっている。

殊にマス・メディアによって形成される擬似環境は、政治意識を規定する重要な要因の一つとなっている。情報と政治とのかかわりを分析し、それに如何に対応するかを探るのが本講義のねらいである。

講義の内容・授業スケジュール

1. 情報化社会（4月～5月）
 - ① 情報と人間の対応
 - ② メディアの発達と情報の大量化
 - ③ 情報量と受容キャパシティ
 - ④ マルチメディア化と情報の選択
 - ⑤ 情報処理能力の必要性
2. 政治的社会化と情報（6月）
 - ① 学習における情報の機能
 - ② パーソナル・コミュニケーションの機能
 - ③ マス・コミュニケーションの機能
 - ④ 回避本能とディスプレイ
3. 擬似環境とステレオタイプ（7月）
 - ① 擬似環境の形成過程
 - ② 権威主義的パーソナリティとマス・メディア
 - ③ 世論の形成とマス・メディア
 - ④ オピニオン・リーダーの役割
4. 政治的コミュニケーションと情報（10月）
 - ① 政治情報と受容の実態
 - ② 知識量と政治行動との相関
 - ③ 群衆心理と情報操作の効果
 - ④ 情報の拡大化と歪曲化
5. 広報活動と政治宣伝（11月）
 - ① 政府の広報活動と説得
 - ② 政党の宣伝と支持の獲得
 - ③ 政治家と政治指導
 - ④ 国家の広報活動と国際的コミュニケーション
6. 政治報道とその影響（12月～1月）
 - ① マス・メディアの権力的性格
 - ② 画一的報道と選択の自由
 - ③ 選挙報道の問題点
 - ④ 知る権利と知らせる責務

成績評価の方法

定期試験の成績およびレポートなどによって評価する。

教科書

特になし

参考書等

その都度指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
立 法 過 程 論	まえ だ ひで あき 前 田 英 昭	政治2・3・4選必	4

講義のねらい

法律はどのような経過を経て、どのような人々の手によって、どのようにつくられるのかを勉強することによって、法律、政令、条例などの法令の起案の仕方や、社会生活において必要とされる規則のつくり方に習熟し、法令や規則の理解を容易にすることを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

立法過程とは、立法を中心に議会でのさまざまな決定をめぐって繰り広げられる議会内外諸勢力の公式・非公式の相互作用の実質的な過程であり、狭義には、議会内部での法律制定に関する立法手続の諸過程をさす。今年度は、後者を主として対象とする。

〔取り上げるテーマ〕立法過程とは、国会における審議過程。立法過程における政府の役割。立法過程における議員の役割。内閣提出法律案。議員提出法律案。内閣法制局と議院法制局。常任委員会制。法律の体裁と用語の解説。法律・政令・条例。政府委員。審議会。会期制。会議の公開。委任立法（行政立法）。法律と予算。法律の公布・施行。その他サッカーくじ法など個別法案。（順不同）

履修上の留意点

この講義は、公務員志望の学生、立法機関としての国会や地方議会に関心のある学生向きである。できるだけ出席して国会職員としての経験談も聞き、講義のテーマに関連した時事問題の解説にも注目すること。

成績評価の方法

平常点と期末試験（ノート持ち込み可）

教 科 書

前田英昭『国会の立法活動』（信山社）

参 考 書 等

小島和夫『法律のできるまで』（日本評論社）
 浅野一郎『立法過程』（ぎょうせい）
 前田英昭『国会の100年』（原書房）
 岩井奉信『立法過程』（東大出版会）
 林修三『法令用語の常識』（日本評論社）
 中村睦男・前田英昭『立法過程の研究』（信山社）

科目名	担当者名	配当学科	単位
政策決定論	はやかわ よしき 早川純貴	政治2・3・4選必	4

講義のねらい

各国の政治構造と政治過程そして政策決定過程を分析・説明する手段として多くの「モデル」がつくられてきた。それらのモデルの中で代表的なものを紹介し、モデルの適用における構成と推論のパターンや、そこから導き出される政治的インプリケーション（含意）などを検討する。前・後期を通じ、受講生には現代政治を構成する個人・集団・機構・制度の関係を、政策決定に関するさまざまな観察・分析方法とモデルの応用を通じて理解してもらう。また特に後期では2つの代表的決定事例に基づいて、実際に政策立案者の立場でなぜその政策案を決定したのか、他のオプションはなぜだめだったのかを考察・議論してもらう。

講義の内容・授業スケジュール

[前半]

- ① 権力構造：エリートイズム elitism とブルーリズム pluralism
⇒「権力」「影響力」の検討
- ② 政党：機能／組織／イデオロギー／支持の動員／選挙過程／党内意思決定過程
- ③ 利益団体：「利益」の組織化／「圧力」行動／集団機能の変質／集団内意思決定
 - ◆トルーマン D. Truman の利益集団論（グループ・アプローチ）
 - ◆オルソン M. Olson の集合行為論（集合財とフリーライダー）
 - ◆ネオ・コーポラティズム neo-corporatism
- ④ 官僚機構：機能／組織／稟議制と政策形成：組織内意思決定の特性と心理的要因
- ⑤ 政策アリーナおよび政策類型について

[後半]

- ① プロセス論モデルと前決定過程（アジェンダ・セッティング agend setting）
- ② 合理モデルの検討
 - ◆合理的選択モデル
 - ◆増分主義モデル：リンドブロム C. Lindblom の主張／予算決定過程
 - ◆ゴミ缶 garbage-can モデル&キングダム・モデル Kingdon model
- ③ アリソン G. Allison の3モデルの検討
 - I 合理的行為者モデル
 - II 組織プロセスモデル
 - III 政府内（官僚的）政治モデル
- ④ 代表政策決定の事例研究1：湾岸戦争時の日本の90億ドル（総額130億ドル）提出
《外務省／大蔵省／首相／野党指導者 etc. 》
- ⑤ 代表政策決定の事例研究2：国鉄の分割・民営化
《運輸省／国鉄／国労／自民党派議員／首相／第二臨調 etc. 》

履修上の留意点

この講義は政治学科の専門科目であり、政策決定の「モデル」や「理論」の説明が中心となる。そのため政治学の専門知識（専門用語）を多く知っていなければ授業内容の理解は困難であろう。受講生は最低限「政治学原論」「日本政治論」を履修していることが望ましい。さらに決定事例（湾岸戦争／国鉄の分割・民営化）についての知識を十分に有していることが求められる。

成績評価の方法

中間試験および定期試験の結果により評価を行う。

教科書

使用しない。

参考書等

講義の中で随時紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
現 代 国 家 論	おお 塚 つか 桂 かつら	政治2・3・4選必	4

講義のねらい

福祉国家の見直しが叫ばれて久しい状況にあります。ありうべき国家とは何か、が今日の重要課題とされています。本講義は、諸君が今まで履修してきた政治学、憲法などの学科目の知識をふまえて、現代国家の実相にせまるのを目的とします。

さしあたって、現代国家を理解するには、国家概念の展開を理論(史)的に整理することからはじめるのが、ヘダーでしょう。政治学の発達を顧みたとき、政治学＝国家論であったことがわかります。講義では、隣接科目(憲法・行政法・政治哲学・政治思想史・政治史・行政学)の研究成果をとりいれながら「国家」の問題を討究していきます。国家論は総合科学としての性格をもつものといえるでしょう。

講義の内容・授業スケジュール

A 国家論の課題ならびに研究方法

B 国家学説の史的展開

①古代国家学説 ②中世国家学説 ③近代国家学説 ④現代国家学説

C 法治国家の構成原理

①法治国家論 ②政治制度 ③官僚制 ④国家緊急権

D 行政国家の構成原理

①福祉国家 ②ネオ・コーポラティズム ③シティズンシップ ④きたるべき国家

成績評価の方法

受講生と相談の上で、以下のいずれかにより単位を認定します。

A方式(レポートによる単位認定)

～年4回の課題を提出してもらい成績を評価します。レポート作成を通して、読解力と書く能力を涵養します。

B方式(試験による単位認定)

～中間・期末試験により、成績を評価します。B方式のみ追・再試験を実施します。

教科書

大塚桂『現代国家へのアプローチ』(成文堂)3,000円

その他

上記テキストに所収の〈参考文献〉を参照のこと。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会学原理	わた なべ もと き 渡 辺 源 樹	政治2・3・4選	4

講義のねらい

社会学の主要な対象である社会的人間、集団、組織を柱に据え、加えて社会変動の問題を加味させた社会意識論を配置し、その各々を構成する主要な問題を講述する。そのためのものとして社会学の概念や理論を用いて、身近な社会現象をとらえて社会的な理解や認識を深めさせたい。

講義の内容・
授業スケジュール

- 第1回 社会学とは何か 社会的事実／実証性 “予期せんがために見る”／社会的分析／現代社会学の領域と方法
- 第2回 社会的行為 なぜ“action”からなのか／社会の基礎的単位として行為／行為の社会性・歴史性
- 第3回 相互行為・社会関係・社会過程 人間の行為は“inter”して社会的となる／人間関係・社会関係・国際関係／交換／社会過程
- 第4回 社会的役割の基本公準 1、役割の取得－社会化 フロイドとパーソンズの“社会化の過程”を中心に
- 第5回 2、役割の準拠－準拠集団 準拠枠／所属集団と準拠集団／動機と態度の概念
- 第6回 3、役割の葛藤／マージナル・マン アイデンティティとモラトリアム／マージナルマンとして青年期／マージナルマンとして職場人間
- 第7回 社会統制と逸脱行為 1、規範と同調－逸脱の次元 行為と社会的秩序／サンクション・パターン
- 第8回 2、ラベリングと予言の自己成就 印象操作／シンボルとシンボル操作／逸脱とラベリング／予言の自己成就
- 第9回 アノミー デュルケムのアノミー、マートンのアノミー論 マクロ社会学とミクロ社会学
- 第10回 社会集団 1、社会集団とは何か 集団の特質／集団の分類／家族と企業体
- 第11回 2、集団の構造と機能 社会有機体説と構造・機能／機能連関／機能要件 (AGIL 図式)
- 第12回 3、地位と役割 集団の単位としての役割／ロールセット、地位系列／業績的地位・帰属的地位
- 第13回 4、集団のリーダーシップ 集団目標／集団効果性／ホワイトのリーダーシップ論／PM 理論とリーダーシップ
- 第14回 5、集団の凝集性・モラール 同調への圧力・斉一性／集団規範／凝集性を高める条件／モラール
- 第15回 集団・文化・パーソナリティ
- 第16回 組織論と官僚制 1、組織の一般理論 現代社会と組織体／組織の一般理論
- 第17回 2、官僚制組織の基本原則 ウェーバーの支配の3類型／官僚制組織の基本原則 (ウェーバー、ミヘルス)／支配・権力・権威
- 第18回 3、官僚制組織の動態 官僚制組織における“目標の転移”／ホーソン実験／グールドナー、ブラウの官僚制論
- 第19回 社会意識 1、社会意識とは何か 社会意識の2つの途／マルクスとウェーバー
- 第20回 2、ウェーバーのエートス論 「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」を中心として
- 第21回 3、社会的性格 i) フロムの社会的性格 「自由からの逃走」を中心として
- 第22回 ii) ミルズ、リースマンの社会的性格 「ロンリー・クロード」を中心として
- 第23回 4、社会的態度 (社会心理) 行為の科学的説明／ニューカムの社会的行動の説明図式
- 第24回 全体社会の構成 1、経済と社会…経済と経済社会学／産業社会・消費社会／経済の国際化・従属理論
- 第25回 2、政治と社会…政治と政治社会学／権力／政治文化 3、法と社会…法と法社会学／法の機能／規範 4、教育と社会…教育と教育社会学／学歴と社会移動
- 第26回 社会成層の社会学 階級と階層／職業構成／社会移動／地位の 一貫性・非一貫性／成層研究の課題

成績評価の方法

定期試験とレポートによる

教科書

開講時に提示する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
比較社会論	なかのゆうじ 中野裕二	政治2・3・4選	4

講義のねらい

グローバル化の進展とともに社会の多文化化も進展している。多文化社会化の過程で、移民や外国人労働者の抱える問題や困難に関する報告も行われている。それでは、多文化化した社会は、この多文化状況にどのように対応しているのか。その対応の一つの方向性が「多文化主義」である。実際、数多くの先進諸国で「多文化主義」が議論されるようになった。しかし、そこで語られる「多文化主義」とは何か？そこで語られる「多文化主義」は同じなのか？違うとすれば、どのように違うのか？

以上のような問題関心に立つ本講義のテーマは「比較多文化主義論」である。

講義の内容・
授業スケジュール

本講義の構成は以下のようになる。

- 序 章 比較社会論とは何か？
- 第Ⅰ部 多文化主義の概念
 - 第1章 国民国家と多文化主義
 - 第2章 「多文化主義」をめぐる論争点
- 第Ⅱ部 多文化主義の「先進国」
 - 第3章 カナダ
 - 第4章 オーストラリア
- 第Ⅲ部 その他の国々における「多文化主義」
 - 第5章 アメリカ
 - 第6章 イギリス
 - 第7章 スイス、オランダ、ベルギー
 - 第8章 ドイツ、フランス
- 終 章 日本の多文化主義？

成績評価の方法

年数回の小テスト、課題レポート、学年末試験を総合的に判断する。ただし、学生の積極的参加（質問、意見）は別個に高く評価する。

教科書

教科書は用いないが、参考文献は適宜紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
財 政 学	さと なか つね し 里 中 恆 志	政治2・3・4選必	4

講義のねらい

経済生活の中で公共部門の占める比重は確実に増加しつつある。財政学は公共財政経済を対象とする学問であるが、そこでは市場経済原理とは異なる原理が作用する。国民が財政意志の形成に参加する方法は民主主義の手続きをとおしてであるから、有効な財政政策の実現のためには、国民が財政をコントロールするルールと、その背後に作用し合う諸力について理解していなければならない。また国民は財政政策に対する基礎的な判断基準をもっていなければならない。このような観点から財政意志の形成過程、租税徴収による負担の配分、歳出の効率と合理性、財政の総需要管理政策について講ずる。

講義の進め方はまず財政意志の形成過程では予算の編成手続きの理解から入る。歳入面については租税収入を主要税種別に扱い、つぎに歳出面について主要経費別の考察を進める。さらに財政の総需要管理政策としてフィスカル・ポリシーを論ずる。

講義の内容・授業スケジュール

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| (第1週) 講義内容の紹介と年間授業計画の説明 | (第2週) 公共財と公共部門 |
| (第3週) 財政の歴史概略 | (第4週) 予算編成と主計局査定 |
| (第5週) 予算編成と政党政治 | (第6週) 予算政府案と議会審議 |
| (第7週) 予算の執行と競争入札 | (第8週) 予算の政治過程 |
| (第9週) 租税原則学説 | (第10週) 給与所得税と課税の普遍性 |
| (第11週) 申告所得税と累進課税 | (第12週) 法人税と徴税技術 |
| (第13週) 国際化と移転価格税制 | (第14週) 一般消費税と付加価値 |
| (第15週) 地方税と地方歳出 | (第16週) 地方財政費と財政調整の制度 |
| (第17週) 機関費と純粋公共財 | (第18週) 公共事業費と公共財産の形成 |
| (第19週) 社会保障関係費と所得再分配 | (第20週) 補助金とスπιルオーバー |
| (第21週) 国債費と公債負担 | (第22週) 総需要管理とフィスカル・ポリシー |
| (第23週) 国民所得の決定と乗数理論 | (第24週) 課税乗数と均衡予算定理 |
| (第25週) 公債による財源調達と債券価格 | (第26週) 大量国債の累積とその限界 |
| (第27週) 財政金融政策と国債収支 | (第28週) 財政投融资と政府貯蓄 |
| (第29週) 試験と評価についての説明 | (第30週) 試験 |

授業の配当曜日によって年度授業回数に若干の異動があり、予定どおりの時間数が組めないことがある。その場合は一部予定を割愛することがある。

履修上の留意点

法学部には関連科目として経済学分野の「経済原論」及び「経済政策」の講義が設けられている。「財政学」は経済と政治の学際的な分野の科目であるから、こうした関連科目を履修することが望ましい。他学部履修の制度も活用が望まれる。

成績評価の方法

成績評価は学期末テストとして行われる試験による。試験は論述式による。自筆のノート持ち込み可。

教科書

里中恆志・八巻節夫編著『新財政学』（文眞堂）3,200円

参考書等

大蔵省大臣官房調査企画課長編『図説日本の財政』各年度版（東洋経済新報社）
野口悠紀雄著『公共政策』モダン・エコノミックス12（岩波書店）2,000円
中谷巖著『入門マクロ経済学』（日本評論社）3,300円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
国 際 経 済 学	とく ^{なが} 永 ^{とし} 俊 ^{あき} 明	政治2・3・4選必	4

専
門
(
政
治
)

講義のねらい

学問への出発点は「私はどこにいるのか?」という問いにあります。実際、私たちはアマゾンの密林で生活しているわけではありませんし、江戸時代の農村に生きているわけでもありません。では「どこ」にいるのでしょうか。

「世界の中にいる」と言っても、「日本にいる」と言ってみても、これらは答えになりません。どのような世界なのか、どのような日本にいるのか——少なくともこれをつかまなければ先の問いに対する答えにはなりません。今日の世界社会、今日の日本社会の〈内容〉を理解しなければなりません。

ところで、世界経済は、今日、世界社会・日本社会の〈土台〉をなしているものです。世界経済という〈土台〉なしには、世界社会も日本社会も成り立ちません。世界と日本を理解するカギは世界経済を理解することにあります。この講義では、このような位置にある世界経済の〈基本構造〉の解明をめざします。ただし、私の力量からして、“社会主義”経済に十分言及することはできません。資本主義世界経済に限定して検討します。

この講義のキーワードは〈階級的支配関係〉と〈民族的支配関係〉です。世界経済は、資本主義という社会の誕生とともに成立し始め、資本主義社会の〈土台〉として、またその〈産物〉として推移してきました。資本主義社会は、言うまでもなく、〈階級的支配関係〉を命綱としていますが、同時に、世界の諸民族の間の〈民族的支配関係〉をもう1本の命綱としていることが重要な特徴です。これら二つの支配・従属の関係は資本主義社会のいわば2本柱をなすものです。そして、〈民族的支配関係〉こそ世界経済の〈基本構造〉として機能してきたのです。そこで、この講義では、この〈民族的支配関係〉の問題を座標軸にして世界経済の基本的な理論と歴史、現状そして展望を検討したいと思います。

〈国際化〉の問題がいよいよ重大になっているいま、多くの諸君の主体的な受講を期待します。

講義の内容・
授業スケジュール

〈講義テーマ (予定)〉

前期は、世界経済の歴史を跡づけ、今日の世界経済の歴史的段階を確認します。

後期は、歴史的知識を念頭において、今日 = 第2次世界大戦後の世界経済の〈基本構造〉を形づくっている主な柱を一つずつ検討します。

前期——世界経済の歴史的推移

- (1) 〈講義の趣旨〉および〈講義テーマ〉の説明
- (2) 資本の本源の蓄積と重商主義植民地体制
- (3) 産業革命と自由貿易植民地体制
- (4) 帝国主義と帝国主義植民地体制
- (5) 第1次世界大戦と世界経済
- (6) 戦間期の世界経済

後期——今日の世界経済

- (1) 第2次世界大戦と世界経済
- (2) 「アメリカ中心体制」
- (3) 新植民地主義と世界経済
貿易・国際通貨制度・資本輸出——〔援助〕と多国籍企業)・〈南北問題〉と新国際経済秩序
- (4) 世界経済の現段階
- (5) 日本経済と世界経済
- (6) われわれの選択

〈講義の方法〉

教場では毎回資料をプリントして配布し、それを説明するという形で講義をすすめます。

成績評価の方法

成績は世界経済の基本事項、世界経済の“枝葉”ではなく、“幹”の理解度をミニ・レポート(3回予定) および学年末レポートで評価します。(追・再試験は行ないません。)

参 考 書 等

講義の中で適宜紹介する。

そ の 他

私の研究室は第2研究館4階、電話は直通03-3418-9353です。気軽に立ち寄って下さい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 済 原 論	あさの 浅野 かつみ 克巳	政治2・3・4選	4

講義のねらい

現実の経済の動きを念頭におきながら、現代経済学の基礎理論を以下の順序で解説する。なお、公務員試験（其他国家試験）の受験対策として必要に応じ問題練習も行うので、下記の問題集も用意されたい。

講義の内容・
授業スケジュール

- I マクロ経済学の理論
 - 1. 経済循環と国民所得の概念
 - 2. 国民所得の決定
 - 3. 経済の変動と成長
 - 4. 賃金・物価・インフレーション
- II ミクロ経済学の理論
 - 1. 消費者行動の理論
 - 2. 企業行動の理論
 - 3. 市場と価格決定
 - 4. 市場と企業
- III 公共政策
- IV 国際経済学

教 科 書

浅野・荒木・浅田『エコノミックス改訂版』（成蹊堂）1995年

参 考 書 等

青山『経済原論の頻出問題』（実務教育出版）1996年

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本法制史	しげの たか はる 茂野隆晴	政治2・3・4選	4

講義のねらい

歴史学には、単に歴史(学)と呼ばれる一般史のほか、多くの個別史がある。これは医学における医学史のごとくで、一つの学問には必ずその史学がある。

法学を学ぶ者にとって最も身近な史学が法制史 (Legal History, Rechtsgeschichte) である。本学には西洋法制史と日本法制史とが設置されている。わたくしの講義は、日本法制史であるが、それは、「日本国民の法生活の歴史的考察」(隈崎渡博士の定義)である。とするならば、法制史が過去における国家の制定法規を羅列して、その解釈に留まるものではないことが明らかであろう。

ともあれ、法学教育において、法制史などの基礎法学を学ぶということは、実定法の理解をヨリ深化させるとともに、リーガル・マインドの形成に有用であり、さらには、法学教育の総合化を図るのに有用であるはずである。

講義の内容・授業スケジュール

夏休み前までに上古(建国から大化改新まで)、中古(大化改新から鎌倉幕府開府まで)、中世(鎌倉幕府開府から織豊時代まで)までの3期を概説する。その進み具合は、従って比較的早い。それというも、特にその後の近世法に時間を掛けるようにしたいからに他ならない。

夏休み後は近世法について主にみるが、近代法、現代法についても成る丈ふれるようにし、比較法的な効果を挙げられるようにしたい。

講義では、諸種の事例を挙げ成る可く平易に講述していきたい。特に近世法の知識は、歌舞伎などの伝統芸や多くの時代小説や時代劇などの理解に少なからず役立つことも多いことであろうから、一層の興味が湧くようにしたい。

成績評価の方法

出席回数を平常点とし重視する。敢て、期末試験では頑張り具合がみられるようにし、頑張りも重視して採点したい。

教科書

大久保治男・茂野隆晴共編『日本法制史史料60選』(芦書房) 2,300円

参考書等

大久保治男・茂野隆晴著『日本法制史』(高文堂出版社) 2,650円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
西 洋 法 制 史	きたの 北 野 かほる	政治2・3・4選	4

講義のねらい

イギリスの法制度の歴史を、社会の法的構造と国家統治機構のかかわりを軸に解説する。イギリスの法制度の歴史を、特に注目される法的現象を挙げながら、各時代毎の法制度の全般的特徴と、基本的社会、政治構造との関連について考察する。

講義の内容・
授業スケジュール

- 第1部 総論
 - 第1章 法制史学概説
 - 第1節 法制史学の方法と対象
 - 第2節 法制史学の目的と効用
 - 第3節 イングランド法制史学の対象と方法
 - 第2章 イギリス歴史学の基本的知識
 - 第1節 時間的範囲
 - 第2節 空間的範囲
- 第2部 イングランド法制史
 - 第1章 古代
 - 第1節 歴史過程
 - 第2節 社会構造
 - 第3節 法構造
 - 第2章 中世 (1066-1350)
 - 第1節 歴史過程
 - 第2節 社会構造Ⅰ 中世ヨーロッパの封建制
 - 第3節 社会構造Ⅱ イングランドの封建制
 - 第4節 統治構造 封建制の解体
 - 第3章 近世 (1350-1650)
 - 第1節 歴史過程
 - 第2節 社会構造
 - 第3節 統治構造
 - 第4節 法構造

専
門
(
政
治
)

履修上の留意点

講義中の私語・騒音は厳しく規制する。予め十分留意すること。

成績評価の方法

論文式筆記試験（後期試験期間・年1回）

教 科 書

特に指定しない。

参 考 書 等

年度当初に指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
経済政策	もり 森 岡 じん 仁	政治2・3・4選	4

講義のねらい	経済学の実践部門としての経済政策が自由主義経済に成立した過程と、そこではたす役割を明らかにする。人口高齢化や少子化の経済的帰結にも言及し、最後に高齢化社会における経済政策と人口政策の関係を論ずる。
講義の内容・授業スケジュール	I 現代経済と経済政策 II 経済政策学の発展 III 現代経済政策の課題 IV 経済の成長政策 V 経済の安定政策 VI 産業組織政策 VII 社会均衡化政策 VIII 経済政策と人口政策
履修上の留意点	日常生活に生起する経済問題に日頃から関心を抱き、自分達の身の回りにある経済問題の解決手段として経済政策を考え、学ぶことが大切である。
成績評価の方法	学年末の定期試験、授業の出席状況
教科書	森岡他著『現代経済政策』（千倉書房）1975年

科目名	担当者名	配当学科	単位
社会政策	かね 金 子 まま 征 史 史	政治2・3・4選	4

講義のねらい	社会政策の学問内容は時代とともに変せんするものであるが、この講義では、近年の社会政策の対象として重要な事項のひとつである労働時間政策と、これまで一定の意味をもっていた労働組合政策などについて考察してみたい。もちろん、今日の社会政策は社会保障、福祉、老令化など、重要な事項もあるので、これらの問題も時間の許すかぎり考察することも考えている。
講義の内容・授業スケジュール	前期は、社会政策の総論および労働組合の問題を考えてみる。具体的には以下の項目を検討する。 ① 社会政策の対象 ② 社会政策の研究手法 ③ 社会政策学の歴史 ④ 労働組合の発生と社会政策の必要性 ⑤ 労働組合の機能 ⑥ 日本における労働組合の歴史－戦前 ⑦ 日本における労働組合の歴史－戦後 ⑧ 組織上の問題と対策 ⑨ 労働組合の将来 後期は、労働時間および雇用対策について検討する。具体的には以下の通りである。 ① 労働関係と労働時間問題の発生 ② 労働時間政策の歴史－ヨーロッパ ③ 労働時間政策の歴史－日本の戦前 ④ 戦後の労働時間政策の変せん ⑤ 8時間労働制 ⑥ 時短政策 ⑦ 1987年労基法改正 ⑧ 今日の労働時間政策 ⑨ 時短の将来 ⑩ 雇用構造の変せんと対策
履修上の留意点	講義に出席すること。ノートをとること。静かに受講すること。その他、開講時に指示する。
成績評価の方法	試験およびレポートにて評価する。
教科書	未定。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
比 較 憲 法	にし 西 おさむ 修	政治2・3・4選	4

講義のねらい

何年か前に発表された日米教育比較に関する米側専門の報告書によると、日本の大学教育は完全に失敗していると診断しています。「授業は貧弱で、大学生はいたって不勉強」というのがその結論です。日本の大学改革が叫ばれているいま、このような診断が誤りであることを証明する必要がありますとおもいます。

私は、次のような授業方針でのぞみますので、了解されたい。

- ① 私の教師になってからのモットーは「授業は休まず、遅く始めず、早く終わらず」というものです。したがって、受講生諸君は講義には必ず出席し、かつ授業時間に遅れないように。なお、今年度は短期国外留学が予定されていますので、その埋め合わせ方法は授業中に伝えます。
- ② あらかじめ講義計画（シラバス）を立て、その計画にそって授業を進めます。この講義計画は別に配布しますが、キーポイントと参考文献が示してあるので、理解を深めるのに役立ちます。
- ③ 授業中の私語・遅刻は、他人の迷惑になるので、絶対に謹んでほしい。
- ④ 成績は平常点を重視。私が独自に作成した出席カードを利用し（質問欄あり）、双方向性を大切にした授業内容にします。
- ⑤ 授業内容は、コピーの配布、ビデオ、スライド、OHPなどの活用をはかり、できるかぎり理解を容易にするよう工夫をこらします。

講義の内容・ 授業スケジュール

取り扱う主な項目は、以下のとおり。

- ① 比較憲法の意義、効用
- ② 世界の憲法はいま
- ③ アジアの憲法
- ④ イギリス憲法の特徴
- ⑤ アメリカ大統領の選挙のしくみ
- ⑥ ドイツ憲法と日本国憲法の比較
- ⑦ フランス憲法体制の特異性
- ⑧ 社会主義憲法の生成、発展、そして終焉（?）
- ⑨ 中国憲法と台湾憲法
- ⑩ 韓国憲法と北朝鮮憲法
- ⑪ イスラム教諸国の憲法体制
- ⑫ 国際憲法学の確立に向けて

成績評価の方法

成績評価の目安は、おおむね以下のとおり。

前期試験30%、後期試験40%、出席・レポート30%

要するに、講義内容を生き活きたものにし、受講生から知的関心を引きだし、知的満足感をもって終了するというのが、最大のねらいです。

教 科 書

開講時、参考書などとともにシラバスで指示。

科目名	担当者名	配当学科	単位
刑法	まつ 村 格 松 村 格	政治2・3・4選	4

講義のねらい

刑法（刑罰法規）は、歴史的には支配者が市民を抑圧する最強の手段として長い間悪用されてきたし、近年に入ってからファシストたちから悪用された。今日、刑法は、市民の自由と権利を保障する機能をもつものとして把握されなければならない。そのためにも、刑罰権の発動と処罰の範囲をできる限り制限する理論操作が必要である。市民と行為者と被害者のそれぞれの人権保障を考えながら刑法理論を構築しなければならない。授業では、刑法総論を中心に講義していくが、もちろん、刑法各論とのかかわりを無視することなく具体的な事例を参考にしながら刑法総論を学ぶことによって、刑法学の全体像を理解できるようにしていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

前期

- 第1回（刑法システムとその余のシステムとの関係および刑法システムと隣接領域システムとの関係）
- 第2回（刑法および刑法学システムとその部分システムとの関係ならびに刑法総論とその部分システム）
- 第3回（刑法の意義と機能および犯罪の意義）
- 第4回（刑罰論と罪数論＝刑罰の本質と機能および目的／罪数論の意義）
- 第5回～6回（刑法の原理・原則論＝罪刑法定主義／責任主義／謙抑主義）
- 第7回～9回（行為と構成要件の理論＝行為論／犯罪の主体と客体／故意と錯誤の理論／不作為犯論／因果関係論）
- 第10回以降（違法性の理論＝違法性の本質と実質／正当防衛と緊急避難／自救行為／正当業務行為とくに治療行為／臓器移植／安楽死・尊厳死）

後期

- 第1回～3回（責任論＝責任の本質／責任能力／故意と違法性の意識／期待可能性）
- 第4回～5回（未遂論＝未遂の意義と処罰根拠／中止未遂／実行の着手／不能未遂）
- 第6回～9回（共犯論＝共犯の意義と形態／処罰根拠／正犯と共犯の区別と関係／共同正犯／共犯と身分／共犯の諸問題）
- 第10回～最終回（補足）

履修上の留意点

刑法学は、きわめて体系的な学問なので、継続的に出席して講義を受けないと理解できなくなる。できる限り具体的な事例を利用して説明するが、それでも観念的思考が入りこむので、考える力を必要とする。教科書以外のことをたくさん話すので、講義をよく聴き、必ずノートをとることが大切である。ただし、黒板に書くことは最小限度必要な事項だけであるから、それを筆記するだけでは意味がない。六法全書・教科書・ノートを毎回持参することが必要条件である。

成績評価の方法

成績の評価は、学年末の定期試験とその他の小テストなどの成績を総合して判断する。

教科書

松村格『刑法学への誘い』（八千代出版）
松村・神田・都築・野崎『刑法総論』（ミネルヴァ書房）

参考書等

別冊ジュリスト『刑法判例百選Ⅰ総論（第4版）』（有斐閣）
斉藤誠二編『演習ノート刑法総論』（法学書院）
『刑法基本講座（全6巻）』のうち1～4巻（法学書院）

その他

授業の方法は、すべて講義方式で行なう。必要に応じてプリントを配布することがある。その場合には、そのプリントに沿って講義をする。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
民法（総則・物権法）	おお <small>みや</small> <small>たかし</small> 大 宮 隆	政治2・3・4選	4

講義のねらい

講義の対象 民法という法律は、日常の社会生活（財産関係と家族関係）を規律の対象とし、総則・物権・債権・親族・相続の五編に編別されている。本講の対象は、第一編総則、第二編物権である。なかでも総則は、全編に共通な規定と、どの編にも入れることができない規定を集めて構成されているので、抽象的な法文形式が多い。よって講義においては、具体例を挙げてわかりやすく説明したいと思っている。

講義の内容・授業スケジュール

- ① 民法の意義
- ② 民法典の編別
- ③ 民法の指導原理とその修正
- ④ 自然人
- ⑤ 法人
- ⑥ 物
- ⑦ 法律行為
- ⑧ 期間
- ⑨ 時効
- ⑩ 物権変動
- ⑪ 占有権
- ⑫ 所有権
- ⑬ 地上権
- ⑭ 永小作権
- ⑮ 地役権
- ⑯ 留置権
- ⑰ 先取特権
- ⑱ 質権
- ⑲ 抵当権

履修上の留意点

講義には六法持参のこと。講義終了時に次週の予告をするので、教科書を読んでくること。

成績評価の方法

年度末の定期試験と出席状況を総合して評価する。

教 科 書

玉田弘毅『図解民法講義 総則・物権』（住宅新報社）1,854円

参 考 書 等

講義の中で随時紹介します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
英 米 法	またの 北 野 かほる	政治2・3・4選	4

講義のねらい

近現代法治国家の主要法系のひとつである英米法系について、日本法を含む大陸法系と比較しての基本的特徴を概観し、その主要な理由をなすと考えられる、法形成における裁判の意味について、司法機構と判例法を中心に考察する。

講義の内容・
授業スケジュール

- 第1編 概論
 - 第1章 法系論
 - 第1節 西洋近代法の法系
 - 第2節 英米法系の特色
 - 第2章 英米法の特徴
 - 第1節 法内容の歴史性
 - 第2節 法観念の社会性
 - 第3節 法思考の実務性
 - 第3章 判例法の理論
 - 第1節 総論：「判例法主義」
 - 第2節 先例拘束性の原理
 - 第3節 判決における「法」
 - 第4節 法形成作用
- 第2編 司法制度
 - 第1章 裁判所制度
 - 第1節 イギリス
 - 第2節 アメリカ合衆国
 - 第2章 訴訟過程
 - 第1節 英米訴訟制度の特徴
 - 第2節 陪審

履修上の留意点

講義中の私語・騒音は厳しく規制する。予め十分留意すること。

成績評価の方法

論文式筆記試験（後期試験期間・年1回）

教 科 書

特に指定しない。

参 考 書 等

望月礼二郎『英米法（改訂第二版）』（青林書院）現代法律学全集55 5,150円
その他の参考書：年度当初に指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
会 社 法	あら き まさ たか 荒 木 正 孝	政治2・3・4選	4

講義のねらい

この講義では、会社法（総則、合名会社、合資会社、有限会社、株式会社）の基礎的かつ基本的な事項について解説するが、とくに現代の経済活動において重要な役割を果たしている株式会社の法規制について多くの時間を割くつもりである。

講義の内容・授業スケジュール

大企業は全て株式会社の形態をとり、その株式会社が現代の経済を担い、多くの人々に商品やサービスを提供し、労働の場を提供するという社会的機能を通して国民の生活に計り知れない大きな影響を及ぼしている。そこで、この講義では、株式会社の生成、機能、構造、消滅などの私法的側面を中心に規制する株式会社法に重点を置き、そこでの重要問題を探り上げ、判例や学説の対応、実務の取り扱いなどを検討し、会社法の基本原則を理解してもらうつもりである。

履修上の留意点

会社法は商法の重要な部分であり、その中心は、商法第二編会社、有限会社法などの規定である。商法は、民法を一般法とする特別法であるから、会社法に限らず、商法を学ぶ際には、その基礎となる民法総則、物権法、債権法などの知識があると一層理解しやすい。ただ、講義の内容を理解するために必要な範囲で民法＝財産法の規定や基本概念にも触れるつもりであるから、財産法の全てを履修していなくても受講には差し支えない。

成績評価の方法

年度末に行われるペーパーテストの点数で評価します。

教 科 書

荒木正孝著『現代企業法』（成文堂）

参 考 書 等

鴻・落合・岩原・江頭編『会社判例百選』（第6版）（有斐閣）
奥島・中島編『商法演習Ⅰ（会社法）第2版』（成文堂）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
労 働 法	ふじもと しげる 藤 本 茂	政治2・3・4選	4

専 門
(政 治)

講義のねらい

今日、労働関係は、雇用調整・リストラ、あるいは、出向・転籍や年俸制の導入に見られるように大きく変貌しています。終身雇用や年功型賃金体系といった従来の日本的雇用慣行に見直しながされています。現在は、激動期にあるといえましょう。労働法は、労働関係において生じる紛争を法的に解決する方法を検討する法領域でこの変動に無関係ではられません。労働法もまた、社会構造の変化とともに変わっていかざるをえません。

労働組合を中心に扱う集团的労働関係法領域では、労働条件決定に組合の及ぼす影響をみておく必要があります。

この激動期において、労働者個人に降りかかるさまざまな事象は、労働保護法領域において、顕著であるといえましょう。労働基準法の改正、(裁量労働、労働時間の弾力的運用の拡大、有期雇用契約の期間の拡大、解雇制限といった分野)で見られます。男女雇用機会均等法の見直しなども見られます。

解釈においては、何が、変わるのかまた、このような中にあっても変わるべきでないものは何か。基本的な事項について、基礎的な知識を得ることは、重要なことであると思います。

労働法は、皆さんが、将来どのようなところに職を得ようとも、もっとも身近な方法であります。会社もまた、労働法に関する十分な知識なしには円滑な人事管理が行い得ないことは、常識です。労働法は、皆さんが労働生活の節目節目で選択を迫られるとき、自ら考え自らを処していく上で、知っておくべき必要な知識であり、知っているかいないかは、よりよい選択をする上で、とても重要であると思います。

講義の内容・
授業スケジュール

(1) 授業では、(2)にあるような事項について、基本的なことを中心に論じて、現代的課題に言及しようと思います。

(2) 内容、スケジュールについては、第1回目の授業のときに、配布するプリントで述べます。ここでは、一応のアウトラインを述べるに止めます。

- ① 労働法の基礎的考え方
- ② 労働関係の主人公－労働者、使用者、労働組合
- ③ 労働条件の最低基準の法定－労働基準法の特徴
- ④ 雇用における平等－同一労働同一賃金、雇用機会均等法、セクシュアルハラスメント
- ⑤ 労働条件を決定しているもの－就業規則、労働契約、労働協約
- ⑥ 組合が自由に活動できる環境の整備－不当労働行為
- ⑦ 雇用の入り口－採用、採用内定、試用期間
- ⑧ 人事異動－配転、出向、転籍
- ⑨ 雇用の出口－解雇、定年、退職
- ⑩ 賃金、諸手当、退職金
- ⑪ 労働時間、時間外労働
- ⑫ 休憩、休日、休暇
- ⑬ 労働災害など

履修上の留意点

出席しましょう。また、積極的に質問をしてください。

成績評価の方法

成績は、出席等を加味することはありますが、学年末試験がメインです。

教 科 書

教科書は、指定しません。しかし、道しるべとしての参考書は用意してください。参考書として適当と思われる概説書をいくつか、第1回目の授業で、紹介します。これを参考にして受講者は必ず、1冊は用意してください。

そ の 他

皆さんが各々の事項について何が法的には論点になるのか、イメージを描きやすいように、裁判例など具体的な例を掲げながら、授業を進めることを心掛けます。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 済 法	おか だ と し ひろ 岡 田 外 司 博	政治2・3・4選	4

講義のねらい

独占禁止法は、企業の経済活動に関する世界共通のルールとしてますます重要になりつつあるのみならず、実は私達の生活にも深く関わっている。ところが、独占禁止法の条文を見ると、一般になじみのうすい抽象的な用語が並んでいて難解であり、その理解は決して容易ではない。そこで、本講義では、最初数回は理論的問題にも触れるが、その後は独禁法の規制の内容とその実際の解釈運用について、具体的事例を多くふまえつつできるだけわかりやすく解説することを目標にしたいと考えている。

講義の内容・
授業スケジュール

講義は2回に1枚プリントを配布し、そのプリントに書かれた設問にこちらの方で答えて行くという方法をとる。

履修上の留意点

プリントを受け取らずに講義を聴いても意味がないので、出席は取らないが、講義に出席して少なくともプリントを受け取ることを勧める。

成績評価の方法

試験（後期1回のみ）によって判定する。

参 考 書 等

初回の講義の時に紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
時 事 英 語	ほう り しゅう いち 宝 利 尚 一	政治2・3・4選	4

講義のねらい

時事英語の重要性を認識し、時事英語を読みこなせるように努める。時事英語特有の語法、スタイル、文章の展開などを検討する。

時事英語を通じて、英語の読解力、国際問題への理解力を高めると共に、内外政治、経済、社会、文化の動きに関心をもってもらおう。また、時事英語を通じて、異文化コミュニケーションの増進に役立てる。

講義の内容・
授業スケジュール

原則としてニュース英語の教材を使うが、できるだけ多く米英有力紙、米英政治週刊誌、日本の英字紙などを利用し、実践的な授業をめざす。

履修上の留意点

時事英語に強くなるだけでなく、時事英語を通じて、日本と世界の動きを正しく理解することが重要である。そのためにも、日本の新聞、テレビ・ニュースなどを見聞きし、現代世界の動きを理解してもらいたい。

成績評価の方法

不定期に時事英語、新聞英語などの小テストを行う。定期試験は、講読した時事英語の中から翻訳してもらおう。

教 科 書

『World News Today '99 世界ニュース展望 '99』（金星堂）1,854円
他に英米紙、日本の英字紙の時事ニュース、解説記事をプリントし、教材とする。

そ の 他

教材をもとに、時に学生から意見を発表してもらおう。英語ビデオの利用、英字新聞編集の現場視察なども行いたい。

科目名	担当者名	配当学科	単位
外書講読Ⅰ（英書）	あいだとしひこ 相田敏彦	政治3選	4
外書講読Ⅱ（英書）		政治4選	

講義のねらい

英文で書かれたマスコミに関する分析、理論に関する読解力を向上させること。

講義の内容・
授業スケジュール

はじめ数回は、英字の新聞・雑誌などで腕ならし・イントロダクションとしたい。
ついで、多方面にわたるマスコミ理論、メディア分析のなかから、読みやすさ、理解しやすさに留意して教材を提示する。
教材は適宜コピーを配布する。
マスコミ自体はいかにも身近な対象だが、常識的理解を打ち破る、深く鋭い分析が少ない。
マスコミに関し、考え、分析することの楽しさが多少とも理解される場としたい。

履修上の留意点

英語が好き、あるいは比較的得意な人であればよく、「マス・コミュニケーション論」の授業をとっている、いないとは関係なく、内容を理解できるようにしたい。

成績評価の方法

ふだん点による。
試験、レポート等はない。

専門
（政治）

科目名	担当者名	配当学科	単位
外書講読Ⅰ（英書）	うめき 梅木崇	政治3選	4
外書講読Ⅱ（英書）		政治4選	

講義のねらい

Harold Laski *Introduction to Politics* を講読する。教材は、開講にあつて用意する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
外書講読Ⅰ（英書）	まえ だ ひて あき 前 田 英 昭	政治 3 選	4
外書講読Ⅱ（英書）		政治 4 選	

講義のねらい

英語の原書または論文による議会政治に関する文献を取り上げ、議会政治に関する多様な考え方を理解するとともに、英語による社会科学に関する本の読み方を学ぶ。

講義の内容・授業スケジュール

今年度は、英語による戦後日本の国会改革に関する論文、または英語によるイギリス議会に関する本を読み、それを素材にして、国会の仕組みを考え、国会の現状について自由な意見交換をする。最初のうちは、やさしい英語であっても、1回に数行しか読めないかもしれないが、慣れるにつれて読む速度は次第に速くなる。ゼミ形式で行うので、常時出席できて、かつ議会政治に関心を持つ学生、進学を目指す学生の参加を期待する。

使用する文献は事前にコピーして配付する。

成績評価の方法

平常点

科目名	担当者名	配当学科	単 位
外書講読Ⅰ（独書）	はや かわ よし き 早 川 純 貴	政治 3 選	4
外書講読Ⅱ（独書）		政治 4 選	

講義のねらい

現代政治に関係するドイツ語文献を読むことで、ドイツの現実政治をより深く理解し、あわせてドイツ語の読解能力を高める。

講義の内容・授業スケジュール

99年度はドイツ社会民主党 SPD が89年に採択した基本綱領いわゆる「ベルリン綱領」を講読する。ベルリン綱領は現在、世界の先進諸国における主要政党の基本綱領のなかでは最も進んだ綱領の一つといわれる。それではこの綱領は他の政党のそれとどこが違うのか。そして社会主義の理念は政策としてどのように表現されているのか。このような問題を講読を通じて考えていきたい。

履修上の留意点

受講生はドイツ語の新聞・雑誌を理解できるレベルであることが望ましい。毎回出席し、予習（日本語訳）を欠かさないこと。

成績評価の方法

試験は行わないで平常点で評価する。

教科書

講読開始前に『SPD 基本綱領』のコピーを配布。

科目名	担当者名	配当学科	単位
外書講読Ⅰ（仏書）	おぎそ 曾 綾	政治3選	4
外書講読Ⅱ（仏書）		政治4選	

講義のねらい

外国人の著した書物を著者の国の言葉で読むことは、翻訳を読むこととは異なる意味をもつ。言語は文化のひとつであるので、言葉そのもの（語学）が「よくできる」といっても、その背景にある文化や、書かれている分野についての知識が欠ければ、「文法は判るが内容は理解できない」という事態になりかねず、これでは外国語で著された書物を読む意味がない。したがって、ひろくフランスおよびフランス語圏の文化や社会制度に興味をもつことが重要である。
法律や政治制度に関する、あまり専門的ではない、内容の理解し易いテキストを選んで、ある程度正確に読むことができるようになったら、できるだけ多く読むことを目指すので、意欲のある学生の参加を期待している。

成績評価の方法

出席と平常点による。

教科書

開講時に指示する。

専
門
（
政
治
）

科目名	担当者名	配当学科	単位
外書講読Ⅰ（中国書）	こう りん ひで もと 基	政治3選	4
外書講読Ⅱ（中国書）		政治4選	

講義のねらい

現在の中国は経済の改革、開放政策をとっており、これを実現するため、1982年に四回目の新憲法を制定・施行し、その後二回にわたる改正を行った。その他の法律もこの憲法に基き、“雨後春筍”のようにつぎつぎ公布された。“一衣帯水”の隣国である中国を認識することが必要である以上、その法制から着手しなければならないのである。

講義の内容・授業スケジュール

この授業は中国憲法138条の条文に書かれている中国の内政と外交方針、国民の基本権利と義務、人民代表大会の権限、人民政府の組織など主な内容とする。

履修上の留意点

授業の進度は一週間5ページ程度である。学生諸君に朗読させ、法律用語、条文の構造（文型）を説明しながら立法理由と現在状況を論評する。

成績評価の方法

出席率、学習態度、レポートなどを判断基準として総合的に評価する。

教科書

江英居著『中国憲法』（大学書林）3,500円

参考書等

『中華人民共和国法律滙編』（北京人民出版社）

その他

学生への要望：授業中私語禁止。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
外書講読Ⅰ(スペイン書)	さ とう く み こ 佐 藤 玖 美 子	政 治 3 選	4
外書講読Ⅱ(スペイン書)		政 治 4 選	

講義のねらい

スペインにおける今世紀最大の歴史学者であり、社会学者でもある Américo Castro 著 “Iberoamérica”の講読を行います。1年間で全冊を読破することは到底不可能なので、中南米各論の中の何国かを受講者の希望によって順次ピックアップしてゆきたいと思います。皆さんが1、2年で習得したスペイン語の知識の深化、と共に中南米諸国がたどって来た苦難、屈折の歴史を知り、中南米の現状に対する理解を深め、その将来を考えることを試みたいと思います。

履修上の留意点

必ず次回講読部分の予習をして来て下さい。

成績評価の方法

出席状況、平常の学習態度並びにレポートによって成績評価を行います。

教 科 書

テキストはコピー使用。

2 他学部履修科目

2 他学部履修科目

禅学概論	(佐藤秀孝)	125
中国禅宗史	(田中良昭)	125
日本禅宗史	(原田弘道)	126
禅籍講読Ⅰ	(田中良昭)	127
禅籍講読Ⅲ	(佐藤秀孝)	128
仏教概論	(平井俊榮)	129
インド仏教文化史	(奈良康明)	130
中国仏教文化史	(永井政之)	131
日本仏教文化史	(袴谷憲昭)	131
中国古典語初級	(石井公成)	132
中国哲学史	(前川亨)	132
上代文学研究Ⅰ	(小野寛)	133
中古文学研究Ⅰ	(高橋文二)	133
中世文学研究Ⅰ	(村上光徳)	134
近世文学研究Ⅰ	(富士昭雄)	134
近代文学研究Ⅰ	(畑實)	135
比較文学	(満谷マーガレット)	135
児童文学	(山口節子)	136
西洋思想史	(麻生建)	136
演劇概論	(井上理恵)	137
編集実務	(長谷川孝)	137
イギリス文学特講Ⅰ	(石原孝哉)	138
イギリス文学特講Ⅱ	(高野正夫)	138
イギリス文学特講Ⅲ	(岡崎寿一郎)	139
イギリス文学特講Ⅳ	(富士川義之)	139
イギリス文学特講Ⅴ	(高松雄一)	140
イギリス文学特講Ⅵ	(丸小哲雄)	141
アメリカ文学特講Ⅰ	(新倉俊一)	142
アメリカ文学特講Ⅲ	(足田和人)	142
演劇特講(イギリス・アメリカ)	(荒井良雄)	143
時事英語	(サンダース, L. P.)	144
地理思想史	(休講)	
地形学	(小池一之)	145
人口地理学	(大友篤)	145
文化地理学	(小田匡保)	146
応用地理学	(高木正博)	146
現代地理学特論	(長谷川均)	147
日本史特講Ⅶ〔近代〕	(小泉雅弘)	147
東洋史特講Ⅹ〔近・現代〕	(趙軍)	148
考古学特講Ⅲ	(休講)	
日本仏教史Ⅱ	(休講)	
西洋文化史Ⅰ	(佐々木真)	149
日本民俗学	(谷口貢)	150
哲学史	(山口祐弘)	151
歴史哲学	(麻生建)	151
産業・職業社会学	(休講)	

マスコミュニケーション論 (休 講)	
社会福祉発達史 (林 千代)	152
国民所得論 (吉野 紀)	153
日本経済史 (渡辺 新)	154
中小企業論 (三井 逸友)	155
社会政策 (光岡 博美)	157
教育経済論 (谷 敷正光)	158
日本経済論 (工藤 昌宏)	159
アジア経済論 (郭 洋春)	160
中国経済論 (小杉 修二)	161
アメリカ経済論 (瀬戸岡 紘)	162
ロシア・東欧経済論 (山縣 弘志)	164
商業政策 (岩下 弘)	165
マーケティング (曾我 信孝)	166
経営管理論 (百田 義治)	167
労務管理論 (石井 脩二)	168
財務会計論 (遠藤 孝)	169
会計監査論 (飯岡 透)	171
管理会計論 (中原 章吉)	172
原価計算論 (加藤 利安)	173
貿易論 (古沢 紘造)	174
銀行論 (齊藤 正)	175
行政法各論 (齊藤 寿)	176
比較憲法 (休 講)	
親族法 (竹中 智香)	177
相続法 (竹中 智香)	177
西洋法制史 (北野 かほる)	178
英米经济法 (北野 かほる)	179
国際政治学 (岡田 外司博)	180
ヨーロッパ政治史 (小堀 訓男)	181
地方自治法 (浦田 早苗)	181
地方自治法 (富井 幸雄)	182
議会自閉係法 (休 講)	
立法関係論 (前田 英昭)	183
比較政治学 (岩崎 正洋)	184
現代国家論 (大塚 桂)	185
比較憲法 (休 講)	
経営労務論 (鹿嶋 秀晃)	186
国際経営論 (茂垣 広志)	187
商業史 (山田 勝)	188
保険経営論 (石名坂 邦昭)	189
財務會計論 (休 講)	
経営分析論 (片桐 伸夫)	190
税務分會計論 (高木 克己)	191
経営情報論 (高井 徹雄)	192
情報管理論 (西村 和夫)	193
経営統設計論 (長 国強)	194
上代文学講読 (佐原 作美)	195

中 古 文 学 講 読 (鈴 木 裕 子)	195
中 世 文 学 講 読 (藺 部 幹 生)	196
近 世 文 学 講 読 (菅 野 一 雄)	196
近 代 文 学 講 読 (石 割 透)	197
現 代 文 学 講 読 (安 藤 幸 輔)	197
時 事 英 語 (休 講)	
英語演習 I [英語音声の基礎] (アシュエル, T.)	198
応 用 計 測 学 (櫃 尾 英 次)	199

科目名	担当者名	配当学科	単 位
禅学概論	佐藤秀孝	国文・英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

講義のねらい

禅学とは禅に関する学である。禅（禅那）という修行法はインドに発生し、仏教に取り入れられ、中国や朝鮮さらに日本など広範に展開したものである。一概には規定できないが、この講義では禅と禅宗に関する基本的な知識を歴史面と思想面から概説し、あわせてそれら禅学研究のあり方について触れるものである。禅宗は仏教の中でもっとも実践的な宗派であり、中国・日本の歴史と文化に大きな足跡を記し、今日においては国際的関心も高い。この禅を学問的に考察せんとするのが禅学であり、本講義はその概論・概説にほかならない。

はじめにインド仏教における禅（禅定）について触れ、さらに禅の歴史的考察として、菩提達磨に始まる中国禅（禅宗）の基本的な歴史（禅宗史）を禅思想の展開を踏まえつつ概観し、また日本の禅宗にも及びたい。さらに思想面としては、禅の立場、禅の人間観・修行観、禅の生活さらに禅と文化、禅の今日的課題（本覚思想・見性の問題）など、およそ禅に関する諸方面からの概説的考察をなしたい。そして、これらに並行して禅学に関するそれぞれの分野における研究方法や基本的な資料などについても解説するつもりである。

教科書

教科書はとくに指定しないで、その都度、諸資料をコピーなどで配布する。

参考書等

参考書としては駒澤大学仏教学研究室編『宗教学Ⅱ』（更生社）や田中良昭編『禅学研究入門』（大東出版）が有効であろう。

その他

授業方法としては原則として講義方式で行なう。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
中国禅宗史	田中良昭	国文・英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

講義のねらい

本講座は、中国の禅宗の歴史を考察するものである。仏教の実践道とされた禅が中国に伝来し、菩提達磨を初祖とする系統がやがて中国禅宗を形成し、更にそれが独自の展開を果たし、後にチベット、韓国、日本へと伝承された。この中国禅の歴史的展開を、近年出現した敦煌資料を活用しながら検討する。

講義の内容・授業スケジュール

菩提達磨の渡来以前の仏教における禅の状況を序説的に第Ⅰ部とし、達磨の渡来による独特の禅法の開示から、馬祖の洪洲宗、石頭の石頭宗によって禅宗が二宗として確立された中国禅宗の成立を第Ⅱ部とし、禅宗が五家七宗として各々その特性を発揮する唐末・五代から、日本の禅宗の元となった宋朝の禅、更に元代以後の禅という中国禅宗の展開を第Ⅲ部として全体を体系化する。

履修上の留意点

中国・日本の禅学や曹洞宗学を学ぼうとする学生諸君には、その基礎的な知識として歴史的な禅の流れを確かなものにしておくことが、その後の学習にとって最善の方法であると確信している。

成績評価の方法

学年末試験を中心とするが、平常の授業への出席を重視し、その結果を加味して評価する。

教科書

現在適当なものが存在しないので、ノートを使用する。

参考書等

比較的理解しやすいものに、〈講座禅〉第3巻『禅の歴史——中国——』中の柳田聖山稿『中国禅宗史』があるが、入手困難のため図書館を利用されたい。専門書としては、関口真大『禅宗思想史』、柳田聖山『初期禅宗史書の研究』、田中良昭『敦煌禅宗文献の研究』、篠原壽雄・田中良昭編『敦煌仏典と禅』、鈴木哲雄『唐五代禅宗史』、石井修道『宋代禅宗史の研究』等が代表的なものである。

その他

授業の方法は講義であり、ノートを使用し、必要に応じて資料を配布し、内容についての説明を可能な限り詳細に加えていきたい。

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本禅宗史	はら だ ひろ みち 原 田 弘 道	国文・英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

講義のねらい

- 我国に伝来した禅はその主流となって、類型を異にするものが五つあったと考えられる。
- I. 栄西・聖一・法燈等の流派であり、教禅兼修の家風である兼修禅——教乘禅的性格をもったもの。
 - II. 蘭溪・祖元等の来朝した中国僧によって伝えられた鎌倉禅であり、これは禅林の清規によって祖師禅を挙揚した。
 - III. わが国の南浦紹明（大応国師）が入宋求法して松源一派の禅を伝え、純一無雑に祖師禅を挙揚し、大応・大燈・関山の三代に亘って基盤を築いた応燈関の一流である。
 - IV. これらの臨済禅とは別に道元によって伝来され、瑩山に至って、宗団として形成され、その門流によって展開された曹洞禅である。
 - V. 江戸時代に隠元によって伝えられた明朝禅——念仏禅——である。
- 講義ではこれらを中心にして日本禅宗の歴史を考察する。内容は伝来・受容、発展の実態とその思想的意義も明らかにしておく。

講義の内容・授業スケジュール

1. 禅宗の伝来（奈良・平安時代）
2. 兼修禅の勃興とその系譜
3. 曹洞禅の伝来と原始僧団
4. 臨済禅の伝来と形成
5. 五山の成立と五山文学
6. 臨済禅（応・燈・関）の展開
7. 曹洞禅の地方展開
8. 近世の禅宗
9. 近代の禅宗

履修上の留意点

禅の教理、思想の理解、日本史の一般的知識の習得をしておくこと。

成績評価の方法

平常点（出席）と試験による総合評価。

参考書等

『禅の歴史——日本——』（講座禅第四巻）、鈴木泰山『禅宗の地方発展』
荻須純道『中世日本禅宗史』

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
禅 籍 講 読 I	た な か りょう しょう 田 中 良 昭	国文・英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

講義のねらい

この講義は、中国で成立した初期の禅籍（禅宗語録）を講読するものである。本年は、初期の禅籍の内、六祖慧能（638～713）が韶州大梵寺で道俗のために説法した語録とされる『六祖壇経』を読む。『六祖壇経』は、長い年月にわたって数多くの異本が生み出されたが、現存最古のテキストである敦煌本の内、近年その内容が明らかにされた敦煌県博物館所蔵本（敦煌本）を用い、その読解を通じて、初期禅思想、特に南宗禅の特色を明らかにしていきたい。

講義の内容・
授業スケジュール

オリジナルテキストは写本であるが、近年、楊曾文氏の校定本、周紹良氏の影印・校写本が刊行されているので、両者を比較しながら読解を進める。尚、上記校訂本はいずれも白文（かえり点のない漢文）であるが、佐藤悦成氏による訓読と現代語訳が出版されているので、順番に読み下しと解釈してもらい、その上で読み方と内容について詳しい解説を加えていきたい。

履修上の留意点

この講義の履修を通して、原文に触れることの意義を体験し認識していただきたい。

成績評価の方法

平常の当番の際の読解力、出席状況、学年末試験の結果を総合して評価する。

教 科 書

楊曾文校写『敦煌新本・六祖壇経』（上海古籍出版社）、周紹良編著『敦煌写本壇経原本』（文物出版社）の該当部分をコピーして配布する。

参 考 書 等

佐藤悦成和訳『敦煌新本・六祖壇経』（全国曹洞宗青年会事務局）、柳田聖山訳『六祖壇経』（世界の名著）18『禅語録』（中央公論社）、及び〈世界古典文学全集〉36A『禅家語録』I（筑摩書房）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
禅 籍 講 読 III	さ とう ひで たか 佐 藤 秀 孝	国文・英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

講義のねらい

この講義は日本禅宗でも初期の禅籍（禅宗文献）を講読するものであり、それを通して日本の禅宗の特質を考えていくことを目的とする。日本への禅宗の伝来は平安末期から鎌倉時代に始まり、南北朝時代から室町・戦国時代にはその隆盛期を迎えている。ここで初期の日本禅籍というのは、こうした中世禅林に成立したものをその対象としている。

はじめに日本への禅宗の伝来、兼修禅と純粹禅、臨濟宗と曹洞宗の展開とその状況、五山叢林と林下、漢文語録と仮名語法などの問題を概観し、日本禅籍の分類や特徴を講ずる。とくに永平道元（1200～53）や瑩山紹瑾（1264～1325）に始まる曹洞宗の禅籍についてはいくぶん詳しく説明したい。

その後に当該の禅籍を講読するわけであるが、今年『道元禅師語録』をその対象とし、特徴的な上堂語その他を順次に読み進めることにしたい。本書は道元の語録である『道元和尚広録』（『永平広録』とも）10巻を抜粋編集して1巻となした『永平元禅師語録』すなわち『永平略録』のことであり、その編集は道元と同門に当たる南宋の無外義遠（?～1266）によってなされているらしい。その間の事情などを踏まえて本書を精読吟味していきたい。

講義の内容・授業スケジュール

はじめは講義形式で行ない、後半は内容の講読へと進みたい。

履修上の留意点

仮名の『正法眼蔵』と違い、本書は漢文の語録であるので、読解力を増すように努力してもらいたい。

成績評価の方法

平常点（出席率や学習・発表態度）と年度末の定期試験による。

教 科 書

鏡島元隆訳註『道元禅師語録』（講談社学術文庫）700円

参 考 書 等

大久保道舟訳註『道元禅師語録』岩波文庫（岩波書店）520円
 酒井得元訳註『永平元禅師語録』『道元禅師全集』第5巻に所収（春秋社）4,120円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
仏 教 概 論	ひら い しゅん えい 平 井 俊 榮	英 米 文 ・ 地 理 ・ 歴 史 社 会 ・ 福 祉 ・ 心 理 ・ 経 済 商 ・ 経 営 ・ 短 国 ・ 短 英	4

講義のねらい

仏教について基本的な教理を中心に概説する。

講義の内容・
授業スケジュール

次の大綱にしたがって授業をすすめる。

- 序 章 仏教とは何か
- 第1章 仏陀の生涯
- 第2章 仏の本質
- 第3章 法 — 仏教の真理観 —
- 第4章 一切法 — 法の分類 —
- 第5章 輪廻と業の煩惱
- 第6章 悟りへの道
- 第7章 心 — 実践の主体 —
- 第8章 修行者の理想像
- 第9章 戒律と教団の組織
- 第10章 仏教の歴史

履修上の留意点

出欠は随時採る。

成績評価の方法

期末筆記試験の成績により評価

教 科 書

高崎直道著『仏教入門』（東京大学出版会）1,600円（変更あるやも知れず）

参 考 書 等

平川彰著『三国仏教通史』（春秋社）2,575円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
インド仏教文化史	な ら やす あき 奈 良 康 明	国文・英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

講義のねらい

インド仏教を「教理」としてではなく、「文化」としてとらえて、検討したい。ここに「文化」とは生活様式、行動様式としての文化であり、「仏教徒」という社会を構成する人々（出家修行者および在家信者を含む）が、事実として、何を考え、どのように生活していたかをさぐる。したがって、悟りのレベルにある修行や教理、悟りに基づく倫理的生き方などは、無論、仏教である。同時に、功德を積んで良き後生を願う観念や行動、六道輪廻の理解、通過儀礼、祖先崇拜、呪術、祈願儀礼、占星等も仏教徒の生活「文化」である。両者は宗教的レベルと機能を異にするが故に、相互補完の形で共存し、その共存のあり方が興味ある研究対象である。又、インド仏教（徒）はそれを生み、育てたヒンドゥー世界とどうかかわり、如何に位置づけられるか、も興味ある研究テーマである。資料は梵語、パーリ（そして漢訳）語の経・律典と碑文、考古学的遺品等が中心となる。文献学的操作を経て得られた結果は、当時の仏教徒の現実の生活文化と、教学が主張するところとは大きなギャップのあることを示しているし、この構造は中国、韓国、日本ないし東南アジアのテーラヴァーダの仏教文化でも同様である。そして、このギャップこそが仏教（宗教）教団の社会への定着・発展のダイナミズムとしてとらえられるべきものである。

以上の問題意識のもとに今年度は、おおよそ次のテーマにしたがって講義したい。

講義の内容・授業スケジュール

1. 仏教を「文化」としてとらえるとはどういうことか。
「仏教」をどうとらえるか
「文化」とは何か：
仏教（宗教）の二つのレベル：「世間」（自我充足）と出世間（自己凝視）
仏教文化の「表層」と「基層」
仏教文化研究の方法論：M. Spiro, M. Ames, 他
2. 古代インドにおける仏教文化とヒンドゥー文化。
民族宗教としてのヒンドゥー教（世界）
ヒンドゥー教の特徴：神観念・宗派・特定の教義のないこと・ダルマ
カースト・ヴァルナ制度と仏教
古代インドの仏教徒とヒンドゥー教徒の関係（特にカーストをめぐる）
3. 仏教文化における業・輪廻思想の意味。
古代インドにおける業・輪廻思想の成立
業思想の構造と機能（含む 死後世界の構造と機能）
一般的業論の「自覚的業論」への昇華
懺悔の思想と実践
業と果報の関係
業の止滅と改変
4. 功德観念の文化史的発展。
善業と功德（punya）・悪業と悪徳（papa）
「作功德→生天」の図式の倫理的・宗教的意味
功德観念の「出世間レベル」への関係付けないし昇華
功德の廻向（adesana）と廻向（parinamana）
死者儀礼・祖先崇拜儀礼における功德観念
「生天」観念の発展と解脱の関係
5. 「餓鬼」（preta）研究。
ヒンドゥー教におけるプレータと祖霊祭
古代インド仏典にみる「餓鬼世界」の住人としての餓鬼
古代インド仏典にみる死者儀礼と関わる餓鬼
『ペータヴァットゥ』『ヴィマーナヴァットゥ』における餓鬼供養の構造と意味
テーラヴァーダ仏教における餓鬼観念の変遷と儀礼
中国、日本における餓鬼供養の構造と変遷

科目名	担当者名	配当学科	単 位
中国仏教文化史	なが い まさ し 永 井 政 之	国文・英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

講義のねらい

ここでいう「文化」とは、現代の我々が日常的にイメージするそれではなく、「人間の営み」としての文化である。そのような文化を中国の歴史の上で見えていこうとするのが、本講義の主眼となる。言葉をかえていうなら、各時代を通じて中国人と仏教がどのような関係にあったかということになる。

今年度は、主として宋という中央集権国家に組み込まれた「禅宗」が、政治・経済・社会とどのように対応していったかを考える。

本来は「方外」の士であるべきにも関わらず、中国の仏教者は、その当初から国家権力への配慮を余儀なくされる。それが伽藍や教団の盛衰に直結していたからである。このような二律背反の世界を抱えつつも、彼らは仏教の中国的な理解に励み、またその受容に努力する。このことは現代に生きる我々にとってもさまざまな示唆をあたえるのではないか。

成績評価の方法

成績評価は平常点に期末試験の結果を加味する。

教科書

必要なテキストは授業において指示する。またコピーを配布する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日本仏教文化史	はかま や のり あき 袴 谷 憲 昭	国文・英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

講義のねらい

私は日本の「仏教文化」について講義する資格を有しないと自らは思っている。それを私は仏教学部に申し出ているが、私の思うとおりをやって頂いてよい、ということなので、通常の講義と出て出る方は、失望と落胆を味わうことになると思うので遠慮されたい。この授業は講義ではなく、『国体の本義』の批判的な講説を通して、日本における「仏教文化」の問題点を考えていこうという、むしろ演習であると了解されたい。

講義の内容・授業スケジュール

『国体の本義』を冒頭より演習形式で読みすすめる。最初の数時間のみは、本書の成立状況等について講義するが、これが1年間続くのだから、履修登録の際には決して考えないでもらいたい。

履修上の留意点

教科書はもとより関連諸文献を自ら読もうとする者でない限りは履修は無理と思われるので、その点留意されたい。

成績評価の方法

平常点とする。

教科書

『国体の本義』（昭和12年3月、文部省刊）。
もちろん、現物を今求めることは難しいが、図書館には多数所蔵されているので、借り出すかコピーするかして授業には必ず持参してもらいたい。

参考書等

家永三郎『日本文化史』第二版（岩波書店）1982年 600円

袴谷憲昭『法然と明恵——日本仏教思想史序説——』（大蔵出版）1998年 4,800円＋税

科目名	担当者名	配当学科	単位
中国古典語初級	石井公成	国文・英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

講義のねらい

漢文読解の基本的な力と、中国思想の基本的な知識を身につけることを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

基本的な文法から始め、中国仏教に大きな影響を及ぼした『老子』『荘子』『易経』およびそれらの注釈を読む。

履修上の留意点

口頭での訓読、現代語訳、訓読からの漢文の復原など、学生諸君に作業を課しながら講読してゆくため、予習が必要である。

成績評価の方法

試験を行うが、授業中に上記の作業をよく担当している者については、平常点を加算する。

教科書

使用せず、コピーを配布する。

参考書等

教場で指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
中国哲学史	前川亨	国文・英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

講義のねらい

中国人の世界観・人間観・死生観などを歴史的に把握することを目的とする。具体的には儒教・仏教・道教の思想とその相互関係を理解するように努める。その際、東アジアの思想史という広い視野を失わないように心掛けたい。中国人の思考様式、諸思想（宗教）がいかに我々日本人に受け容れられたか、また受け容れられなかったかを考えてみたい。一見抽象的にみえる思想史も、実は我々の現実と深くつながっているのだということを、共に学んでいこうと思っている。

講義の内容・授業スケジュール

受講者の顔ぶれ・関心の方向を勘案して、前年度同様に孔子から始めて唐・宋代に及ぶか、それとも前年度に引き続いて唐・宋代から始めて近・現代に及ぶかを決めたい。いずれにしても、断代史的ではなく、問題史的に進めていくつもりである。受講者はそこから関心のある問題を発見して行ってほしい。

履修上の留意点

中国の思想・宗教・文化など多方面の関心のある諸君の受講を期待する。現代中国語もしくは古典中国語の初歩的な知識をもっていること（持とうという意欲を持っていること）が望ましいが、授業じたいはそれなしでも理解可能であろう。但し当然ながら、本講義内容に関心をもち、継続して出席する意欲を意志を有する者に限る。レポートだけ提出して単位を取得しようなどという安易な気持ちで登録してはならない。

成績評価の方法

授業に関連するレポートを前期・後期に提出してもらおう。それ以外の評価方法も検討したい。

教科書

特に必要としない。

参考書等

授業中に適宜紹介する。

その他

できるだけ多くの情報を提供するため、講義形式をとるが、受講者の皆さんの意見なども聞きながら進めたい。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
上代文学研究Ⅰ	おのの 野 寛 <small>ひろし</small>	禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

万葉集をよむことから、上代文学の特質を考える。

講義の内容・
授業スケジュール

昨年は万葉集巻一をよみ進めて来たが、今年度はその続きを同じく巻一から、名作・問題作を選び、その作品について原文の検討、その訓みの確定、語句の研究、ことばの原義・語法、歴史的・社会的・地理的背景を詳細に調べる。授業は全面的講義方式による。毎時出欠をとる。

履修上の留意点

講義はその都度、新しく調査研究してまとめてゆくものだから、必ず出席して、ひたすらノートをとること。講義でわからないことはそのままにせず、チェックし、メモして、自分で調べてみる。質問も歓迎。

成績評価の方法

学年末の筆記試験（持込一切なし）によって評価する。

教科書

小野寛著『新選万葉集抄』（笠間書院刊）1,600円

科目名	担当者名	配当学科	単 位
中古文学研究Ⅰ	たか 高 橋 ぶん じ	禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大・短英	4

講義のねらい

平安朝の女流文学作品の中に表れた人間観、宗教観、自然観の意味するところを問い尋ね、その文学世界の特質を考える。

履修上の留意点

講義の該当箇所を予習し、そこに出てきている作品の原文を確認しておくことが望ましい。

成績評価の方法

出席の状況、夏休みの課題レポートの提出、期末テストの成績で評価する。

教科書

未定（4月出版予定のものを使用予定）

参考書等

講義時間内に紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
中世文学研究Ⅰ	村上光徳	禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

中世隠者文学について講ずる。隠者とは何か。中世の隠者文学の特色などを考え、西行・長明・兼好・正徹、心敬などの遁世の動機や生き方、物の考え方、さらにそれぞれの作品を読み、自然観、無常観、美意識などを考察する。

講義の内容・授業スケジュール

講義が中心、そのときどきに応じて講読する作品を配布し、西行から一人一人について考えて行く。

成績評価の方法

①筆記試験、②出席状況。

科目名	担当者名	配当学科	単位
近世文学研究Ⅰ	富士昭雄	禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

芭蕉の俳諧紀行の講読を通して、芭蕉の俳諧文学の特質を考察する。

講義の内容・授業スケジュール

『野ざらし紀行』『笈の小文』などを精読して、『おくのほそ道』へ至るまでの俳諧紀行文の成立と展開の諸相について理解を深める。

成績評価の方法

学年末の定期試験で評価するが、出席状況も考慮に入れる。

教科書

プリントを使用する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
近代文学研究 I	はた 実 <small>みのる</small>	禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

明治の末に文壇の中心的存在であった自然主義文学をとりあげる。その当時に出た小説、評論類を考察して日本の自然主義文学の特色をあきらかにすると共に、文壇の主流を占めた理由、およびその限界等を考えていくことを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

前後期とも講義を中心とするが、必要に応じてプリントを配布し小説や評論の一部を読むことにより理解を深めたいと考えている。

成績評価の方法

学年末に試験を行い出席状況等を考慮しながら総合的に評価する。

教科書

使用しない。

参考書等

授業時に随時指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
比較文学	みつたに 満谷マーガレット	禅・仏教・英米文・地理 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短大	4

講義のねらい

文化交流のもっとも重要な手段である翻訳の問題について考えてみたい。明治時代の日本は西欧文化のすべてを「翻訳」しようとしていたといっても過言ではないが、授業では、比較的扱いやすい詩の問題が中心になる。前期では、讚美歌、イギリスの浪漫派、フランスの象徴派の詩人たちやシェークスピアなどが近代日本にどのようにして翻訳されてきたか、作品を精読しながらみていきたい。後期では、逆に日本語の詩（短歌、俳句を含めて）の翻訳問題を焦点にして、十九世紀からの英訳短歌、E. パウンドの英訳謡曲や戦後のハイク・ブームなどをみていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

講義科目ではあるが、授業中、なるべくたくさんテキストを精密に読んでいきたい。教科書はないが、必要に応じてプリントを配る。

成績評価の方法

前期、後期と試験を行う。

教科書

プリント

参考書等

秋山勇造『翻訳の地平』（翰林書房）1995
日本近代思想体系15『翻訳の思想』（岩波書店）1991
西田直敏『「新体詩抄」研究と資料』（翰林書房）1994など

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
児 童 文 学	やまぐちせつこ 山 口 節 子	禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短英	4

講義のねらい

子どもの発見に始まる日本児童文学の流れの中で、リアリズム作品、ファンタジー作品がそれぞれどう描かれてきたかを、具体的作品を通して理解する。特に宮沢賢治の日本的ファンタジー作品については、作品の底を流れる賢治童話のフィロソフィーを共に考え合う。また、ファンタジー作品が今日的状況をのり超える力をもつことを、M. エンデの『モモ』やルグインの『ゲド戦記』などの海外児童文学も含めて読み解く。

講義の内容・授業スケジュール

日本児童文学の成立と展開を年代を追ってリアリズム、ファンタジー作品ごとにとりあげる。今日の現代児童文学の状況と新しい潮流について、作家・作品を具体的にとりあげながら児童文学の流れとこれからの展望を考察する。賢治作品については、人間とは何か、真実とは何か、生きるとは何かといった人間の本質を、作品を通して共に考え合い、生きる力を得る授業としたい。海外児童文学では、テーマ、モチーフ、全体の構成を理解し、ファンタジーのもつ力とは何かに迫る。

履修上の留意点

授業でとりあげる作品は事前に予告するので、必ず読んで授業に臨んでいただきたい。

成績評価の方法

成績評価は、前・後期2回のレポートによる。出席状況や授業態度も考慮に入れる。

教 科 書

授業の際に、事前に紹介する。

参 考 書 等

授業の進行に併せて関連図書を紹介する。

そ の 他

講義を中心に、ビデオなども用いる。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
西 洋 思 想 史	あそうけん 麻 生 建	禅・仏教・英米文・地理 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

講義のねらい

ヨーロッパ人の基本的なものの考え方、さらに思想史という形で何が形成され、求められてきたかを、できるだけ日本との比較の視点から明らかにする。

講義の内容・授業スケジュール

特に言語の問題に焦点を当て、教科書に基づきながら説き明かし、その背景をも考察する。

履修上の留意点

教科書は毎回持参すること。問題を自分なりに整理し直すため、ノートをとることを勧める。講義は連続しているので、可能なかぎり続けて出席するよう努力すること。

成績評価の方法

学年末の試験による。教科書に記述されていることのみが講義の内容ではないから、その都度の講義に留意すること。

教 科 書

麻生建著『ドイツ言語哲学の諸相』（東京大学出版会）3,502円

参 考 書 等

特になし。必要な場合は授業中に指示する。

そ の 他

講義。

科目名	担当者名	配当学科	単位
演劇概論	井上理恵	禅・仏教・英米文・地理 社会・福祉・心理 経済・商・経営・短英	4

講義のねらい

演劇とは何か、演劇学とは何か、について西洋及び日本のこれまでの演劇論を検討しながら考えていく。特に戯曲と演出、俳優、演技の関係、文学と演劇の間に横たわる深く広い大河をいかように収斂すればいいのかについて考察する。

講義の内容・授業スケジュール

演劇史、ドラマトウルギー論、演劇理論史など、ギリシャからフランス、イギリス、ドイツ、そして日本の状況等について比較検討しながら触れることになる。ビデオで舞台に展開される演劇を視聴しながら西洋と日本の演劇の違いつもりである。

履修上の留意点

個別な日本の戯曲を検討する時間はないので個別研究を学びたい者は国文学特講Xを同時に受講されることが望ましい。

また、実際の舞台を見にいったりして批評を書いてもらうつもりでいるから本講座を受講する者は劇場に足を運ぶことを条件としたい。(観劇料3,500~4,500円)

成績評価の方法

レポート(二回、観劇批評含む)とテストによる。

教科書

木下順二『劇的とは』(岩波新書)650円、平田オリザ『演劇入門』(講談社現代新書)640円(必携)

参考書等

毛利三彌『東西演劇の比較』(放送大学教育振興会)

その他

講義形式ではあるが、ビデオ視聴や観劇後に討論をする。

科目名	担当者名	配当学科	単位
編集実務	長谷川孝	禅・仏教・英米文・地理 社会・福祉・心理 経済・商・経営・短英	4

講義のねらい

編集とは、「だれかに——何かを——伝える」という過程に携わる仕事です。つまり「何か」に気づき、その中の意味をとりたて、表現の形を与えて、受け手に引き渡していく、一連の過程が編集という仕事です。そこでは、ものごとの何に目をつけ、何を読みとるのかという「視点(目のつけどころ)」が問われます。この授業では、書籍・新聞・雑誌など印刷媒体の編集を中心に、企画・取材・原稿の整理やレイアウト、原稿づくりなどの、「どう」伝えるのかに必要な知識・技能とともに、「何を・なぜ」伝えるのかを主要なテーマとして、「自分の視点」を育てることを目指したいと考えています。

「だれかに——何かを——伝える」という過程は本来、日常生活や仕事の中でだれもが行っていることでもありますから、編集について考えることは実は、一人ひとりが何をどのように読みとり、どのように伝えて生きているかを考えることだ、とも言えます。現在の情報社会は、多様な情報を主体的に選択し活用できる「よき受信人」であるだけでなく、一人ひとりが情報の発信人になるよう求められていると言われます。こうした観点からも、編集を考えてみることであれば、と思います。個人紙(誌)づくりの課題は、こうしたねらいもあります。

成績評価の方法

B4判2つ折り4ページの個人紙(誌)を課題作品として提出してもらいます。

教科書

教科書は使いません。(随時、プリントを使用)

科目名	担当者名	配当学科	単 位
イギリス文学特講Ⅰ	いし 石 原 孝 哉	禪・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

シェイクスピアを中心にルネッサンス期のイギリス文学を、広くヨーロッパ文学の流れの中で講じる。

講義の内容・授業スケジュール

主としてとりあげる内容は：①神話と文学 ②文学の源流 ③詩・民話・劇 ④ルネッサンスと新学問 ⑤トマス・モアと新しい流れ ⑥エドモンド・スペンサーと『妖精の女王』 ⑦クリストファー・マーロウとヒューマニズム ⑧ウィリアム・シェイクスピアの世界Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ ⑨獄中作家ジョン・バニヤン ⑩ミルトンの世界 ⑪文学とイギリスの文化

履修上の留意点

完全な講義形式で行なうので予習は必要ないが、トマス・モア、エドモンド・スペンサー、クリストファー・マーロウ、ウィリアム・シェイクスピア、ジョン・バニヤン、ジョン・ミルトンなどの主要作品を、読んでいることが前提となる。このため3・4年生の受講を希望する。

成績評価の方法

成績はレポート、期末試験で評価する。

教科書

『シェイクスピア喜劇とロマンスの発展』（三修社）2,000円

参考書等

『同一性の寓話』（法政大学出版局）、その他教場にて指示。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
イギリス文学特講Ⅱ	たか の まさ お 高 野 正 夫	禪・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

18世紀後半までの英詩の世界では、秩序のある洗練された詩が好まれ、自然に対してはそれほど強い関心を持たれなかった。「理性の時代」と呼ばれた18世紀であったからこそ、詩人は秩序を尊び、粗野で洗練されていないものを拒絶したのであろう。その結果として、ある意味では快適で居心地のよい都会が、人の近づき難い荒々しい自然よりも好まれたのである。

もちろん、Dryden や Pope など代表される古典主義的な詩の特徴である洗練された秩序に逆らった詩人もいた。James Thomson のように、人間を研究することなく、自然そのものの素朴な美しさを描いた詩人もいれば、また、Edward Young や Robert Blair そして Thomas Gray などのように、主に「死」を主題として陰うつな詩を書いた墓地派の詩人たちもいた。しかしながら、彼らのほとんどは18世紀の詩の特徴である、不自然で形式的な言葉遣いや技巧から抜け出すことはできなかった。

そして、1798年に William Wordsworth と Samuel Taylor Coleridge によって出版された Lyrical Ballads という、1冊の詩集によってこのような古典主義的で因襲的な詩の流れが大きく変わってしまったのである。いわゆるロマン主義の時代の到来を告げるこの詩集に表現された素朴な言葉や主題は、保守的な批評家たちにとってはまったく受け入れ難い、あまりにも革新的なものであったが、この小さな流れは、その後19世紀の前半まで英詩の主流となっていった。

イギリスの北西部に位置する湖水地方を愛し、そこに住んだこの2人の詩人の中でも、特に自然を愛したのがワーズワスであった。ワーズワスの詩に描かれた美しい、しかし時には厳しい姿を露にする自然をうたった詩や、彼が得意とした、普通の人々の様々な人生の絵模様をうたった物語詩などを中心に読みながら、ワーズワスの詩の世界を見ていくことにする。

履修上の留意点

授業ではよくノートをとること。

教科書

教場にて指示します。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
イギリス文学特講Ⅲ	おか ぎき とし いち ろう 岡 崎 寿 一 郎	禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

おそらく、過去のいかなる瞬間もまた現在であったことの認識をもつことなく「現代」modernityという言葉の感覚を理解することは、むつかしいとおもいます。この認識の方法によって、19・20世紀の英詩について、その現代的な意味を確認します。

講義の内容・授業スケジュール

講義の進行については、前期では、ワーズワス、コールリッジ、バイロン、シェリー、そしてキーツのロマン派詩人たちの詩について、フランス革命・イギリスの産業革命という時代的背景を捨象することなく論究してみたい。後期では、ヴィクトリア朝の時代と詩人たちについて、テニスン、ブラウニング、スウィンバーン、そしてマシュー・アーノルドの詩を検証した後、イギリスの近代文学を拓いたオスカー・ワイルドの詩と批評を出発として、近代詩人イエーツ、エズラ・パウンド、T. S. エリオットの現代詩（モダニズム）、さらにD. H. ロレンスの詩の論究を経て、現代イギリスの詩人たちの詩にと到達したいとおもいます。

成績評価の方法

成績評価については、平常評価としての出席(50%)、前期試験に代わる夏季レポート(25%)、後期試験(25%)による総合評価とします。

教科書

講義では、とくに教科書は指定せず、毎回、対象とした詩人と詩について必要なプリントを配布します。

参考書等

参考書・文献については講義中に適宜言及します。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
イギリス文学特講Ⅳ	ふ じ かわ よし ゆき 富 士 川 義 之	禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

18世紀と19世紀における文学と絵画の関連（いわゆる「^{シスター・アーツ}姉妹芸術」）について、とくに風景画と風景庭園の流行、ピクチャレスク美学の成立、ワーズワスからラスキンやペイター等にいたる文学者たちにおける風景志向等に注目しながら講義する。

講義の内容・授業スケジュール

主として取り上げるのは、理想風景、ピクチャレスク美学、風景の発見、ゲインズボロ、ターナー、コンスタブルなどの風景画家、ワーズワス『序曲』、ラスキンのターナー解釈、ペイターにおける風景と記憶の問題、ワイルドの庭など。

履修上の留意点

講義を中心とし、機器を使って風景画などを見る予定。

成績評価の方法

出席は毎回とる。成績はレポートと試験により評価する。

教科書

必要に応じて、プリントを配布する。

参考書等

教室でその都度指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
イギリス文学特講 V	たか まつ ゆう いち 高 松 雄 一	禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

本講義ではイギリスにおけるモダニズム文学の種々相を考察する。モダニズムとは20世紀の初め、1910年前後に、英米およびアイルランドに出現した若い文学者たち、たとえば小説のジェイムズ・ジョイス、ヴァージア・ウルフ、批評の T. E. ヒューム、詩のエズラ・パウンド、詩と批評の T. S. エリオット、それに年長の詩人イェイツなどが、それぞれの分野で新しい実験的な表現法による作品を生みだし、従来の伝統的な手法を革新した1つの文学運動というべきものである。

彼らはこの運動の存在理由を自らの批評活動によって論理づけ主張することを怠らず、1920年代から40年代の初めまでイギリス文学の主流を占めるに至ったが、今日のいわゆるポストモダニズムの時代にも、有形無形の影響を残していると言っている。

講義の内容・授業スケジュール

この運動は、しかしながら、唐突に生じたのではない。当時の社会的な変動や、19世紀から20世紀にいたる一連の文学的な展開と密接に結びついている。本講義では19世紀初めのロマン主義文学運動、および世紀末の唯美主義批評との関連にも触れながら、モダニズムの特質を明らかにしてゆきたい。ただし主義主張を羅列するのではなく、上記の詩人や作家の作品から適宜抜粋して具体的に読み、分析しながら考察を進める。

教 科 書

講義内容に応じてプリントアウトした作品や批評を読む。

参 考 書 等

高松雄・編『イギリス文学』（放送大学教育振興会）。イギリス文学の流れをつかむのに役立つであろう。

高松雄一編『想像力の変容』（研究社出版）。主としてモダニズム関係の論考を集めたもの。内容は専門的。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
イギリス文学特講Ⅵ	まるこ てつお 丸 小 哲 雄	禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

批評行為は人間の本能です。文学テキストの読みについての論議が必要なのは、やみくもに文学テキストを読んでもそれほど大きな効用がなく、テキストの読み・解釈・批評の交通整理が必要であるからです。テキスト間の相違に折り合いをつける枠組は、いわば作者の「方法」を読みとるためであり、読み手自身のテキストを作ることもあります。その「方法」は一般化、普遍化できるものですが、人間の不合理や不条理を取り扱う文学論はテキストの神秘的な解釈から脱神秘的な解釈へいたる回路を、いかに創り出してゆくかが問題となります。

ですから、初発の読書体験を大切に、主体としての〈持続する〉テキストをどう形成してゆくかを説明し、そこから文学批評方法を修得し確立して、テキストの印象や感想に価値を見出せるようにしてゆきます。とりわけ批評行為は、テキストの読み・解釈・批評の過程にあって、テキストの構造の織り目をゆるめて、テキストの持つ価値や姿勢に対して対立し、そのイデオロギーと対決する最後の機会であり、テキストに対してどのようにして責任をとるかを発見することです。文学批評は個人の嗜好ではなく、集団的な判断の問題になってきますので、本講義は文学批評のさまざまな方法に親しみつつ、テキストの印象や感想に価値を見出せるように講義してゆきます。そのために文学テキスト内部からテキスト外部へどう出てゆくのかの手順を批評的ディスカールとして説明してゆきます。

講義の内容・ 授業スケジュール

テキストの読み方と研究の仕方を覚えるためにさまざまな文学テキストを利用して、レポートを作成してゆきます。従って、テキスト理論とテキスト実践を平行的に作業することになります。

1. 文学テキストの虚構的世界とその必要性について
2. 文学的言語とは何か：日常言語と虚構言語の差異について
3. 文学テキストの機能と力について
4. 英文学研究の成立過程：文学研究制度の問題について
5. 伝統的方法とテキスト演習
6. ロシア・フォルマリズム
7. ニュー・クリティシズムとテキスト演習
8. 受容理論（読者論の立場）
9. 「精神分析批評と原型批評」とテキスト演習
10. 構造主義
11. 記号論
12. 「構造主義と記号論」とテキスト演習
13. ポスト構造主義
14. ニュー・ヒストリシズム
15. 批評精神の遍在性と批評的態度について

成績評価の方法

試験等による成績評価については、平常点50%、前期・後期のターム・ペーパー（レポート作成）50%。クラスでの発表者には別途評価。

教 科 書

『〈持続する〉テキストへの意匠』（英宝社）

参 考 書 等

開講時に読書リストのプリントを配布します。また、読書のための参考書は適宜必要に応じて指示します。

科目名	担当者名	配当学科	単位
アメリカ文学特講Ⅰ	にい くら とし かず 新 倉 俊 一	禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

アメリカにおける近代詩の成立の歴史的状況をふまえて、いかにイギリスとは異なるユニークなアメリカ詩が発展したかを、具体的な作品に即して説明していく。それと併せて、新体詩以来の日本の詩にアメリカ詩が及ぼした影響を取り上げたい。

講義の内容・授業スケジュール

前期は主として19世紀までのアメリカの詩人たちを紹介し、ポー、ホイットマン、エマソン、ディキンソンからロビンスン、フロストまでの作品を対象とする。後期は第一次大戦前後からアメリカ詩に大胆な革新をもたらしたパウンド、エリオット、ウィリアムズ、ステイヴンズ、ムア、カミングズ、ハート・クレインから、第二次大戦後に詩と人間の関係を問い直したロバート・ローエル、ベリマン、スナイダー、ギンズバーグ、プライなどの現代詩人の作品を取り上げる。なお、適宜に、エマソンと北村透谷、ポーと萩原朔太郎、ホイットマンと有島武郎、エリオットと西脇順三郎、それに「荒地」の詩人たちやギンズバーグらのいわゆる「ビート詩人」たちの影響などをふれていきたい。

履修上の留意点

講義を中心とし、適宜、ビデオで詩人の紹介を行う予定。

成績評価の方法

前期はレポート提出。後期は詩の解釈および訳についてテストを行う。

教科書

新倉『アメリカ詩の世界』（大修館書店）1,900円

科目名	担当者名	配当学科	単位
アメリカ文学特講Ⅲ	あし だ かず ひと 足 田 和 人	禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

ロスト・ジェネレーションと呼ばれる作家の短編小説を読み、その特徴を探る。また、歴史的、文学史的背景を考慮に入れながら、彼らの技法を学ぶ。

講義の内容・授業スケジュール

それぞれの作家の作品に目を通しながら、講義を行う。

履修上の留意点

あらかじめ指定された英文テキストを読んでいることを前提に講義を進める。授業中に発言を求められることもあるので、積極的な参加を希望する。

成績評価の方法

毎時間、小レポートを提出してもらい出席とする。加えて、前期・後期あわせて2回のレポートを課し、年間の評価とする。

教科書

『現代アメリカ短編小説選(3)』（南雲堂）

参考書等

必要に応じて紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
演 劇 特 講 (イギリス・アメリカ)	あら い よし お 荒 井 良 雄	禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

イギリス演劇史とアメリカ演劇史を、欧米演劇の原点であるギリシア・ローマ演劇の伝統をはじめ、最近のロンドンやブロードウェイにおける上演や、映画化作品、さらには日本における受容をも視界に入れて講義する。とくに近代劇と現代劇を中心に、ミュージカルも取り上げて、世界中で上演されている英米演劇の特色と魅力を明らかにしたい。

講義の内容・
授業スケジュール

前期はアメリカ演劇を、ユージン・オニールの作品を中心に講義する。後期はバーナード・ショーとノエル・カワードの演劇が中心である。

1. Tragedy and Comedy
2. Eugene O'Neill
3. Lillian Hellman
4. Arthur Miller
5. Tennessee Williams
6. Edward Albee and Sam Shepard
7. Mediaeval Religious Drama
8. Elizabethan Drama
9. William Shakespeare
10. Comedy of Manners
11. Oscar Wilde
12. Maugham, Coward and Rattigan
13. Peter Shaffer
14. Musicals
15. Theatre and Film

履修上の留意点

戯曲を読んだり、舞台を見たり、映画化作品を映画館やビデオで見たりして、英米演劇を積極的に鑑賞したり研究したりするのが好きな学生の受講を期待する。

成績評価の方法

レポートと学年末試験の成績で評価する。

教 科 書

特定の教科書は使用しない。戯曲や参考書は講義の主題毎に紹介する。

参 考 書 等

荒井良雄著『英米文学映画化作品論』（新樹社）2,500円
 太平和登・荒井良雄共著『ブロードウェイ！ブロードウェイ！』（朝日新聞社）1,200円

そ の 他

舞台や映画のビデオや演劇の朗読テープを随時使用する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
時事英語	Sanders, Leonard P. (サンダース, L. P.)	禪・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短国・短放	4

講義のねらい

このクラスでは、様々なマスメディア（ドキュメンタリーフィルム、TV ニュース、雑誌、タブロイドなど）で使われている英語を通じて、表現や文化を学んでいく。
Intertextual Analysis のメソッドで行う。

講義の内容・授業スケジュール

テキストを読み内容を把握し、ビデオを見てエクササイズを行う。後半はディスカッションを行う。

成績評価の方法

年に2回テストを行う。

教科書

長谷川潔、L. P. サンダース著 *ASIAN CROSSROADS* (成美堂)

その他

ビデオを使用する。授業は英語で行う。

科目名	担当者名	配当学科	単位
地形学	小池一之	禅・仏教・国文・英米文 歴史・社会・福祉 心理・経済・商・短大	4

講義のねらい

地形学は、地表の形態とその形成過程を研究する学問で、山がちで変化に富む日本列島には種々の地形が分布している。このため、日本列島は地形研究の上では、世界的にみても好都合な場所である。世界の最先端の研究が多く輩出している。まず、地形学の基礎的な概念から説明し、時に最先端の研究成果や地形変化事変（各種の災害など）にも言及する。

講義の内容・授業スケジュール

年間の授業スケジュールの概要は次の通りである。
1. 地形学の成り立ち、2. 地表を変化させる種々の営力と地形の分類、3. 地表水の働きと地表の変化（マズウェスティング、種々の河成地形、組織地形）、4. 海水の働きと地形、5. 地球内部の力によって形成される地形（火山地形など）、6. 地形発達

履修上の留意点

地理学の中ではかなり理学的（地球科学の1分野でもある）な色彩の強い学問分野である。高校時代に地学を履修していることが望ましい。

成績評価の方法

基本的には、学年末試験の成績で評価する。出席など平常点はあまり加味しない。

教科書

貝塚爽平著『発達史地形学』（東京大学出版会）3,400円＋税

参考書等

貝塚爽平・小池一之ほか編『写真と図でみる地形学』（東京大学出版会）4,532円
小池一之ほか訳『一般地質学Ⅱ』（東京大学出版会）3,708円

その他

授業は講義形式で、最新の情報を知らせるプリント類を多く配布するとともに、スライド、ビデオなどを使用する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
人口地理学	大友篤	禅・仏教・国文・英米文 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

地理学は、地域の特性や機能、地域的關係、地域間の相互作用、地域構造、あるいはこれらの変化を明らかにする学問である。しかし、地域は、地球表面上の一定の広がり（空間）と定義することができるが、きわめて抽象的な実在であるために、上記の諸要素を明かにするためには、地球上に存在している何らかの事象を媒介にすることが必要になる。すなわち、人口地理学は、人口現象を媒介にして、上記の諸要素を明らかにしようとする学問である。したがって、人口地理学の研究にあたっては、まず、人口現象を正しく理解することが必要であり、そのためには、人口学の知識が必要となる。1年間という制約のなかでは、人口学とその知識に基づく人口地理学の2分野の講義はできないので、ここでは、人口学の基礎知識を説明しながら、これまでに人口地理学研究のなかで明らかにされた法則や理論などを平行して説明する。

講義の内容・授業スケジュール

人口構造（基本的構造、社会的構造、文化的構造、経済的構造）、人口動態（出生、死亡）、人口移動（国内移動、国際移動）、人口の地域分布、人口変動と将来予測、人口と資源、人口と環境などの項目について、体系的に説明する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
文化地理学	小田 匡 保	禅・仏教・国文・英米文 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短放	4

講義のねらい

広義の文化地理学は人文地理学とほとんど同じであるが、本講義では狭義の文化地理学に的を絞り、特に宗教地理学の研究例について述べる。

講義の内容・授業スケジュール

1. 文化地理学とその概要
2. 宗教地理学
3. 宗教分布
4. 宗教集落・宗教都市
5. 山岳宗教
6. 巡礼
7. 墓地

成績評価の方法

成績評価は、レポートと試験によって行なう。レポートが提出されない場合は、単位認定は保証できない。

教科書

使用しない。

科目名	担当者名	配当学科	単位
応用地理学	高木 正 博	禅・仏教・国文・英米文 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短放	4

講義のねらい

この科目は、地理学と他の研究分野を視野に入れた学際的なテーマが求められるであろう。講義では「河川」を対象とし、これの専門分野である河川工学や農業水文学などの成果をふまえて、地理学として河川をどのように扱うかを考える。河川は、河道だけでなく流域全体として捉えることを基本とし、流域（地域）の自然とその土地の人々とのかかわりあいを利用・災害・自然環境などの視点から考える。また、ヨーロッパの河川特性・管理などについても紹介する。

講義の内容・授業スケジュール

まず、河川の流出に関する基本特性について水文学的に講ずる。つぎに、いくつかの具体的な河川を事例として、利水・災害・河川環境などの視点からそれぞれの河川特性を考える。また、都市の水環境など、川をめぐる現実的な課題について、その本質を探る。

履修上の留意点

講義が中心になるが、受講者にも意識を持ってもらうため、夏休み中に現地調査を伴う課題を提示する。

成績評価の方法

学年末試験と夏休みのレポートの他、授業中の課題など平常点も加味する。

教科書

授業時間に配布するプリントを使用。

参考書等

高橋 裕『河川工学』（東京大学出版会）その他随時紹介する。

その他

講義中心。事例紹介のためのスライドや OHP、ビデオも使用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
現代地理学特論	はせがわ ひとし 長谷川 均	禅・仏教・国文・英米文 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短放	4

講義のねらい

新聞やテレビで“沖縄”の二文字を目にすることが多い。沖縄県では、本土復帰以降、巨額な資金が注ぎ込まれ、島々の自然がいたるところで痛めつけられている。また最近、本島北部に米軍基地の移転と空港建設を目指した新知事が誕生し、それに伴う自然へのダメージを懸念する声も強い。この講義では、これらの現状とその背景にある沖縄の自然を解説し、地理学の分野で試みられている環境保全の取り組みや新しい調査方法を紹介したい。

講義の内容・授業スケジュール

前期のテーマは「沖縄の自然」「沖縄における土地改変と自然環境の悪化」である。これらは、私が最近興味をもって取り組んでいるテーマでもある。サンゴ礁の自然をとおして、これらの現状を解説したい。地元紙の記事やインターネットで流れている情報なども紹介する予定である。後期は、前期の内容を受け「リモートセンシングデータ」や「地理情報システム」を使って、地球や環境の変化を抽出する方法、地理学への応用例を沖縄での事例を中心に解説する。詳しいスケジュールについては、講義開始時に年間計画表（シラバス）を配布し説明する。

履修上の留意点

講義中の私語、いねむり、教室からの退出は認めない。

成績評価の方法

2回の定期試験結果により評価する。出席し講義をまじめに受けていれば単位取得は容易なはずである。

教科書

使用しない。毎回プリントを配布する。

参考書等

シラバスの付録として参考書のリストを示す予定である。

その他

VTR、スライド、PCによるプレゼンもおこなうが、基本的には講義形式の授業である。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日本史特講Ⅶ 〔近代〕	こいずみ まさひろ 小泉 雅 弘	禅・仏教・国文・英米文 地理・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

近代日本の出発点となった明治維新期の諸問題について講義し、最近の研究動向にも触れながら近代国家の成立について考える。

講義の内容・授業スケジュール

最初に明治維新史の時代区分に関する諸説を検証し、次いで幕藩体制の崩壊から明治国家成立の過程を検討する。その際、必要に応じて史料講読を行いながら授業を進める。具体的には、幕末の政治運動、戊辰戦争、維新政権、民権分離問題、廃藩置県、岩倉使節団と留守政府、明治六年の政変、文明開化、藩閥権力の生成、土族反乱と農民一揆、自由民権運動などを、集団・情報・国民国家といった観点も取り入れながら述べていく。

履修上の留意点

既成の歴史認識にとらわれるのではなく、史料批判や史料解釈などを基礎とした自ら歴史を考える姿勢を身につけてほしい。

成績評価の方法

定期試験により評価し、出席状況を加味する。

教科書

特にないが、必要な資料はコピーして配布する。

参考書等

講義内容に則して、適宜参考文献を紹介したい。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
東洋史特講 X 〔近・現代〕	ちよう 趙 ぐん 軍	禅・仏教・国文・英米文 地理・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

太平洋の東に浮かぶ島国日本の経済生活は、他国との貿易に大きく依存している。特に中国を初めとするアジア各国とは、歴史的にも文化的にも極めて深い関係におかれてきた。本講義は外交・貿易・文化往来などの方面を通して、二千年以上にわたる日本と中国の間の友好と不友好の歴史を概要的に解説し、日本とアジア各国との関係を正しく理解できる知識や教養を深める。

講義の内容・授業スケジュール

近代以前の日中関係史を概要的に紹介し、「西力東漸」以後、とりわけ第1次世界大戦以後の日中関係を具体的に解説する。
主な項目は次の通りである。

1. 近代以前の日中交通史
2. 「日清提携論」と「征亜論」の創生
3. 「アジア連帯」と国権主義の台頭
4. 宮崎滔天と中国
5. 頭山満と中国
6. 辛亥革命・孫文と日本
7. 内田良平と中国
8. 中国の国民革命と日本の対応
9. 「満洲事変」から日中戦争へ
10. 日本の敗戦と台湾との「国交」
11. 政経分離と政経不可分
12. 国交正常化と日中平和友好条約
13. フィーバーと摩擦と
14. 「成熟の時代」
15. 改革開放と「新アジア主義」
16. 日本の対中国政策決定－組織と過程－
17. 真のアジア共生をめざして

履修上の留意点

特になし。

成績評価の方法

学期末にレポートの提出やペーパー試験を行う。試験成績と出席率による総合評価を行いたい。

教科書

- ① 趙軍『大アジア主義と中国』（亜紀書房）1996年
- ② 田中明彦『日中関係 1945-1990』（東京大学出版会）1991年

参考書等

開講時に指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
西 洋 文 化 史 I	さ さ き まこと 佐 々 木 真	禅・仏教・国文・英米文 地理・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

近世末から近代にかけて、ヨーロッパ諸国において戦争や軍隊が有していた意味について講義をする。軍隊のあり方やその機能、国家による戦争の遂行は、近代国家や近代社会の形成に非常に大きな影響を与えており、最近ではそのような視点に立った研究が見られるようになった。本講義では、そのような研究動向をふまえ、フランスを主な題材として、近世から近代への移行において、戦争や軍隊がどのような役割を果たしたのかを考える。

講義の内容・
授業スケジュール

講義のサブテーマとしては、以下のものを考えている。

1. 絶対王政期の軍隊と戦争（戦術の変化、軍隊の実態、軍制改革、王権と戦争）
2. フランス革命と戦争（革命下の軍制改革、兵士と市民的自由）
3. 近代社会と戦争・軍隊（国民化・近代システムと軍隊、国家と軍隊、総力戦体制）

履修上の留意点

授業中に紹介する文献をなるべく多く読み、広い知識を身につけてほしい。

成績評価の方法

成績は学年末に行う筆記試験の成績に、不定期に調査する出席点を加算して判定する。

教 科 書

特に指定しない。

参 考 書 等

参考文献は、授業中に随時紹介するが、主要なものとしては以下のようなものがある。
アルフレート・ファークツ『ミリタリズムの歴史』（福村出版）
山内進『掠奪の法観念史』（東京大学出版会）

そ の 他

授業は講義形式で行う。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 民 俗 学	谷 口 貢 <small>たに ぐち みつぎ</small>	禪・仏教・英米文 地理・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

日本民俗学は世代をこえて伝承されてきた習俗・慣習の考察を通して、日本社会に展開する生活文化を究明する学問である。民俗はよく「民族」と混同されるので注意を要する。本講義は、民俗学をはじめて学ぶ人のための入門編として、基礎的知識をしっかりと把握できるようにしたい。また近年、国際的視野をもった人材の育成が叫ばれているが、真の国際理解の前提には、自国の伝統文化に対する一定の素養をもつことが益々大切になってきている。講義では、こうした点にも配慮していく予定である。

講義の内容・
授業スケジュール

本年度は「日本人の一生」をめぐる民俗文化に焦点をあてながら、生活文化において何が変化し、何が持続しているのかを検証し、われわれの現在の生活のありようを再考していくことしたい。年間の講義予定は以下に掲げるとおりで、各々2回程に分けて行う。

- 第1講 家族と社会
- 第2講 産育儀礼－出産と子育て－
- 第3講 子どもと遊び
- 第4講 若者の民俗文化
- 第5講 成人儀礼
- 第6講 婚姻儀礼
- 第7講 女性の民俗文化
- 第8講 交際と贈答
- 第9講 老人の民俗文化
- 第10講 日本人の霊魂観
- 第11講 葬送儀礼
- 第12講 墓と先祖祭祀

成績評価の方法

夏休みの課題としてレポートの提出を求める。したがって受講者の成績評価は、夏期レポートと学年末の筆記試験の合計をもって行うものとする。

教 科 書

本講義では教科書は使用しない。

参 考 書 等

谷口貢・他編『現代民俗学入門』（吉川弘文館）

科目名	担当者名	配当学科	単 位
哲 学 史	やま ぐち まさ ひろ 山 口 祐 弘	国・英米文・地理 社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

カントを源とするドイツ観念論の諸思想は現代に様々な照明を与えてくれる。今日確実な思索を行おうとするならば、繰り返しそこに立ち返ることが求められ、またその意義は尽きない。だが、その発展を一望のもとに収めることはたやすいことではない。その根本にあった問題は何か、それを駆動してものは何か、が問われねばならない。そうした問題論的展開として捉えた時に、ドイツ観念論は一つの歴史となるのである。本講は、この意味でドイツ観念論に歴史を発見しようとする試みである。カントが提起しかつ後世に残した課題を明らかにし、それが如何なる方向に解決を求めていったかをフィヒテ、シェリング、ヘーゲルを軸として考察する。

参考書等

山口祐弘『カントにおける人間観の探求』『ドイツ観念論における反省理論』（勁草書房）

科目名	担当者名	配当学科	単 位
歴 史 哲 学	あ そう けん 麻 生 建	禅・仏教・国文・英米文 地理・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

「歴史とは何か」、「歴史認識はいかにして可能か」という問題は、単なる歴史学の問題ではなく、広く人文科学一般の問題である。講義は、この二つのテーマを中心に行われる。

講義の内容・授業スケジュール

前半はいわゆる「歴史哲学」の変遷をギリシア時代から19世紀に至るまで概括し、そこで展開された諸問題を検討する。後半は主として歴史認識の問題を解釈学を中心に講義する。教科書として下記のものを使う。

履修上の留意点

前半は純粋な講義の形をとるので、きちんとノートを取り、自分なりに問題を整理する努力をすること。後半は教科書に基づいて行なう。

成績評価の方法

学年末の試験による。

教科書

麻生建著『解釈学』（世界書院）2,500円

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会福祉発達史	はやし 林 千代	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・経済・商 法律・政治・経営・短大	4

講義のねらい

いつの時代にも、人々の生活不安は自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には、常に多くの問題が生じ人々は生活困難におちいった。社会事業は資本主義社会の成立とともに生成した。主に、英国、日本を中心に（部分的に米国にもふれる）社会福祉へ至る歩みを講述する。対象の存在と問題解決の方法、方法の意図や施策の背景をなす社会福祉の思想、その関連等が内容となる。一定の歴史的産物である社会福祉、その本質は何か、その現状は等々を考えるためにこそ、歴史を学ぶ意義がある。

教科書

特になし

参考書等

今岡 他編『社会福祉事業発達史』（ミネルヴァ書房）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
国 民 所 得 論	よしの 吉 野 紀	禪・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法律・政治・経営・短放	4

講義のねらい

わが国は法人企業だけで277万(平成3年)あり、就業者6,400万人のうちの約68%にあたる4,380万人がここで働いている。この生産活動からさまざまな財(商品)やサービスが産出されてくるが、その種類や数量たるや膨大なものとなる。この大きさを1年という単位期間内で集計し、金額表示にしたものが大雑把に言ってGDP(国内総生産)にあたる。生産された財・サービスは、誰かが貨幣を支払って支出・購入してくれるからこそ、また次の年の生産活動を実現可能にしてくれる。その誰かは、一つは4,400万に昇る家計世帯であり、二つには他の企業であり、その他に政府もあり、日本からの輸出を引き受けてくれる海外の購入者であったりもする。ここには、財・サービスの売渡しの見返りにあたる円や外貨で支払われる貨幣の流れがみられる。これを称して経済循環とよぶが、わが国の1年間の規模は平成7暦年のGDPによって483兆円に達すると評価されている。

一つの国民経済を眺めようとするれば、このように大きな集計量と接することが不可欠となる。このことは、数限りない取引が日々結ばれていることを考えればむしろ当然と言えよう。こうした取引関係は複雑に入り込んでおり、その1つ1つを追跡すると、国民経済全体という大きな森の中に迷い込むことにもなりかねない。そこで、森の上に舞い上がって、これらの取引を上空から眺める工夫が生まれてくる。このような視点に立つ経済の分析手法が、巨視的(マクロ)分析とよばれ、経済全体の活動の成果を集計量でとらえようと編み出された国民経済計算の整備とともに発展してきたのである。そこでは、無数の複雑に絡みあった諸取引を、いくつかの類似した性質を共有するグループ(経済主体)毎に分け、それぞれの取引額を記録し、そして経済主体のさまざまな取引相互間の依存関係を説明しようとするところに狙いがさだめられている。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 「国民経済計算の話」……………5回
GDP、GNPなどの経済指標や消費、投資、輸出入などの国民経済全体をとらえる単位を理解することと、さまざまな諸取引間の相互関係を日本経済の循環図を通してとらえることが主題である。
《参考》経済企画庁「平成6年日本経済の循環図」(配布資料)
2. 「総需要・均衡産出量・均衡所得」……………4回
いわゆる単純なケインズ派の所得決定理論が、モデル分析に則って説明され、次の第3講で活躍するIS曲線の基礎理解を得ることが目標となる。このテーマの終了後、練習問題を解くレポートが課せられる。解答は配布され、解説は授業の中で行なわれる。
《参考》中谷巖『入門マクロ経済学』(日本評論社)第3章
3. 「貨幣・利子および同時均衡」……………8回
この段階で貨幣の果たす役割が明示的に導入され、前講までの主題との接合がはかられて、IS曲線とLM曲線を主な武器とする分析が進められてゆく。モデルを用いた説明が中心となるが、日本経済の現況との関連が説明の中に登場する機会も増えてゆくであろう。また、利子率に触れるとき、預貯金の利率に加えて有価証券の利回りにも馴染んでもらうことになるであろう。その他、国家公務員、地方公務員、国税専門官などの専門科目試験の例題を示す事もある。本テーマの終了時にも、簡単な練習問題がレポートの課題として課せられる。正解と解説は授業中で示す。
《参考》伊達邦春(編)『マクロ経済学』(八千代出版)第9章
4. 「金融政策、財政政策」……………4回
前講までの内容が理解できれば、金融政策と財政政策の発動によって、望ましい所得水準を達成するプロセスは比較的容易に理解できるものと思われる。その上で、国内のおよび国際的クラウディング・アウト効果を取り扱われる。アメリカのベトナム戦争時に生じた国内的クラウディング・アウト効果に関するケース・スタディは興味をよぶのであるまいか。
《参考》ドーンブッシュ・フィッシャー『マクロ経済学(上)』(CAP出版)第4章
5. 「労働市場を組み込んだ総需要・総供給分析」……………5回
ここまで扱われてきたのは、財・サービスの市場と貨幣市場であったが、これに労働市場が明示的に組み合わされる。さらに物価の変動が重要なテーマとして加わる。

成績評価の方法

基本的には期末試験による。2回の練習問題に対するレポートは一定の評価対象となりうる。

教科書

R. J. ゴードン『現代マクロエコノミクス(上)』(第6版)(多賀出版)

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日本経済史	わた ^{なべ} 渡 辺 ^{あらた} 新	禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法律・政治・短国・短放	4

講義のねらい

日本経済の歴史的な分析を通じ、第1に日本経済の通史的理解を深め、第2に経済史的な考え方および経済史の基礎的知識を学び、広い意味での歴史認識を養うことを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

主な講義内容は以下の通りであるが、近年の歴史学の研究動向を反映させ、できる限り隣接諸科学（たとえば国家論、地域社会論、女性論など）との接点を探っていききたい。

- ① 日本経済史の課題
- ② 前近代の経済構造
- ③ 日本における原始的蓄積
- ④ 日本における産業革命
- ⑤ 日本帝国主義の構造
- ⑥ 昭和恐慌と戦時統制経済
- ⑦ 戦後改革と高度経済成長

成績評価の方法

筆記試験ないしはレポートによって評価する。

教科書

特に指定しない。

参考書等

その都度指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
中小企業論	みつ い かつ とも 三 井 逸 友	禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法律・政治・経営・短教	4

講義のねらい

「中小企業」を論じるということは、意外に容易ではない。なぜなら、「社会科学的概念」を抽象的に論じるのではなく、慣れ親しんでおり、それなりの「固定観念」や「イメージ」が「言霊」としてつきまとっているのが、日本語の慣用語の一つとしての「チューショーキギョー」だからである。しかしそんな「日用語」を一年もかけて論じようというのがここでのねらいではない。ねらいはむしろ、「中小企業は経済のきわめて重要な (critical) 構成要素である」(クリントン米国大統領) と評される事実を、客観的総合的にとらえ、考えていくことにある。

日本の中小企業はその数約600万、企業の99%、従業者数の80%を占め、製造業中心企業に限っても80万を数え、付加価値の50%以上を生み出している。まさしく、『日本は「中小企業国」だから強い』(森清著、ダイヤモンド社刊) ののである。しかしこのことは、中小企業の地位が安定し、そこに働く人々が十分その成果の恩恵にあずかっていることを示すものではない。中小企業をめぐる格差・不利・経営不安などの「問題状況」も依然広く見られ、長期不況と信用収縮の中でまた、きわめて深刻ともなっている。しかもこのように「期待」と「困難」とが交錯するという事態は、いずれの国でも共通して確認できる。

中小企業をめぐる現実をとくカギを、その役割と直面する問題、そしてこれに対する経済学的な理解の方法を検討し、中小企業の役割・可能性とこれを妨げる諸問題への政策的対応の意味を通じて明らかにしていくのが、この講義のねらいである。

講義の内容・授業スケジュール

第一部 中小企業論の課題と対象、規定と構成、問題状況

ここでは、「中小企業論」の性格と方法を示し、その対象としての中小企業の存在の実態を、国際比較を含めて概観する。その上で、中小企業が直面している問題状況や、中小企業の新生・成長と転廃業・退出の経済的社会的メカニズムを具体的に検討し、「日本の中小企業問題」の位相と今日性を再確認する。

第二部 「中小企業論」研究の理論と方法

ここでは、中小企業の存立と問題性をめぐる従来の理論・研究を振り返り、新たな方法を提起する。「中小企業存立論」「問題論」や「貢献論」だけでなく、今日の「企業家論」、さらに、いわゆる「ベンチャー企業論」や「企業家精神論」、「ポストフォーディズム論」もここでの批判的検討対象である。それらの限界性をふまえて、現代経済における中小企業の「構造論」的位置づけの方法を指摘する。

第三部 中小企業の現代的存在形態と「経済システム」「経済的関係」

ここでは、うへの研究方法にもとづいて、中小企業の存在の実態を構造的に解明する。「下請制」「地場産業産地」「大都市中小工業」などといった、我が国の従来の中小企業群の形成する分業と協働・集団の諸形態の特徴と最近の動向を追う。あわせて、80年代後半以降の、日本企業の「国際化」のもとの、日本の企業間関係と管理手法の「輸出」、「現地化」の示した特徴と限界から、中小企業の存立の普遍的意味をあらためて考える。結合生産力の「効率性」と、競争と統制・管理の原理の貫徹がもたらす「経済的関係」のうちの問題状況・「自立」企業の可能性と経営展開の意義が、基本的視角となる。

第四部 中小企業政策の展開と国際比較

ここでは、「中小企業問題」の展開とこれに対する各国の「中小企業政策」の国際比較研究を行う。ポイントは「生産力的」に成功を収めてきた我が国の「中小企業の近代化政策」の評価であるが、これに対する欧米の政策の相違、そして世界経済の一体化、地域経済圏の形成のもとで、近年の「収斂傾向」を検討し、特に EU 欧州連合ならびに欧州諸国の政策の最新の特徴にふれる。また、我が国についても、近年の「構造転換」対応策、創業促進策、ベンチャー企画支援策なども検討する。

履修上の留意点

中小企業の研究は、ナマの企業の実態から始まるものであり、その意味で現実感覚が大切である。講義の中では、「教科書をなぞる」ようなことはなるべく避け、今日的現実的な話題を重視したいので、教科書くらいは事前に読んでおくようにしてほしい。また、夏休みには補足的資料として、『中小企業白書』を読んでもらい、希望者にはレポートを書いてもらっている。

成績評価の方法

基本的には、他の専門科目同様、学年末定期試験を中心とする。「出席」を取るという空しい作業をするつもりはないが、「出席状況」は加味する。

教科書

三井逸友『現代経済と中小企業』(青木書店) 2,800円 (税抜)
同編『日本の生産システムの評価と展望』(ミネルヴァ書房) (予定)

参考書等

三井『EU 欧州連合と中小企業政策』(白桃書房) 2,300円

巽・佐藤編『新中小企業論を学ぶ新版』（有斐閣）2,200円
中小企業庁編『中小企業白書』[各年次]
中小企業総合研究機構訳編『ヨーロッパ中小企業白書 1997』（同友館）3,500円
佐藤編『21世紀、中小企業はどうなるか』（慶大出版会）2,300円

そ の 他

「講義」形式を基本とするが、企業のナマの現場を理解してもらうため、ビデオ、スライドの上映、「ベンチャー」起業家、企業経営者や行政関係者の方々の話なども取り入れたい。その中で、企業の経営実態、産業動向等についての、担当者の世界各地や全国での最新の見聞も豊富に活用していく。また、諸方面のWEBサイトの提供する情報は（担当者自身のものを含めて）、必須の材料である。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会政策	みつ 光 おか 岡 はく 博 み 美	禅・仏教・国文 英米文・地理・歴史 経営・短国・短放	4

講義のねらい

社会政策とは、資本主義社会で発生する社会問題や労働問題を体制内において解決する思想や政府の政策を意味している。この社会政策という学問は19世紀の中葉に、その当時のヨーロッパでは後進国であったドイツで発生したが、やがて近代化をめざす日本に紹介された。この意味で、戦前から社会政策学は日本の経済学のなかでも重要な位置を占めてきたが、それは戦前日本の経済学がドイツ経済学から大きな影響を受けてきたからであった。

戦後の時代になると、社会問題や労働問題の処理は、政府の政策によってだけではなく、国民の権利を前提にして、その解決が意図されるようになってきた。殊に、労働問題は政府の介入を避け、労使の自主的な団体交渉によって事態に対峙していくという方向に向かった。労働基準法、労働組合法、労働関係調整法といった労働法体系は、このような体制を作り出すために制定された法律だったのである。

このような現実世界の変化は、社会・労働問題へのアプローチの方法として、労使関係論の学問的発達を促すこととなった。戦後の日本においても欧米社会で開拓された労使関係論を吸収し、労使関係をその実態に即して理解しようという研究が大きな影響を及ぼしている。

なお、全体の講義を通じて、その時々社会政策や労働運動・社会運動によってどのような問題が解決され、どのような問題が未解決のまま残されその解決が迫られているのかを考えてみることにする。

講義の内容・授業スケジュール

そこで、上に述べたような社会政策論や労使関係論の動向を視野に置いたうえで、本年度は、次のような講義内容で授業を行うこととした。

- (1) 社会改良の思想と理論
- (2) 労使関係論の思想と理論
- (3) 日本における社会政策・労働問題（戦前）
- (4) 日本における社会政策・労働問題（戦後）
- (5) 戦後日本における労使関係の展開
- (6) 高齢化社会と社会保障
- (7) 日本の労使関係の現実と未来

上にのべた(1)～(7)のテーマについて、各々約3回程度の講義を予定している。しかし、時には、社会政策や労働問題を勉強するための専門書の解説、最近注目されている外国人労働者問題やフェミニズム論、また私が専門的に研究してきた問題なども解説したいと考えている。

履修上の留意点

特にないが、これまでは毎年かなりの数の履修者がいるために教場も比較的大きな教場であった。そのためか、時として後部座席での私語が目立った。教場での私語は慎むこと。また私の講義では黒板をフルに利用するので、受講者はなるべく黒板の近くで聞いてほしい。

成績評価の方法

本年度は前期末に試験を行うか、あるいはレポートの提出を求める。どちらにするかは適当な時期に講義のなかで指示する。年度末試験については2～3週間前の授業で詳しく解説する。成績評価は前期末の試験かレポートと年度末試験の成績による。

教科書

特にないが、講義の内容と関連して参考書を適時指示する予定である。

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育経済論	やしまただみつ 谷 敷 正 光	禅・仏教・国文・英米文 歴史・社会・福祉・心理 法律・政治・経営・短放	4

講義のねらい

この講義は経済発展に産業教育が果たした意義とその役割について明らかにするのがねらいである。

日本は近年、「経済大国」として世界的に認められるようになったが、この発展を築いた基礎に日本の高い教育水準と人材養成があるといわれている。そして欧米各国では経済面での国際競争力の低下が教育水準の低下と密接に関連しているとの観点から日本の産業教育政策を解明するとともに、2000年に向けて一斉に教育改革に着手している。アメリカの「危機に立つ国家」「全米教育サミット」「2000年アメリカ」、イギリスの「教育改革法」「二十一世紀に向けての教育・訓練」、フランスの「ジョスパン法」など各国の改革の中心は厳しい経済競争に勝ち残るための教育水準の向上、教育に市場原理の導入、高等教育の質的充実、教育投資の拡大など教育を「国の最優先課題」と位置づけている。

そこで本年度は、こうした欧米先進国の経済再建と教育改革の動向、日本の現状をまず明らかにする。

次に、外国からは高く評価されている日本の高い教育水準、人材養成教育を戦前は産業資本確立期を中心に、戦後は朝鮮戦争を契機に復興した経済復興期から平成景気までを中心にそれぞれの経済発展段階の特徴とそれに応じた産業界の人材教育要求と国の教育政策、産業教育政策を明らかにしたい。

講義の内容・授業スケジュール

1. 先進国の経済発展と教育
 - (1) 日本の産業化と教育
 - (2) 日本の経済成長と教育
 - (3) 日本の産業高度化と教育
 - (4) 日本の「新高度成長」と教育
 - (5) 日本の人的開発政策
 - (6) レーガン大統領の経済政策と教育 (一部ビデオ)
 - (7) ブッシュ大統領の経済政策と教育 (一部ビデオ)
 - (8) クリントン大統領の経済政策と教育 (一部ビデオ)
 - (9) サッチャー首相の経済政策と教育 (一部ビデオ)
 - (10) メージャー首相の経済政策と教育 (一部ビデオ)
 - (11) プレア首相の経済政策と教育 (一部ビデオ)
2. 戦前日本の経済発展と実業教育政策
 - (12) 学制時代における実業教育政策 1 富国強兵・殖産興業 (映画)
 - (13) 学制時代における実業教育政策 2 学制公布と実業教育
 - (14) 教育令時代における実業教育政策 1 工場払下
 - (15) 教育令時代における実業教育政策 2 教育令公布と実業教育
 - (16) 学校令時代における実業教育政策 1 産業革命
 - (17) 学校令時代における実業教育政策 2 学校令公布と実業教育
 - (18) 実業学校令時代における実業教育政策 実業学校令、専門学校令公布と実務教育
3. 戦後日本の経済発展と産業教育政策
 - (19) 復興期の経済発展と教育 1 (一部ビデオ)
 - (20) 復興期の経済発展と教育 2 産業教育振興法公布 (一部ビデオ)
 - (21) 高度成長第1期の経済発展と教育 (一部ビデオ)
 - (22) 高度成長第2期の経済発展と教育 (一部ビデオ)
 - (23) 高度成長第3期の経済発展と教育 (一部ビデオ)
 - (24) 高度成長終焉後の産業教育

履修上の留意点

- ① 年間5回程度小テストを実施し、平常点とする。
- ② 現実的理解のため視聴覚教室でビデオ・映画を使用する。
- ③ 毎時間、講義用のプリントを配布する。一度配布したプリントは、後の時間では配布しない。
- ④ 毎時間かなり板書するので、黒板が見えにくい人はできるだけ前に着席のこと。

成績評価の方法

授業中の小テストと期末試験の成績によって評価する。

教科書

毎時間、講義の教材として年間30～40枚のプリントを配布するので、教科書は特に使用しない。

参考書等

沼口 博『学校教育と経済発展』(学文社)
 小林泰宏『アメリカで進む教育改革』(朝日新聞社)
 原田和男『ブッシュの米国経済』(日本経済新聞社)
 宮崎正弘『クリントンの日米経済』(銀河出版)
 森嶋通夫『サッチャー時代のイギリス』(岩波新書)
 天野郁夫『教育と近代化』(玉川大学出版部)
 その他、講義の中で適宜紹介するので、興味のある人は読んで講義の参考にして下さい。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日本経済論	工 藤 昌 宏 く どう まさ ひろ	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・法律 政治・短国・短英	4

講義のねらい

第二次大戦後の日本経済と、そこに貫かれる資本主義経済システムの論理を探ることをねらいにします。

講義の内容・授業スケジュール

講義内容は大きく前期と後期に分け、前期は主に50年代後半以降今日までの世界経済の動向とその中で日本経済の位置を確認し、それを通じて日本経済の特殊性と問題点を検出します。具体的には、IMF や世界銀行を重要な装置にしたバクス・アメリカナ体制とその動揺、50年代後半から70年代初頭にかけての高度経済成長過程、石油危機と日本経済、日本経済摩擦の展開、バブル経済とその崩壊などを中心に講義します。

後期は前期の内容を踏まえて、敗戦後の日本経済の基本的枠組みとそれを形成した経済再建過程、朝鮮戦争とその影響、高度経済成長に至る過程を分析します。その中ではとくに経済主体としての個別企業に焦点を当て、その発展とそれを支えた条件を明らかにします。

講義の進め方。

1回ごとにテーマを設定しますが、全体として連続性をもたせませす。また具体例、数値を用いて、日本経済の在り方とそれを担う経済主体の行動に焦点を当てて考察します。

講義の到達目標。

戦後日本経済の推移、基本構造、問題点を捉えることができるように認識を高めるようにします。また新聞などの経済記事の内容についてある程度理解できるようにし、今日の様々な経済現象とその根底にある論理を大筋で捉えることができるようにします。

履修上の留意点

講義は1回ごとに独立したテーマを設定しているので、講義時間に遅れないこと。ノートは確実にとること。

成績評価の方法

前期、後期各1回ずつの試験によって評価します。

教科書

サブ・テキストを含めて、開講時以降、随時紹介します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
ア ジ ア 経 済 論	かく 郭 よう 洋 しゅん 春	禅・仏教・国文・英文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法律・政治・経営・短放	4

講義のねらい

「世界経済の成長のセンター」「開発途上国の優等生」、これらは1980年代に入り急速に成長してきたアジア諸国（特に東・東南アジア）を指して使われた言葉である。

植民地支配解放後、長く低開発に喘いでいた開発途上国の中から登場したこれらアジア諸国は、今や先進国の仲間入り寸前のところまで来ている。しかし、1997年7月以降、アジア各地に波及した通貨・金融危機は、世界経済そのものの根幹を揺るがしている。

一方で、インドネシアの「東チモール問題」、ミャンマーの「民主化問題」、中国の「三峡ダム問題」「南沙諸島、尖閣列島問題」など民族紛争、人権問題、環境破壊、領土問題など冷戦後特に、賦の遺産が噴出しているのもアジア地域なのである。

従って、本講義では急成長を遂げたアジア諸国の経済メカニズムの解明と、その陰に隠れて見落とされがちな負の要因の分析の両面から、アジア経済の実態を明らかにしていく。その際、我々の身の回りから見たアジア、という視点についても触れていきたい。

講義の内容・
授業スケジュール

講義内容は以下の通りであるが、状況に応じて多少の変更はあり得る。

I アジアの台頭

- ①NICsの登場、②NIEsへの転換、③ASEANとは何か、④変貌するASEAN
- ⑤日本に来るアジア人旅行者、

II ダイナミック・アジア

- ①アジアの経済政策、②経済開発に果たした国家の役割、③外資導入とアジアの工業化
- ④日本のODAとアジアの工業化、⑤経済開発の推進母体としての財閥、ビッグ・ビジネス

III 迷走するアジア

- ①アジアの環境破壊、②飢餓と飽食のアジア、③軍事大国化するアジア、④アジアの開発独裁
- ⑤アジアに広がる日本文化

IV 21世紀のアジア

- ①地域経済圏とアジア、②継続するか「成長のセンター」、③アジアは先進国の仲間入りをするのか

履修上の留意点

教員による一方通行的な授業ではなく、応答的授業形態を模索するので、積極的・主体的姿勢で参加すること。授業中は私語・携帯電話類は厳禁。

成績評価の方法

授業中に行う小テストと前期末レポート、学年末試験を合わせた総合評価

教 科 書

郭 洋春『アジア経済論』（中央経済社）3,360円

参 考 書 等

横山正樹・涌井秀行編著『ポスト冷戦とアジア』（中央経済社）3,045円。他は授業中に随時紹介する。

そ の 他

授業方法は講義中心であるが、学生との討論も考えている。また、ビデオを多用し視覚からも授業を理解してもらおうつもりである。

科目名	担当者名	配当学科	単位
中国経済論	小杉修二	禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法律・政治・経営・短放	4

講義のねらい

この講義は中国の長期的動態をとらえる。

現在の中国は対外開放、経済成長と生活の向上の結合、経済改革の試み等、新たな活気がみなぎるようになった。また、企業自主権の拡大、株式会社、個人営業の公認、失業・倒産の制度化、「1国2制度」「6.4天安門事件」等々話題に事欠かない状況である。

本講義ではこのような目前的変化をとらえると同時に、より長い視野と射程で問題を論じることとする。即ち、本講義のキー・ワードは、超大国志向、社会主義、発展途上国である。この三点で中国の長期的動態を論ずる。

講義の内容・授業スケジュール

この講義は3つのキー・ワードで歴史的説明をはかる。

前期授業のはじめに、キーワードを3週間分けて説明する。ここでは、地域研究が本来もっている特徴である、問題のさまざまな面をとらえる、ということと、そのうち比重の大きい側面は何であるかをつかむ、といった点に留意する。特に、私独自の見方である中国の超大国志向について詳しく説明する。

これにつづいて、中国経済の解明に取り組むが、それは一言でいえば歴史的方法をとる。すなわち、中華人民共和国の成立（1949年）から今日までを、3つの特徴的な時期に分けて、(1)ソ連モデル（1949～57年）、(2)毛沢東モデル（1958～78年）、(3)鄧小平モデル（1978～）として、それぞれの時期の特質とその変化の動因を説明する。

このような方法をとるのは、今現在の目先の出来事も何かの方向へ向かって動いている訳だが、その方向というものは、あまり近くで見ているとわかりにくいものだからである。つまり、現在および将来というのは、過去の何らかの延長であると考えからである。それが単純な延長である場合もあろうし、新しい条件に見合った微修正の延長である場合もあろうし、また全く過去の否定的総括に立った転換である場合もあろう。その場合も、過去の何が否定的に総括されたのかを知らねば、将来への延長線は引かれないであろう。そこで歴史的方法をとるわけである。

上記の3つのモデルを超大国志向、社会主義、発展途上国の3つのキー・ワードを軸にして説明していくが、そこでの中国は著しく軍事大国志向、経済成長志向である。世界の他の国々がそのような志向性をもっている中で、また中国が途上国であることからして、やむを得ない面もあるが、世界が環境問題で行き詰まりつつある中で、このような志向性のもつ問題点をも相対化し得る見方をもてるように留意したいと思う。

履修上の留意点

授業の進め方は、教科書に沿った講義とビデオ上映による説明の二本立てで行っている。

教科書は専門家向けに書かれており、自明のことや初歩的なことは書かれていない。したがって、中国経済に全くの初心者であると思われる学部学生に対しては、自明とされていることや、初歩的な知識の説明を補いながら講義を行う。

また、何分にも外国のことなのでイメージがわきにくいといった問題があるので、年に数回、中国関係のビデオを見る。例えば、新日鉄宝山製鉄所、天津の用水路、長春第1自動車工場、江南億元郷、天安門激動の40年等。

成績評価の方法

受験勉強の本質は正解当てクイズである。しかし、このような方法は実社会では通用しない場合が多いし、正解も変わっていく。諸君が物事（中国経済）を自前の頭で理解し判断できるための勉強が高等教育の場である。そのために、無数にいる専門家の意見の比較、優劣判定、取捨選択、時間による検証、といった作業が必要になる。その前提になるのが、各専門家の学説の正確な理解である（学説の受入れとは異なる）。テストは基準となる一つの学説（とりあえず、私の説）の正確な理解ができたかどうかを見るものである。

教科書

小杉修二著『増補 現代中国の国家目的と経済建設——超大国志向・低開発経済・社会主義』（龍溪書舎）4,000円

その他

学習が正解当てクイズに終わるかどうかは諸君の学習意欲にも係わっている。教科書の脚注引用文献や同第5章「諸学説の検討」あるいは授業中にその都度指摘する文献を積極的に読むことを希望する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
アメリカ経済論	瀬戸岡 紘	禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法律・政治・経営・短放	4

講義のねらい

現代のアメリカ経済事情を幅ひろくわかりやすく解説します

最新のアメリカ情報と、過去の私のアメリカ生活および研究活動でのエピソードを多数まじえながら、今日のアメリカ経済事情について、幅ひろく、トータルな解説をするのがこの講義です。それとともに、アメリカのでできごとと関係のふかい世界の情勢を、ひろく検討します。

特別な経済学の予備知識がなくても理解できる授業です

この講義を受講するために特別な経済学の予備知識は必要としません。経済学部以外の学生でも十分に理解できるように、理路整然と、わかりやすく話をすすめます。しかし同時に、アメリカ経済につよい関心をもつ学生諸君には、さらに深めた研究をしていく動機をつかめるような学問的挑発を試みようとも考えています。他方、講義でとりあげるニュースとキーワードは、就職などでの試験を受けようとする者にも役にたつものとなるでしょう。全体として、この講義は、いわゆる専門的な特定領域の探究をこころみるものではなく、奥ふかく興味のつきないアメリカ経済の世界に諸君を道案内するものなのです。

アメリカ経済について自力で学習していく力をつけることが目標です

受講者のみなさんが、アメリカ経済について自分の力で学習研究していくための動機をつかみ、その基礎的能力をつけることが、この講義のねらいです。ビデオの多用とか、資料の過剰な配布などはしませんが、それもむしろ受講者諸君が自力でビデオを活用し資料を収集する力量がつくように指導したいと考えるからです。この講義は、新入生から卒業年度生まで、いずれの学年でも受講できますが、以上にのべたこの講義の性格からして、3年生までを受講することをすすめます。

講義の内容・授業スケジュール

年間をとおしてきくと現代のアメリカ経済の全体の輪郭がわかるように講義を組んでいます。とりあげるテーマには、おおむねつぎのようなものを予定しています。

《導入の話題》

- ◇大統領の今年の経済政策とアメリカ経済の近況

《総論》

- ◇アメリカの建国の理念と現代の経済
- ◇アメリカ経済の歴史的過程

《アメリカ経済各論》

- ◇アメリカの農業
- ◇アメリカの工業
- ◇アメリカの企業家とヴェンチャービジネス
- ◇アメリカの雇用と労働者
- ◇アメリカの商業とサービス
- ◇アメリカの交通・通信・情報
- ◇アメリカの金融
- ◇アメリカの教育と経済
- ◇アメリカの科学技術
- ◇アメリカの先端産業
- ◇アメリカ経済と環境問題
- ◇アメリカ社会とヴォランティア
- ◇女性・マイノリティーとアメリカ経済

《世界とアメリカ》

- ◇国際通貨ドルの地位と IMF
- ◇アメリカと貿易 (GATT と WTO)
- ◇アメリカ軍の世界的ネットワークとその経済的意義
- ◇アメリカの海外援助
- ◇アメリカの多国籍企業
- ◇多国籍企業とアメリカ経済

《アメリカと世界の諸地域》

- ◇アメリカとカナダ・メキシコ
- ◇アメリカとEU
- ◇アメリカと日本
- ◇アメリカとアジア・太平洋
- 《むすびの話題》
- ◇アメリカの経済学（あたらしい学派の見解）

1回の講義でひとつのテーマをとりあげます

原則として1回ごとに独立したひとつのテーマをとりあげ、完結させるように話します。毎回の講義では、まずテーマに即した最新のニュースを話題にするところから話をはじめ、ついでそれぞれのテーマを理解するための基礎的な事実とキーワードを具体的な資料やデータにもとづいて解説します。各講義のしめくりには、受講者諸君との対話を大切にしながらテーマの本質について考えてみます。

あたらしい情報やトピックスを、解説つきで、つねに受講者に紹介します

年間予定とは別に、あたらしいニュースや情報は、随時、解説をつけて、お話しします。ただし、ただあたらしいことを追うばかりにおちいらぬで、ことの真相や本質的なことがらを、ちょっとたちどまって考えることができるような、多少とも理論的な視角をもちこみます。

アメリカの諸大学にみられる長所をとりいれた授業です

講義は、極力、受講者諸君の希望をいかして、たのしくすすめるつもりです。とくに、この講義には、アメリカの大学に見られる望ましい習慣をとりいれるようにこころがけています。たとえば、ながい時間の講義に諸君がつかれて集中力をとおさないように、講義の途中で小休止をおくようにしています。講義のなかでの受講者諸君の発言や質問は大歓迎です。講義にたいする受講者の側からの評価や採点、改善提案などは、もちろん今年も実施します。

成績評価の方法

熱心な受講者には楽勝の、単位だけがほしい学生には恐怖の科目です

この講義については、いわば単位をかすめとることなど考えないほうが無難でしょう。すすんで受講しようとする者には、退屈させない楽しい講義をするつもりですし、また、そういう受講者がよい成績をおさめられるように評価のしかたを工夫しています。すなわち、この講義では、一発の年度末試験よりも、平常点や時間をかけて書きあげたレポートを重視する予定なのです。たとえば、授業で学んだことがらや感想を簡単に記した文章を何回か提出してもらおうことを考えていますし、受講者の希望により、この講義のなかでいただくようになった問題意識をもとにアメリカ経済にかんする自由論題で小論文を年度末に提出してもらい試験に替えることも考えています。今年度も受講者との合意が成立すれば、平常点を考慮にいれつつ小論文を中心に成績評価をすることにしたいと考えています。

教科書

最新の情報をもとに講義をすすめます。だから特定のテキストは使用しません

この講義では、特定の図書を教科書として使用しません。アメリカ経済をあつかった文献はあまりにたくさんあって、しかもどの一冊も、これさえ読めばアメリカ経済が把握できるというほどアメリカ経済は単純ではないからです。講義では、その都度よい文献などを紹介していきます。日々のニュースと諸君の周囲にあるさまざまなアメリカものの本の全体が、この講義の教科書ですが、今、どうしてもといわれれば、グリーンバーグ著『資本主義とアメリカの政治理念』（瀬戸岡訳、青木書店、1994年）をおすすめします。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
ロシア・東欧経済論	やま がた ひろ し 山 縣 弘 志	禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法律・政治・経営・短放	4

講義のねらい

外国経済研究の課題を、その経済事情に通じることという形で、狭く設定する必要はないので、各自の問題意識に引きつけてとらえてもらえばよいが、とりわけ、独特のソ連経済からロシア的・資本主義的・市場経済への転換を、資本主義世界経済のあり方、日本経済のあり方を念頭に置きつつ講義する予定である。その際、ソ連経済史の評価のためには社会主義論の捉え直しが不可欠であり、他方で政策も含めた経済現象の総体を文化的基盤と切り離して論じることではできないから、常に総合的視点と批判精神を伴った受けとめを期待する。

講義の内容・授業スケジュール

ソ連邦が解体し、東欧諸国も再編成されて、一つの歴史的移行過程にあるが、「どこからどこへ？」の問題は必ずしも決着済みではない。この地域が従来の歴史的経緯を背負って今後も多少とも独自の経済圏を形成していくことは確かであろう。

ロシア・東欧圏は、ヨーロッパとアジアにまたがりオリエントと接するユーラシア地域として、独自の、また内部的には多様な文化を醸成してきた。この地域は、帝国主義の時代に入って、第1段階としてロシア革命、第2段階として第2次大戦を契機に社会主義をめざすことになった。そしてその歴史は通例まぎれもない社会主義の歴史として通俗的に理解されてきたが、本来は社会主義の模索として開始されたものであり、社会主義に到達したか否か自体が吟味の対象である。これは同時代史の問いかけに答えるために必要な認識であろう。

社会主義論の歴史的な捉え直しの上に立って、1930年代にソ連邦で形成され40年代に東欧に移植された独特の体制の認識が深まれば、「どこからどこへ？」の問題の第1段階に答える可能性が生まれるであろうし、その第2段階を検討することは、我々の時代の当面している課題を明らかにすることに通じるであろう。

1. 社会主義とロシア革命
 - (1) 社会主義論とマルクス
 - (2) ロシア革命のめざしたもの——レーニン時代——
2. ソ連経済体制の成立とスターリン時代
 - (1) 1920年代から30年代への転換
 - (2) ソ連型「社会主義」の特質と行きづまり
3. 「計画経済」と经济管理システム
 - (1) 「計画経済」の成立と実態
 - (2) ソ連型经济管理システム
4. ソ連経済の生産力水準
 - (1) 経済構造の特質と軍事生産
 - (2) 工業生産力と工業技術
 - (3) 農業問題
5. 停滞からペレストロイカへ
 - (1) 経済改革の時代
 - (2) プレジネフと停滞の時代
 - (3) ペレストロイカとその挫折
6. ロシア・東欧経済の現状と課題
 - (1) ロシア・東欧の文化と社会
 - (2) 資本主義化の諸問題
 - (3) ロシアと日本——比較経済史——

履修上の留意点

トピックスにコメントすることが多いと思われるので、必ずしも授業計画通り、またその全てを網羅して進むとは限らないが、部分から全体を照射するように心がけたい。敢えて挑発的な講義にしたいので、学生諸君にはステレオタイプから脱して自分自身の頭で考えることを期待する。

成績評価の方法

成績評価はレポート（9月提出、40点配点）と定期試験（自筆ノート持込み可、60点配点）によって行う。模範答案等の丸写しは認めない。オリジナリティを評価する。

教科書

教科書はない。参考書は適宜指示する。歴史の見直しが必要とされ、変化の激しい時代に、万全の教科書はありえない。

その他

教科書はないので、授業中にノートを取るのとは当然のことになるだろう。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
商 業 政 策	いわ した ひろし 岩 下 弘	禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法律・政治・経営・短放	4

講義の内容・
授業スケジュール

- 一 わが国の小売商業構造と蓄積構造
 - 1 90年代の小売商業構造
 - 2 80年代の大手小売業の資本蓄積構造
 - 3 90年代の大手小売業の資本蓄積構造
- 二 わが国の流通政策論
 - 1 中小小売商保護政策論
 - 2 流通近代化政策論
 - 3 流通システム化計画論
 - 4 流通革命論
- 三 流通ビジョンと流通政策
 - 1 70年代の流通
 - 2 80年代流通産業ビジョン
 - 3 90年代流通ビジョン
 - 4 21世紀へ向けた流通ビジョン
- 四 わが国の小売商業調整政策の展開過程
 - 1 百貨店法
 - 1) 第一次百貨店法 2) 第二次百貨店法
 - 2 中小小売商業振興法
 - 3 小売商業調整特別措置法
 - 4 大店法
 - 1) 1973年法 2) 1979年改正法
 - 3) 1991年改正法
 - 5 凍結宣言、要綱及び条例
 - 6 通産省による行政指導 = 抑制措置
 - 7 規制緩和
 - 1) 規制緩和の流れ - 前川レポート、行革審報告
 - 2) 日米構造問題協議 3) 適正化措置
 - 8 特定商業集積法
 - 9 街づくりと都市計画
- 五 流通政策の転換
 - 1 大店立地法
 - 2 中心市街地活性化法
- 六 海外の流通政策
 - 1 イギリス
 - 1) 出店調整政策 - 都市・農村計画法
 - 2) 日曜営業問題 - 商店法
 - 2 フランス - ローワイエ法
 - 3 ドイツ - 土地利用計画
 - 4 アメリカ - ゴーニング規制

成績評価の方法

試験、レポート、出席により評価。

教 科 書

岩下弘編『流通国際化と海外の小売業』（白桃書房）2,800円

参 考 書 等

保田芳昭編『日本と欧米の流通政策』（大月書店）2,600円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
マ ー ケ テ ィ ン グ	曾 我 信 孝	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法律・政治・短国・短放	4

講義の内容・
授業スケジュール

- 前期はマーケティングの基本的な政策である4つの政策を現状をふまえながら講義する。その概要は次のとおりである。
 - 製品政策……マーケティングで展開される製品にかかわる政策の内容を説明し、それらが需要創造にどのように作用しているかも同時に説明していく。その内容は、①製品の差別化、②市場の細分化と製品の細分化、③製品のライフサイクルの短縮化と陳腐化政策の関係などである。
 - 価格政策……現代の価格は需要と供給で決定されているとはいえない。また、小売価格は生産原価と必ずしも因果関係があるとはいえなくなっている。一般的には購買環境を前提にして価格は設定されているといっても過言ではない。そのような価格設定がマーケティングの政策のひとつである。そこで、①価格設定の方法、②差別価格と消費者との関係、③価格による消費者支配などを説明する。
 - チャンネル政策……自己製品の流通経路の政策について説明する。企業にとって、自己の製品の特性にあわせて、もっとも合理的な流通経路を選択しようとしている。それにはたんに流通コストの問題だけではなく、販売チャンスや需要創造の問題にもかかわるからである。そこで①商業の排除と系列化、②流通支配の形態、③新業態への対応などを説明する。
 - 促進政策……上記の3つの政策も販売促進政策の効果があるが、それらに含まれない販売促進政策について説明する。その内容は①販売員管理、②広告の方法と実態についてである。
- 後期はマーケティング理論の応用と国際マーケティングについて説明する。とりわけ、日本企業が国際マーケティングを展開するようになった背景を説明し、日本企業の多国籍化の過程について説明する。その内容は次のとおりである。
 - 国際経済環境の変化と日本企業の対応……NAFTA、EUなどブロック経済化に日本企業が現地法人で対応してきた過程を説明する。その内容は①アメリカでの現地化の過程、②EUへの現地化の方法と過程、③日本企業の現地化と総合商社の役割などである。
 - 国内市場の変化と国際化……とりわけ価格志向品の現地生産とその製品の輸入について説明する。その内容は、①日本の規制緩和と製品輸入、②途上国・共産国での現地生産と輸入、③中小企業の現地化と総合商社との関係などである。
 - 日本企業の多国籍化と財務……日本の多くの企業が多国籍化を展開したのは、外的要因によるところが大きい。しかもそれは急速に展開しなければならない状態であった。それを実現できた日本の企業は、膨大な資金調達が可能であったからである。その内容を①資金調達の多様化、②エクイティ・ファイナンスと金利などの面から説明する。
 - 総合商社と国際マーケティング……日本の多国籍企業の典型である総合商社のマーケティングの展開について説明する。これまで総合商社は素材を中心とした貿易業務を主体としてきたが、日本企業を取り巻く環境の変化によっていつそう排除の傾向が強くなってきた。それに対応する政策として、自ら生産や小売部門に進出しマーケティングを展開している。そこで、①総合商社の子会社戦略、②総合商社のマーケティングの特性などについて説明する。

成績評価の方法

定期試験（場合によって小テスト、出席等）によって評価する。定期試験に大きなウエイトをおいていることはいうまでもないが、ここでは講義内容の理解はもちろん、問題に対する自分なりの解決の力と応用力を期待している。

教 科 書

曾我信孝『総合商社とマーケティング』（白桃書房）4,000円

参 考 書 等

必要に応じて紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
経営管理論	ひゃく た よし はる 百 田 義 治	禪・仏教・国文・英米文 地理・社会 福祉・心理・短国	4

講義のねらい

現代企業の経営管理（組織と管理）について、大学生に必要な基礎知識を提供することと、その現代的諸課題の現状と問題点を明らかにすることが一年間の講義を通しての課題です。

講義の内容・ 授業スケジュール

多数の人々の協働体である組織が、さまざまに変化する環境の中で、目的・目標の設定から達成までのプロセスを効率的に運営する活動が経営管理です。したがって、経営管理は、学校や病院や政府諸機関など非営利組織（NPO）、あるいはボランティア活動の組織（NGO）にも必要不可欠な活動です。しかし、現代社会において組織という場合に、企業を除いて組織を語ることはできません。一年間の講義の中では、NPO や NGO の組織の特性や管理の課題についても up-to-date な話題にふれて言及しますが、講義の中心は現代企業の経営管理問題です。

一年間の授業スケジュールは以下の通りです。

前期（4月－7月）は経営管理論の流れを「個人と組織」の問題を中心にフォローし、その現代的意義について考えます。前期の授業の内容は次のような問題です。

- ① 授業ガイダンス（経営管理論では何を学ぶのか？）
 - ② 現代の組織と経営管理（企業の経営管理と NPO・NGO の経営管理は異なるか？）
 - ③ 経営管理論の源流 1：科学的管理法（唯一最善の管理法は存在するか？）
 - ④ 経営管理論の源流 2：管理過程と管理原則（経営管理は学校教育で学べるか？）
 - ⑤ 組織の人間関係（人間の非論理的・非合理的行動とは何か？）
 - ⑥ 現代組織論 1：個人と組織の統合理論（個人の欲求充足と組織目標の達成は両立するか？）
 - ⑦ 現代組織論 2：意思決定論（経営者の意思決定は科学の対象になるか？）
 - ⑧モチベーション論（自己実現とは？勤労意欲は何から生みだされるか？）
 - ⑨ 人的資源管理論（行動科学とは？「労働力」と「人的資源」では何が異なるか？）
- （夏休みの課題）前期の授業についてレポートの提出を求めます。

後期（9月－1月）は現代企業の経営管理の実際（当面する諸問題）を具体的に検討します。

- ⑩ 企業戦略論（現代企業のもっとも重要な経営管理問題とは何か？）
- ⑪ 日本企業の国際競争力（トヨタ・システムはフォード・システムを超えたか？）
- ⑫ グローバリゼーションとジャパナイゼーション（日本的経営は国際的に通用するか？）
- ⑬ 日本企業の国際化（グローバル化とローカル化の両立は可能か？）
- ⑭ 経営管理と情報化 1（企業内・企業間ネットワーク化は経営管理を根本的に変革するか？）
- ⑮ 経営管理と情報化 2（情報化は中間管理職を無用化するか？）
- ⑯ 地球環境問題と経営管理（共生の時代の経営管理に求められるものは何か？）
- ⑰ コーポレート・ガバナンスと企業倫理（経営者の社会的責任とは何か？）
- ⑱ 労働の未来と経営管理の課題（一年間のまとめ）

（学年末試験）

履修上の留意点

新聞・雑誌・ニュースなどを通して現代の企業と経営に関心を持つことが大事です。「なぜ」という疑問がなければ勉強意欲は持続しません。現実の経営管理問題にマークシート方式の解答はありません。すべてが応用問題です。洞察力と問題解決能力も90%は経験と学習です。

成績評価の方法

出席（10%）、小レポート（10%）、夏季レポート（20%）、学年末試験（60%）で総合的に評価します。

教科書

笹川・山下・仲田・渡辺編著『現代の企業経営を学ぶ』（ミネルヴァ書房）1996年
片岡・篠崎・高橋編著『新しい時代と経営学』（ミネルヴァ書房）1998年

参考書等

授業や夏季レポートに関連して随時紹介する。

その他

授業に関する質問などがあれば研究室（第2研究館4階2436：電話03-3418-9345）を気楽に訪ねるか、E-mail（授業で説明）で問い合わせ下さい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
労 務 管 理 論	いし い しゅう じ 石 井 脩 二	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法律・政治・短放	4

講義のねらい

日本企業を取り巻く経営環境は、急激に変化しつつある。国際的にはいわゆる冷戦体制の崩壊の中で、欧州・アメリカ・アジアを中心とする世界三局経済体制への動きを背景に、国際市場で激しく展開される企業間競争は今やメガコンペティションといわれる様相を現出させている。他方、国内に目を向ければ急速に進行する情報技術革命を背景とした産業構造の転換、豊かさを背景とした市場の不透明度の高まり、企業戦略の変化など従来までの経営理念や経営姿勢ではもはや環境変化に対応できない状況が生まれている。さらに近年の日本企業を特徴づける政官財癒着にみられる企業倫理観のない企業犯罪の多発、中高年層のみならず若年層をも巻き込んだ容赦のない人員整理などは、改めて企業とはいかなる存在意義を持つのかという疑問を抱かせるに十分である。このような企業環境の変化や企業の社会的存在意義への疑問は、日本企業がこれからのような方向へ進んでいくのかという「将来展望」を曖昧にしているばかりでなく、その予測をきわめて困難なものにしている。社会の進む方向も企業の将来も極めて透明な時代に必要とされることは、現実生じている様々な動きや事例についての多くの情報を集め、これらの事実情報に基づいて次なる時代の方向性を自分なりに見定めることである。この講義では、日本企業を取り巻く経営環境の変化や日本企業の現実に関する最新の情報に基づきながらこれからの日本企業の動向やそこで労働生活の変化などを経営側からの様々な従業員対策の展開に即して検討しようとするものである。

講義の内容・授業スケジュール

企業は、一般にヒト・モノ・カネ、さらには情報といった有形無形の経営資源を組み合わせ利用することによってその目的とするものを実現する。かつて日本企業が世界市場で強い競争力を発揮し日本経済の豊かさを実現したのは、これら経営資源の中でもヒト資源の活用が巧みであったことによるといわれてきた。このヒト資源の活用に関わる一連の経営活動がこれまで人事労務管理といわれてきたものである。日本企業における人事労務管理こそは、日本的経営の別名でもあり、日本企業の競争力の源泉であったということである。しかし、今日、日本企業の競争力にかげりが見え始めているといわれる。これは、従来まで日本的経営が競争力を発揮する事のできた経営環境が急速に変化していることを反映している。経営環境の変化は、この講義のキーワードの一つである工業化社会から情報化社会への転換ということに他ならない。この講義では、日本企業が工業化社会というモノ作り中心の産業社会で築き上げてきたヒト資源の活用システムすなわち「人事労務管理」が情報化社会という知識創造や情報創造が中心となる産業社会で妥当性を持たなくなり「人材資源管理」という名称に変化していることに注目し、情報化社会でのヒト資源の活用に関わる最近の企業の動きを中心に検討を加える。同時に、ヒト資源に対する新しい活用への企業側の取り組みが従業員側からみたときにどのような結果を生み出すことになるのかも併せて検討する。このような検討を通して、最終的には日本企業の将来を考えるとということにこの講義の焦点がある。以下のような順序に従って進めていく。

- | | |
|--------------------------|---------------|
| 序 章 人事労務管理から人材資源管理へ | 第 5 章 報酬管理 |
| 第 1 章 企業内従業員秩序の編成原理とその変化 | 第 6 章 労働時間管理 |
| 第 2 章 採用管理 | 第 7 章 福利厚生管理 |
| 第 3 章 教育訓練と能力開発 | 第 8 章 女性労働の管理 |
| 第 4 章 昇進管理 | 第 9 章 国際人事 |

成績評価の方法

定期試験のみにて評価。評価の基準は解答内容の論理性と説得力。

教 科 書

現在作成中のため、当面は授業時間中に配布するプリントを中心に行う。

参 考 書 等

津田真澄編著『人事労務管理論』（ミネルヴァ書房）

科目名	担当者名	配当学科	単 位
財務会計論	えん とう たかし 遠 藤 孝	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法律・政治・短大	4

講義のねらい

会計学、とくに企業の活動内容を外部に伝達開示することを目的とする財務会計(FINANCIAL ACCOUNTING)について、その伝達、開示の手段である貸借対照表(BALANCE SHEET)、損益計算書(INCOME STATEMENT)を中心に、その性格、内容、役割について講義する。できるだけ時の実務上の会計問題にひきつけて講義する。例えば、'98年度ではヤオハン、三田工業の粉飾問題。

講義の内容・
授業スケジュール

前 期

- (1) 4月第1週
企業会計、財務会計とは何か。会計学、財務会計論とは何か。その企業会計、財務会計の何を学ぶのか。
- (2) 4月第2週
先週に引続き、企業会計、財務会計とは何か。企業会計、財務会計がわれわれの生活とどのように関係しているのかを中心に講義。
- (3) 5月第1週
財務会計の制度性について。
財務会計制度とは何か。日本の企業会計制度、各国企業会計制度のタイプ。
- (4) 5月第2週
貸借対照表論。貸借対照表とは何か、実際に企業が作成した貸借対照表で説明。貸借対照表の役割、貸借対照表学説。
- (5) 5月第3週
資産評価について。流動資産－棚卸資産の評価、有価証券の評価、現行評価制度の問題点。
- (6) 6月第1週
資産評価について。固定資産の評価、土地評価、減価償却について。
- (7) 6月第2週
繰越資産について。繰延資産の特殊性、繰延資産項目とその償却。
- (8) 6月第3週
引当金について。引当金とは何か。引当金の設定基準－商法、「企業会計原則」の引当金、引当金会計の問題点。
- (9) 6月第4週
同上。
- (10) 7月第1週
資本会計について。

後 期

- (11) 9月第1週
損益計算書とは何か。費用収益の認識。
- (12) 9月第2週
連結財務諸表とは何か。
- (13) 9月第3週
同上。
- (14) 10月第1週
セグメント会計について。
リース会計について。
年金会計、退職給与引当金と年金会計
- (15) 10月第2週
企業内容、会計内容の開示について。
注記 財務諸表附属明細表(書)。
- (16) 10月第3週
同上。
- (17) 10月第4週
財務諸表の監査、商法上の監査。
- (18) 11月第1週
財務諸表の監査、証券取引法上の監査。
「企業会計原則」について。
- (19) 11月第2週
会計の国際化、会計基準の国際的調整。
- (20) 11月第3週

- 同上。
- (21) 11月第4週
日本、世界企業会計の最新動向。
- (22) 12月第1週
同上。
- (23) 12月第2週
会計学を学ぶについて考えるべきこと。パソコン時代の企業会計。総括。
- (24) 最終週
予備。
以上のスケジュールは、学会出張、大学祭など大学の行事によって変更することがある。

履修上の留意点

講義には必ず出席すること。

成績評価の方法

試験による。(前期、後期2回実施の予定)

教科書

遠藤孝他著『会計学』(森山書店)1998年

参考書等

遠藤孝著『引当金会計制度の展開』(森山書店)1998年

その他

授業の方法、教科書、OHP、ときにプリント配布。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
会計監査論	飯岡透	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法律・政治・短放	4

講義のねらい

会計監査の目的は、企業の作成した財務諸表がその企業の財政状態や経営成績を適正に表示しているかどうかについて、監査人が意見を表明することであり、企業規模の拡大、利害関係者の多様化、企業活動の複雑化、一部企業における不正問題の発生などに伴い、近年、その役割はますます重要になってきている。そこで、この講義では、こうした会計監査の発展過程、制度、社会的役割などを中心に会計監査について受講者の理解を深めることを目的としている。

講義の内容・
授業スケジュール

この講義での授業内容とそのスケジュールは次のとおりである。

〔前期〕

- 4月 会計監査の目的と種類
 - (1) 会計監査の目的
 - (2) 会計監査の種類
 - (3) 監査基準の必要性とその構造
- 5月 わが国監査制度の展開
 - (1) 第2次世界大戦前におけるわが国監査制度の展開
 - (2) 第2次世界大戦後におけるわが国監査制度の展開
監査人の要件と責任
 - (1) 監査人の要件
 - (2) 監査人の選任と解任
 - (3) 監査人の職務権限と責任
- 6月 監査要点と監査手続の選択適用
 - (1) 監査要点の意義と種類
 - (2) 通常実施すべき監査手続とその内容
- 7月 監査証拠の種類と内容
 - (1) 監査証拠の意義と分類
 - (2) 十分な監査証拠と合理的な基礎

〔後期〕

- 9月 内部統制と監査リスク
 - (1) 内部統制の構成要素
 - (2) 内部統制の評価
 - (3) 監査リスクと重要性
- 10月 監査計画と組織的監査
 - (1) 監査契約と予備調査
 - (2) 監査計画の目的とその設定
 - (3) 組織的監査の重要性と審査機能の整備
 - (4) 他の監査人の監査結果の利用
- 11月 監査調書の目的と種類
 - (1) 監査調書の目的と作成要件
 - (2) 監査調書の種類と保存
経営者確認書の意義と記載内容
 - (1) 経営者確認書の意義と目的
 - (2) 経営者確認書の記載内容
- 12月 監査報告書と監査概要書
 - (1) 監査報告書の意義と機能
 - (2) 監査報告書の種類
 - (3) 短形式監査報告書の記載内容
 - (4) 特記事項の記載内容
 - (5) 監査概要書の目的と記載内容
- 1月 この講義の総括と年度末試験の説明
なお、以上のスケジュールは、学会出張や大学祭などにより変更することがある。

履修上の留意点

会計監査は、財務諸表の適正性についての意見表明を目的とするものであるから、会計学総論簿記論及び財務会計論の講義を履修し、財務諸表について十分に理解していることが望まれる。

成績評価の方法

成績は、レポート（30%）及び年度末のテスト（70%）の結果によって評価する。

教科書

飯岡・市村・島崎共著『会計監査概論』（中央経済社）3,500円

参考書等

飯岡透著『中間財務情報制度論』（中央経済社）3,800円

科目名	担当者名	配当学科	単位
管理会計論	なか ほん しょう まち 中原 章 吉	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法律・政治・短放	4

講義のねらい

「管理会計」という分野は、多くの人にとって、大学に入って初めてお目にかかるものです。どの分野でも、ある段階に達するまでには、何段もの段階を一段一段昇ってゆかねばなりません。この「管理会計論」は、その二段目にあたる科目です。一段目の科目は「会計学総論」です。「管理会計論」は、企業の「ことば」である会計、その知識体系である会計学の学習に必須な会計学の主要な2領域である「財務会計」と「管理会計」のうちの一つであるということができると思います。「財務会計」が企業の外への「ことば」であるのに対して、「管理会計」は企業の内での「ことば」です。

講義の内容・授業スケジュール

前期は、管理会計の本質、体系その中での「意思決定会計」と「業績管理会計」をキーとして管理会計の基礎的概念を説明すると共に予算管理や原価管理との関連についても講義していきたいと思います。

後期は、管理会計の豊富な各論のなかから、「財務諸表分析」と「付加価値管理会計」をキーとして管理会計の問題点を検討します。「財務諸表分析」については、その企業の健康診断としての役割を、方法とその留意点、収益性の分析、生産性の分析、安全性の分析、総括的方法を内容として説明します。「付加価値管理会計」については、経営計画とくに要員計画と付加価値会計、経営管理のための付加価値生産性を内容として説明します。

履修上の留意点

1年生で「会計学総論」を選択しなかった経済学科の学生は会計学の入門書を読んでおくと思いが理解しやすいと思います。例えば、『企業会計の基礎』（創成社）

教科書

『管理会計論』（税務経理協会）

科目名	担当者名	配当学科	単 位
原 価 計 算 論	かとうとし やす 加 藤 利 安	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法律・政治・短放	4

講義のねらい

19世紀中葉において確立した原価計算は、目的手段体系として、その成立の当初から現在に至るまでさまざまな実践の場から提起され、時代とともに変容する各種の目的に応えることが期待されてきた。わが国の「原価計算基準」は原価計算の果たす目的を5つ列挙している。換言すると、財務諸表作成目的（財務会計目的）と経営管理目的という包括的な2つの目的を達成すべきものとして設定されている。しかしながら、基本的には財務会計的側面に強く傾斜しており、全部原価計算による製品原価の計算に主眼が置かれている。しかし他方において、戦後における原価計算の研究は、その経営管理的利用面において大いに開発されてきている。標準原価計算、直接原価計算そして貢献利益計算等が提唱され、さらに最近に至ってはプロジェクト・プランニングや戦略的な経営管理の計数的技法として関連原価計算や活動基準原価計算が論議されている。このように、一定の時代的、環境的状况の認識の下で、ある特定の社会的役割を果たすべく設定されてきた原価計算制度・「原価計算基準」も、その変容した今日的な経済的、社会的な環境下で、現実的な課題への適合性が問題とされるに至り、原価計算システムの再構築や管理会計基準設定等の提言が数多くみられるようになってきている。それは、「異なる目的には異なる原価計算システム」の開発可能性という様相を表わしている。一定の環境状况の下で、企業経営の現実的課題と関連して計算目的が設定され、目的達成の手段であるとすれば、原価計算の目的手段体系の因果的理解ができるのでないか。このような趣旨で本年度の授業内容は、わが国の原価計算基準を所論展開の中心としながらも、その後展開された各種委員会の研究成果を踏まえつつ、それらを一過性の会計現象として捉え、それをできるだけ系統的に分析し、原価計算の展開過程を論理的に説明することをこころがける。

講義の内容・授業スケジュール

前期では、原価計算の基礎的考察を行う。原価の諸概念の検討や「原価計算基準」設定の意義、そしてその構成上の特質について検討を加える。

後期では、近年における原価計算の展開過程の特徴を「原価計算基準」と関連させながら説明する。そこでは主として、意思決定指向的な原価計算としての関連原価計算、活動基準原価計算について検討を加える。

成績評価の方法

原則として、学年末の定期試験の成績に基づいて評価するが、夏期休暇前の最終授業時において簡単な試験も行う。

教科書

最初の授業時に指示する。

参考書等

授業時に適宜挙げる。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
貿 易 論	ふる さわ こう そう 古 沢 紘 造	禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法律・政治・経営・短放	4

講義のねらい

オゾン層破壊、熱帯林破壊、温暖化、酸性雨、放射能汚染など地球を取り巻く環境はますます深刻になっています。一方、私たち生命体は水・大気・土壌の汚染により生存を脅かされるところまできています。本講義では、こうした危機的状況を踏まえ、生命系の経済学の立場に立って、貿易問題、さらには国際分業のあり方について深く考えてみたいと思います。その中で、経済学、生態学、倫理学からなる総合的視角の重要性を認識しつつ、私たちの生活のありようを問うことにも力を注ぎたい。

生命系の経済学とは、人格をもった人間としてのニーズ、環境、資源、地球のすべての生命との共存、などを基準とした主体的な指標の確立と、それを実現し保証する政策と運動を具体的に提出する経済学です。詳しくはポール・エキンズ編著『生命系の経済学』（御茶の水書房）を読まれるとよいでしょう。

講義の内容・授業スケジュール

- I. 生産・消費と貿易
 1. 農産物と貿易
 2. 水産物と貿易
 3. 林産物と貿易
 4. 鉱物資源と貿易
 5. 工業製品と貿易
- II. 政治・経済・社会と貿易
 1. 開発援助と貿易
 2. 環境と貿易
 3. 公正と貿易
 4. グローバリゼーション
 5. 持続可能な発展と貿易

具体的な内容については、最初の講義のときに話したい。

成績評価の方法

ペーパーテスト、レポート、討論、報告発表など、できれば多面的な評価を試みたい。答案やレポートを書くとき、論点を明確にし、自分の考えをしっかりと出すように努力してもらいたい。思考の跡がうかがえないものは、評価の対象とはならないでしょう。

教科書

とくにこれといった教科書は使いません。専門用語などむずかしいことは、そのつど説明しますので、授業に出てもらえれば内容は充分理解できると思います。

参考書等

講義の中で特に興味をもち、もう少し掘り下げてみたいことがありましたら、遠慮なく相談にきてください。参考になる本など教えます（研究室：第2研究館、4階34号室）。

科目名	担当者名	配当学科	単位
銀行論	さいとう 齋藤 ただし 正	禅・仏教・国文・英米文 地理・社会・福祉・心理 法律・政治・短国・短英	4

講義のねらい

近年、経済の様々な分野で「規制緩和」、すなわち自由化が喧伝され、金融業においても「6大改革」の重要な柱として金融ビックバン構想が展開されている。官僚的規制には様々な問題が指摘できるが、モラルを欠いた「自由化」がそのまま認められることにはならない。とりわけ銀行は、「預金通貨の供給」を通じて経済社会の決済システムを担っており、その安定性（信用秩序の維持）なしには経済社会の安定も達成されないという意味で、他の産業と異なる独自の「社会的責任」が存在する。相次ぐ経営破綻、数々の金融スキャンダル、巨額の不良債権など信用秩序の動揺は、「野放しの自由化」が銀行を収益至上主義に陥らせ、その結果経済社会に対しても多大な否定的な影響を及ぼすことの例証である。また、「堅実で、比較的高賃金」というイメージで、就職先としての人気も高いとされる銀行の職場は現在、自由化の下での競争激化に伴う「経営合理化」によって、サービス残業、苛酷なノルマなど、「長時間・過密労働」がさらに強められるとともに、出向・転籍が常態化し、健康と将来への不安を抱く行員が増えている。

このように銀行を取り巻く状況は内外ともに問題が多いと言わざるをえないが、しかし、銀行は依然として「貨幣の供給」及び決済システムを担う唯一の主体であり、社会的に不可欠の役割を果たしている。それゆえ、今こそ銀行の健全なあり方が強く望まれるのである。

本講義では銀行の基礎理論を踏まえたうえで、戦後の日本経済の展開に果たした銀行の役割を具体的に検証し、今後のあるべき姿を考えてみたい。

講義の内容・授業スケジュール

1) 前期は銀行の基礎理論を中心に講義する。

- ① ここでは古代からすでに存在した「金貸し業者」や「高利貸」と「銀行」との違いがどこにあるのかを検討しながら、「銀行」の基本的機能及び経済社会（メーカー、商社、消費者、さらに国家など）との関連を明らかにする。
- ② 銀行が、一方で預金を受け入れ、他方で貸出を行っていることは広く知られている。だが、銀行は受け入れた預金をそのまま現金で貸し出すわけではなく、受け入れた預金を基礎として、貸し出す際に「信用貨幣」（預金通貨）を創造する。現代社会では、エレクトロニクス技術の進展に伴い、ファームバンキングやホームバンキング、さらには電子マネーといった「キャッシュレス社会」現象がみられるが、それは銀行を頂点とした信用（債権債務）関係の高度な発展であると同時に、返済の確実性を前提に成り立っていることを忘れてはならない。

2) 後期は戦後日本の経済に果たした銀行の役割を、時期毎に検証し、将来の銀行制度の望ましいあり方について検討する。

- ① まず、専門的金融機関制度あるいは分業主義といわれる戦後日本の金融制度の特殊性とそれぞれの専門機関（普通銀行、中小企業金融専門機関、証券会社、保険会社など）の果たした役割の理解を目指す。
- ② 時期区分は、おおまかに高度成長期、スタグフレーション期、自由化以後、とし、欧米の動向も参照しながら、それぞれの時期にどのような「銀行理論」が展開されたのかを併せて紹介する。
- ③ とりわけ、現代の銀行制度が抱えている主要な問題を浮かび上がらせる契機となったのが、80年代後半の「バブル経済」と90年代以後の「バブル崩壊」である。戦後銀行制度の構造的転換という視点からこの時期の諸問題を検証する。
- ④ 以上を通じて現在日本の銀行が抱える問題を理論的にも制度的にも的確にとらえ、金融ビックバン構想について検討を加えながら望ましい銀行制度のあり方についての理解を深めたい。

成績評価の方法

成績は、基本的には前期試験（レポートに変更の場合もありうる）と後期試験によって評価するが、出席状況、授業態度における積極性も十分加味する。また、履修にあたっては、「独自の銀行観」の習得を目指すことを望む。

教科書

教科書は特に指定しないが、最初の講義で紹介する。また、毎回レジメを配布し、それに沿って講義する。

参考書等

- 谷田・野田・久留間編『現代金融の制度と理論』、熊野・龍編『現代日本の金融』いずれも大月書店 1992年。山田・野田編『現代日本の金融』（新日本出版社）1997年
- 日本銀行『新版 わが国の金融制度』

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
行 政 法 各 論	さいとう ひさし 斉藤 寿	福・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・経済・商・経営・短放	4

講義のねらい

「各種行政法原理の究明」

1年間・全体を通して、極めて楽しい雰囲気の中で、各種行政法の法理究明を、興味深く行います。特にこの講義は、生きた行政法を重視しながら行います。

講義の内容・
授業スケジュール

- 第1回 「行政組織法」の概要について。
- 第2回 国家行政組織法について。
- 第3回 内閣法について。
- 第4回 行政官庁について。
- 第5回 府・省・委員会・庁・地方支分部局について。
- 第6回 人事院と会計検査院について。
- 第7回 地方自治法について。
- 第8回 地方公共団体の種類と性質と区域と名称について。
- 第9回 大都市の特例と特別地方公共団体について。
- 第10回 公共組合と営造物法人について。
- 第11回 地方公共団体の議決機関と執行機関について。
- 第12回 地方公共団体の住民の諸権利と事務と権能について。
- 第13回 国と地方公共団体の関係について。
- 第14回 公務員法の概要について。
- 第15回 国家公務員法について。
- 第16回 地方公務員法について。
- 第17回 公物法について。
- 第18回 営造物法について。
- 第19回 「行政作用法」の概要について。
- 第20回 警察法・消防法・防衛法について。
- 第21回 警察行政における五大原則と規制手段について。
- 第22回 統制法について。
- 第23回 公企業法について。
- 第24回 公用負担法について。
- 第25回 公用取用について。
- 第26回 財政法について。
- 第27回 会計法について。
- 第28回 租税法について。
- 第29回 試験

履修上の留意点

※学生への要望

この講義は、楽しくかつ役に立つ講義です。私といっしょになって、「行政法各論」を楽しく研究してみませんか。

— 私が、みなさんを、「水飲み場」へ、ご案内します。

目には火を、顔には光をいだいて、ついてきて下さい。

Rouse up, O, Young Men of the New Age! (目覚めよ、新時代の若者たちよ!) —との、イギリスの詩人、ウィリアム・ブレイクの叫びを、この際、みなさんに送らしましょう。

成績評価の方法

試験の成績とレポートの成績を合わせて、学年の成績とします。

教 科 書

拙著の中から、講義の際、選択・指示します。

科目名	担当者名	配当学科	単位
親族法	たけなかちか 竹中智香	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・経済・商 政治・経営・短大	4

講義のねらい

民法典第四編にあたる「親族法」の講義を行う。親族法は最も身近な家族生活を規制する部分であることから、民法の他の部分に比べて、初めて法律を勉強する者にとっても取り組みやすいと思われる。本講義では、家族という身近な問題の検討を通して民法になじみ、法的な視点・考え方を身につけることを目指す。

講義の内容・授業スケジュール

親族法の講義ではあるが、民法の初学者にとってわかりやすい私法入門であることも目指したい。民法の中でも親族法は、家族生活を規制する法律であるために、財産法の領域と異なる特徴を有している。この相違と親族法の特徴、さらに欧米家族法と比較したときのわが国の親族法の特徴を示しつつ、親族・婚姻・離婚・親子・親権・後見・扶養について順次論説していく。また、親族法に関する今日的な問題にも、できる限り触れたい。

履修上の留意点

教科書を読んだうえで講義に出席することが望ましい。

成績評価の方法

おもに定期試験によって成績を評価するが、出席状況などの平常点も加味する。

教科書

遠藤浩ほか編『民法(8)親族〔第4版〕』（有斐閣双書）1,648円

参考書等

久貴忠彦・米倉明編『家族法判例百選〔第5版〕』（有斐閣）2,200円

科目名	担当者名	配当学科	単位
相続法	たけなかちか 竹中智香	禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・政治・経営・短大	4

講義のねらい

民法典第五編にあたる「相続法」の講義を行う。わが国の相続法は、戦前の家督相続から戦後の均分共同相続へと変遷し、さらに今日においては遺言制度の利用も増加するなど、大きく変化している。本講義では、こうした動向とその背景の理解とともに、財産法の応用問題といわれるほど難解な相続法の理解を図りたい。

講義の内容・授業スケジュール

わが国の相続法の変遷とその背景を検討したうえで、相続人・相続の効力・相続の承認および放棄・財産の分離・相続人の不存在・遺言・遺留分について、順次論説していく。

履修上の留意点

教科書を読んだうえで講義に出席することが望ましい。

成績評価の方法

おもに定期試験によって成績を評価するが、出席状況などの平常点も加味する。

教科書

遠藤浩ほか編『民法(9)相続〔第4版〕』（有斐閣双書）1,648円

参考書等

久貴忠彦・米倉明編『家族法判例百選〔第5版〕』（有斐閣）2,200円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
西 洋 法 制 史	きたの 北 野 かほる	禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短国・短英	4

講義のねらい

イギリスの法制度の歴史を、社会の法的構造と国家統治機構のかかわりを軸に解説する。イギリスの法制度の歴史を、特に注目される法的現象を挙げながら、各時代毎の法制度の全般的特徴と、基本的社会・政治構造との関連について考察する。

講義の内容・
授業スケジュール

- 第1部 総論
 - 第1章 法制史学概説
 - 第1節 法制史学の方法と対象
 - 第2節 法制史学の目的と効用
 - 第3節 イングランド法制史学の対象と方法
 - 第2章 イギリス歴史学の基本的知識
 - 第1節 時間的範囲
 - 第2節 空間的範囲
- 第2部 イングランド法制史
 - 第1章 古代
 - 第1節 歴史過程
 - 第2節 社会構造
 - 第3節 法構造
 - 第2章 中世 (1066-1350)
 - 第1節 歴史過程
 - 第2節 社会構造Ⅰ 中世ヨーロッパの封建制
 - 第3節 社会構造Ⅱ イングランドの封建制
 - 第4節 統治構造 封建制の解体
 - 第3章 近世 (1350-1650)
 - 第1節 歴史過程
 - 第2節 社会構造
 - 第3節 統治構造
 - 第4節 法構造

履修上の留意点

講義中の私語・騒音は厳しく規制する。予め十分留意すること。

成績評価の方法

論文式筆記試験 (後期試験期間・年1回)

教 科 書

特に指定しない。

参 考 書 等

年度当初に指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
英 米 法	きたの 北 野 かほる	禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短国・短英	4

講義のねらい

近現代法治国家の主要法系のひとつである英米法系について、日本法を含む大陸法系と比較しての基本的特徴を概観し、その主要な理由をなすと考えられる。法形成における裁判の意味について、司法機構と判例法を中心に考察する。

講義の内容・
授業スケジュール

- 第1編 概論
 - 第1章 法系論
 - 第1節 西洋近代法の法系
 - 第2節 英米法系の特色
 - 第2章 英米法の特徴
 - 第1節 法内容の歴史性
 - 第2節 法観念の社会性
 - 第3節 法思考の実務性
 - 第3章 判例法の理論
 - 第1節 総論：「判例法主義」
 - 第2節 先例拘束性の原理
 - 第3節 判決における「法」
 - 第4節 法形成作用
- 第2編 司法制度
 - 第1章 裁判所制度
 - 第1節 イギリス
 - 第2節 アメリカ合衆国
 - 第2章 訴訟過程
 - 第1節 英米訴訟制度の特徴
 - 第2節 陪審

履修上の留意点

講義中の私語・騒音は厳しく規制する。予め十分留意すること。

成績評価の方法

論文式筆記試験（後期試験期間・年1回）

教科書

特に指定しない。

参考書等

望月礼二郎『英米法（改訂第二版）』（青林書院）現代法律学全集55 5,150円
その他の参考書：年度当初に指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 済 法	おか だ と し ひろ 岡 田 外 司 博	禅・仏教・国文・英米文 地 理 ・ 歴 史 ・ 社 会 福 祉 ・ 心 理 ・ 経 営 ・ 短 放	4

講義のねらい

独占禁止法は、企業の経済活動に関する世界共通のルールとしてますます重要になりつつあるのみならず、実は私達の生活にも深く関わっている。ところが、独占禁止法の条文を見ると、一般になじみのうすい抽象的な用語が並んでいて難解であり、その理解は決して容易ではない。そこで、本講義では、最初数回は理論的問題にも触れるが、その後は独禁法の規制の内容とその実際の解釈運用について、具体的事例を多くふまえてできるだけわかりやすく解説することを目標にしたいと考えている。

講義の内容・
授業スケジュール

講義は2回に1枚プリントを配布し、そのプリントに書かれた設問にこちらの方で答えて行くという方法をとる。

履修上の留意点

プリントを受け取らずに講義を聴いても意味がないので、出席は取らないが、講義に出席して少なくともプリントを受け取ることを勧める。

成績評価の方法

試験（後期1回のみ）によって判定する。

参 考 書 等

初回の講義の時に紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
国際政治学	こぼりのお 堀 訓 男	禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理・経済 商・法律・経営・短国・短英	4

講義のねらい

国際社会に展開する政治現象を、政治学的アプローチで論及し、国際政治の本質を理解することが、本講義のねらいである。

前期の講義は、国際政治とは、いかなるものか、分かり易く概説する。具体的には、国家、権力、民族、階級、国際政治における権力と道義、国内政治と国際政治等をテーマに“国際政治の本質”について考察する。つぎに、より理解を深めるために、“国際政治の基調”と題して、国際政治が展開し、現在に至るまでの、各時代の国際政治の基調を、歴史的に概観する。

後期では、“国際政治の問題”と題して、冷戦後の国際政治、ナショナリズム、地域的安全保障、エネルギーと環境問題、国連の使命と限界、地域統合と国家の役割の変化等の、国際政治学が取り組むべき課題を、理論的かつ実証的に解明しながら、受講生と共に考えたい。

履修上の留意点

講義のテーマ、内容については予告する。受講生は、必ず予習をして、講義に出ること。基本的な知識については、共通の理解を徹底したいので、全員で討論しながら授業をすすめたい。よって、積極的な参加を求める。

成績評価の方法

1年間に数回程度、授業中に30分のショートテストを実施する。これは講義の理解の程度を知るためであるが、このテストの評価を30%とし、定期試験を70%の評価とする。

教科書

必要に応じて講義のなかで紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
ヨーロッパ政治史	うらたさな 浦 田 早 苗	禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・法律・経営・短放	4

講義のねらい

現代西ヨーロッパの政治は、そこから多くのことを学んできた我々の先達が描いたほど理想的な状態で機能しているわけではなく、数々の矛盾にみちている。自由、平等の精神なり、『華やかなりし議会政治』の概念は、激動の現代政治のなかにあっては時として空虚な響きを投げかけてくることは否定できない。しかし、国家や政党、国民や民族といった西洋で生まれた近代政治の概念に再検討が迫られている今ほど、そうした概念の本質を成立した歴史過程のなかで考察することの重要性が問われたときはなかった。本講義では、近代ヨーロッパの歴史全般を概説しながら、ヨーロッパが抱える問題の本質を明らかにすること及び、現代政治を誤りなく把握する上で必要な基礎概念を検討することに視点がおかれている。

講義の内容・授業スケジュール

- 近代の始点—ルネサンス期と18世紀
- 英国革命とIRA
- ジャコバイトと英国王室
- 議院内閣制の成立変遷過程
- 英国における政治腐敗防止過程
- フランス革命と国家の概念
- フランス政治におけるジャコバン主義
- 「後発国型近代化」の問題点—ドイツの場合—
- 統合ヨーロッパの源流

成績評価の方法

前期レポート 7～8×400字 は任意ではあるが、年5～6回との出席点とともに学年末試験に加算する。試験はあらかじめ指示した5問から2題出題する。(ノートの持ち込みは不可)

教科書

特に教科書は指定しないが、さらに詳細な研究を望む学生には適宜参考書を推薦する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
地 方 自 治 法	とみ い ゆき お 富 井 幸 雄	禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短国・短放	4

講義のねらい

日本国憲法下における地方自治の法制度を体系的に理解する。すなわち、昭和22年に制定された地方自治法が具体的にいかなる意味をもち現実化されているか、憲法の意図する地方自治の理念がそこに具体化されているかを批判的に検討する。その際、現在進行している地方分権推進のシナリオは参考になる。

講義の内容・
授業スケジュール

地方自治法の体系に沿って講義を行う。前期は、憲法と地方制度の関係を比較法的ならびに歴史的に考察を行った後、地方公共団体の概念、住民の地位、自治立法権について議論を行う。後期は、地方公共団体の事務、組織、財政、地方公務員制度について勉強する。

成績評価の方法

前期試験（40％）と学年末試験（60％）で総合的に評価する。なお、出席は適宜とする予定である。単位認定のとき考慮することがある。

教 科 書

南博方他『行政法(3)（第3版）』（有斐閣双書）1,800円

参 考 書 等

原田尚彦『地方自治の法としくみ』（学陽書房）。『地方自治判例百選（第2版）』（別冊ジュリスト）

なお制度の概要を大まかに理解するには、鈴木正明他『図解 地方自治法』（良書普及会）は便利。地方自治の制度的問題を勉強するには、新藤宗幸『地方自治』（岩波書店）、同他『概説日本の地方自治』（東京大学出版会）は必読。

そ の 他

講義では頻繁に法律の条文に言及するので、六法（『地方自治小六法』（学陽書房）があるがポケット六法でよい。）は必携。その都度チェックすること。憲法や行政法の履修者が望ましいが、少なくとも両法分野について高い関心を持つこと。わからないことは遠慮なく質問に来て欲しい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
立 法 過 程 論	まえ だ ひで あき 前 田 英 昭	禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理・経済 商・法律・経営・短国・短英	4

講義のねらい

法律はどのような経過を経て、どのような人々の手によって、どのようにつくられるのかを勉強することによって、法律、政令、条例などの法令の起案の仕方や、社会生活において必要とされる規則のつくり方に習熟し、法令や規則の理解を容易にすることを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

立法過程とは、立法を中心に議会でのさまざまな決定をめぐって繰り返される議会内外諸勢力の公式・非公式の相互作用の実質的な過程であり、狭義には、議会内部での法律制定に関する立法手続の諸過程をさす。今年度は、後者を主として対象とする。
[取り上げるテーマ] 立法過程とは。国会における審議過程。立法過程における政府の役割。立法過程における議員の役割。内閣提出法律案。議員提出法律案。内閣法制局と議院法制局。常任委員会制。法律の体裁と用語の解説。法律・政令・条例。政府委員。審議会。会議制。会議の公開。委任立法（行政立法）。法律と予算。法律の公布・施行。その他サッカーくじ法など個別法案。（順不同）

履修上の留意点

この講義は、公務員志望の学生、立法機関としての国会や地方議会に関心のある学生向きである。できるだけ出席して国会職員としての経験談も聞き講義のテーマに関連した時事問題の解説にも注目すること。

成績評価の方法

平常点と期末試験（ノート持ち込み可）

教 科 書

前田英昭『国会の立法活動』（信山社）

参 考 書 等

小島和夫『法律のできるまで』（日本評論社）
浅野一郎『立法過程』（ぎょうせい）
前田英昭『国会の100年』（原書房）
岩井泰信『立法過程』（東大出版会）
林修三『法令用語の常識』（日本評論社）
中村陸男・前田英昭『立法過程の研究』（信山社）近刊

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
比 較 政 治 学	いわさきまさひろ 岩崎正洋	禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理・経済 商・法律・経営・短国・短英	4

講義のねらい

この科目で取り扱うテーマは、現代世界の民主主義諸国の政治に関する問題を、現代の比較政治学の理論の観点から検討することである。科目名は、「比較政治学」であるが、広義に捉えれば、「現代政治分析論」ということもできよう。

本講義では、比較政治学の基本的な理論の検討を通して、「比較政治学は現実政治を考える上でどのように役立つのか」という点を考える。比較政治学が研究対象とするのは、世界のあらゆる国々である。それ故、焦点を向けるのは、先進諸国だけではなく、また発展途上国だけだといえるのではない。先進国同士を比較することもあれば、発展途上国同士を比較することもある。さらには、先進国と発展途上国との比較を行うこともある。

本講義では、各国の政治現象を説明するさまざまな議論に言及し、現実政治の理解と政治理論の理解との間を架橋することを目的とする。この講義でとり上げる比較政治学の諸理論は、各国の政治の類似点や相違点を明らかにするための視点を提供することになるだろう。

講義の内容・授業スケジュール

以下のような項目に従って、比較政治学の理論を広範に見渡し、現実政治が政治理論によってどのように説明され、捉えられているのかを明らかにする。それにより、現実政治と政治理論との間の橋渡しを行うこととする。

- I 比較政治学の課題と方法
- II 政治システム
- III 政治発展
- IV 政治文化
- V 政治体制
- VI 連立政権
- VII コーポラティズム
- VIII 福祉国家
- IX 民主化
- X 政党システム

なお内容・スケジュールについては、現実政治の変動を受けて、若干変更することもあるので、その点に留意されたい。

履修上の留意点

この科目のみが学部内の政治学に関連する科目として独立して存在するのではないため、関連分野の他の科目と併せて履修することが望ましい。

しかし、本講義のテーマに関心をもつ者が初学者であったとしても、何ら履修上の差し支えはない。受講者の知識の習得と理解の増進に役立つような授業展開としたい。

日常生活や研究においても、この科目に関連する情報を、新聞や雑誌、ニュース、インターネットを通じて収集し、理解増進に役立てられたい(例えば、各国の選挙結果についてのデータ・アーカイブや政党や政府のホームページなど)。

成績評価の方法

原則として、定期試験およびレポートの評価を総合して行う。前期もしくは後期のいずれかを試験とし、もう一方の学期をレポートとするような形態を考えている。

ただし履修者の数などにより、その方式に変更がありうることを念頭に置かれたい。

教科書

教科書というかたちで、何か特定の書物を一年間にわたり使用することはないが、授業中に適宜、参考書および関連文献を提示する。

参考書等

講義の際に詳細な文献目録を提示するが、さしあたり、以下に挙げる書物は、比較政治学について考える際に役立つだろう。

- *M. ドガン&D. ペラッシー／櫻井陽二訳『比較政治社会学』（芦書房）1983年
- *西川知一編『比較政治の分析枠組』（ミネルヴァ書房）1986年
- *H. J. ウィアールダ編／大木啓介他訳『比較政治学の新動向』（東信堂）1988年
- *砂田一郎・藪野祐三編『比較政治学の理論』（東海大学出版会）1990年
- *青木一能・野口忠彦・岩崎正洋編『比較政治学の視座』（新評論）1998年
- *Jan-Eric Lane and Svante O. Ersson, *Politics and Society in Western Europe*, 3rd ed., (Sage), 1994.
- *Jan-Eric Lane and Svante O. Ersson, *Comparative Politics: An Introduction and New Approach*, (Polity Press), 1994.

その他

基本的に講義中心とする。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
現 代 国 家 論	おお つか かつら 大 塚 桂	禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理・経済 商・法律・経営・短国・短英	4

講義のねらい

福祉国家の見通しが叫ばれて久しい状況にあります。ありうべき国家とは何か、が今日の重要課題とされています。本講義は、諸君がいままで履修してきた政治学、憲法などの学科目の知識をふまえて、現代国家の実相にせまるのを目的とします。

さしあたって、現代国家を理解するには、国家概念の展開を理論（史）的に整理することからはじめるのが、ヘダーでしょう。政治学の発達を顧みたとき、政治学＝国家論であったことがわかります。講義では、隣接科目（憲法・行政法・政治哲学・政治思想史・政治史・行政学）の研究成果をとりいれながら「国家」の問題を討究していきます。国家論は総合科学としての性格をもつものといえるでしょう。

講義の内容・
授業スケジュール

- A 国家論の課題ならびに研究方法
- B 国家学説の史的展開
 - ①古代国家学説 ②中世国家学説 ③近代国家学説 ④現代国家学説
- C 法治国家の構成原理
 - ①法治国家論 ②政治制度 ③官僚制 ④国家緊急権
- D 行政国家の構成原理
 - ①福祉国家 ②ネオ・コーポラティズム ③シティズンシップ ④きたるべき国家

成績評価の方法

- 受講生と相談の上で、以下のいずれかにより単位を認定します。
- A方式（レポートによる単位認定）
～年4回の課題を提出してもらい成績を評価します。レポート作成を通して、読解力と書く能力を涵養します。
 - B方式（試験による単位認定）
～中間・期末試験により、成績を評価します。B方式のみ追・再試験を実施します。

教 科 書

大塚桂『現代国家へのアプローチ』（成文堂）3,000円

そ の 他

上記テキスト所収の〈参考文献〉を参照のこと。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 営 労 務 論	か しま ひで あき 鹿 嶋 秀 晃	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法律・政治・短放	4

講義のねらい

この講義では、現代の日本企業とそこに働く労働者が抱える経営労務問題を幅広く扱っていく。具体的には経営学と経営労務論、戦後日本経済と日本的経営論、経営労務学説史、終身雇用、年功序列賃金、企業別組合制度、福利厚生制度、異動と昇進、人材形成、日本の生産システム、ホワイトカラーの労働問題、女性労働問題、90年代の労働問題などの小テーマを設けて講義していく。学生には講義を受講することで企業と労働、社会について幅広い問題関心を持ってもらいたい。

講義の内容・授業スケジュール

講義は1コマ1テーマの原則。各回の最初に「日本は本当に終身雇用なのか？」といったように問題点を掲げ、その解説をおこなう。

履修上の留意点

詳細は最初の講義で説明をするので、初回は重要。出席は取らないので、出席点はなし。私語は他の学生に迷惑になるので遠慮してもらいたい。

成績評価の方法

学期末の試験のみによる。内容はA方式：①空欄補充問題（約50点分）②論述問題1問（約50点分）の計100点、またはB方式：論述問題1問（100点）のいずれかを選択のこと。詳細は初回の講義で説明する。

教 科 書

テキストは津田真澄『人事労務管理』（ミネルヴァ書房）1993 定価3,000円程度

参 考 書 等

労務学説史をわかりやすく説明したものとして渡辺峻『企業組織の労働と管理』（中央経済社）1995 定価2,600円程度、経営労務をより体系的に深く学習するのによい白井泰四郎『現代日本の労務管理第2版』（東洋経済新報社）1992 定価3,500円程度をあげておく。この他にも講義の中で適宜いろいろな文献を紹介していく。

そ の 他

授業は講義の形式でおこなうが、図表やグラフを多用し、ただ聞いてノートを取るだけでなく「頭をつかう」ような形にする。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
国際経営論	茂垣 広志	禪・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉・心理 経済・商・法律・政治・短放	4

講義のねらい

国際経営とは、「国境を越えて事業展開しているその各拠点間の諸活動をどのようにマネジメントするのか？」という課題に取り組んでいる経営学の一領域である。したがって、既存の経営諸理論を基礎として、各事業拠点を高度に海外に分散化した多国籍企業特有の問題を扱っている。本講義のねらいとしては、経営戦略論、マネジメント論、組織論等をベースとして、比較経営論ないし異文化経営論の視点を加味して、多国籍企業の戦略行動とマネジメントを考える際の基本的フレームワークについて、種々の理論（アプローチ）、データ、ケースを援用し考察していきたい。つまり、企業の国際化、多国籍化にまつわる諸現象を企業経営の観点から多面的に捉え、検討することを通じて、国際経営に関する理解を深めることを目的としている。

講義の内容・授業スケジュール

海外に拠点を高度に分散化している MNC にとっての大きな課題は、それら拠点の現地化（適応性）の要請とグローバルな統合化（効率性）の要請のバランスないしその同時達成である。日本企業の場合、急速な海外展開と日本的マネジメントの特徴から、アメリカ系および欧州系 MNC と異なる様相を示している。授業では、その日系 MNC の戦略及びマネジメントの特徴を理論、欧米系 MNC との比較、ケースを通じて理解し、課題ないし問題点を理解することに主眼を置くことにする。より具体的には、以下のような内容を予定している。

- I. 国際経営のフレームワーク（隣接領域との異同と関連性）
- II. 企業の多国籍化を説明する諸理論の検討（IPLC 仮説、寡占反応仮説、差別化優位仮説、内部化優位仮説、経営資源優位仮説、折衷仮説等）
- III. 国際経営／企業多国籍化の発展段階モデル（ロビンソン・モデル、小林モデル、マッキンゼー・モデル、ルートの海外市場参入段階モデル、EPRG モデル等）
- IV. 国際経営の戦略選択モデル（国際競争戦略）
 1. 国際競争優位性（規模の経済・範囲の経済・連結の経済、比較優位・国家特殊優位性）
 2. 国際競争戦略の類型（ポーター・モデル、ドズ＝ブラハラード・モデル、パートレット＝ゴジャール・モデル等）
- V. 国際戦略と国際経営管理
 1. マクロ構造（国際事業部制、世界的地域別構造、世界的製品別構造、世界的マトリックス構造）とミクロ構造および内部ネットワーク
 2. 欧州系 MNC とアメリカ系 MNC の戦略およびマネジメント上の特徴（経営伝統と現状）
 3. 日系多国籍企業の海外子会社マネジメントの特徴（その現状と課題）
- VI. 国際マーケティング戦略
 1. 海外市場参入と現地マーケティング戦略の展開（現地マーケティングミクス）
 2. 国際マーケティング戦略における現地適応化とグローバル標準化
- VI. 日本企業の国際化と人的資源管理
 1. 異文化マネジメント
 2. 海外派遣社員の人事管理
 3. 国際人的資源管理（能力開発、処遇、キャリアデベロップメント）
- VII. 国際研究開発戦略
 1. R&D の集中化と分散化
 2. 規格競争と戦略提携（R&D コンソーシアの形成）

以上が講義内容の要目であるが、講義では単なる理論の紹介のみならず、各種調査データや具体的な企業のケースを通じて理解を深めていきたい。

履修上の留意点

経営学、経営戦略論の知識があった方が理解しやすいので、そのような関連科目を既に履修しているか、現在している方が望ましい。ただ、授業中にも概説する。

成績評価の方法

成績は、出席状況および期末試験の結果により判断します。

教科書

茂垣広志・池田芳彦『国際経営論』（学文社）2,800円＋税

参考書等

根本孝・諸上茂登『国際経営の進化』（学文社）

その他

講義が中心であるが、その際 OHP ないしプロジェクターを用いてビジュアル的な授業を行う。その際、使用資料について配布する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
商 業 史	やま だ まさる 山 田 勝	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法律・政治・短国・短放	4

講義のねらい

商業経営の歴史的発展の過程を、文化との関係に留意しながら講義する。

講義の内容・
授業スケジュール

講義内容の主なテーマは次のとおりである。

- | | |
|-----------------|---------------|
| (1) 商業史の視点 | (6) 継 続 性 |
| (2) 歴史研究とパラダイム論 | (7) 流 通 量 |
| (3) 利 潤 | (8) 大衆消費社会の特質 |
| (4) 商 品 | (9) 価 格 革 命 |
| (5) 市 場 | (10) 情報社会と商業 |

履修上の留意点

講義を聴くことのみが学習の方法ではないが、講義は各自の学習の導きとしては有益であると思う。出席はとらないが、聴講に努めて欲しい。質問は歓迎する。
教場での私語は他人の迷惑となるので厳禁とする。必要があれば教場から出て話すこと。

成績評価の方法

成績評価は定期試験による。

教 科 書

山田勝著『現代商業史』（創成社）2,800円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
保 險 経 営 論	いしなざかにあき 石名坂 邦 昭	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法律・政治・短放	4

講義のねらい

本講義においては、保険学のアプローチとして近年一般化しつつあるリスク・マネジメントの基本的な事柄につき理解した後に、保険理論の基本的知識を正確にし、わが国の保険事業並びに一般企業がかかえているリスクに関する諸問題にどのように対処したらよいかの応用能力が持てるようになることを目標とする。

講義の内容・
授業スケジュール

保険学の研究は、保険法学的アプローチ、保険経済学的アプローチ、保険経営学的アプローチとそれぞれの時代を背景に論じられてきた。今日、保険学研究については保険経営学的研究をより発展させた「危機管理論」(リスク・マネジメント)研究が主流となっている。本講義においては、最初にリスク・マネジメントの基本的体系について論じ、リスク・マネジメントの理論、歴史的発展について見た後に、リスク・マネジメントの中心となる保険の機能、保険本質、保険技術について詳しく見ていきたい。

前期はリスク・マネジメントを中心とした講義を行い、後期に保険論を中心とした講義を行う。講義は理解しやすいように工夫をこらしていく。教科書は使用するが、それは本講義を理解するための基本的共通知識として使用し、講義は教科書に書かれている事柄が理解されていることを前提として進めていく。

履修上の留意点

保険およびリスク・マネジメントを理解するためには使用される専門用語を理解されていなければならない、学ぶことも広範囲にわたるため、講義を受ける前に必ず教科書を読み講義後の復習も忘れないようにしてほしい。学生諸君の積極的な授業への参加を望む。

成績評価の方法

講義への出席状況及び授業時の態度と定期試験の結果を総合して成績評価を行う。

教 科 書

石名坂著『リスク・マネジメントの理論』(白桃書房) 3,500円

参 考 書 等

石名坂著『ファミリーリスク・マネジメント』(白桃書房)
石名坂著『リスク・マネジメントの基礎』(白桃書房)

科目名	担当者名	配当学科	単位
経営分析論	かた ぼり のぶ お 片 桐 伸 夫	禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・法律・政治・短放	4

講義のねらい

経営分析とは、文字どおり「企業の経営を分析すること」であり、かなり多方面にわたる内容をもっています。

皆さんが将来を託そうとする会社は、

- 1 財政的に安定しているだろうか（安定性分析）、
- 2 「儲け」はどうだろうか（収益性分析）、
- 3 経営活動の成果はきちんと配分されているだろうか（生産性分析）、
- 4 長期的な会社の「伸び」はどうだろうか（成長性分析）、また、
- 5 社会に対してどのように貢献しているだろうか（社会性分析）、

といった内容です。

講義の内容・授業スケジュール

前期は、企業の毎期の経営活動を報告する「貸借対照表」や「損益計算書」などの「財務諸表」の読み方をまず説明し、安定性・収益性分析を学習します。

後期は生産性・成長性・社会性分析や、さらに、損益分岐点・利益増減その他の分析をとりあげます。

「各自が企業の経営を分析できるようになる」ため、教科書で必要最小限の理論を学び、ただちに、新聞などの最新のトピックによって企業の現実にふれます。

履修上の留意点

この授業の目的は、「財務諸表分析」を中心に、各人が就職を希望する、あるいは興味を持っている会社の「分析」をしていただくことにあります。つたなくても、ささやかでも、その成果は皆さんの貴重な「財産」です。

成績評価の方法

成績評価はレポートと学年末試験で行います。

*レポート・テーマ：前期「各自が関心を持っている企業の収益性・安定性分析」

：後期「各自が関心を持っている企業の成長性その他の分析（続）」

☆提出日（授業はじめに配布するシラバスに明記）以外は受け付けませんのでご注意ください。

*テスト範囲：財務諸表数値を用いた経営比率の算出問題。

☆質問は授業以外にも研究室2307号室で随時受け付けますので、遠慮なくおいでください。

教科書

渋谷武夫著『経営分析の考え方・すすめ方』（中央経済社）3,568円

参考書等

随時、紹介します。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
税 務 会 計 論	たか き かつ み 高 木 克 己	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法律・政治・短放	4

講義のねらい

今日、租税は我々個人にとっては、所得税、相続税等の問題として、また、企業にとっては、法人税の問題が大きな関心事として存在している。ここ数年、法人税も税率の引き下げをはじめ、多くの改正が行われている。本講義では、普通法人（株式会社等）を前提とした法人税の算定過程を中心に講義を進めていく。

税務会計とは、一般に企業における課税所得の算定過程を研究する分野をいう。この課税所得は、商法あるいは企業会計原則等によって算出された利益にもとづいて算定される。そこでは、法人税法固有の規定（いわゆる別段の定め）が適用され、負担の公平、簡便性、あるいは政策的配慮等さまざまな考え方が反映されている。講義では、こうした税法固有の考え方の根拠、背景等を出来るだけやさしく説明しながら、今日、法人税法の抱えている問題点を明らかにしていきたいと考える。

講義の内容・授業スケジュール

講義内容の概要は次のとおりである。

1. 法人の種類及び課税所得の範囲等
2. 同族会社と青色申告
3. 課税所得の計算構造
 - (1) 企業利益と課税所得の関係
 - (2) 益金の額及び損金の額
 - (3) 公正処理基準及び資本等取引
4. 収益の計上基準についての原則的な考え方
 - (1) 引渡基準
 - (2) 特殊販売収益の計上基準
 - (3) 役務、請負、譲渡収益等の計上基準
5. 受取配当金益金不算入
6. リース取引
7. 給与（報酬、給料、賞与）の税務処理基準
8. 交際費及び寄付金
9. 有価証券、棚卸資産、固定資産、繰延資産等の税務処理
10. 圧縮記帳
11. 引当金と準備金
12. 企業を巡る国際課税の問題
 - (1) 移転価格税制
 - (2) タックス・ヘイブン対策税制
 - (3) 外国税額控除制度
13. 法人税額の計算

履修上の留意点

「簿記学」「会計学」等の基礎的な会計科目を修得した上で履修した方がより理解が深まると思われる。

成績評価の方法

原則として学年末の試験によって評価する。レポートは年1回程度提出を求める。

教科書

開講時に指示する。

参考書等

開講時に指示する。

その他

毎回出欠をとるかどうかは、初回の講義の中で受講生諸君と相談して決めたい。

科目名	担当者名	配当学科	単位
経営情報論	たか い てつ お 高 井 徹 雄	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉・心理 経済・商・法律・政治・短国	4

講義のねらい

経営スタッフの役割は、意思決定を支援すること、すなわち、意思決定者が適切な意思決定を行えるよう、決定の指針となる情報を提供することに外ならない。

本講義では、将来、企業や官庁における経営スタッフを目指す諸君のために、経営情報に関するシステムの観点と、情報利用技術の基礎について解説する。

講義の内容・授業スケジュール

I. 経営情報とシステムの観点（前期）

(1) 科学とシステムの観点（4月～5月：4週）

情報学のバックグラウンドにある考え方や知識について整理する。科学の方法とシステムのもの見方、それに基づく問題へのアプローチとはどのようなものかについて理解を深める。

(2) 情報学の基礎と周辺領域（5月～6月：5週）

情報処理技術に関わる基礎的な勉強をする。主としてコンピュータベースのシステムによる情報の取り扱いに関し、知っておくべき基礎的事項について整理する。

(3) 情報環境の発展と経営における利用（6月～7月：5週）

経営の場における意思決定と情報利用技術の関わりについて学ぶ。企業における情報利用の形態の変遷を概観する。また、インターネットと同様な環境をベースとした、イントラネット・エクストラネットに触れ、現在から近未来における戦略的な情報の利用とはどうあるべきかについて考察する。

II. 情報の利用技術（後期）

(1) 多変量データ解析（9月～10月：7週）

調査収集された生のデータは、そのままでは情報としての価値はない。データを加工・分析し、それが表す意味を解釈することで初めて意思決定のための情報が得られる。ここでは、定量的データを分析するための、重回帰分析、主成分分析、判別分析法を、またアンケート調査などで得られる定性的データを分析するための数量化I、II、III類法について、その原理と適用方法を学ぶ。

(2) シミュレーション（11月～12月：4週）

複雑な対象の動的な特徴を分析するための有力な方法としてシミュレーション技法がある。ここでは、モンテカルロ法など乱数を用いる基礎的方法に触れた後、離散系シミュレーションモデルの構築方法を学ぶ。

(3) DSSとES（12月～1月：3週）

人工知能の原理と、その経営の場での応用として期待されるDSS（意思決定支援システム）、ES（専門家システム）の概要について学ぶ。

※なお、適宜（前期3、後期5回程度）、情報教育センターのコンピュータールームを利用して実習形式で授業を行う。

成績評価の方法

前期、後期末に実施する筆記試験に基づき評価する。
その他、出席状況と実習授業時の課題も評価に反映する。

教科書

高原康彦・高津信三編、高井徹雄他著『経営情報システム』（日刊工業新聞社）3,200円
上記教科書の他に、適宜プリントで補足する。

その他

情報処理基礎、統計原論を先にまたは同時に履修しておくことが望ましい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
情 報 理 論	にしむらかずお夫 西村和夫	理・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉・心理 経済・商・法律・政治・短国	4

講義のねらい

近年では日常的に使われる言葉となっている“情報”の本質を探ります。主に、情報の量（情報量）を定義したシャノン（C. E. Shannon）流の情報理論について講義します。

この授業を受講すれば、ある通報や記号のもっている情報量を、具体的な数値として（ビットという単位で）計算できるようになります。これによって、たとえばDNAの情報をフロッピーディスクに記録するために十分な枚数が、たちどころに計算できるようになります。

また、情報量の期待値（平均値）であるエントロピーという概念も理解できます。これは、経営情報論、符号理論、通信理論、暗号理論などで利用される重要な概念です。

講義の内容・
授業スケジュール

月	回数	内 容
4	3	授業内容概説、情報とは、情報量への要求
5	3	対数の原理と性質、計算練習
6	4	情報量の定義、練習、情報量の利用
7	3	暗号系と用語、古典的な暗号
9	2	現代的な暗号、暗号技術を使ってできること
10	2	符号化（JISコード、万国共通文字符号）、対数・情報量の中間試験
10	2	確率過程およびマルコフ過程
11	2	遷移確率と同時確率
11	1	エントロピーの定義
12	2	冗長度、言語のエントロピー
12	1	価格以外の情報がない場合の市場占有率予測
1	1	チェック桁、情報の圧縮と乱数、デジタルとアナログ

履修上の留意点

4年生が履修するのは困難です。2～3年生のうちに履修しておくように強く奨めます。また、毎回出席して計算練習に参加していないと、試験問題を解くことは無理でしょう。

内容の性質上、確率と対数に関する多少の数学的知識が必要になりますが、これらについて全く知らなくても理解できるように配慮しています（上表5月参照）。

成績評価の方法

10月の中間試験（30%）と定期試験（70%）との合計点によります。

教 科 書

クイズと計算練習を適宜とりいれます。また、OHPとプリントを使います。適当な教科書はありません。

参 考 書 等

各種の参考書をそのつど紹介します。

そ の 他

〔関連科目〕 → 経営情報論

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 営 統 計	ちょう 国 強 長	禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・法律・政治・短放	4

講義のねらい

統計と企業経営の関わりについてを展開する経営統計とは、分析目的に対応して主に経営情報としてのデータを収集・処理・分析し、複雑な現象を理解すると共に、データを生成した集団や構造についてを予測し、いろいろな意志決定をサポートすることである。経営的意志決定において最も重要なことは、将来の経営状況をどう見るかであり、その予測に対して経営統計は十分な役割を果たされるはずである。

この講義では、企業経営における統計データの具体例を数多く取り入れることによって、経営統計の手法をわかりやすく説明していく。また、数学苦手な学生を配慮し、講義の内容説明は微積分などの計算をいっさい用いず、数式の使用も必要最小限に止める。

講義の内容・授業スケジュール

予定している講義内容は以下の通りである。

経営統計について：	経営統計の役割、基礎概念	1 回
統計特性値：	平均、分散、正規分布	2 回
市場調査と統計整理：	調査の諸段階、標本設計、データ整理	6 回
統計推測：	標本分布、区間推定、仮説検定	2 回
前期復習と中間試験：	(七月中旬)	2 回
経営時系列：	季節指数、時系列予測	4 回
経営指数：	物価指数、数量指数	2 回
分散・回帰分析：	一元配置法、相関係数、最小 2 乗法	3 回
統計的意志決定理論：	意思決定基準、期待効用理論	2 回
後期復習と定期試験：	(翌年一月中旬)	2 回

履修上の留意点

年間 6 回程度の演習問題を適時に配布し、それを独自かつ理解的に解ければ、中間試験や定期試験に心配する必要はない。

成績評価の方法

講義への出席状況と中間・定期試験の結果により総合的に判断する。

教 科 書

特に使用しないが、プリントは適時に配布する。

参 考 書 等

西田俊夫・田畑吉雄共著『経済・経営の統計学』（培風館）1992
守口栄一・竹田仁共著『経営数学：経営統計とその応用』（日本理工出版社）1992

そ の 他

統計学、あるいは統計原論を先にまたは同時に履修することが望ましい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
上 代 文 学 講 読	さ ばら さく み 佐 原 作 美	禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短英・短放	4

講義のねらい

授業では『万葉集』を対象にその講読を行う。『万葉集』は承知のごとく、舒明朝(629-641)の頃から奈良朝の天平宝字3年(759)までの約120年間の和歌約4,500首が収められている、わが国最大の和歌集である。そこで授業では、『万葉集』の中から代表的な歌人で個性豊かな、山上憶良等の和歌を中心に講読していきたい。

講義の内容・
授業スケジュール

『万葉集』を理解するには、作品を読解し作者を知るほかに、当時の歴史や社会的文化的な背景を視野に入れながら読んでいくことが大切である。そうした点を考慮に入れ踏まえながら、作品を読んでいきたい。

成績評価の方法

レポートや出席状況をもって評価する。

教 科 書

土橋 寛編『作者別 万葉集』おうふう(桜楓社)刊 1,800円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
中 古 文 学 講 読	すず き ひろ こ 鈴 木 裕 子	禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短英・短放	4

講義のねらい

『源氏物語』は、それが書かれた平安の昔からたくさんの人々に読み継がれて来た日本文学の傑作です。『源氏物語』のどこにそのような価値があるのでしょうか。受講者一人一人に答を見付けてもらいたいと思います。そのためには、とにかく原文を自分の力で読まなくてはなりません。作品を正確に読み、理解し、感じ、考え、といったことを授業を通して繰り返し、最後には、他者の評価を鵜呑みにするのではない、自分自身の『源氏物語』評価がもてるようになるとよいと考えています。

講義の内容・
授業スケジュール

今年は、初音の巻から読みます。完成した六条院に玉鬘を迎え、いよいよはなやかに我が世の春を誇る光源氏。いわゆる玉鬘十帖の構造や意味についても理解を深めていきたいと思います。

履修上の留意点

授業は、テキストを用いての講義を中心に行ないます。が、教師の一方通行にならないように、受講生の積極的な質問や感想・意見など建設的な発言は歓迎します。

成績評価の方法

期末に試験を行ないます。(前期一回、後期一回)その他、授業中に適宜レポート等を課し、出席状態などの平常点を加味して評価します。

教 科 書

『源氏物語四』新潮日本古典集成(新潮社)

参 考 書 等

秋山虔・室伏信助編『源氏物語必携事典』(角川書店)

科目名	担当者名	配当学科	単位
中世文学講読	その べ みき お生 菌 部 幹 生	禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短英・短放	4

講義のねらい

中世文学の中から、本年度は『御伽草子』をとりあげる。『御伽草子』は、「一寸法師」「浦島太郎」「物くさ太郎」「鉢かづき」「酒呑童子」その他（狭義では二十三編）のたいへんによく親しまれた作品群であるが、古典の原文を読むことで、幼い頃に親しんだ御伽話とはまた異なる作品世界を味わいたい。作品それ自体が持つおもしろさを堪能することも講座のねらいではあるが、加えて、それ以前の古典作品とは質的に変貌してきた中世文学のあり方や享受の問題について考えてみたい。

講義の内容・授業スケジュール

前後期を通して、『御伽草子』の中の作品を出来るだけ多く講読する。

履修上の留意点

毎時間、その日の講義内容に対する意見文の提出を求めるので、必ず原稿用紙を持参すること。

成績評価の方法

毎時限に提出する意見文によって50点分を評価し、12月末の時間内に50点満点の筆記試験を行う（試験はテキスト・ノート・辞書・参考書等何でも持ち込み参照可）。なお、追再試験はレポート提出とするが、これについては1月の授業時間内に指示するので、必ず出席すること。

教科書

白田甚五郎・藤島秀隆・岡田啓助・成田守編『御伽草子』（おうふう）1,848円

参考書等

必要に応じて時間内に指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
近世文学講読	かん の かず お雄 菅 野 一 雄	禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短英・短放	4

講義のねらい

現在の劇場で上演される「文楽」は、「浄瑠璃」演奏による人形芝居で、世界の人形劇の中でも独特なものである。この「浄瑠璃」とは、中世後期に発生し、近世に発展・盛行した芸能である。浄瑠璃詞章の作者として代表的なのが近松門左衛門である。近松はたくさん名作を残したが、『曾根崎心中』は元禄16年に初めて身の廻りの町人の生活から取材して書いた作品で、大当りをとったものである。醤油屋の手代徳兵衛と遊女お初が、愛し合っているがら心中に至ってしまう物語で、現在の「文楽」でも繰り返し上演される人気演目である。

この講義において、浄瑠璃とはどういうものか、近松はどのような作品を作ったか、『曾根崎心中』の二人の主人公やその周囲の人々に近松がどういう眼を向けていたか、何を観客に訴えようとしていたか、などを学習して考えてもらう。

講義の内容・授業スケジュール

浄瑠璃の歴史、近松門左衛門の略歴などを説明し、『曾根崎心中』をくわしく読む。言葉の意味、引用されている先行作品、表現技巧などをこまかく吟味し、現在の「文楽」で上演する形態も適宜考察しながら読んで行く。

履修上の留意点

だいたい講義式で進める。時々全員での斉読を行う。毎時出欠をとる。学生の私語や無礼には厳しく対応する。

成績評価の方法

随時小テスト（テキスト・ノート携行）を行い、その結果と出欠状況などを総合して評価する。

教科書

祐田善雄校注『曾根崎心中・冥途の飛脚他五篇』（岩波文庫）

参考書等

講義の進展につれ、随時参考資料や観劇資料を紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
近代文学講読	いしわり 石割 透	禪・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短英・短放	4

講義のねらい

1910年代から1920年代に発表された、わが国の代表的な小説を、多様な角度から読み、同時代の文学史、表現史の検討の一助としたい。

講義の内容・授業スケジュール

扱う作品は芥川龍之介「奉数人の死」「秋」「菌車」、谷崎潤一郎「少年」「帮間」「痴人の愛」志賀直哉「十一月三日午後の事」「雨蛙」、内田百閒「冥途」「施順入城式」宇野浩二「蔵の中」など。また、それらの作品や時代に共通する課題をかかえた菊池寛、近松秋江、江戸川乱歩などの作品も自由にとり入れて、この時代の文学の問題を考えていく予定。

履修上の留意点

文庫本などで接することが難しい作品を扱う場合もあるが、そうした作品も、受講者は必ず授業でとりあげる作品を前もって読んで授業に臨んでほしい。

成績評価の方法

レポートなどでは、これまでの研究文献にもたれかかることのない、斬新な視覚によるものを期待したい。

教科書

『奉数人の死・煙草と悪魔』『大導寺信輔の半生・手中・湘南の扇』（以上、岩波文庫）、谷崎潤一郎『刺青・秘密』（新潮文庫）、『美食倶楽部-谷崎潤一郎大正作品集』（ちくま文庫）、志賀直哉『小僧の神様・城の崎にて』（新潮文庫）、内田百閒『冥途・旅順入城式』（岩波文庫）

参考書等

授業時に適宜指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
現代文学講読	あんどうこうすけ 安藤幸輔	禪・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短英・短放	4

講義のねらい

「戦後文学」の代表的作家の作品を講読する。すなわち、
 ・太宰治『富嶽百景』『斜陽』『お伽草子』『ヴィヨンの妻』『駆け込み訴え』など。
 ・坂口安吾『風博士』『桜の森の満開の下』『青鬼の禪を洗う女』など。
 ・大岡昇平『俘虜記』『武蔵野夫人』など。
 ・三島由紀夫『金閣寺』『橋づくし』『近代能楽集』など。
 (上の各作家の作品は、掲げることのできなかつた作品も扱いたい。受講生が手にしやすい文庫本に収録されているものを選ぶようにするため、作品や順序に変更があるかもしれない。)

教科書

テキストは、そのつど指示する。

参考書等

参考文献は、そのつど指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
英語演習Ⅰ 〔英語音声の基礎〕	Ashwell, Tim (アシュウエル, ティム)	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会 福祉・心理・短国・短放	4

講義のねらい

It is hoped that by taking this course students will become proficient in aspects of the spoken language which may have been overlooked in their English language education to date, namely word and sentence stress, discourse stress and the equally important feature of reduction. By developing these aspects, it is hoped that students' listening comprehension will improve as well as their production of spoken English.

講義の内容・
授業スケジュール

Part of each lesson will be devoted to exercises from the textbook, 'Clear Speech', but time will also be set aside for working on the skills necessary to give an effective oral presentation in English. Facilities permitting, it is also hoped that students will engage in shadow speaking exercises, recording their own voices on tape alongside a model. Emphasis will, in any case, be laid upon the recordings students make for homework.

履修上の留意点

Students are expected to attend all classes and to be punctual. Reasons for absence are expected to be communicated to the teacher preferably in advance. Unexcused absences or lateness will incur penalties in the final grade.

成績評価の方法

Grades will be based on: 1). effort shown in class: 2). homework: 3) presentations: 4). attendance.

教科書

Clear Speech by Judy Gilbert (Cambridge University Press)

その他

Students should buy a 90 minute cassette.

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
応 用 計 測 学 (前 期)	かし 檀 尾 英 次	禪・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉 心理・経済・商・経営	1

講義のねらい

放射線機器工学を2年次に学習し、医用機器工学を3年次に学習するが、これらの講義で含まれなかった重要な機器について行う。

医用画像診断装置を主体とするが、生体電気計測および生体磁気計測についてもそれらの基本を学ぶ。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1) 核医学診断装置
 - 放射性核種および放射線計測の基礎
 - ガンマカメラ
 - SPECT
 - PET
 - 核医学データ処理装置およびソフトウェア
- 2) X線診断装置
 - CR (Computed Radiography)
 - DSA (Digital Subtraction Angiography)
- 3) 超音波診断装置
- 4) PACS (画像管理システム)
- 5) 生体電気計測
- 6) 生体磁気計測

履修上の留意点

あらかじめ放射線計測学および放射線機器工学を習得していること。国家試験で核医学機器関連に対応できるよう講義するので全員受講することが望ましい。他学科にあっては高校で物理を習得していることが望ましい。

成績評価の方法

定期試験および出席状況により評価する。

教 科 書

教材としてプリントを使用する。

3 随意科目

3 隨 意 科 目

英 語 (海 外 演 習)	205
比 較 思 想 特 講 (洗 建)	205
比 較 思 想 特 講 (末 木 恭 彦)	206

科目名	配当学科	単 位
英語（海外演習）	全学科・短大 1年次～	2

講義のねらい

この科目は本学の海外協定校であるクインズランド大学（オーストラリア）、プリティッシュ・コロンビア大学（カナダ）、エクセター大学（イギリス）、カリフォルニア大学アーバイン校（アメリカ）における短期留学セミナーでの4週間におよぶ現地での集中演習を中心としておこなわれる英語随意科目である。英語受講対象学生は全学部・短大の1年次生から卒業年次生までとする。

成績評価の方法

現地演習後に四大学より受講生の成績・評価等が出される。受講生には単位の認定がなされる。

そ の 他

受講希望者は、国際センターの短期留学英語セミナーに参加申込みをする。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
比較思想特講	あらい 洗 けん 建	法律・政治 2年次～	4

講義のねらい

宗教にかかわる「法思想」と、その背景にある宗教文化、宗教思想問題について、考察する。現代においては、信教の自由を容認していない国はほとんどない。すなわち、信教の自由は人間に固有の「人権」の筆頭であり、普遍的な価値として国や文化の違いを越えるものと考えられている。そのことから信教の自由は「宗教をめぐる闘争と流血の悲劇の歴史」に学び、人類の到達した英知であるとされる。それに間違いはないにしても、この理念はキリスト教文化を離れて、どのような地域でも生まれることができたものなのだろうか。実際にどのような歴史的経過の中から、この理念が生まれ出たものであるかを振り返り、この理念とキリスト教文化やその思想との関係について考察し、わが国を含む非キリスト教文化圏に存在する信教の自由をめぐる諸問題を明らかにしたい。

講義の内容・授業スケジュール

はじめに宗教改革以降の、国家と宗教をめぐる思想の歴史、特にキリスト教側からの思想の展開をたどり、その発想特質を明らかにする。次に西洋で確立された信教の自由の理念がどのような形で日本に導入され、どのような変容が加えられたかをたどる。そして、今日なお残る諸問題について考える。

履修上の留意点

個々の歴史を覚えるのではなく、問題の所在を理解し、自分でも考えてみる態度で受講して貰いたい。ときどき、意見交換などの時間をもちたい。

成績評価の方法

出席点、またはレポートで評価する。

教科書

教科書は用いない

参考書等

随時、紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
比較思想特講	すえ き やす ひこ 末 木 恭 彦	法律・政治 2年次～	4

講義のねらい

比較思想（哲学）は、世界各地に成長した思想（哲学）を比較し、ある地域に特有の思想（哲学）はその地域に固有の囚われた視野の中にあることを明らかにし、普遍的な思想（哲学）の獲得を目指す学問である。果たして、普遍的な思想（哲学）が有り得るか、そこに疑問も残るが、我々が井の中の蛙とならない知恵としての意義は大きい。この點に意義を見出し、比較思想（哲学）という学問への基礎的理解を得ることを、本科目では目指す。

講義の内容・
授業スケジュール

比較思想（哲学）という学問は、今世紀初め西欧に於て近代の自己反省として生まれた。その比較思想（哲学）の誕生の記念碑とも言得る書物が、マッソン・ウルセル『比較哲学』である。この書は近年邦訳も刊行され読み易くなった。このマッソン・ウルセルの書（邦訳）を講読しながら、洋の東西の思想（哲学）に目を配り、比較思想（哲学）を学んでいくことにする。

履修上の留意点

必ず予習をし、自分の疑問・意見が発表できる用意をして授業に臨むこと。

成績評価の方法

次の二つの材料を勘案して判定する。
1. 平常点（出席回数、授業参加の積極性）
2. 試験又はレポート（年一回以上）

教科書

小林忠秀訳『マッソン・ウルセル比較哲学』（法蔵館）

参考書等

授業中適宜指示する。

その他

出来る限り講師の一方的講義は避け、講師を含めた出席者による討議として進めたいと考えている。

4 日本語・日本事情科目

4 日本語・日本事情科目 (対象：外国人留学生・海外帰国子女)

《日本語科目》

日	本	語	I	(佐野典子)	211
日	本	語	I	(多田羅哲子)	211
日	本	語	II	(佐野典子)	212
日	本	語	II	(多田羅哲子)	212
日	本	語	III	(多田羅哲子)	213
日	本	語	III	(湯村礼子)	213
日	本	語	IV	(石川守)	214
日	本	語	IV	(湯村礼子)	214
日	本	語	V	(石川守)	215
日	本	語	V	(多田羅哲子)	215
日	本	語	VI	(石川守)	216
日	本	語	VI	(多田羅哲子)	216

《日本事情科目》

日本事情 I	〔地理〕	(後期)	(小池一之)	217
日本事情 II	〔自然〕	(前期)	(清水善和)	217
日本事情 III	〔歴史〕	(後期)	(宮本由紀子)	218
日本事情 IV	〔思想〕	(前期)	(赤羽由規子)	218
日本事情 V	〔社会〕	(後期)	(江上涉)	219
日本事情 VI	〔政治・法律〕	(前期)	(関口雅夫)	219
日本事情 VII	〔文学〕	(前期)	(奥原淳子)	220
日本事情 VIII	〔文化・芸術〕	(後期)	(赤羽由規子)	220
日本事情 IX	〔経済〕	(前期)	(瀬戸岡紘)	221
日本事情 X	〔経営〕	(前期)	(前田和利)	222

《日本語科目》

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日 本 語 I	佐 野 典 子	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

聴解を中心に、高度な日本語能力を養う。

講義の内容・ 授業スケジュール

前期は時事問題のビデオを教材とする。

成績評価の方法

小試験、提出物、研究発表、出席率などにより、総合的に評価する。

教 科 書

教材は、担当者が準備する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日 本 語 I	多 田 羅 哲 子	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

常用漢字の読み方を中心に日本語の知識を強化する。
漢字の正確な読み書き、語彙の様々な意味・使い方、文法、表現等の練習を通して日本での生活および専門教科の学習に役立つ日本語の知識を身につける。

講義の内容・ 授業スケジュール

- 常用漢字を正確に読めるようにする。そのためには読み方のルールも知る。
- 語句の基本的意味・用法とともに学生生活に必要なと思われる派生的意味や使い方も練習する。
- 助詞・機能語・慣用表現・文法事項等の復習もする。

成績評価の方法

平常点と期末試験の成績で評価する。

教 科 書

プリント教材（常用漢字を基本とした語彙集、および文系教科の概論、入門書、小説、新聞等から抜粋した例文集）を配布する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日 本 語 II	佐 野 典 子	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい	読解を中心に、日本語及び日本文化への総合的理解を深める。
講義の内容・ 授業スケジュール	小説、小論文、雑誌記事、新聞記事などの読解を、ゼミ形式で行う。
成績評価の方法	小試験、提出物、討論への参加度、出席率などにより、総合的に評価する。
教 科 書	教材は、担当者が準備する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日 本 語 II	多 田 羅 哲 子	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい	<p>話すことを中心に日本語の運用能力を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事実の説明や、スピーチ、質疑応答、討論等を通して、正しく適切な表現を用いて日本語が自由に話せるようになることを目指す。 ○発音、アクセント、イントネーション等、自分の日本語を自分で見直し矯正する習慣をつける。 ○あわせて書く練習もする。
講義の内容・ 授業スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ○読んだこと、聞いた内容を自分の言葉で説明したり、それに対する自分の考えを述べる練習をする。 ○スピーチをし、その内容について質疑応答、意見交換、討論等を行う。 ○ディベートを通して適切な表現で自己主張したり、相手を説得する練習をする。 ○話したことを文章にまとめる。 ○テープを聞き自分の日本語を意識し矯正する。
履修上の留意点	積極的に授業活動に参加し、提出物は必ず提出すること。
成績評価の方法	平常点を重視する。
教 科 書	必要に応じてコピーを配布する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日 本 語 III	た た ら あき こ 多 田 羅 哲 子	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

- 聴きとることを中心に日本語の総合的能力を養う。
- 話題になっていることについて生の日本語を通じて深く理解し、また的確に表現できるようになることを目指す。
 - 一つのテーマについて聴きとる（見る）・読む・話す・書く活動を通じてバランスのとれた日本語の力を身につける。

講義の内容・授業スケジュール

- 今話題になっているテーマについてビデオを見たり、本・新聞・雑誌などの文章を読んで内容を把握する。
- その内容を説明したり、それについて自分の考えを述べたり討論したりする。
- また、それらを文章に表現する練習もする。

履修上の留意点

必ず出席し、授業に積極的に参加すること。

成績評価の方法

平常点、つまり授業中の発言や提出物を重視する。

教科書

ビデオを使用。プリントを配布する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日 本 語 III	ゆ むら れい こ 湯 村 礼 子	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

これまで修得してきた日本語能力をさらに強化し、文献を自分で調べながら読み、理解できるようにする。さらに、文献を通して、考え、自分の意見を持ち、発表・説明ができるようになることを目指す。

講義の内容・授業スケジュール

新聞・雑誌・文学作品・専門書などから教材を選び、読み進める。読んだ後に、意見を出し合ったり、討論を行ったりし、さらに認識を深め、最後に小レポートを提出してもらう。後期には、各自分担を決めて調べたり、資料を収集したりしての発表も行なう。

履修上の留意点

授業活動を重視するので、当然、毎時間の出席を原則とする。

成績評価の方法

試験（漢字・語彙テスト etc）、内容把握小レポート、授業での発表、その他の授業活動（発言、他の人の意見を良く聴くこと・授業態度 etc）を総合的に評価する。

教科書

授業中にプリントを配布する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本語 IV	いし かわ まもる 石 川 守	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい	日本語の中・上級のさまざまな文型の用法を分析して、理解するばかりでなく、会話や作文で使えるようにしていきたい。
講義の内容・授業スケジュール	講義の進め方は、テキスト「日本語中上級文型」を使って、そこに出てくる文型や、文法事項、語彙、表現、アクセントの問題などをともに分析して進めて行きたい。
履修上の留意点	授業は一方的な講義の形ではなく、教師の側が、学生に質問をしながら進めて行く。教師から教えてもらうのではなく、自分で考え、自分で準備し、積極的に参加するようにしてもらいたい。
成績評価の方法	成績評価は、筆記試験と平常点（出席、授業への参加度）の二つで評価する。
教科書	教材は、授業中にプリントを配布する。
参考書等	特になし
その他	授業は講義形式ではなく、常に教師から学生に質問をする形で行っていく。

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本語 IV	ゆ 村 れい こ 湯 村 礼 子	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい	書くことを中心に授業を進める。日常生活、大学生活に必要な文章力をさらに高めることを目的とする。
講義の内容・授業スケジュール	文・段落・文章の書き方、文章の種類などについて講義し、実践し学生に書いてもらう。書いたものについて再度見なおし進めていく。
履修上の留意点	講義・授業中の実践活動が重要なので、毎時間の出席を原則とする。
成績評価の方法	作文・レポートなど（5回程度） 授業活動（発言、授業態度、授業中の提出物 etc）
教科書	授業中にプリントを配布する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日 本 語 V	いし かわ まもる 石 川 守	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

日本語の「基礎文法」についてより深く理解するために詳しく分析し、そこに潜む日本語文法の特質を考え、ひいては話し、聞き、書き、読む際により正確に深く日本語が理解できるようになることを目指したい。したがって、基礎的な文法に特に自信のない学生に受講してもらいたい。

講義の内容・授業スケジュール

講義は、テキスト「日本語基礎文法」を使って、そこに出てくる項目を中心に、ともに考え分析しながら進めていきたい。始めは、初級レベルから始め、時間が許せば中級レベルのものも分析してみたい。

履修上の留意点

扱う学習項目は主に初級文法であるが、文法的な問題は基本的なものほど難しく、また深く掘り下げて分析して行くので、内容は単なる初級であると考えないでほしい。

成績評価の方法

成績評価は、筆記試験と平常点（出席、授業への参加度）の二つで評価する。

教科書

教材は、授業中にプリントを配布する。

参考書等

特になし

そ の 他

授業は講義形式ではなく、常に教師から学生に質問をする形で行っていく。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日 本 語 V	た た ら あき こ 多 田 羅 哲 子	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

中上級の文法・表現練習及び作文演習。主としてレポート・論文等を正しく適切な表現を用いてわかり易く書くための基本的練習をする。

講義の内容・授業スケジュール

- 留学生の文章によく見られる問題箇所（たとえば「は」と「が」の使い分け、その他の助詞、自他動詞、接続表現、文末表現など）について正しく書けるよう練習する。
- より適切な表現が選べるよう中上級の文法・表現の復習をする。
- 話し言葉と書き言葉の使い分け、事実と意見の述べ方、表・グラフを使う表現等レポートを書くときに役立つ基礎的な練習をする。

履修上の留意点

平常の練習が大切なので必ず出席すること。

成績評価の方法

平常点を重視する。

教科書

プリントを配布する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本語 VI	いし かわ まもる 石 川 守	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

日本語の「会話文型」を中心に、より高度な日本語の日常会話の表現について分析する。

講義の内容・
授業スケジュール

講義はICJ (intermediate) の会話部分を用い、そこに出現する会話文型、会話特有の文型、アクセント等について分析をしながら進める。

履修上の留意点

講義は教師が一方向的に講義するというのではなく、常に学生に質問をしながら進めるため、自分の意見をはっきりもってもらいたい。また、本講義は、日常会話の文型や文法的要素を分析するもので、実際の会話をしたり、会話練習をするものではない。

成績評価の方法

成績評価は、筆記試験と平常点（出席、授業への参加度）の二つで評価する。

教科書

コピーを配布する。

参考書等

特になし

その他

授業は講義形式ではなく、常に教師から学生に質問をする形で行っていく。

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本語 VI	た た ら あき こ 多 田 羅 哲 子	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

読むことを中心に話す力、聴解力、作文力など日本語の総合的な能力を高める。

講義の内容・
授業スケジュール

- 今話題になっていることについて、語彙・表現・文法事項などを押さえながら、本・新聞・雑誌等の生教材を読む。
- 関連したビデオを見て、それらが実際にどう使われているかを知る。
- テーマについて話し合ったり書いたりすることで日本語を豊かにする。

履修上の留意点

授業中の活動が大切なので必ず出席すること。

成績評価の方法

平常点を重視する。

教科書

プリントを配布、ビデオを使用。

《日本事情科目》

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日本事情Ⅰ 〔地理〕(後期)	小池 一之	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

この講義では、日本人が変化に富んだ日本列島とどのように付き合ってきたか考えてみる。

講義の内容・ 授業スケジュール

半年の講義の中で、重点的に触れるのは次のような点である。

- a. 稲作技術の伝来と平野の開発
- b. 江戸ー東京の発展-その自然的な背景-
- c. 治山・治水事業-自然災害との闘い
- d. 「白砂青松」-代表的な日本の海岸成立の背景-

履修上の留意点

出来るだけ明瞭な日本語で講義するよう心掛けるが、学術的な用語が解りにくい場合、遠慮せずに質問すること。

成績評価の方法

平常の出席状況と課題レポートによる。

教科書

特定の教科書はないが、授業中に紹介する。

その他

出来るだけプリント類を配布し、スライド、ビデオなどを多用する予定である。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日本事情Ⅱ 〔自然〕(前期)	清水 善和	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

日本はアジア大陸の東端に位置する島国であり、亜寒帯の北海道から温帯の本州を通り、亜熱帯の沖縄まで約3,000kmの細長い国土を有している。国土の67%は山地であり、複雑な海岸線とあいまって多様な地形を形成している。日本は複数のプレートの境界域に当たり、世界でも有数の火山・地震地帯となっている。このような多様な環境を反映して、日本には独特の動物・植物が多数生息・生育している。

本講義では日本の自然を気候、地形・地質、生物の3分野に分けて解説する。その際に次の3つの視点に留意する：(1)アジアの自然の中での日本の位置づけ、(2)現在の状態と過去の歴史とのつながり、(3)自然と日本の文化との関係。すなわち、できるだけ時間的、空間的に広い視野から日本の自然をとらえることによって、留学生の母国の自然とのつながりも確認できるようにしたい。また、講義の最後には日本の自然破壊の歴史とその保護の在り方についても言及する。

成績評価の方法

レポート(2、3回)と出席回数に基づいて評価する。

教科書

特定の教科書はなし。参考書は適宜紹介する。

その他

毎回配付する補助教材のプリントを用いて講義する。適宜スライドによる事例紹介を行なう。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日本事情Ⅲ 〔歴史〕(後期)	みやもと ゆきこ 宮本 由紀子	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい	日本の歴史を学ぶことで日本民族の持つ民族性を理解する手掛りとしたい。
講義の内容・ 授業スケジュール	特に江戸時代に至る過程を講義し、鎖国制度の完成までを目安にする。
履修上の留意点	板書を中心とし、わかり安く楽しい講義をこころがけるので、ノートを取り、理解できないところは質問するなどして疑問を残さないようにすること。
成績評価の方法	出席日数を評価の参考とし、レポートで成績の評価とする。
教科書	なし
参考書等	なし
その他	講義のみ

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日本事情Ⅳ 〔思想〕(前期)	あかば ゆきこ 赤羽 由規子	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい	日本人が古くから伝承してきた民俗音楽の中に、日本人の精神世界を見ていく。 民俗音楽とは、古来、人々が生きていく上で、衣食住と同じように必要としてきた音楽で、それは、例えば信仰、祭り、作業、遊びなどに伴う形で存在している。ほとんどは作者不詳であり、楽譜もなく、普通の人々の間で口頭伝承されていく性質のものである。テープやビデオを用いて、実際に音楽を視聴しながら講義を進めていきたい。
履修上の留意点	第一回目にオリエンテーションを行うので必ず出席すること。
成績評価の方法	出席数、筆記試験によって採点する。
その他	その都度知らせる。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日本事情 V 〔 社 会 〕 (後期)	え江 ^{がみ} 上 ^{わたる} 渉	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

この講義では、現代日本の社会の特質を素描する。
戦後における日本は、高度成長をとげ社会の構造的変動を経て、著しい変化をしてきた。その変動の過程でさまざまな社会問題が発生し、人びとの社会生活、社会意識等も大きく変容してきた。そうした日本社会の諸相について、社会学的なアプローチから概観する。

講義の内容・
授業スケジュール

ほぼ次のようなテーマを扱う予定である。
1. 日本社会の構造的変化
2. 大衆社会化の進展とマスコミ
3. 情報化社会の進展と社会生活

履修上の留意点

この講義は、社会学的な考察を行うので、社会学の基礎を学んでおくことが望ましい。

成績評価の方法

受講生の数にもよるが、レポートと試験を行い、場合によっては出席を加味して評価する。

教科書・
参考書等

教科書、参考書は特に指定しないが、講義の中で適宜紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日本事情 VI 〔 政治・法律 〕 (前期)	せき 関 ^{ぐち} 口 ^{まさ} 雅 ^お 夫	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

日本事情VI〔政治・法律〕は、新聞にでてくる政治と法律についての記事を利用して、受講生の日本語を読む力、日本語を正確に話す力、日本語でよい答案を書く力を高めることを目的としています。

講義の内容・
授業スケジュール

まず先生が新聞の記事を読みます。つぎに受講生におなじ記事を読んでもらいます。それから、記事の内容を検討し、全員が理解できるようにします。その後、この記事に関連して話し合いをし、おわりに、この記事の内容を正確な日本語で表現できるようにします。

履修上の留意点

かならず出席してください。

成績評価の方法

平常点により評価します。

教科書

最初の授業の日に受講生の日本語の能力を見て、教材を作成します。コピー代は、150円ぐらいです。

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本事情Ⅶ 〔文学〕(前期)	おくはらじゅんこ 奥原淳子	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

目標は、問題発見能力の涵養と、文学・言語に対する理解を深めることにあります。
 具体的には、各自がテーマを選定し調査研究して発表する、という方式で授業を進めます。その際、内容はもちろん、言語面での問題点も共に考えていきましょう。
 テーマは、文学作品、作家、また、日本語の言語項目を対象とします。なお、文学作品の中では、日本語の作品とその翻訳版との比較なども興味深いだろうと思います。

講義の内容・授業スケジュール

第一回の授業には、予め、関心のある文学作品や作家、言語項目を持って出席できるといいと思います。
 各自で調査研究を進め、順次教室で発表、検討していきます。

履修上の留意点

授業には、受身でなく、積極的な姿勢で臨むこと。

成績評価の方法

出席状況／研究発表

参考書等

その都度指示します。

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本事情Ⅷ 〔文化・芸術〕(後期)	あかばゆきこ 赤羽由規子	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

いわゆる「伝統邦楽」といわれている、日本の古くからの和楽器による音楽や芝居の中に、日本人の義意識を探っていく。
 また、日本の伝統音楽は、そもそもアジア諸国の音楽を学ぶことから始まり、そこから次第に日本人に合った独特のものを生み出していったのであり、更に明治以後には西洋音楽からも多くの触発を受け、戦後には「現代邦楽」を目差している。そのような過程をも合わせて見て行きたい。テープやビデオを用いて、わかりやすく講義を進めていく。

履修上の留意点

第一回目にオリエンテーションを行うので必ず出席すること。

成績評価の方法

出席数、筆記試験によって採点する。

参考書等

その都度知らせる。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日 本 事 情 IX 〔 経 済 〕 (前期)	瀬 戸 岡 <small>せ と おか ひろし</small>	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

日本の経済事情のアウトラインをわかりやすく解説します。わかっているようで、わからないことを、なるべくいいねいに話します。たとえば、明治時代以来の工業化は、アジア諸国のなかでなぜ日本が先んじて成功したのか？ 日本の経営が今あちこちで問題にされていますが、どのようにしてそれが日本に根をおろしていったのか？ 就業人口にしめる農業人口の割合は、日本とオーストラリアとイギリスとアメリカでは、どこが一番高いか？ そして農業生産高はどうか？ そして時には余談もします。たとえば、この国本当の名前ってニホンなの？ ニッポンなの？ それともジャパンでもいいの？ など、みなさんが日本にきた以上、ぜひ知って帰りたいことを、たくさん話すことがねらいです。

講義の内容・授業スケジュール

以下のようなトピックを一回の講義でひとつずつとりあげます。しかし、とりあげる順序は、みなさんの希望に応じていれかえることがあります。

- 日本の工業地帯と工業
- 日本の農村と農業および日本の水産業
- 日本のサービス業および金融
- 明治維新以前の日本経済の歴史
- 第2次世界大戦以降の日本経済の展開
- 日本経済とアメリカ経済
- 日本経済とアジア経済
- 日本経済と政府の役割
- 日本の労働者・サラリーマンの生活
- 日本経済と社会や文化の変化
- その他

成績評価の方法

日ごろの授業態度で評価します。具体的には、出席40%、小テスト（クイズ）30%、宿題30%が目安です。

教科書

日本経済について書かれた本はあまりにたくさんあるので、特定の本を指定することはいたしません。しかし、授業のなかでその都度適切な本を紹介しします。日々のニュースをよく聞いてください。この講義では、日ごろあなたが目にするものそのものを題材として授業をすすめます。いわば、あなたの周囲にあるものそれ自体が教科書です。とくに、よい本をもとめたい人は、私に相談してください。いくらでも紹介します。

その他

授業は、おおむね日本語ですすすめます。しかし、その日の要点は、英語でも話します。質問は、日本語でも英語でもどちらでも受けつけます。授業のなかで、みなさんが積極的に発言することを期待しています。はじめのうち、どうしても日本語がうまくつかえなければ、英語で発言してもかまいません。

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本事情 X 〔経営〕(前期)	まえ だ がす とし 前 田 和 利	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

日本的経営とよばれるものが歴史的にどのように形成されてきたかを、企業の具体的経営行動のケースをとおして明らかにする。

講義の内容・授業スケジュール

1. コーポレート・ガバナンス、2. 雇用システム、3. 生産・流通システム、4. 政府と企業の関係というテーマにそってケースをとりあげていく。

履修上の留意点

講義形式はとらない。あらかじめ担当者を決めておき、その報告にもとづいてディスカッションしながら日本の企業経営についての理解を深めることとする。自主的受講態度が望まれる。

成績評価の方法

平常点と筆記試験によって評価する。

教科書

伊丹敬之・加護野忠男・宮本又郎、米倉誠一郎編『日本的経営の生成と発展』(有斐閣) 1998年。

5 教職・資格講座

- I 教 職 課 程
- II 学校図書館司書教諭講座
- III 社会教育主事講座
- IV 博物館学講座
- V 社会福祉主事講座
社会福祉士基礎

※上記の教職および資格講座授業科目の講義内容が掲載されていますが、各学部において受講できる課程および講座は以下のとおりです。
(履修についての詳細は、『教職課程・資格講座履修要項』を参照すること。)

課 程 ・ 講 座 名	資 格 取 得 学 部
教 職 課 程	全 学 部
学校図書館司書教諭講座	全 学 部
社会教育主事講座	全 学 部
博物館学講座	仏教学部・文学部
社会福祉主事講座 社会福祉士基礎	全 学 部

教職・資格講座

5 教職・資格講座

〔注意〕頁（ ）は、他の課程・講座と兼用科目のため、講義内容は、主たる課程・講座にのみ掲載し、その頁を表示しています。

I 教 職 課 程

(1) 教職に関する専門科目（必修）

教 育 原 理 (豊 田 千代子)	233
教 育 原 理 (北 村 三 子)	233
教 育 原 理 (伊 藤 茂 樹)	234
教 育 原 理 (村 山 輝 吉)	235
教 育 原 理 (坂 本 信 昭)	235
教育心理学〔教育方法論を含む〕(大 浜 幾久子)	236
教育心理学〔教育方法論を含む〕(国 眼 眞理子)	236
教育心理学〔教育方法論を含む〕(角 野 善 司)	237
教育心理学〔教育方法論を含む〕(遠 藤 司)	238
青年心理学〔教育方法論を含む〕(大 浜 幾久子)	238
青年心理学〔教育方法論を含む〕(川 田 三 夫)	239
青年心理学〔教育方法論を含む〕(小宮山 要)	240
青年心理学〔教育方法論を含む〕(川 原 誠 司)	240
道 徳 教 育 の 研 究 (加 藤 幸 夫)	241
道 徳 教 育 の 研 究 (加 藤 幸 夫)	242
道 徳 教 育 の 研 究 (鶴 卷 武)	243
特 別 活 動 (小 川 一 郎)	243
特 別 活 動 (鶴 卷 武)	244
生 活 指 導 (遠 藤 司)	245
生 活 指 導 (佐 藤 尚 人)	246
宗 教 科 教 育 法 (小 山 一 乗)	247
国 語 科 教 育 法 (神 谷 道 倫)	248
書 道 科 教 育 法 (那 須 隆 吉)	248
英 語 科 教 育 法 (佐 藤 真 二)	249
社会科・地理歴史科教育法 (久保田 武)	250
社会科・地理歴史科教育法 (桜 井 明 久)	250
社会科・地理歴史科教育法 (藤 木 正 国)	251
社会科・公民科教育法 (橋 爪 敏)	251
社会科・公民科教育法 (谷 敷 正 光)	252
社会科・公民科教育法 (上 條 末 夫)	253
商 業 科 教 育 法 (谷 敷 正 光)	254
職 業 科 教 育 法 (前 田 幸 一)	255
教 育 実 習 (豊 田 千代子)	255
教 育 実 習 (坂 本 信 昭)	256
教 育 実 習 (村 山 輝 吉)	256
教 育 実 習 (北 村 三 子)	257
教 育 実 習 (伊 藤 茂 樹)	257

(2) 教職に関する専門科目（選択）

教 育 関 係 法 規 (広 沢 明)	258
教 育 評 価 (大 浜 幾久子)	258
教 育 法 規 研 究 (休 講)	

教 育 哲 学	(汐 見 稔 幸)	259
教 育 情 報 学	(小 倉 康 仁)	260
教 育 臨 床 心 理 学	(牟 田 隆 郎)	260
教 育 社 会 学	(熊 谷 一 乘)	261
教 育 史	(北 村 三 子)	262
教 育 調 査	(鈴 木 規 夫)	263
芸 術 教 育	(香 川 良 成)	263
現代社会の諸問題と教育	(熊 谷 一 乘)	264
青 少 年 問 題 研 究	(讀 岐 真 佐 子)	265
宗 教 教 育	(小 山 一 乘)	266
生 涯 学 習 概 論	(豊 田 千 代 子)	(267)
視 聴 覚 教 育	(飯 森 彬 彦)	(267)
社 会 教 育 施 設	(村 山 輝 吉)	(267)
学 校 経 営 と 学 校 図 書 館	(山 田 節 子)	(267)
読 書 と 豊 かな 人 間 性	(山 田 節 子)	(267)
学 校 図 書 館 メ デ ィ ア の 構 成	(源 昌 久)	(268)
情 報 メ デ ィ ア の 活 用	(源 昌 久)	(268)
学 習 指 導 と 学 校 図 書 館	(山 田 節 子)	(268)

(3) 教科に関する専門科目 (必修)

【社会・地理・歴史・公民】

東 洋 思 想 史	(末 木 恭 彦)	269
美 術 史 概 説	(矢 野 陽 子)	269
民 間 信 仰 論	(谷 口 貢)	270
人 文 地 理 学 概 説	(小 池 と み 子)	270
自 然 地 理 学 概 説	(高 木 正 博)	271
自 然 地 理 学 概 説	(早 船 元 峰)	271
地 誌 学 概 説	(川 元 豊 和)	272
地 誌 学 概 説	(久 保 田 武)	273
地 誌 学 概 説	(藤 島 範 孝)	274
日 本 仏 教 史	(遠 藤 廣 昭)	274
日 本 文 化 史 I	(廣 瀬 良 弘)	275
日 本 文 化 史 II	(休 講)	
歴 史 哲 学	(麻 生 建)	275
日 本 史 概 説	(黒 田 基 樹)	276
日 本 史 概 説	(小 松 寿 治)	276
世 界 史 概 説	(井 村 行 子)	277
世 界 史 概 説	(松 本 弘)	277
社 会 学 原 論	(渡 辺 源 樹)	278
宗 教 人 類 学	(佐 々 木 宏 幹)	(279)
経 済 原 論	(浅 田 統 一 郎)	280
経 済 原 論	(天 野 光 則)	281
経 済 原 論	(小 野 俊 夫)	282
民 法 I	(大 宮 隆)	283
政 治 学 原 論	(大 塚 桂)	284
日 本 宗 教 文 化 史	(池 上 良 正)	285
民 衆 宗 教 成 立 史	(津 城 寛 文)	285
宗 教 学 概 説	(洗 建)	286
宗 教 学 概 説	(池 上 良 正)	286

宗	教	学	概	說	(津	城	寬	文)	287
哲	学	概	說	(国	嶋	一	則)	288	
倫	学	概	說	(末	木	恭	彦)	288	
【職	理	学	概	說	(久	保	陽	一)	289
業】										
産	業	概	說	(前	田	幸	一)	290	
職	業	指	導	(山	田	勇	治)	290	
商	業	実	習	(前	田	幸	一)	291	
【商	業】									
職	業	指	導	(山	田	勇	治)	(291)	

II 学校図書館司書教諭講座

必修科目

学校経営と学校図書館 (山田節子)	295
読書と豊かな人間性 (山田節子)	295
学校図書館メディアの構成 (源昌久)	296
情報メディアの活用 (源昌久)	296
学習指導と学校図書館 (山田節子)	297

III 社会教育主事講座

(1) 必修科目

社会教育計画 (村山輝吉)	301
生涯学習概論 (豊田千代子)	302
社会教育実習 (豊田千代子)	302
社会教育実習 (村山輝吉)	303

(2) 選択必修科目

社会教育行政 (東寿隆)	304
社会教育施設 (村山輝吉)	304
成人学習論 (東寿隆)	305
女性と学習 (矢口悦子)	305
企業内教育・職業訓練 (塩川正人)	306
社会体育 I (古田潤子)	307
社会体育 II (古田潤子)	307
教育原理	(308)
教育心理学〔教育方法論を含む〕	(308)
青年心理学〔教育方法論を含む〕	(308)
社会心理学 (坪井健)	309
視聴覚教育 (飯森彬彦)	(309)
教育社会学 (熊谷一乘)	(309)
教育史 (北村三子)	(310)
教育調査 (鈴木規夫)	(310)
児童文化 (香川良成)	310
現代社会の諸問題と教育 (熊谷一乘)	(310)
青少年問題研究 (讃岐真佐子)	(311)
青少年指導演習 (平野学)	311
博物館学 I〔概論〕 (太田喜美子)	(312)
博物館学 II〔資料論〕 (竹内順一)	(312)

IV 博物館学講座

(1) 必修科目

視聴覚教育 (飯森 彬彦)	315
考古発掘実習 (飯島 武次・酒井 清治)	315
博物館学Ⅰ〔概論〕 (太田 喜美子)	316
博物館学Ⅱ〔資料論〕 (竹内 順一)	316
博物館学Ⅲ〔経営論・情報論〕 (竹内 順一)	317
博物館実習Ⅰ〔館務〕 (飯島 武次・酒井 清治・太田喜美子)	318
博物館実習Ⅱ〔収集〕 (酒井 清治・太田喜美子・國見 徹 久保田昌希・佐々木 真・佐藤 元英 所 理喜夫・廣瀬 良弘)	318
博物館実習Ⅲ〔見学〕 (酒井 清治・太田喜美子・松本 信道)	319
教育原理	(319)
生涯学習概論 (豊田 千代子)	(319)

(2) 選択必修科目

インド仏教文化史 (奈良 康明)	320
中国仏教文化史 (永井 政之)	321
日本仏教文化史 (袴谷 憲昭)	321
禅美術 (海老根 聰郎)	322
仏教美術 (山下 裕二)	322
仏教民俗学 (須藤 寛人)	323
日本民俗学 (谷口 貢)	324
美術史概説 (矢野 陽子)	325
現代美術 (矢野 陽子)	325
地形学 (小池 一之)	326
第四紀学 (鈴木 毅彦)	326
考古学概説Ⅰ〔日本〕 (酒井 清治)	327
考古学概説Ⅱ〔外国〕 (飯島 武次)	327
日本文化史Ⅰ (廣瀬 良弘)	328
西洋文化史Ⅰ (佐々木 真)	329
日本文化史Ⅱ (休 講)	
西洋文化史Ⅱ (休 講)	
考古学特講Ⅰ (休 講)	
考古学特講Ⅱ (高浜 秀)	330
考古学特講Ⅲ (休 講)	
考古学特講Ⅳ (矢野 和之)	331
西域美術史 (松平 美和子)	332
宗教人類学 (佐々木 宏幹)	332

V 社会福祉主事・社会福祉士基礎講座

(1) 必修科目

※社会福祉原論(伊藤秀一)	335
※社会福祉原論(船水浩行)	336

(2) 選択科目

※法学〔福祉〕(小林弘人)	337
社会福祉発達史(林千代)	337
リハビリテーション論(生川善雄)	338
※社会保障論(長尾譲治)	339
家庭福祉論(岩上真珠)	340
社会福祉計画論(川廷宗之)	341
国際社会福祉論(山本真実)	342
保健福祉論(長尾譲治)	343
※公的扶助論(伊藤秀一)	344
※障害者福祉論(生川善雄)	345
※老人福祉論(東條光雅)	346
児童福祉論(前期：山本真実) (後期：許斐有)	347
女性福祉論(林千代)	347
医療福祉論(春見静子)	348
※地域福祉論(渡辺一城)	349
※社会学〔福祉〕(橋爪敏)	350
※心理学〔福祉〕(高橋良博)	350

上記科目のうち、※印は、社会福祉主事、社会福祉士基礎に兼用する科目、それ以外は社会福祉主事のみを対象とする科目です。

I 教 職 課 程

(1) 教職に関する専門科目（必修）

科目名	担当者名	配当学科	単 位
教育原理	とよ た ち よ こ 豊 田 千 代 子	教 職 2 必 (禪・仏教)	4

講義のねらい

自分自身の成長過程で経験した教育をふり返ることをとおして、教育について考えていきたい。取り上げるテーマとしては、次のものを考えている。

講義の内容・授業スケジュール

- ・現代の教育問題
- ・「子どもの権利条約」
- ・人権教育
- ・生涯教育論
- ・教師論
- ・国際理解教育
- ・教育改革の方向性

成績評価の方法

出席点、レポート等によって成績評価を行なう。

教科書

特になし。必要に応じて資料を配布する。

参考書等

篠田弘編『資料でみる教育学』（福村出版）
大学教育実践研究会編『教育を考える』（相川書房）

その他

自分たちで考えていくことを大切にしたいので、授業は、グループでの話しあいを中心に進める。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
教育原理	きた むら みつ こ 北 村 三 子	教 職 2 必 (国文・英米文・ 社会・福祉・心理)	4

講義のねらい

第二次大戦後、民主主義と科学の精神を掲げて出発した日本の教育学は、今日の教育をめぐる様々な問題に十分に対応できなくなっている。また、誰もが環境問題に無関心ではいられない今日において、教育学も、それにふさわしい新たな人間観や、自然や自分や他者との関わりのある方を模索しなければならない。この授業では、教育の新しい方向を見いだすための一つの試みとして、(日本の教育学の源流である)西洋近代の教育学にとっては傍流であった、ゲーテやシュタイナーに焦点をあて、その可能性を探ってみたい。

講義の内容・授業スケジュール

R. シュタイナーは、近代教育学の中では極めて特異な存在であった。しかし、近代の矛盾が顕在化してきた今日では、シュタイナー学校への支持の高まりが見られるばかりでなく、欧米の公教育にも大きな影響を与え始めている。また、シュタイナーは、ゲーテの認識論を基礎にその思想を築いている。近代文明や近代科学によって見失われてきた、人間の身体性や全体性の追求がそこに見い出せるであろう。授業では、シュタイナーの著作をテキストにその教育思想や教育方法を検討するが、今日の子どもや若者をめぐる問題も、それと関連させて取り扱いたい。

履修上の留意点

多人数のためゼミ形式は取れないが、共に感じたり、考えたりできる時間にしたい。

成績評価の方法

年度末にレポート(4,000字程度)提出。また、授業時に資料についてのコメントを何回か求めるが、それも出席点として加算する。

教科書

R. シュタイナー『教育芸術1 方法論と教授法』（筑摩書房）3,200円

参考書等

高橋巖『シュタイナー教育入門』（角川選書）、子安美知子『ミュンヘンの小学生』（中公新書）、同『ミュンヘンの中学生』（朝日文庫）など。詳しくは、教場で指示。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
教 育 原 理	伊 藤 茂 樹 <small>いとう しげき</small>	教 職 2 必 <small>(地理・歴史・法律・政治)</small>	4

講義のねらい

教員免許の取得をめざす受講者に、教育を考え、行うにあたって基本的なもののとらえ方を身につけてもらうことを目的とする。

教育について、経験だけに基づいて考えても理解できないこと、解決できない問題は必ずある(例えばいじめ)。教育の歴史や成り立ち(構造)や仕組み(メカニズム)について、様々な側面から知ることが不可欠であり、そのために教育学はある。しかし、知るということには受動性という限界がある。知識をもとに自分なりに現象や状況について考えることが、変化し続ける教育に携わっていくうえで不可欠である。知識と経験をつなぐものとして、状況を理解し、判断するための「目」が重要なのである。

この「目」を養うための鍵は、教育と社会とのつながりに着目することにある。これには、社会と教育を対比させ、社会が教育に及ぼす影響、教育が社会に及ぼす影響を考える方向と、教育の世界や学校、学級、子どもの集団それじたいを社会としてとらえる方向があり、これらを通じて、未知の問題に対しても的確に自分なりの視野の広い理解ができるようになることをめざす。

講義の内容・
授業スケジュール

とりあげるテーマ群として以下のようなことがらを予定している。

- ・近代社会と教育
- ・現代の教育問題
- ・「学歴社会」とは
- ・現代の子ども、青少年
- ・学校という場
- ・教育改革の現在
- ・教育学という学問

履修上の留意点

ふだんから教育に関するニュースに気をつけ、自分なりに考えてみることを心がけること。

成績評価の方法

中間試験、学年末試験により評価する。

教 科 書

教科書は特に指定せず、参考書はその都度指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
教育原理	むら やま てる よし 村 山 輝 吉	教 職 2 必 (経 済)	4

講義のねらい

教育事象にかかわる学生自身の個人的経験やおもいを出発点としながらも、テキストにそい、下村湖人の著作等をも参考にしながら、人間の形成と教育・文化・社会のかかわりについて原理的・総合的な考察をおこなう。人間形成にかかわる諸事象を狭い個人的見地を超え広く開かれた社会的視野から攻究できる能力を育てることをめざしている。

講義の内容・授業スケジュール

- 第1ステップ 教育にかかわる学生自身の体験やおもいの発表（口頭・作文）とその理論的な整理の作業
- 第2ステップ 第1ステップで整理された諸問題について、テキストその他の資料を参考にしながら、考察を深める作業
- 第3ステップ 夏休み中、関連する資料の読みとりとそのレポート作成
- 第4ステップ レポートを基に、日本の教育の現状についてその課題を明らかにし、望ましい改革の方向を探究する作業

成績評価の方法

出席、レポート、口頭発表、試験等により総合的に判定する。

教科書

堀尾輝久『教育入門』（岩波新書）480円

参考書等

『下村湖人全書』全10巻。
その他についてはそのつど紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
教育原理	さか もと のぶ あき 坂 本 信 昭	教 職 2 必 (商 ・ 経 営)	4

講義のねらい

教育は、一面においては理論的研究を必要とするが、それだけに止まっていることができない。他面において、実際に被教育者をいかにして教育していくか、という実践的・技術的研究が必要とされる。したがって教育は、狭い専門領域に立てこもっているわけにはいかず、人間生活の万般に関係をもつことになる。

教育原理は、これまでの教育学の研究成果をとり入れることはもちろんであるが、それとともに、それらの成果を、どのように実践に生かして行くかをも探究する。教育学は教育を対象として理論的研究を進めるものであるが、教育原理は、教育に従事しようとする人たちに教育についての理解を深め、実際に教育にあたる場合の技術や心得を培うことについても検討しなければならない。

履修上の留意点

講義と並行して、参考書欄に記した②「きょういく VISUAL NOTE」を、自学自習のテキストとして活用し、各自で作業（ノート）を完成させ、完了次第提出してもらいます。

成績評価の方法

課題レポート、自主レポート、「きょういく VISUAL NOTE」及び年度末のテストなどによって、総合的に評価する。

教科書

西村絢子他著『現代教育を考える』（昭和堂）2,600円

参考書等

田村皖司他著『きょういく VISUAL NOTE』（エイデル研究所）1,800円

その他

必要な資料を適宜配布する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
教育心理学 (教育方法論を含む)	おお はま きく こ 大 浜 幾 久 子	教 職 2 必 (禅・仏教・国文・英米文)	4

講義のねらい

今世紀の心理学研究の流れをたどりながら、心理学の諸分野で明らかにされてきたことが、今日における日本の教育の諸側面と、どのように関わるのかを考えることを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

基礎的な心理学実験や、性格テストなどの実習、さらにパソコンによる教育統計の入門など、できる限り実習の機会を多くとり、心理学の研究方法を知ると同時に、その背景にある理論について理解を深めていきたい。

成績評価の方法

年間4回程度レポート提出を中心とした、平常点評価の予定である。

参 考 書 等

参考資料等については、必要に応じて準備、指示していく。

そ の 他

実習の他、ビデオ教材等も活用する。それらを通して、教育方法についても考えていきたい。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
教育心理学 (教育方法論を含む)	こく がん まり こ 国 眼 眞 理 子	教 職 2 必 (国文・英米文・地理・ 歴史・社会・福祉・心理)	4

講義のねらい

生徒理解や、生徒の心の発達を促すうえで役立つ基礎的な視点を学ぶ。

講義の内容・
授業スケジュール

前半は教科書を用いて、心理学の基礎的な考え方を習得する。

1. われわれの世界の捉え方 (知覚)
2. 記憶や学習のメカニズム
3. 発達のメカニズムとその可能性
4. パーソナリティとは何か、その捉え方

後半は、前半で学んだ基礎知識をもとに、「青年期」理解を深めるとともに、教師と生徒間のコミュニケーションのあり方を考える。

1. 「青年期」と、その心理的な課題 (アイデンティティ形成)
2. 自己のアイデンティティを探る
3. 自己意識の発達
4. 自己の発達と対人関係 (親子関係、友人関係、その他)
5. 進路選択とアイデンティティ形成
6. サポーターとしての教師の役割 (「共感的理解」とは何か)
7. カウンセリングとは何か
8. コミュニケーション (非言語的なコミュニケーション、アサーションなど)

成績評価の方法

指定図書5冊の本の中から、2冊を選び、レポート提出。

前期終了時に小テストを実施。

後期終了時にレポートもしくは試験を実施。(受講者数による)

教 科 書

磯貝芳郎・下山剛編『心理学』(鷹書房) 1996

参 考 書 等

- ① 河合隼雄『カウンセリングを考える(上)』(創元社) 1995
- ② 菅佐和子『思春期女性の心理療法』(創元社) 1988
- ③ 清水将之『思春期のこころ』(日本放送出版会) 1996

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
教 育 心 理 学 (教育方法論を含む)	すみ 角 の ぜん 野 善 じ 司	教 職 2 必 (地理・歴史・社会・福祉・心理・ 経済・商・法律・政治・経営)	4

講義のねらい

教育心理学は、教育場面对して心理学的にアプローチする学問です。すなわち、教師が、生徒を理解し、効果的な教育を行うためにはどうしたらよいかを、心理学的な観点から考えようとするものです。
この講義で学び、そして考えたことを、教育場面で生徒と接するにあたっての1つのヒントにしてほしいと思います。

講義の内容・
授業スケジュール

- 以下の3つを中心テーマとして進めます。
- ① 発達：人間の生涯にわたる発達について
 - ② 教授-学習：生徒の学習について、および学習に対する教授過程について
 - ③ 測定・評価：教育場面における評価の目的やあり方について

履修上の留意点

自らの意志で免許・資格の取得を目指す以上は、毎回講義に出席し、主体的な態度で臨んでください。出席回数が一定基準に達しない場合には、単位を付与しません。

成績評価の方法

出席点1割、平常課題の提出状況1割、前期・後期末のテスト3割、夏季・冬期休暇時のレポート5割の配点で、評価します。

教 科 書

指定しません。講義は、図表などを載せた資料プリントを活用して進めます。

参 考 書 等

子安増生ほか『ベーシック現代心理学6 教育心理学』(有斐閣)
この他、講義の進行に合わせて、適時紹介します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
教 育 心 理 学 (教育方法論を含む)	えん どう つかさ 遠 藤 司	教 職 2 必 (法律・政治)	4

講義のねらい

現在の教育に関する諸問題を考えるとき、心理学の様々な知見が影響力を持ち得ていることに気づかざるをえない。その様子を概観し、将来、教職に就こうとしている人間として、教育心理学的なものの見方とはどのようなものであるのか考えることを通して、自分なりの見方を確立することをテーマとする。

講義の内容・
授業スケジュール

教育心理学の中での主要なテーマを概観することが講義の主となる。中でも、「自己」の問題をテーマとして取り上げ、教育心理学の中で、「自己の成り立ち」、「自己と他者」等の問題がどのように考えられてきたかを見ながら、具体的な現象から考えていくこととしたい。また、「学習」の問題にも注目し、教育心理学の中で「学ぶ」ことをどのように考えてきたか、それに伴って「教える」ことをどのように考えてきたかを見直し、「評価」の問題、「教師-生徒関係のあり方」等の問題にも触れつつ、現在の学校において「学ぶ」ということを改めて問いなおしていきたい。

履修上の留意点

考えることを厭わない学生の履修を望む。

成績評価の方法

年度末試験を予定している。

教 科 書

特定の教科書は用いない。

参 考 書 等

参考書等については授業中に随時紹介する。

そ の 他

講義が中心になることは否めないが、ビデオ等を用い、できるだけ実際の場面などを見ながら、実践に即して様々な問題について考える機会を作りたい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
青 年 心 理 学 (教育方法論を含む)	おお はま き く こ 大 浜 幾 久 子	教 職 2 必 (理・仏教・国文・英米文)	4

講義の内容・
授業スケジュール

はじめに青年期に限らず、人間の発達とは何か、について考える。その上で青年期の様々な問題をとりあげ、それらに対する心理学的な分析の方法と最近の研究を検討していく。また、性格テストなどの実習や、基礎的な研究実習も可能な限り行っていきたい。

履修上の留意点

実習の機会を活かすためにも、毎回の講義への出席を大切にしてほしい。

成績評価の方法

年間4回程度のレポート提出を中心とした、平常点評価の予定である。

参 考 書 等

参考資料については随時、準備し指示する。また、ビデオ教材なども活用していく。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
青 年 心 理 学 (教 育 方 法 論 を 含 む)	かわ だ みつ お 川 田 三 夫	教 職 2 必 (国 文 ・ 英 米 文 ・ 地 理 ・ 歴 史 ・ 社 会 ・ 福 祉 ・ 心 理)	4

講義のねらい

中学生になる頃から急速な体の成長や生理的变化を迎える。この第二次性徴をもって青年期が始まる。身体的な変化は内面的な変化を引き起こす訳だが、必ずしも良い方向への変化ばかりではなく悪くなることもある。良い方向への変化にしても、その経過は必ずしも順調にいくとは限らない。ともかく問題の多い時期である。そのことは新聞やテレビの報道を見てもよく分る。こういった青年期の特徴を理解するのが、この講義の第一の目的である。

講義の内容・ 授業スケジュール

- ① 青年(期)について(発達段階、ライフサイクルの中での青年、歴史・文化的所産)
- ② 体と心の発達(第二次性徴、思春期危機)
- ③ 自己意識(自我～自己同一性)
- ④ 親子関係～対人関係(愛着、人見知り等)
- ⑤ 人格・性格(代表的な理論、自己愛)
- ⑥ 友達・仲間(近隣、学校、社会)
- ⑦ 若者文化(移り変わり、流行、風俗)
- ⑧ 性・恋愛(性意識・性行動、恋愛の発達)
- ⑨ 逸脱行動(非行・犯罪、道徳意識)
- ⑩ 心の病気(種類と症状、病理、背景)
- ⑪ 不登校(病理、背景要因、対処法)

大体以上の様なスケジュールで前期が終わる。後期はトピックや事件等をテーマにしなが講義をしたり学生に色々書いてもらったりしている。

成績評価の方法

- ① 前期末と後期末に筆記試験を行なう。
- ② 夏休みに別途課題が出る。
- ③ 不定期に小テストがある。特に後期に小論文テストが数回ある。
- ④ 以上を総合して最終的な評価が出る。

教 科 書

特に指定されたものはない。講義の時にプリント・資料が配布される。
文献は適宜紹介する。
時折体験的な心理テスト等を行なったりする(評価に際して若干考慮される)。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
青年心理学 (教育方法論を含む)	こみやま かなめ 小宮山 要	教職 2 必 (地理・歴史・ 社会・福祉・心理)	4

講義のねらい	青年期にある学生自身にとって、青年期をどう生きるかについて考えると同時に、青年期にある中・高校生を正しく理解してよき教育を実践できる能力を養う。
講義の内容・ 授業スケジュール	1) 青年期は人間関係の拡大と深化の時期であり、その良否は精神的健康にも影響する。そこで、好ましい人間関係の形成に必要な理論や、ルール及びスキル等について幅広く学習する。 2) いじめ、登校拒否、非行、スチューデント・アパシー等の青年期に見られる病理現象について、その発生のメカニズムと対応について学習する。 3) 青年期の中心的テーマである恋愛と結婚について学習する。
履修上の留意点	予定された内容を終わらせるためには、講義はかなりのスピードで行われるので、自分で積極的にノートをとる習慣を身につけて欲しい。
成績評価の方法	通常の授業中で行う小テストとレポート及び授業に対する態度等を総合して評価する。
教科書	小宮山 要著『間違いだらけのいじめ指導』(明治図書)
参考書等	授業で適宜指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
青年心理学 (教育方法論を含む)	かわはら せいし 川原 誠 司	教職 2 必 (経済・商・法律・ 政治・経営)	4

講義のねらい	教職科目ですので、細かな心理学的理論の伝達を主眼に置くことはしません。「教師としてのあり方」「学校現場で教師の受けている種々のストレス」「具体的な学級経営方法」といった実際の教育場面での問題に対して、心理学的な見方や手法がどのように活かされるのかという点を理解してもらうことを目的とします。
講義の内容・ 授業スケジュール	講義内容やスケジュールについては、受講者の数や受講者の動機などによって変わりますので、その状況を把握した上で、受講生に伝えます。
履修上の留意点	どのような学生がどの程度の人数受講するのかということを、私は最初の講義時間に把握したいと考えていますので、受講を希望する学生はそのつもりで行動して下さい。
成績評価の方法	受講人数や受講態度によって変わりますので、講義を進めていく中で受講生に伝えます。
教科書・ 参考書等	講義を進めていく中で、必要なものを適宜紹介していきます。
そ の 他	授業の一部では、グループで検討する課題を出題したり、学級経営に関する英語の文献をグループで要約して発表してもらうことを予定しています。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
道 徳 教 育 の 研 究 (前 期)	か どう ゆき お 加 藤 幸 夫	教 職 2 ・ 3 必 (地 理 ・ 歴 史 ・ 経 済 ・ 商 ・ 法 律 ・ 政 治 ・ 経 営)	2

講義のねらい

道徳教育の問題は、単に学校教育だけの問題ではなく、子どもを取り巻く社会生活全体に係わる問題である。すなわち、時代や社会の変化の中で、人間（子ども）はいかに生きるべきかという課題と密接に関連している。それ故、道徳教育の研究においては、道徳性の原理的追究と学校教育における実際の側面を精確に把握することが常に求められる。

このような視点に立って、人間形成における道徳教育の位置づけを明確にし、且つ、道徳教育の歴史の変遷を概観しながら、現代における道徳教育の基本的課題を分析・考察することが本講義のねらいである。

講義の内容・
授業スケジュール

- I 現代社会と道徳教育
- II 道徳および道徳教育の本質
- III 戦前・戦後における道徳教育
- IV 道徳性の発達と道徳教育
- V 学校教育における道徳教育
- VI 道徳教育をめぐる諸問題

履修上の留意点

これまで各自が受けた道徳教育を思い起こし、整理しておくことが望ましい。

成績評価の方法

出席状況、レポート及び期末試験により総合的に評価する。

教 科 書

中野目直明・小川一郎編『新しい道徳教育』（酒井書店・育英堂）1,995円

参 考 書 等

岩村俊郎・志村欣一・他編『資料 道徳教育の研究』（北樹出版）

そ の 他

講義形式を主とするが、テーマに応じて適宜討論形式も併用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
道 徳 教 育 の 研 究 (後 期)	かとう ゆきお 加藤 幸夫	教 職 2 ・ 3 必 (禅 ・ 仏教 ・ 国文 ・ 英米文 社会 ・ 福祉 ・ 心理)	2

講義のねらい

道徳教育の問題は、単に学校教育だけの問題ではなく、子どもを取り巻く社会生活全体に係わる問題である。すなわち、時代や社会の変化の中で、人間（子ども）はいかに生きるべきかという課題と密接に関連している。それ故、道徳教育の研究においては、道徳性の原理的追究と学校教育における実際の側面を精確に把握することが常に求められる。

このような視点に立って、人間形成における道徳教育の位置づけを明確にし、且つ、道徳教育の歴史の変遷を概観しながら、現代における道徳教育の基本的課題を分析・考察することが本講義のねらいである。

講義の内容・
授業スケジュール

- I 人間形成と道徳教育
- II 道徳教育の歴史
- III 現代社会と道徳教育
- IV 道徳性の発達と道徳教育
- V 学校における道徳教育
- VI 現代道徳教育の課題

履修上の留意点

これまで各自が受けた道徳教育を思い起こし、整理しておくことが望ましい。

成績評価の方法

出席状況、レポート及び期末試験により総合的に評価する。

教 科 書

遠藤昭彦・鈴木博雄共編『現代道徳教育の課題』（振学出版）2,000円

参 考 書 等

岩村俊郎・志村欣一・他編『資料 道徳教育の研究』（北樹出版）

そ の 他

講義形式を主とするが、テーマに応じて適宜討論形式も併用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
道 徳 教 育 の 研 究 (前 期) (後 期)	つる 鶴 巻 たいし 武	教 職 2 ・ 3 必	2

講義のねらい

今日の学校教育は、いじめ不登校をはじめとして、学校の在り方にかかわる様々な問題に直面し、生徒に生きる力を育む教師の力量が期待されている。この時間では、小・中学校においては、教育課程の一領域として、また、高校においては学校の教育計画の一環として位置づけられている「道徳」の教育的意義や目標及び内容、方法等についての研究を行う。また、教師としての実践的な指導力を身につけるために道徳の年間指導計画や1単位時間の指導計画(道徳学習指導案)などについて、実際に立案し、具体的な指導の方法などを研究する。

講義の内容・授業スケジュール

①道徳教育の基本的な在り方 ②道徳教育の目標と内容 ③道徳の時間の指導内容 ④主として自分自身に関すること ⑤主として他の人とのかかわりに関すること ⑥主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること ⑦主として集団や社会とのかかわりに関すること ⑧道徳の時間の指導計画とその作成 ⑨道徳の時間の指導方法 ⑩道徳教育における評価の在り方 ⑪学級経営と道徳教育 ⑫学校、家庭、社会における道徳教育と相互の連携

履修上の留意点

文献に基づく道徳や道徳教育に関する理論的な研究とともに、特に道徳の具体的な指導の内容や方法について理解し、実際に指導できる能力を身につけることが大切である。

成績評価の方法

レポート、試験、出席状況等を総合的に判断し、評価する。

教科書

文部省『中学校解説書道徳編』(新学習指導要領告示後発刊予定)

参考書等

教員養成基礎教養研究会編『新訂道徳教育の研究』(教育出版) 1,800円
教師養成研究会編『道徳教育の研究』新訂版(学芸図書株式会社) 1,000円

その他

講義及び年間指導計画、指導案の立案等

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
特 別 活 動 (前 期) (後 期)	お 小 川 いち ろう 一郎	教 職 2 ・ 3 必	2

講義のねらい

特別活動が人間形成に果たす役割は大きい。特に、青少年の社会性の欠如が言われている現代では、望ましい集団活動を通じて人間形成を図る特別活動の重要性は増大している。すべての教員が学級活動(ホームルーム活動)を中心に特別活動を指導することになるので、その実践的指導力を身につけることがねらいとなる。

講義の内容・授業スケジュール

①特別活動の意義・目的 ②特別活動の方法的特質 ③特別活動の歴史の変遷 ④特別活動の内容 ⑤特別活動の指導計画と実践 ⑥特別活動と新しい学力観 ⑦特別活動と総合的な学習の時間 ⑧特別活動と生徒指導 ⑨特別活動と道徳教育 ⑩特別活動と進路指導 ⑪特別活動と地域との連携 ⑫特別活動と人間形成

履修上の留意点

単なる知識の記憶でなく、実践的指導力を身につけることをねらいとしているので、出席して、意見・疑問等を出すことを希望する。

成績評価の方法

授業への参加を重視する。レポートか筆記試験のどちらかを行う。

教科書

小川一郎、中野直明編著『現代の特別活動』(酒井書店) 2,000円

参考書等

小川一郎著『在り方生き方指導の理論と実践』(清水書院) 1,500円

その他

講義を主に、随時討議などを行う。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
特 別 活 動 (前 期) (後 期)	つる 鶴 まさ 巻 たけし 武	教職 2・3 必	2

講義のねらい

現在、教師には生徒の心身の健全な発達を図り、当面する課題に適切な指導や援助をする実践的な指導力が求められている。この時間で学ぶ「特別活動」は小・中・高等学校の教育課程の一領域であり、集団活動を通じた教育活動により、集団の一員としての自覚を深め、児童・生徒の個性の伸張と調和のとれた豊かな人間性を育成するとともに、学級（ホームルーム）や学校生活の基盤の形成に重要な役割を果たしている。この「特別活動」の教育的意義や目標、内容及び方法等について、理論と実践の両面から研究を行う。特に、実践的な面を重視し特別活動の内容や活動内容の取り扱い方、指導計画の作成及び指導方法などについての具体的な研究を行い、教師としての実践的な指導力を養う。

講義の内容・
授業スケジュール

①生きる力の育成を目指す教育改革と特別活動の役割 ②特別活動の教育的意義と目標 ③特別活動の特質と内容相互の関連 ④特別活動の指導計画の作成と指導の工夫 ⑤学級活動の指導とガイダンスの充実 ⑥生徒会活動の特質とその活性化 ⑦学校行事の特質と指導 ⑧特別活動と生徒指導 ⑨特別活動と学級経営 ⑩学級活動と教育相談 ⑪進路指導の充実 ⑫特別活動の指導と評価 ⑬特別活動と総合学習との関連

履修上の留意点

文献による理論的な研究を深めるとともに、特に特別活動の具体的な実践にかかわる指導計画の作成や指導内容、指導方法等についての研究を深め、教師としての識見を高め、実践的な指導力を身につけることが大切である。

成績評価の方法

レポート、試験、出席状況等を総合的に判断し評価する。

教 科 書

- ① 文部省『中学校解説書特別活動編』（新学習指導要領告示後発刊予定）
- ② 高橋哲夫・原口盛次・井上裕吉編『特別活動研究』（教育出版）1,900円

参 考 書 等

宇留田敬一著『特別活動論』（第一法規）1,800円

そ の 他

講義及び年間指導計画、指導案の作成

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
生 活 指 導 (前 期) (後 期)	<small>えん</small> 遠 <small>どう</small> 藤 <small>つかさ</small> 司	教職 2・3 必	2

講義のねらい

教師が生徒の生活面を指導することは現在の学校において様々な形で行われている。将来、教職に就こうとする人間として、生徒（他者）の生活を指導することの意味を改めて問いなおし、無意識のうちにもっている自らの生活指導観を自覚的にとらえなおすことが本講義の目的である。

講義の内容・
授業スケジュール

「学校における問題行動とは何か」、「不登校問題はどのような視点から考えるべきか」などの問いについて考えることを通して、学校の中で適応的に生きることができない人に対して、教師としてどのような態度でのぞむかを考える。特に、現在の学校において様々な意味において不適応状態となっている人たちに対して、そのような状態にある生徒に対して、自分はどのような態度でのぞむかを考えることを通して、最終的には自分自身の生活指導観を問いなおしていくことにつなげていきたい。

履修上の留意点

考えることを厭わない学生の履修を望む。

成績評価の方法

期末試験を予定している。

参 考 書 等

参考書等については授業中随時紹介する。特定の教科書は用いない。

そ の 他

講義中心になることは否めないが、様々な問いを呈示し、それらに対して自らの考えに基づいて書いて答えるという機会をできるだけ多く作りたい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
生 活 指 導 (前 期) (後 期)	さ とう なお と 佐 藤 尚 人	教職 2・3 必	2

講義のねらい

学校教育において、教科の学習や集団生活への参加が、一人ひとりの児童生徒でスムーズにいくよう指導することを教師は求められる。しかしながら、子どもは決して等質・均一存在ではない。画一化された教師の指導方法や対応では日々起こりうる種々の問題の解決がうまくいかない、あるいはむしろ問題を引き起こしてしまうことすらあるであろう。

本授業では、昨今教育問題として取り上げられる機会の多い「いじめ」「不登校」「非行」などについて、そのような問題行動を訴す子どものこころのありようの理解や対応の仕方、さらには問題行動を未然に防ぐための教師としての心構えなどを考えてゆく。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1 X はじめに 学校教育の歴史と目的 教師のなすべきこと
- 2 X 子どもの理解 問題行動について医学的・工学的な理解と教育的な理解
- 3 X E. H. エリクソンの発達段階・課題の考え方 (その1)
- 4 X E. H. エリクソンの発達段階・課題の考え方 (その2)
- 5 X E. H. エリクソンの発達段階・課題の考え方 (その3)
- 6 X E. H. エリクソンの発達段階・課題の考え方 (その4)
- 7 X さまざまな問題行動とその理解 「いじめ」
- 8 X さまざまな問題行動とその理解 「不登校」
- 9 X さまざまな問題行動とその理解 「非行」
- 10 X こころの病・不応 「神経症」「精神病」
- 11 X 問題行動への対応の方法 「学習理論にもとづくもの」
- 12 X 問題行動への対応の方法 「心理療法にもとづくもの」
- 13 X まとめ 生活指導において大切なこと

履修上の留意点

原則として出席はとらないが単位を取得することを希望する学生は毎回出席すること。さらに、授業中に質問や意見などを積極的に表現することが望ましい。

参加学生に対してはすべて公平にあつかう。(さまざまな事情があっても特別扱いはしない。)

成績評価の方法

原則として定期的筆記試験(ノート等の持ち込みは一切不可)の結果により成績を評価する。ただし、授業中の発言(質問・意見)や宿題等の課題の提出を試験の成績にプラスして評価する。

教 科 書

特に使用しない。講義ノートをもとに授業を進めてゆく。

参 考 書 等

大貫・佐々木編著『心の健康と適応』(福村出版) 2,200円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
宗 教 科 教 育 法	小 山 一 乗 <small>こ やま かず のり</small>	教 職 3 必 (禪 ・ 仏 教)	4

講義のねらい

講義と模擬授業とで構成する。
 教育関係法規下での「宗教科教育」の位置づけを概観する。憲法、教育基本法、学校教育法、学習指導要領、教育職員免許法を概観する。
 特に、各教科と宗教科との関係、「宗教科教育」と「宗教教育」との異同点にも留意する。
 我が国にかかわる第2次世界大戦後の、対日米国占領教育改革施策に看取される「宗教教育」の諸問題を例示しつつ、日本国憲法20条と教育基本法9条との関係、基本法9条と初期社会科学学習指導要領の文言との関係等を検証する。
 その上で、「宗教の定義集」への着目をし、「『宗教に関する寛容の態度』の涵養」への展開を検討する。そこからさらに「宗教の社会生活における地位」に関する「宗教的無知」解消を図る授業展開を考える。
 宗教一般知識教育、宗教的情操教育、宗派教育の学習指導方法を具体的に探究して、異文化理解の課題にも備えるようにしたい。適宜、童歌なども、導入し、幼稚園教育から高等学校教育までの接続も考察に含めたい。

講義の内容・授業スケジュール

『仏教概論——分かりやすい仏教——』をテキストにして、原則として模擬授業（50分）を課します。教材研究の実際、学習指導要領、学習指導案の基礎的・基本的事項を講義する。その上で、具体的に、学習指導案の様式と教育観との関係が思量でき、主体的に選択した様式に基づいて実際に学習指導案を作成してもらおう。
 模擬授業は、その様子をビデオに収録し、再生して、爾後の授業分析の鏡利用とし、自己分析に供する。

履修上の留意点

学年、他教科との関連を常に勘案すること。社会科・地理歴史科・公民科における宗教の教育、宗教科教育における宗教の教育、宗教教育における宗教の教育の異同点、及び、訳語としての用語「宗教」に関し熟考して欲しい。

成績評価の方法

模擬授業、レポート、出席点などにより評価する。特に出席を重視する。

教科書

小山一乗著『教育と寛容——宗教的事実・規範の取り扱いとのおしえ方、評価の観点——』（宣協社）2,940円
 『仏教概論——分かりやすい仏教——』（曹洞宗宗務庁）800円
 小中高各『学習指導要領』各 230円 250円 370円
 『仏教・キリスト教・イスラーム・神道 どこが違うか』（大法輪閣）1,600円
 『教育小六法』（学陽書房）2,200円

参考書等

井上順孝監修『宗教教育資料集』（すずき出版）3,900円
 『宗教教育の理論と実際』（鈴木出版）1985年
 その他適宜紹介する。

その他

講義を基調とするが、実際には、講義と模擬授業（演習）を折衷した形態となろう。定例教場での講義を中心とするが、必要に応じ、視聴覚教室でのビデオ、スライド、OHPの視聴をすることで視聴覚教場の掲示に注意しておくこと。
 プリントを配布するのでファイル表紙を用意して欲しい。

科目名	担当者名	配当学科	単位
国語科教育法	かみ や みち のり 神 谷 道 倫	教職3必 (国 文)	4

講義のねらい

中学校・高等学校の国語科教育の意義・目標・内容、さらに各領域・教材に応じたそれぞれの指導方法等について概観したのち、実際の教材にあたって、基礎学力を点検するとともに、教材研究のあり方、指導事項、指導方法、指導過程等について、主に模擬授業の形式で具体的に研究を深め、実践に際しての指導力を養成する。

講義の内容・授業スケジュール

重点的に以下の三点を中心に進める。

- ① 国語科教育の現況の確認
- ② 国語科教育の方法、実践等について先人の試みの意義を探る。
- ③ 教育実践の準備

以上のうち①②については、教科書・プリント等を用いて講義形式で行う。③については、教材研究の実際、指導案の作成など課題形式のもの提出と、実際の教材による模擬授業の形式(グループ分けにより全員が何らかの形で必ず参加)で行う。基礎学力の点検にも配慮する予定。

履修上の留意点

科目の性質上、出席は当然重視する。(なお、中学校・高等学校時代使用の国語の教科書・副読本があれば、手元に整理して必要な場合参照できるようにしておくことが望ましい。)

成績評価の方法

定期試験の成績を主とするが、提出物、模擬授業の成果、授業参加(出席)の状況等の観点も加えて総合的に評価する。

教科書

全国大学国語教育学会編 新版中学校・高等学校『国語科教育研究』(学芸図書株式会社)
1,300円+消費税

参考書等

国語科教育法に関するもの、特に後半使用する教材に関するもの等少なからずあるが、その都度指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
書道科教育法	な す たか よし 那 須 隆 吉	教職3必 (国 文)	4

講義のねらい

長い歴史を持つ書道の特徴を考察し、その指導法を学習する。そして将来の教師としての自覚を促し、その指導力を養う。

講義の内容・授業スケジュール

文部省の芸術科学習指導要領を理解し、芸術科書道の指導計画の作成についての基本的な考え方や、学習指導のあり方、指導法の工夫などについて事例を挙げながら講じたい。

履修上の留意点

遅刻をしないように、又教場での私語を慎むように。

成績評価の方法

出席及び随時レポートの提出により評価する。

教科書

高等学校芸術科書道指導資料 文部省編著『指導計画の作成と学習指導の工夫』(教育図書)
990円

参考書等

随時紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
英語科教育法	佐藤 真 二 <small>さとう しん じ</small>	教職 3 必 (英米文)	4

講義のねらい

中学校及び高等学校において、英語教師として授業を行うために必要な事項を学ぶとともに、実際に教壇に立ち、教えることに慣れることを目標とする。

講義の内容・
授業スケジュール

主に取り上げる内容は以下のとおりである。

- 1) 英語科教育の目標
- 2) 主な教授法 (文法訳読式教授法、直接教授法、オーラル・メソッド、グレイデッド・ダイレクト・メソッド、オーラル・アプローチ、認知学習理論、ヒューマンスティック・アプローチ、コミュニケーション・アプローチ)
- 3) 言語材料と指導 (音声、文字、文法、語彙)
- 4) 言語活動 (聞く、話す、読む、書く)
- 5) 授業の展開 (授業計画、授業の構成、指導案、中学校の授業、高等学校の授業)
- 6) 指導形態 (一斉指導、グループ指導、ペア指導、個別指導、学習習熟度別指導、ネイティブ・スピーカーとのチーム・ティーチング)
- 7) 評価とテスト
- 8) 教具・視聴覚機器 (ピクチャー・カード、フラッシュ・カード、OHP、テープ・レコーダー、LL、VTR など)
- 9) 教師と学習者

履修上の留意点

自分が、近い将来、実際に教壇に立ち、生徒を前にして授業を行うことになるのだということを念頭におき、積極的に取り組んで欲しい。欠席は慎むこと。

成績評価の方法

試験、レポートのほか、授業内の発表も評価に加える。

教科書

塩沢利雄他著『新英語科教育の展開』(英潮社)

参考書等

教場において指示する。

その他

授業の方法は、教壇に立ち、授業を行うことに慣れるという目標を踏まえ、模擬授業を多く取り入れてゆく。また、本講義の中で学ぶ事項に関しても、担当の学生が、予習をしてまとめたうえで、他の学生に発表し、説明するという形式をとる予定である。それによって、人前で話し、教えることに馴染んで欲しいと願う。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会科・地理歴史科教育法	くぼ た たくし 久保田 武	教職 3 必	4

講義のねらい

中学社会科、高校地歴科を教えるにあたって必要な基礎的知識・技法の修得
教科の目標（存在理由）と暗記科目にならない教授内容構成と教授法の考察

講義の内容・
授業スケジュール

- ◆講義の内容
毎回教授者による具体的な授業事例を通じて生徒の興味関心と学力を増す教授内容構成とその指導法を示す。
学習指導要領の変遷とその背景
生徒の学力評価法、生徒による教授者評価を利用する自己評価法
希望する学生に対しレポートによる指導案の作成作業とその内容指導
教育現場での体験談から具体的な学習指導法へのヒントを示す。
- ◆授業スケジュール
前期は講義（教授者による授業例）と、関連事項の質疑・実習・課題作成等
後期はそれに加え夏季休業中に教案作成課題を提出した学生の中から発表者を選んで模擬授業の機会を設ける。

履修上の留意点

授業の終わりに毎回授業内容に関連して、簡潔なまとめ、コメント、実習内容等の提出を求める（出欠調査に代える）。提出物は添削（質問、意見には回答）のうえ次回に返却する。

成績評価の方法

定期試験、毎授業後の提出物、授業への参加意欲（出席状況他）と実績（発表等）等を総合して評価。原則として授業時数の2/3以上出席しないと単位を認定しない。

教科書

使用しない。

参考書等

授業の時にそのつど紹介する。但し、地理、歴史、社会科教科書、地図帳、歴史年表、歴史地図、統計資料、文部省学習指導要領（地歴編、社会編）等は、この際揃えたほうがよい。とりあえず地図帳、年表と統計資料は初回から持参のこと。

その他

毎授業時間の前半は講義、後半は視聴覚学習、質疑、作業、実習を原則とする。
OHP、スライド、ビデオ、写真など視聴覚機材を多用し講義内容の理解と機材の利用法を示す。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会科・地理歴史科教育法	さくら い あき ひさ 桜井 明久	教職 3 必	4

講義のねらい

中学校社会科、高等学校地理歴史科の教育の目標と方法について、地理分野、地理A、Bを例に概説する。

講義の内容・
授業スケジュール

- おおよその内容は、以下の通りである。
- ①地理教育の目標 ②マイクロティーチング ③教授方法上の工夫
 - ④指導案の作成 ⑤模擬授業 ⑥授業の研究と方法 ⑦地理教師の仕事

履修上の留意点

各自マイクロティーチングを試み、個人またはグループで模擬授業を行うなど、実際に授業を試みてもらうので、授業への積極的な参加が求められる。このため、巡検や調査による公欠以外の欠席については厳しく取り扱われる。同時に、担当部分の放棄、担当日の欠席は許されない。それが避けられない場合は、事前に連絡し、相談すること。
中学校社会科地理分野と地理歴史科の科目・地理A、Bを中心題材とするので注意すること。

成績評価の方法

出欠、授業・討論への参加、マイクロティーチング・模擬授業の成果など 70点
夏休みレポート 10点 期末試験 20点

教科書

桜井明久『地理教育学入門』（古今書院）1999（予定）

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会科・地理歴史科教育法	藤 木 正 国 <small>ふじ き まさ くに</small>	教 職 3 必	4

講義のねらい

中学校社会科（特に歴史的分野）・高等学校地歴科（特に日本史）の教師として、自ら授業をくみため、実践できる能力を養う。直接的には教育実習にそなえる。

講義の内容・授業スケジュール

前期は講義を中心とする。

- ① 明治以降日本教育制度の変遷
- ② 社会科成立の事情とその理念
- ③ 学習指導要領の変遷と地歴科成立のいきさつ
- ④ 学習指導計画と指導案の作成
- ⑤ 評価の考え方とその方法
- ⑥ 社会科をめぐる諸問題の考察

後期はグループ別に模擬授業を実施する。

履修上の留意点

受講する以上は、教員を日ざし努力すること。安易な単位取得は考えない。出席状況と提出物はとくに重視する。常に努力と創意工夫を忘れぬよう。

成績評価の方法

年間を通じての出席状況、提出物、定期考査などを総合し評価する。

参考書等

文部省学習指導要領、中・高教科書（必要に応じて授業時に紹介する）。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会科・公民科教育法	橋 爪 敏 <small>はし つめ さとし</small>	教 職 3 必	4

講義のねらい

この授業は、社会科・公民科教師に必要な基礎的認識や知識の習得などを主たる目標とする。

講義の内容・授業スケジュール

授業の内容としては、上に記したような目的を実現すべく、また、学生諸君の能動的参加が可能な形式で行ないたい。したがって、受講学生数によって、その方法は変わらざる得ない少人数（15名位迄）の場合は社会科・公民科に関わる文献講読を主としたい。15名以上の受講生の場合は、学生自身の自主研究の発表を主としたい。いずれにせよ、模擬授業の意味を持たせ、学生の報告を主とする形式で行なう。

履修上の留意点

教師に成ることを目指すか否かにかかわらず、積極的に授業に参加する学生の受講を望む。

成績評価の方法

前期・後期のレポート提出ならびに普段の研究報告、授業参加状況、出席状況などを総合して決定する。

教科書

文献講読の場合は、授業開始後に指示する。

参考書等

適宜、授業中に紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
社会科・公民科教育法	や しき ただ みつ 谷 敷 正 光	教 職 3 必	4

講義のねらい

社会科は民主主義の発展と平和的な国家・社会の形成者をめざす上で、重要な使命を負って誕生した教科であり、日本の将来を担ったと言っても過言ではない教科である。この社会科教育も戦後の政治・経済の発展とともに大きく変遷し、動揺を続けてきた。学習指導要領は1989年に第6回目の改訂が行われた。第6次の改訂は単なる教科内容の改訂にとどまらずに小学校低学年の社会科と理科を廃止し、新たに生活科を設け、高等学校の社会科を再編し、新たに地理歴史科と公民科を設けたことの意味を考えなければならない。

この授業のねらいは、しっかりとした社会科教育を樹立するため、単なる授業方法の技術論ではなく、より基本的な「教育とは何か社会教育とは何か」といったところまでさかのぼって検討してみることにある。その上で、社会科教育の歴史、社会科教育の基本原則とその内容・方法の把握につとめ、教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。

講義の内容・ 授業スケジュール

1. 日本教育の現状
2. 教育の基本概念
3. 社会科の成立
4. 社会科学学習指導要領の変遷
5. 中学校の教育課程と社会科
6. 高等学校の教育課程と公民科
7. 社会科の学習指導計画
8. 社会科学学習指導案の意義と作成
9. ビデオによる社会科教師の授業研究
10. 4年生による模範授業
11. 模擬授業を通じての社会科の学習指導、授業実践の研究
12. 中学校社会科の目標・内容・取り扱いと平成10年12月告示の中学校学習指導要領
13. 高等学校公民科の目標・内容・取り扱いと平成11年3月告示の高等学校学習指導要領
14. 教育評価
15. 社会科教育実習の意義
16. 社会科教師論
17. 社会科教師と教員採用試験
(教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する。)

履修上の留意点

- ① 教科書の補充として年間かなりのプリントを配布するので、必ずその時間に受け取ること。
- ② 現実的理解のためビデオなどで視聴覚教室を利用するので、常に教場には注意しておくこと。

成績評価の方法

授業での課題の提出、学習指導案の作成、模擬授業実践などで総合的に評価する。

教 科 書

大森・谷敷共著『社会科教育研究』（梓出版）

参 考 書 等

社会科・公民科の『教科書』、『中学校・高等学校学習指導要領』

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
社会科・公民科教育法	かみ じょう すえ お 上 條 末 夫	教 職 3 必	4

講義のねらい

社会科・公民科は民主主義国家社会の一員としての自覚と実践行動ができる人間を育成する上に、欠くことのできない教科である。したがって、生徒が民主主義を十分理解し、かつそれを実践することができるような具体的な指針をあたえる教育をすることが必要である。その方法論および技能が身につくようにすることが、この講義のねらいである。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 学校教育とはなにか
2. 学校教育の制度と目的
3. 学校教育法と社会科教育
4. 社会化の過程と学校教育
5. 学校環境と教員の影響力
6. 発達心理学にみる教育レベル
7. 理解せしめるための方法論 ①心的アプローチ
8. 理解せしめるための方法論 ②物的アプローチ
9. 表現力の養成 ①記号としての言語
10. 表現力の養成 ②記号としての文字
11. 表現力の養成 ③記号としての数字
12. 表現力の養成 ④記号としての象徴
13. 民主主義の実践 ①アイスブレイキング
14. 民主主義の実践 ②参加と有効感覚
15. 民主主義の実践 ③コミュニケーション効果
16. 民主主義の実践 ④リーダーシップ論
17. 情熱と持続力

履修上の留意点

講義と演習の組み合わせの授業であるから必ず出席すること。

成績評価の方法

出席および演習態度によって評価する。

教 科 書

特に使用しない。

参 考 書 等

プリントを配付する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
商 業 科 教 育 法	谷 敷 正 光	教 職 3 必 (経済・商・経営)	4

講義のねらい

「産業教育」(職業教育)の一つである商業教育は、日本の経済をささえる重要な一環としてつねに重視され、産業構造の高度化、経営革新にもなつてめまぐるしく変遷してきた。先端産業化、国際化、情報化時代をむかえ、大きく改善されている。さらに1994年度からは、「普通科」と「職業科」の中間形態ともいえる「総合学科」が誕生し、高等学校教育の改革が急速に進んでいる。従つて、この講義のねらいは、「職業教育」のあり方そのものが問われている現在、しっかりとした商業教育を樹立するために、この「教科教育法」を商業教育の単なる技術論に終わらせることなく、より基本的な「教育とは何か」「商業教育とは何か」といったところまでさかのぼり、本来の意味での商業教育論を展開し、教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。

講義の内容・授業スケジュール

1. 日本経済の発展と産業教育
2. 商業教育の現状と課題
3. 職業教育・商業教育の概念
4. 高等学校における商業教育の変遷
5. 高等学校の教育課程
6. 商業科の教育課程
7. 商業科の学習指導計画
8. 商業科学習指導案の作成
9. ビデオによる商業科教師の授業研究
10. 4年生による模範授業
11. 模擬授業を通じての商業科の学習指導、授業実践の研究
12. 商業の各科目の個別目標・内容・取り扱い
13. 教育評価
14. 商業科教育実習の意義
15. 商業科教師論
16. 商業科教師と教員採用試験
(教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する。)

履修上の留意点

- ① 教科書の補充として年間かなりのプリントを配布するので、必ずその時間に受け取ること。
- ② 現実的理解のためビデオなどで視聴覚教室を利用するので、常に教場には注意しておくこと。

成績評価の方法

授業での課題の提出、学習指導案の作成、模擬授業実践などで総合的に評価する。

教科書

岡田修二他『新商業教育論』(多賀出版)

参考書等

高等学校商業科の『教科書』、『高等学校学習指導要領』

科目名	担当者名	配当学科	単 位
職業科教育法	まえ だ ゆき かず 前 田 幸 一	教 職 3 必 (経 済 ・ 商)	4

講義のねらい

基本的には以下の項目に沿って授業を進めていきます。

- ① 「技術・家庭のあり方」について、新聞の切り抜きを通して考えていく。
 - ② 「中学校学習指導要領」の技術・家庭科について、その新旧の違い、変化などを比較検討していく。
 - ③ 職業教育について考えていく。
- ①、②は前期授業、③は後期授業で行う予定です。

履修上の留意点

自分や周りの人の家庭や職業について改めて考えてきてほしい。

成績評価の方法

筆記試験はせず、平常点かレポートで成績評価をします。

教科書

『中学校学習指導要領』（文部省平成元年3月）。他については授業の際指示します。

参考書等

中学校で使用していた『技術・家庭』の教科書など。

その他

授業を受ける人は少人数なので、ゼミ形式で授業を進めていきます。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
教育実習	とよ た ち よ こ 豊 田 千 代 子	教 職 4 必 (禅 ・ 仏 教 ・ 社 会 ・ 福 祉 ・ 心 理)	3

講義のねらい

2週間の教育実習を充実させるための準備を行なうことと、実習をとおしてみえてきた教育のさまざまな課題について、ともに考えることを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

- 事前指導 — ・実習の心がまえ
・生徒指導について
・教科指導について
・指導案作成
・模擬授業
- 訪問指導 — ・研究授業訪問指導
- 事後指導 — ・授業実習の検討

成績評価の方法

実習ノート、実習校からの評価、授業での実習報告、レポート。

教科書

教科書は用いず、必要に応じて資料を配布する。

参考書等

適宜指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
教育実習	坂本信昭	教職4必 (国文・法律・政治・経営)	3

講義のねらい

教育実習での失敗を未然に防ぎ、あるいはできるだけ少なくすることよりも、むしろ、不必要な先入観を捨て、持ち合わせている力で、全身で意欲的に向う姿勢に高め、教育実践の場で、間違いや失敗したことについて悩み、苦しむことを通して、自覚的に主体的に一つ一つの教育事象について考える機会にしたい。そのためには、いわゆる事前指導も大事であるが、事後指導（教育）も大事にしたいと考えている。

講義の内容・授業スケジュール

教育実習前の段階では、教育実習の意義・目標・内容（領域）等に関する講義とビデオ教材なども視聴し、実習に際しての事前指導を行う。
教育実習期間中は、できるかぎり実習校を訪問したいと思っている。
教育実習後は、各自の教育実習報告、レポート作成（提出）、教育問題にかかわるビデオの視聴、ディスカッションなどから教育への理解を深め、教育とは何かーどうあるべきかーについて、各自の教育観を明示できるようにし、さらに、望ましい教師像等についても一緒に考えたいと思う。

履修上の留意点

授業の出欠は厳密にとる。

成績評価の方法

①実習校からの教育実習評価及び教育実習ノート、②教育実習報告（口頭報告）及び報告レポート、③ビデオ視聴のコメント（感想）、④年度末試験（または、課題レポート）によって、総合的に評価します。なお、①～④について重視する度合は、全て同グレードに考えている。

教科書

栗原敦雄他編『教育実習ガイド』（宣協社）1,500円

参考書等

寺崎昌雄他編『教育実習57の質問』（学文社）1,000円

科目名	担当者名	配当学科	単 位
教育実習	村山輝吉	教職4必 (英米文)	3

講義のねらい

学生が教育実習に主体的にとりくみ、教育実践について理解を深めることを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

年間を通じておおむね次の事項をとりあげる。
○教育実習の意義と心がまえ
○学習指導について
○生徒指導について
○学校と教師に関する諸問題
実習校における実習体験をはさんで、講義、討議、レポート作成、面接指導等、適宜の方法と形態で進めていく。

成績評価の方法

実習校からの評価、口頭発表、レポート、試験、出席等により総合的に評価する。

教科書

教科書・参考書等はそのつど指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
教 育 実 習	きた ちら みつ こ子 北 村 三 子	教 職 4 必 (地理・経済・商)	3

講義のねらい

二週間にわたって行なわれる中学・高校での実習は、教員免許を得るために乗り越えなくてはならない最大の課題であろう。教生とはいえ教師であることを求められる、責任の重い課題でもある。この授業は、その実習のための準備と、実習後その体験を他の人々と共有し、深めることを目的とするものである。実習がスムーズに進み、また、実り多いものとなるように、講義の内容・授業のスケジュールで述べるような様々なことを試みたい。また、実習後は、教える立場から新たに見えてきた、学校や教師、生徒の問題や、それらの存立基盤としての、社会や文化の問題を、考え合いたい。

講義の内容・
授業スケジュール

実習の準備としては、一般的な諸注意、ビデオによる実習の概要把握、学習指導案の作成に関する指導、模擬授業などを行なう。実習後は、実習体験を語り合い、その中から、後期に検討すべきテーマを考えていく。夏休み明けには、それにそった資料を用意し、討議を中心とした授業を進める。具体的内容は、話し合いの上で決めたいが、今まで扱われたテーマは、いじめや体罰といった学校内での暴力、不登校、若者の文化や人間関係に関連するものなど、多岐にわたる。

履修上の留意点

実習の準備としては、教材研究を各自よくやること。後半は積極的に参加すること。教場を変更する場合がありますので注意すること。

成績評価の方法

実習ノート・評価表などの実習の記録、授業への参加度、最終授業時のまとめのテスト。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
教 育 実 習	い とう しげ ま樹 伊 藤 茂 樹	教 職 4 必 (歴 史)	3

講義のねらい

中学・高校での教育実習を実りあるものとするために、その準備と、実習の経験を生かして現代の教育と青少年、それをとりまく様々な社会的要因について考える機会を持つ。

講義の内容・
授業スケジュール

実習前には、教育実習の意義や目的、内容に関しての講義と受講者による模擬授業を行う。実習後は、各自の実習の経験をふまえたうえで、そこから見えてきた教育や青少年の現実について、口頭発表、討論、文献講読、レポート作成などを通じて批判的にとらえる目を養うことをめざす。

履修上の留意点

受け身ではなく主体的な参加を求める。

成績評価の方法

実習校からの評価、実習ノート、授業への参加、レポートにより総合的に行う。

教 科 書

特になし。

参 考 書 等

授業の中で適宜指示・紹介する。

(2) 教職に関する専門科目（選択）

科目名	担当者名	配当学科	単 位
教育関係法規	ひろさわ あきら 広 沢 明	教職2選	4

講義のねらい

憲法、教育基本法、学校教育法など教育に関する基本法規につき、具体的事例に触れながら講義を行う。校則、体罰、いじめ、内申書、日の丸、君が代、宗教、教科書検定、障害児、民族教育など今日的な教育問題について、法的観点から検討をしたい。

講義の内容・授業スケジュール

1. 校則(1)―丸刈訴訟
2. 校則(2)―バイク裁判
3. 校則(3)―生徒会
4. 懲戒(1)―退学・停学
5. 懲戒(2)―体罰・精神罰
6. 教育情報(1)―家庭環境調査書
7. 教育情報(2)―内申書・指導要録
8. 教育と宗教(1)―日曜日訴訟
9. 教育と宗教(2)―エホバの証人事件
10. 日の丸・君が代
11. 教科書裁判(1)―検定の事実
12. 教科書裁判(2)―法律上の争点
13. 戦後教育政策の変遷
14. 教育と平等(1)―民族教育
15. 教育と平等(2)―性差別
16. 教育と平等(3)―障害児
17. 義務教育（登校拒否を含む）
18. いじめ

履修上の留意点

ただ漠然と聴講するだけでなく、授業で取り上げたテーマにつき、自ら調べたり考えたりする前向きな姿勢を求める。

成績評価の方法

試験と出席状況によって評価する。毎回出席をとり、その結果は成績にかなり反映される。

教科書

使用しない。

参考書等

『解説教育六法』（三省堂）を必携。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
教育評価	おおはま きくこ 大 浜 幾 久 子	教職2・3・4選	4

講義のねらい

狭義の教育評価にとらわれず、人間の能力とは何か、学力とは何かについて、様々な側面から討論し、研究することを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

はじめに、教育心理学の研究方法（実験・観察・調査・テスト）の基礎を学ぶ。その上で、発達や学習の測定、評価にかかわる研究実習を行う。実習においては、必要に応じパソコンも活用していく。

履修上の留意点

ゼミ形式で進める。討論、実習への積極的参加が不可欠である。パソコンに関しては、まったくの初心者でも可。

成績評価の方法

平常点による。

参考書等

資料等は随時、準備し指示する。また、受講生からの提案も歓迎する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
教 育 哲 学	しお み とし ゆき 汐 見 稔 幸	教職2・3・4選	4

講義のねらい

「教育哲学」と銘うっているが、形而上学的な哲学論議をしながら教育を考えるというわけではない。現場に出ようとしている人、教育について一度じっくりと考えてみたいと思っている人などを対象に、現実の教育の諸問題を考察すること窓口にして、教育とは何か、どのような可能性をもつ営みなのか、ということの原点に戻って考えようという授業である。具体的なテーマ、テキストなどは参加者の希望をもとにはじめの授業で決める。

講義の内容・
授業スケジュール

例年4年生の受講者が多いので、教育実習（6月）教育採用試験（7～8月）、卒論しめきり（12月）などの前後には授業をしないで、かわって何回かの合宿ないし集中形式で行なう予定。

2002年より、学校教育の本格的な改革が始まるが、この改革によって、現代の学校が抱えている諸問題が解決できるのかということが、今年度の授業の通奏低音となろう。

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育情報学	小倉 康 仁	教職2・3・4選	4

講義のねらい

- a. 教育分野でのコンピュータ利用方法・形態について、教育学の視点から理論的に考察する。
 b. 普遍性のあるソフトウェアの操作実習を通して、教育現場で必要とされる実際的なコンピュータ（パソコン）活用能力とセンスを育成する。

講義の内容・授業スケジュール

授業は常にコンピュータ教室で行い、講義と実習を適宜組み合わせる。前期の授業内容としては、以下のものを予定している。
 コンピュータの基礎知識（講義）、パソコンの基本操作（実習）、ワープロソフトの基本操作（実習）、表計算ソフトの基本操作（実習）、インターネットの基礎知識（講義）、初歩的なネットサーフィン（実習）
 後期の授業内容としては、以下のものを予定している。
 教育分野でのコンピュータ利用形態の分類・整理（講義）、コンピュータの教育的活用とは？（講義）、教育用ソフトの選択・活用方法について（講義と実習）、コンピュータネットワーク（LAN、パソコン通信、インターネットなど）と教育（講義）、インターネット（WWW）上での情報検索の方法（実習）、HTMLによるホームページ作成の実際（実習）

履修上の留意点

パソコンに初めて触れるという初心者も歓迎する。履修者はなるべく早く総合情報センター主催のネットワーク講習会に参加して、電子メールアドレスを取得するように心掛けること。

成績評価の方法

平常点（出欠、学習態度）、小テスト（ペーパーテスト）、提出物（レポート、課題作品）の総合点によって成績評価を行う。

教科書

教科書は使用せず、配布プリントを利用して授業を進める予定である。

参考書等

参考書等については、そのつど授業時間内で指示する。

その他

使用するパソコンは Macintosh のみを用いる。

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育臨床心理学	牟田 隆 郎	教職2・3・4選	4

講義のねらい

教育現場並びに教育をとりまく諸状況において生じている青少年の問題（教師、学校の問題も含む）の、臨床心理学的観点からの考察を施す。

講義の内容・授業スケジュール

初めに、人間事象を見つめる基本的視点について講義する。次いで、リアルタイムに今現在教育並びにその周辺に生じている種々の出来事を、新聞・雑誌・書籍等の媒体をテキストとし、その「人間心理」的側面の解説を試みる。

履修上の留意点

知識伝達型の講義ではなく、種々生起している事柄を「何故そうなのか」と共に考え、そしてまたそれらが、実は自ら自身にも深く関わるものとして考察する態度をもつことを期待したい。

成績評価の方法

出席点を基本とする。

教科書

特定の教科書・参考書は使用しない。必要とあらばその都度紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
教育社会学	くま がい かず のり 熊 谷 一 乗	教職2・3・4選	4

講義のねらい

教育が行なわれるために形成されるさまざまな社会的な関係を研究して教育上の問題の解決に寄与し、教育の充実、向上をめざす学問—これが教育社会学である。講義では、そういう教育社会学の研究の成果をもとに、人間を成長、発達させるいとなみ—教育は、どのような社会的な関係のもとに行なわれているのか、教育は社会とどのような関係で結ばれているのか、その関係のなかでどのような問題が発生するのか、これらの問題はどのように解決されてきたか、されようとしているか、について現代日本の事例を取り上げ、明らかにしようと思う。

どんな人間をいかに育成するか、ということは、いつの時代でも重要な課題であった。どのような社会も、その存続と発展のために未来をにう後継の世代を教育する課題に真剣に取り組まなければならなかった。この課題は、人類にとって普遍的なものであるが、実は、文明が高度に発展すればするほど、その重大性が増してきていることに注目しなければならない。現在、わが国で、学校に直接関係して生活している人々—児童生徒・学生、教員・事務職員の数、全人口の四分の一に達している。近年、教育のために支出される費用は、国民所得の8%前後にのぼっている。こうした数字は、今日の社会で教育が占める位置の大きさ、意味の重さをよく示している。ところがその教育をめぐる不登校・校内暴力など困った問題が多発している。今日の教育問題をどう解決すればよいか、という問題意識のもとに戦後日本の教育と社会の関係を主な事例として講義をすすめたい。

講義の内容・授業スケジュール

I部 [教育の展開と社会の条件]

- (1) 教育の成立と展開における政治の要因：社会現象としての教育、教育の政治性と政治的教育性、教育への政治にインパクト、終戦と教育改革、冷戦構造と教育の混乱、教育をめぐるイデオロギーの対立、冷戦構造の崩壊と教育改革をめぐる動向 政治体制と教育、教育の資源配分と政治の役割 (4～5月)
- (2) 教育の展開と経済の関係：教育の条件としての経済、経済の条件としての教育、高度経済成長と教育、人材開発と教育投資、教育と能力主義、経済の自由化と教育の自由化、経済と教育の機会 (6月)
- (3) 教育と地域社会：教育の場としての地域社会、教育の地域性と地域差、地域社会と子供・学校、過疎・過密の教育問題、地域社会の変動と子供の発達 (7月)
- (4) 教育と文化の動向：教育の内容としての文化、伝統文化のインパクト、マスメディアの影響、映像文化の時代と教育、大衆化文化と教育、物質的価値の支配と教育 (9月)

II部 [現代社会の学校の病理と教育改革]

- (1) 学校化社会の現状：学校人口、就学率・進学率、教育費の問題、ライフサイクルと学校(10月)
- (2) 学校化社会の病理：子供の問題行動、学歴主義の支配、差別・選別・レイベリング、画一化・管理と競争、少子化にともなう問題、脱学校論のインパクト (11月)
- (3) 教育改革の視点と動向：改革の視点—子供の人権(権利)・学習権・個性重視・人間化等、“第三の教育改革”、1980年代以降の教育改革の動向 (12、1月)

履修上の留意点

出席を重視、教育関係の分野に進出を希望する者を対象とする。

成績評価の方法

年度末の試験の成績と出席状況による。

参考書等

熊谷一乗『子どもの発達と社会』(東信堂)、熊谷一乗『現代教育制度論』(学文社)

その他

授業中に指示

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
教 育 史	きたむらみつこ 北村三子	教職2・3・4選	4

講義のねらい

90年代半ばから小学校の「学級崩壊」が問題化している。原因は複合的だが、行動や反応の幼児的化が指摘されることも多い。小学生ばかりでなく、中学・高校生のいわゆる問題行動にも、幼い子供時代の過ごし方に問題があるように見えるケースも多い。だが、どのような幼年期の体験が人間の心の成長にとって必要なのだろうか。この授業では、自伝的な作品の中で幼年期がどのように捉えられているかを歴史的な視点を入れて検討したい。また、幼年期の体験がその後の人生にとってどのような意味を持つのかも考えたい。

講義の内容・
授業スケジュール

以下のような文献を検討してゆく。
W. ベンヤミン『ベルリンの幼年時代』ベンヤミン著作集12（晶文社）
中勘助『銀の匙』（岩波文庫）
大岡昇平『幼年』『少年』（講談社文芸文庫）他

履修上の留意点

教育史のいわゆる「教科書」を授業で扱うことはないが、文献などに関して個別の相談には応じたい。授業はゼミ形式で行い、参加者の意見交換を大切にしたい。

成績評価の方法

平常点。ただし、発表回数が少ない場合には、レポート提出もありうる。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
教 育 調 査	すずき のりお 鈴 木 規 夫	教職2・3・4選	4

講義のねらい

人間の行動について科学的な方法によるリサーチの技術と推論の論理を身につけるため、教育にかかわる身近な問題について具体的に調査を実施する。

講義の内容・
授業スケジュール

具体的な調査内容は受講者自身が主体的に提案するものとし、授業ではその内容について議論するとともに調査を実施するにあたっての必要な基本プロセスを学習する。また、実際に調査を実施し、コンピュータを利用して調査結果をまとめる。その際、結果を要約するために不可欠なデータの解析法や推論の論理についても分かりやすく解説する。

履修上の留意点

調査内容は受講者自身が提案することになるので、受講前に何を調査したいのか予め考えておくことが望ましい。また、コンピュータを利用して分析を行うので多少のコンピュータに関する知識を有していることが望ましい。

成績評価の方法

成績評価は提出された調査結果報告書によって行う。

教 科 書

講義要旨および資料のコピーを授業当日配付する。

参 考 書 等

特に指定しない。

そ の 他

授業は討論中心の形態をとる。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
芸 術 教 育	か がわ よし しげ 香 川 良 成	教職2・3・4選	4

講義のねらい

日本の児童青少年演劇史（大人による子供のための演劇）と、演劇教育史（子供自身による子供のための演劇）を中心にすえ、各時代の児童文学・児童文化の流れにも目を配りながら、それらの明治以後の展開の歴史を振り返ってみたい。

講義の内容・
授業スケジュール

以上の講義と、取り上げる諸作品の、受講者による研究発表とその講評とを併せながら授業を進めたい。

履修上の留意点

実習でやむをえない以外は、極力出席してもらいたい。

成績評価の方法

平常点と試験

参 考 書 等

富田博之著『日本児童演劇史』（東京書籍）・『日本演劇教育史』（国土社）、菅忠道著『日本の児童文学 I 総論』（大月書店）

そ の 他

現在行われている演劇教育の記録ビデオを観たり、舞台のビデオを観たり、実際観劇するということも行いたい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
現代社会の諸問題と教育	くまがいかずのり 熊 谷 一 乗	教職2・3・4選	4

講義のねらい

わたしたちが生をいとなむ現代の社会は、解決の難しい問題に充ちている。科学技術の進歩に支えられた産業の高度な発展は、人々に豊かさと便利さという明るい「光」を与える一方で、人間疎外の進行・環境問題・エネルギー問題など厄介な暗い「陰」を落している。いま、教育の在り方は、この「光」と「陰」の影響を受けて激しく揺れ動き、変革を迫られている。教育も社会の「光」と「陰」のもとで問題に充ちているのである。社会の諸問題を解決するためにはどのような教育が必要となるのか。また望ましい教育のために社会は、どのようにあるべきなのか、何をなすべきなのか—講義は、以上の問題にこたえることをねらいとして行われる。

講義の内容・授業スケジュール

以上の問題意識のもとに、授業は次ぎの小テーマにしたがって行われる。

- (1) 軍事占領下の社会的諸問題と教育改革（終戦にともなう社会諸問題と教育、第1次米国教育使節団報告書、教育基本法、学校教育法の成立など）－4～5月
- (2) 「冷戦」の激化にともなう社会的変化と「戦後教育」の転換（イデオロギーの対立・主権の回復と教育、「55年体制」の確立と教育の緊張、教育集権化の動向など）－5～6月
- (3) 高度経済成長にともなう諸問題と教育（経済のための“人づくり”、教育投資論の影響、豊かさのなかの非行問題、「期待される人間像」など）－6～7月
- (4) 高度経済成長以後の社会的変化－地域社会の変動、映像文化の浸透、中間的大衆層の形成と支配－と教育改革の提案（情報化と“第三の教育改革”など）－9～10月
- (5) 社会的変化にともなう生涯教育論の登場（P ラングランの生涯教育論、社会教育審議会の答申など）－10～11月
- (6) 自由化の波と臨時教育審議会（新自由主義・保守主義と1980年代以降の教育政策、戦後日本の総決算と自由化、「臨教審」の設置など）－11月
- (7) 冷戦・55年体制の崩壊と「臨教審」以後の教育政策（変化する子供、文部省と日教組とのパートナーシップ、連立政権下の教育政策、第14・15・16期中教審答申と21世紀への教育改革など）－12～1月

成績評価の方法

学年末の試験と出席状態による。

教科書

使用せず。

参考書等

熊谷『現代教育制度論』（学文社）等

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
青少年問題研究	讃岐真佐子	教職2・3・4選	4

講義のねらい

この講義では、「青少年」つまり児童期、青年期（小学生～20代前半頃）に生じ得る諸問題について、主に発達の、臨床心理学的視点から学ぶ事を目的とする。現代は不応状態や問題が低年齢化し、またその質的側面も、従来の自己葛藤型から漠然とした無気力型の増大、さらに言語で訴えるよりも身体化の傾向等、様々な変化が見られるように思う。そういう意味でも「青少年」に関わる諸現象は、その時代を映し出す1つの鏡のようにも思われる。またこの時期は、一般に親や兄弟、友人、学校や地域等の多くの人との関わりを通して子どもが大人に成っていく、まさしく自分自身を作っていく時である。それだけにこれらの人々といかなる質の関係をもてるか、そしてそこからどう自分を育てていけるかという事が、この時期の中心的テーマになると思われる。

講義では、このような問題意識を基に、この期間に発現する諸問題の実際を、発達にそって具体的に学んでいきたい。

講義の内容・授業スケジュール

まず人間の精神的発達に関する知見を、これまでの発達心理学や臨床心理学的見地から概観し、その中で青少年の発達段階の意味や位置づけを考えていく。そしてこれを踏まえ、主にテキスト記載の事例を中心に、児童期、青年期に生じる様々な状態（不登校、非行、対人緊張、思春期やせ症、無気力状態等々）について深く掘り下げて学んでいく。

履修上の留意点

出席を重視する予定。授業は講義中心となるだろうが、何らかの形で受講生のフィード・バックを得る方法を考えていきたい。

成績評価の方法

出席状況と定期試験

教科書

氏原寛・東山紘久編『発達とカウンセリング』
別冊『発達』第18巻（ミネルヴァ書房）2,500円

参考書等

- ・馬場謙一・小川捷之他編『子どもの深層』『青年期の深層』
『日本人の深層分析』第9巻と10巻（有斐閣）
- ・季刊『仏教——特集癒し』No. 31（法藏館）2,000円
- ・河合隼雄著『あなたが子どもだったころ』（檢出版）『子どもの宇宙』（岩波新書386）
- ・岩宮恵子著『生きにくい子どもたち』（岩波書店）1,200円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
宗 教 教 育	こ 小 やま 山 かづ 一 のり 乗	教職2・3・4選	4

講義のねらい

命題「法は風土の産物」(モンテスキュー『法のスクリプチュール』)を問題意識の根柢におく。世界各国の風土、風習、習慣、慣習、法、比較法の知見に示唆されつつ、いわゆる「宗教(の)教育」の法的思考 (legal mind)、そこに看取れるいわゆる宗教的思考 (religious mind)、教育的思考 (educational mind) の総合的考察をし、各国の宗教教育の実態も眺めつつ、これからのいわゆる宗教教育での、教授概念検討を経て、意味、目的、目標、内容、方法について具体的なデザインを試みる。特に宗教の教育における寛容の態度育成について広く深く考察したい。

いわゆる「宗教教育」論議は、政策・法律論議で、「何を教えることができないのか」の禁止事項に注意が傾斜した論議が久しく盛んでその喧しさは大である。だが、この論議に反して、同じ現行憲法・法規下で、「何を教えることができるのか」の肯定的事項に注意を向けた教育方法上の教授概念検討論議が極めて少ない。これはいわゆる戦後教育の盲点でさえる。この不均衡を醸成してきた歴史的背景を検証する。幕末、明治維新、対日米国占領宗教教育政策、憲法・教育基本法・教育関係法立法審議制定過程を検証し、手垢の付いた用語としての「宗教教育」論を見直す。用語「宗教教育」は解釈者により一様ではない。本講義では、手垢の付いた先入観を回避し白紙から議論を構想したく、そのために、しばらくの間「宗教の教育」と措定したい。その上で、tell (告げる) と teach (教える) との差異、(religious education) と (education about religion) との差異につき、教授概念を検討する。

講義の内容・授業スケジュール

種々様々な事柄を取り上げ考察を試みる。用語・訳語としての宗教教育、宗教、religion、畏敬、注意深く観察する、(再)結合、宗、教、育、education、誓願、アニミズム、アニメーション等の字源・語源をさぐる。更に、何～何事、what～whatness、児童生徒の疑問態(の調査研究)、内外の種々の童謡、節分、雛祭り、節句、七夕、盆祭り、七五三、合格祈願、お守り、羽田空港長の朝、クリスマス、ターミナル・ケアー等を粗上に載せる。憲法20条・教育基本法9条・初期社会科学学習指導要領との絡みの中に、対日米国占領教育改革政策が胎動していた異文化理解問題の史実を見る。宗教を文化現象の一形態として考えるか否かについて、諸説を見ておきたい。道徳教育の内容項目上の宗教的用語が「宗教の定義集」・「現代日本の諸家の宗教観」の二典中では、どう規定されているか、その脈絡を意味論的に概観する。多民族多文化多宗教共住社会のうねり、隣人は異邦人等がいわれ日常生活化しつつある国際化社会時代の問題・課題解決に与する宗教教育の目的論・目標論・内容論・方法論を具体的に考えたい。今後は例えば、国際結婚等にもより、混血児も学級には数人は存在するとの推計もある。家庭教育・学校教育・社会教育のいずれの教育の場面も、まさに、迂闊ではいられなくなる。宗教的無知は宗教的偏見よりも致命的な悲劇を生もう。無知解消の教育が要る。

履修上の留意点

社会科・地理歴史科・公民科における宗教の教育、宗教科教育における宗教の教育、宗教教育における宗教の教育の異同点、及び、訳語としての用語「宗教」に関し熟考して欲しい。

成績評価の方法

レポート、出席点、口頭発表等による。特に出席を重視する。

教科書

小山一乗著『教育と寛容——宗教的事実・規範の取り扱いとそのおしえ方、評価の観点——』(宣協社) 2,940円
 小中高各『学習指導要領』 各230円 250円 370円
 『仏教・キリスト教・イスラーム・神道どこが違うか』(大法輪閣) 1,600円

参考書等

指定図書→『宗教教育の理論と実際』(鈴木出版) 1985年
 土持ゲーリー法一著『米国教育使節団の研究』(玉川大学出版部) 9,785円
 井上順孝監修『宗教教育資料集』(すずき出版) 3,900円
 杉原誠四郎『教育基本法の成立「人格の完成」をめぐる』(日本評論社)
 参考図書→KYOUKO INOUE, 1991. *MACARTHUR'S JAPANESE CONSTITUTION* (THE UNIVERSITY OF CHICAGO PRESS)

その他

定例教場での講義を中心とするが、必要に応じ、視聴覚教室でのビデオ、スライド、OHPの視聴をするので視聴覚教場の掲示に注意しておくこと。プリントを配布するのでファイル表紙を用意して欲しい。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
生涯学習概論	とよ た ちよ こ 豊 田 千代子	教職2・3・4選	4

(P.302) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単 位
視聴覚教育	い い もり あき ひこ 飯 森 彬 彦	教職2・3・4選	4

(P.315) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会教育施設	むら やま てる よし 村 山 輝 吉	教職2・3・4選	4

(P.304) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単 位
学校経営と学校図書館 (前期)	やま だ せつ こ 山 田 節 子	教職2・3・4選	2

(P.295) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単 位
読書と豊かな人間性 (後期)	やま だ せつ こ 山 田 節 子	教職2・3・4選	2

(P.295) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単 位
学校図書館メディアの構成 (前期)	<small>みなもと</small> 源 <small>しょう</small> 昌 <small>きゅう</small> 久	教職2・3・4選	2

(P.296) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単 位
情報メディアの活用 (後期)	<small>みなもと</small> 源 <small>しょう</small> 昌 <small>きゅう</small> 久	教職2・3・4選	2

(P.296) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単 位
学習指導と学校図書館 (前期)(後期)	<small>やま</small> 山 <small>だ</small> 田 <small>せつ</small> 節 <small>こ</small> 子	教職2・3・4選	2

(P.297) 参照

(3) 教科に関する専門科目（必修）

【社会・地理・歴史・公民】

科目名	担当者名	配当学科	単位
東洋思想史	すえ き やす ひこ 末 木 恭 彦	教職教科	4

講義のねらい

始めに、二つのことを断っておく。第一に「東洋思想」と題しているが、私は漢文による思想言説に限って問題とする。特に、中国と日本に限られるであろう。第二に、「思想史」と題しているが、通史や他の歴史現象との関連付けは主要な関心ではない。長い時間をかけて蓄積された、漢文化の思想言説、その思想言説に光を当て、その一斑なりとも理解しよう——これが本講義の目指すところである。

講義の内容・授業スケジュール

今年度は、『経史博論』を手掛りにして上記の試みを行う。但し、『経史博論』そのものの理解を目指すのではない。この書は、中国思想（儒教的教養）の概説書である。近代の眼差しが入る以前の儒教の基礎的教養を、この書を通じて確かめることができる。授業では、この書を購読する。購読を通じて、その背景にある中国の思想言説の伝統の一端に觸れてゆきたいと考えている。

履修上の留意点

最低書下し文が理解できる程度の漢文の基礎的教養が必要である。

成績評価の方法

成績判定は下記の材料を勘案して行う。
 1. 試験又はレポート（年1回以上）
 2. 平素の受講態度（年数回内容理解の調査を行う。なお、この調査は予告せずに行う。）
 3. 受講の積極性（質問、任意のレポートなどによって判断する。質問は書面で必ず質問者名を明記して提出して欲しい。）

教科書

授業は講師が用意したプリントを用いる。

参考書等

適宜授業中に指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
美術史概説	や の よう こ 矢 野 陽 子	教職教科	4

講義のねらい

美術史とはどういう学問か、その方法にはどんなものがあるのかを具体例を通して考えながら、西洋美術史の基礎知識を学んでいきます。

講義の内容・授業スケジュール

研究分野としての美術史に関して以下のような視点で講義を進めます。
 美術史の起源
 西洋美術史学の方法と歴史
 原作、複製、文献
 描写と解釈
 合わせて古代から現代への流れを概観していきます。

成績評価の方法

前期レポートと学年末試験によって評価する予定です。

参考書等

マーク・ロスキル著、中森義宗訳『美術史とはなにか』（日貿出版社）
 マルシア・ポイント著、木下哲夫訳『はじめての美術史』（スカイデア）
 高階秀爾監修『カラー版西洋美術史』（美術出版社）
 このほか適宜、授業中に参考文献を紹介します。

その他

スライドで具体的に数多くの作品を見ながら、授業を行ないます。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
民 間 信 仰 論	谷 口 眞	教 職 教 科	4

講義のねらい

日本社会の各地に展開している神祭りや信仰行事の具体的な調査事例を紹介しながら、神と人が織り成すさまざまな世界には、どのような意味があるのかを探っていくことにしたい。そして、民間信仰の性格や機能、あるいは現代的意義といった問題に考察を加えていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

本年度は、「人と神との交流」をテーマとしてとりあげ、東京都青ヶ島の神祭り、福島県会津地方の神社参拝を中心とした講集団、東北地方の巫俗文化、死霊結婚の習俗、山岳信仰と修験道、憑霊信仰などを題材にしながら、民間信仰の基層性を明らかにしていきたい。そして、民間信仰と成立宗教との関係や、成立宗教が地域社会に受容されて土着化していく過程で民間信仰がどのような機能を果たすのかについても分析の目を注いでいくことにしたい。

成績評価の方法

学年末に課題に基づくレポートの提出を求めて成績評価を行う予定で、筆記試験は実施しない。

教 科 書

とくに使用しない

参 考 書 等

桜井徳太郎著『日本民俗宗教論』（春秋社）、宮家準著『日本の民俗宗教』（講談社学術文庫）、桜井徳太郎・他編『シャーマニズムとは何か』（春秋社）

そ の 他

授業は講義形式で行う。講義に必要な資料等については、そのつどコピーで配付する。また、講義に関連したビデオを2回ほど見る予定にしている。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
人 文 地 理 学 概 説	小 池 と み 子	教 職 教 科	4

講義のねらい

地理学における人文地理学分野をとり扱う。地理学的視点から、世界の諸地域の問題を検討することによって、現代世界の現状と課題を明らかにすることをめざす。

講義の内容・授業スケジュール

最初に、地理学発達史・人文地理学と自然地理学・環境論・地域論などについて検討する。次に現代世界の概観をふまえた上で、人種・民族と国家、人口問題、産業立地と地域の変容などを柱として、世界各地が現在どのような問題をかかえているか、具体的に各地域をとりあげながら、概説を試みる。

履修上の留意点

地図帳を持参していただきたい。

成績評価の方法

試験を行う。また平常時のレポートも参考にする。

教 科 書

特に指定しない。講義時に資料プリントを配布する。

参 考 書 等

高校用地図帳（『新詳高等地図』帝国書院など。高校時代に使用したものがあればそれでもよい。）
その他の参考書は講義の中で順次紹介する。

そ の 他

授業は講義形式で行う。ときどきビデオ、スライドなどを取り入れる予定である。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
自然地理学概説	たかぎ まさひろ 高木 正博	教職教科	4

講義のねらい	自然地理学の分野のうち、河川や地下水などにかかわる水の地理学を講ずる。 近年、河川環境や地下水汚染などに関心が寄せられている。これらのテーマを考えるため、その基礎となる河川や地下水の特性について、地域事例をもとに説明する。
講義の内容・授業スケジュール	次の諸点について講ずる。 1) 水循環・水収支など水文学の基礎について 2) 河川や地下水の水量や水質など特性と地域とのかかわりについて 3) 河川地形と水災害、利水・自然環境など流域の自然と人々の関係について 4) 身近な水源としての地下水・湧水の保全などについて 地域事例を紹介する際、地形図や空中写真などを利用して地域調査の基礎についても概説する。
履修上の留意点	講義が中心になるが、受講者にも問題意識を持ってもらうため、夏休み中に現地調査を伴う課題を提示する。地域を把握するために、地形図や地図帳などが必要である。
成績評価の方法	学年末定期試験と夏休みの課題の他、授業中に随時実施する課題など平常点も加味して行う。
教科書	授業時間にプリントを配布する。
参考書等	地学団体研究会編『地球の水圏－海洋と陸水』（東海大学出版会） その他随時紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
自然地理学概説	はやふね げんほう 早船元峰	教職教科	4

講義のねらい	人間生活の舞台である第四紀の大地の生成過程などを論じ、さらに自然に対し人間はいかにあるべきかを災害などの環境問題を通して共に考えていく。また、いくつかの地域をとりあげ、人間と自然とのかかわりあい（人間に対する自然の影響・自然への人間の働きかけ）を、歴史的観点をふまえて、主に環境地誌学的立場から論じる。
講義の内容・授業スケジュール	・関東平野の地形発達史 ・北海道本部の気候地形 ・北海道美瑛町・富良野市における傾斜地の土地利用の変化と環境保全 ・大気温・湖水温の垂直分布の季節的变化と人間とのかかわり ・その他
履修上の留意点	国土地理院の地形図を数枚用意してもらい、それらをもとに種々の作業（土地利用図・帯状平行投影地形断面図・切峰面図など）をして理解をより一層深めてもらう。直定規・方眼紙・トレス紙・硬質色鉛筆・黒色水性ペンを各人用意すること。
成績評価の方法	課題（地形図より主題図作成）・小テスト出席状況などによる平常点。
参考書等	水見山幸夫・岡本次郎編著『土地利用変化とその問題』（大明堂） 脇田武光・石原照敏編『観光開発と地域振興』（古今書院）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
地 誌 学 概 説	かわもととよかず 川元豊和	教 職 教 科	4

講義のねらい

南及び東南アジアの地誌について講義する。テーマは「地域の変貌」であり、主な対象地域としてバングラデシュとマレーシアを予定している。

講義の内容・
授業スケジュール

前半では、主にバングラデシュの村落を対象とし、1960年代後半以降の「緑の革命」にともなう農耕の変化や農業開発の過程で生じる地主・小作関係に根ざす土地問題や小作制度の変更、労働力の問題などについて考えてゆきたい。また、農村から大量の人々を吸収し続けている都市についても考察したい。後半では、主にマレーシアを対象とし、多民族社会の地理的特徴やマレー村落とその変貌、社会経済構造の変化などについて最近の地域研究の成果を紹介しながら、地域の特性を明らかにしたい。また、近年の高度経済成長にともなう工業化・都市化の問題についても考えてゆきたい。

履修上の留意点

高校時代に使用したものでよいから、地図帳を持参して講義に臨んでもらいたい。

成績評価の方法

出席及び前期末のレポート提出を前提とし、学年末の筆記試験と併せて総合的に評価する。

教 科 書

特に定めず、プリントを配布する。

参 考 書 等

白田雅之・佐藤宏・谷口晉吉編『もっと知りたいバングラデシュ』（弘文堂）1993 2,800円
水島司編『アジア読本マレーシア』（河出書房新社）1993 2,000円

そ の 他

年に2～3回はスライドを使用した授業を予定している。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
地 誌 学 概 説	くぼ た 久保田 武	教 職 教 科	4

講義のねらい

一般教養として広く世界の諸地域の特色と課題について基礎的知識の修得と理解
 高校地歴科、中学校社会科の授業で世界の諸地域を扱う際に必要な基礎知識の修得
 暗記科目にせず世界の諸地域に対し生徒の興味関心を増す教授内容構成と教授法の考察

講義の内容・
授業スケジュール

- ◆講義の内容
 世界の諸地域の地域学習（地理・歴史・その他の内容）。大地域は一通り学習。中小地域と国は範例学習的に選択
 教授者による毎回の授業、夏季休業中学生による地域紹介作成課題とその内容指導、生徒の学習評価法、教授者の自己評価法、情報源になる資料紹介、その他
- ◆授業スケジュール
 前期は講義（教授者による授業例）と関連事項の質疑・実習・課題作成等
 後期はそれに加え夏季休業中の課題「学生による地域学習案作成」の添削指導

履修上の留意点

毎回授業の終わりに授業内容に関連して、簡潔なまとめ、コメント、実習内容等の提出を求め
 出欠調査に代える。提出物は添削（質問、意見には回答）のうえ次回に返却する

成績評価の方法

定期試験、毎授業後の提出物、授業への参加意欲（出席状況他）等を総合して評価
 原則として授業時数の2/3以上出席しないと単位を認定しない

教 科 書

使用しない

参 考 書 等

授業の時に紹介する。但し、地理教科書、地図帳、歴史年表、歴史地図、統計資料等は、この
 際揃えた方がよい。とりあえず地図帳と統計資料、歴史年表は初回から持参のこと

そ の 他

毎授業時間の前半は講義、後半は質疑、実習、課題作成等を原則とする
 OHP、スライド、ビデオ、写真など視聴覚機材を講義内容理解と補足のため頻繁に使用する

科目名	担当者名	配当学科	単位
地誌学概説	ふじしまのりたか 藤島範孝	教職教科	4

講義のねらい

アジアには30億の人が居住し、古代文明を生み出したが、その後欧米至上主義によって旧態依然といわれる。更に民族独立と社会主義崩壊、人口爆発と飢餓、核汚染と地球環境の破壊など多くの問題をかかえてきた。この実情をアジアに見る。特に日本はアジアの一員であることを忘れてきた経緯を反省し、各分野から分析してみたいと思う。

講義の内容・授業スケジュール

アジアの地図を描き、最近の変貌を加え、新しいアジア観の把握に努める。

履修上の留意点

各種の地図を利用するので、描写及び着色することがある。作図できるようにしておく。国境及首都等は構造として把握する。

成績評価の方法

最近のアジア各地の変貌を報告発表を要求する。

教科書

大園友和『アジアを読む地図』（講談社）1,800円

参考書等

浅井信雄『民族世界地図』（新潮社）1,000円
泉三郎『世界地図の新しい読み方』（日本実業出版社）1,300円
アンドリュー・ポイド『世界紛争地図』（創元社）1,600円

その他

講義、作図。

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本仏教史	えんどうひろあき 遠藤廣昭	教職教科	4

講義のねらい

中世の仏教諸宗派の展開を、特に関東にスポットをあてて概観し、その過程を明らかにしていきたい。その中でも、地域社会とのかかわりを中心に見ていきたい。また一見それらとかわりの無いように見える「学僧」とよばれた僧侶の活動も詳述して見たい。

講義の内容・授業スケジュール

昨年度は、仏教の伝来から奈良・平安時代の仏教について前期で講義した。本年度は古代仏教も概観するが、講義の中心は中世の関東における仏教諸宗派の展開にしぼって見たい。中でも真言宗と曹洞宗については詳述する。なぜならば、関東においては、古代仏教諸宗派中真言宗が最も多く展開を見、いわゆる鎌倉新仏教の中では曹洞宗が最も展開をとげているから、両宗は地域社会とのかかわりも深いと考えられるからである。このうち真言宗の展開の場合は、鎌倉・室町時代を通して、京都や鎌倉との関係は無視できない。そのような視点からも講義を進めて見たい。

成績評価の方法

成績評価は、定期試験の結果を基本とするが、出席も重視する。

教科書・参考書等

教科書・参考書は特になし。必要な資料は、授業時に配布する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 文 化 史 I	ひろ せ りょう こう 廣 瀬 良 弘	教 職 教 科	4

講義のねらい

日本の文化の歴史が、社会の生産や生産組織の問題と深くかかわっていたことに留意し、朝廷・公家・武家ばかりでなく、民衆も文化の創造にかかわっていったことを、明らかにする。

講義の内容・
授業スケジュール

日本文化の流れを概観し、平安期から江戸期にかけての文化について講述する。つぎのような順序で授業を進めていくが、とくに①～⑦の項目に重点を置く。

- ① 日本文化史概観
- ② 平安期の文化と中世文化、中世文化の成立
- ③ 中世文化史研究の動向
- ④ 中世文化の展開
- ⑤ 室町文化（北山・東山文化）
- ⑥ 禪宗と文化
- ⑦ 京都と大名領国の文化
- ⑧ 下剋上の世と文化
- ⑨ 桃山文化
- ⑩ 宣教師たちがみた日本の文化と南蛮文化
- ⑪ 近世文化史研究の動向
- ⑫ 寛永文化
- ⑬ 元禄文化と化政文化

履修上の留意点

日頃、身のまわりにある道具や私たちの“しぐさ”にも歴史・文化がみえかくれるものである。物・道具にも文化・歴史を感じとれる感覚を養ってほしい。また、受講中は、図書館に文化史・美術史などの資料やビデオが所蔵されているので大いに活用してほしい。

成績評価の方法

定期試験の結果、出席状況など。

教 科 書

特に指定しない。必要な資料は随時コピーを配布する。

参 考 書 等

授業中に随時示していく。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
歴 史 哲 学	あ そう けん 麻 生 建	教 職 教 科	4

講義のねらい

「歴史とは何か」、「歴史認識はいかにして可能か」という問題は単なる歴史学の問題ではなく、広く人文科学一般の問題である。講義は、この二つのテーマを中心に行われる。

講義の内容・
授業スケジュール

前半はいわゆる「歴史哲学」の変遷をギリシア時代から19世紀に至るまで概括し、そこで展開された諸問題を検討する。後半は主として歴史認識の問題を解釈学を中心に講義する。教科書として下記のものを使う。

履修上の留意点

前半は、純粋な講義の形をとるので、きちんとノートを取り、自分なりに問題を整理する努力をすること。後半は、教科書に基づいて行なう。

成績評価の方法

学年末試験

教 科 書

麻生建著『解釈学』（世界書院）2,500円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 史 概 説	くろ だ もと き 黒 田 基 樹	教 職 教 科	4

講義のねらい

歴史学という学問は、過去の社会を正確に認識するとともに、現代社会をどのように把握するか、ということを追究するものである。そのため、過去の日本社会を題材としつつも、常に現代の日本社会との対話を意識し、歴史を「考える」という観点を重視していきたい。

講義の内容・授業スケジュール

日本史を通時的に概観するのではなく、主として平安時代末期から江戸時代初期を対象として、個々のテーマを設定し、検討する。

成績評価の方法

学年末に試験をおこない、出席数と試験の結果を総合して評価する。

教 科 書

特になし。

参 考 書 等

授業のなかで随時紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 史 概 説	こ まつ とし はる 小 松 寿 治	教 職 教 科	4

講義のねらい

「日本史」が日本国の歴史について学ぶ学問であることは承知のことと思いますが、日本国に住みながら「日本史」を知らない人たちが多くいませんか。日本という国に住んでいる人間ならば、日本で起こったこと、特に国際化が叫ばれる昨今、外国とどのようにかかわっていたかを知っていることは、必要なことと思います。国際社会の中で、自分の住んでいる国の歴史を知らないことは、恥かしいことではないでしょうか。社会科の教員免許を目指す皆さんは、それがたとえ歴史の免許でなくても、関連する専攻の状況を理解するために、歴史に関する日を持つことは重要なことと思います。

講義の内容・授業スケジュール

日本の歴史を現在国際問題となっている日本の歴史認識と関連づけながら講義をしたいと思っています。そのため通常の歴史の授業とは違い、若干、時代的には前後する話になるかもしれません。

成績評価の方法

前・後期二度の試験をします。教員となる人たちの授業ですので、出席を重視します。

教 科 書

特に用意しません。必要な資料は、授業の際に配布いたします。

参 考 書 等

授業の時、随時話します。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
世界史概説	井村行子	教職教科	4

講義のねらい

近代世界システムの成立と展開の過程として世界近現代史を捉える。

講義の内容・
授業スケジュール

第1回	近代世界体制成立の諸前提	第12回	19世紀後半のアジア
第2回	18世紀の西ヨーロッパ	第13回	帝国主義の開幕
第3回	18世紀の中・東ヨーロッパ	第14回	帝国主義の世界分割
第4回	18世紀のアジア	第15回	20世紀初頭の世界
第5回	二重革命の時代	第16回	第一次世界大戦
第6回	ヴェーン体制の成立	第17回	ヴェルサイユ体制の成立
第7回	19世紀前半のヨーロッパ	第18回	1920年代の世界
第8回	19世紀前半のアメリカ	第19回	1930年代の世界
第9回	19世紀前半のアジア	第20回	第二次世界大戦
第10回	19世紀後半のヨーロッパ	第21回	戦後世界の成立
第11回	19世紀後半のアメリカとロシア		

成績評価の方法

前期後期二回行う筆記試験による

教科書

使用しない。

参考書等

大江一道『世界近現代全史』全3巻 1991-97

科目名	担当者名	配当学科	単 位
世界史概説	まつもと 松本 弘	教職教科	4

講義のねらい

本年度の世界史概説の東洋史は、中東の歴史を扱う。近い将来、学生諸君が教職について世界史を担当する際、最も困難を憶える部分は、おそらく中東やイスラムに関わるものであろう。近年、教科書における中東やイスラムに関わる記述は増えており、また中東和平問題やイスラム原理主義などの報道も大きく扱われている。にもかかわらず、中東は未だ「遠いところ」であり、その理解のための情報提供や教育はますます困難さを増しているように思われる。それゆえ本講義では、イスラム成立以後の中東の歴史を詳解し、学生諸君が教職につくという前提の下、中学及び高校において中東やイスラムに関する授業を行うために、最低限必要な情報と解説を示すことを講義の目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

「中東 (Middle East、地理用語では西アジア及び北アフリカ)」という言葉の意味から始めて、中東における民族や宗教を概観し、アイデンティティの問題を論じることによって、その社会の特質を明らかにする。加えて、ユダヤ教、キリスト教、イスラムという中東で成立した一神教の流れから、イスラムの占める位置も確認する。

次いで、預言者ムハンマドから正統カリフ、ウマイヤ朝、アッバース朝のイスラム史を概観し、その政治史や政治体制を解説するとともに、イスラム神学・法学やイスラム神秘主義といった思想史も扱いたい。

その後は、オスマン帝国の概説から中東の近代史に入り、ヨーロッパ列強の進出とそれに対する抵抗の過程を通して、「中東の近代」に関わる特質を論じる。そして、アラブ民族主義や中東和平問題から現代史に入り、イスラム原理主義や湾岸戦争後の情勢などを解説して、中東における歴史と現状の関わり合いについて、筆者なりの評価を示してみたい。

成績評価の方法

前後期2回の試験による。

教科書・
参考書等

教科書は特に用いない。参考書は適宜紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会学原論	わた なべ もと ぎ 樹 渡 辺 源 樹	教職教科	4

講義のねらい

社会学の主要な対象である社会的人間、集団、組織を柱に据え、加えて社会変動の問題を加味させた社会意識論を配置し、その各々を構成する主要な問題を講述する。そのためのものとして社会学の概念や理論を用いて、身近な社会現象をとらえて社会的な理解や認識を深めさせたい。

講義の内容・
授業スケジュール

- 授業内容とそれに必要な準備
- 第1回 社会学とは何か
社会的事実／実証性 “予期せんがために見る”／社会学的分析／現代社会学の領域と方法
- 第2回 社会的行為
なぜ“action”からなのか／社会の基礎的単位として行為／行為の社会性・歴史性
- 第3回 相互行為・社会関係・社会過程
人間の行為は“inter”して社会的となる／人間関係・社会関係・国際関係／交換／社会過程
- 第4回 社会的役割の基本公準
1. 役割の取得 — 社会化 フロイドとパーソンズの“社会化の過程”を中心に
- 第5回 2. 役割の準拠 — 準拠集団 準拠枠／所属集団と準拠集団／動機と態度の概念
- 第6回 3. 役割の葛藤 — マージナル・マン アイデンティティとモラトリアム／マージナルマンとして青年期／マージナルマンとして職場人間
- 第7回 社会統制と逸脱行為
1. 規範と同調 — 逸脱の次元 行為と社会的秩序／サンクション・パターン
- 第8回 2. ラベリングと予言の自己成就 印象操作／シンボルとシンボル操作／逸脱とラベリング／予言の自己成就
- 第9回 アノミー デュルケムのアノミー、マートンのアノミー論、マクロ社会学とミクロ社会学
- 第10回 社会集団
- 第11回 1. 社会集団とは何か 集団の特質／集団の分類／家族と企業体
- 第12回 2. 集団の構造と機能 社会有機体説と構造・機能／機能連関／機能要件 (AGIL 図式)
- 第13回 3. 集団の構造と機能 地位と役割 集団の単位としての役割／ロールセット、地位系列／業績的地位・帰属的地位
- 第14回 4. 集団のリーダーシップ 集団目標／集団効果性／ホワイトのリーダーシップ論／PM 理論とリーダーシップ
- 第15回 5. 集団の凝集性・モラール 同調への圧力・斉一性／集団規範／凝集性を高める条件／モラール
- 第16回 1. 組織の一般理論 現代社会と組織体／組織の一般理論
- 第17回 2. 官僚制組織の基本原則 ウェーバーの支配の3類型／官僚制組織の基本原則 (ウェーバー、ミヘルス)／支配・権力・権威
- 第18回 3. 官僚制組織の動態 官僚制組織における“目標の転移”／ホーソン実験／ゲルドナー、ブラウの官僚制論
- 第19回 社会意識
- 第20回 1. 社会意識とは何か 社会意識の2つの途／マルクスとウェーバー
- 第21回 2. ウェーバーのエートス論 「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」を中心として
- 第22回 3. 社会的性格
i) フロムの社会的性格 「自由からの逃走」を中心として
- 第23回 ii) ミルズ、リースマンの社会的性格 「ロンリー・クロード」を中心として
- 第24回 4. 社会的態度 (社会心理) 行為の科学的説明／ニューカムの社会的行動の説明図式
- 第25回 全体社会の構成
1. 経済と社会…経済と経済社会学／産業社会・消費社会／経済の国際化・従属理論
- 第26回 2. 政治と社会…政治と政治社会学／権力／政治文化
3. 法と社会…法と法社会学／法の機能／規範
4. 教育と社会…教育と教育社会学／学歴と社会移動
- 第26回 社会学 階級と階層／職業構成／社会移動／地位の一貫性・非一貫性／成層研究の課題

成績評価の方法

定期試験（有り）、レポート（有り）

教科書

開講時に提示

科目名	担当者名	配当学科	単 位
宗 教 人 類 学	佐々木 宏 幹 <small>さ さ き こう かん</small>	教職教科	4

(P.332) 参照

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 済 原 論	あさ だ どう いち ろう 浅 田 統 一 郎	教 職 教 科	4

講義のねらい

本講義は、近代経済学の基礎理論をわかり易く体系的に解説し、『価格理論』および『国民所得理論』の一層進んだ内容を理解するための橋渡しをすることを目的にしています。また、本講義を受講することによって得られた基礎知識は、現実の経済問題を解釈し、その解決策を考えるための指針としても役立ちます。

講義の内容・授業スケジュール

近代経済学の理論体系は、「ミクロ経済学」と「マクロ経済学」という二大分野に分けられます。ミクロ経済学は、19世紀のジェボンズ、マーシャル、メンガー、ワルラス、20世紀に入ってからヒックス、サムエルソン、アロー、ドブリュー等によって発展させられてきた理論分野で、経済を構成する個別的な消費者や企業の行動にまでさかのぼって市場における価格決定の問題を分析し、完全競争、独占、独占的競争、寡占等の市場形態の相違が資源配分の効率性や所得分配にどのような影響を及ぼすかを分析します。(駒沢大学経済学部では、『価格理論』という科目がこれらの問題を専門的に扱っています。)他方、マクロ経済学は、20世紀前半にイギリスの経済学者ケインズによってその基礎が築かれた経済学的重要な一分野で、国民所得、物価水準、失業率、政府財政余剰、国際収支等の「集計概念」(様々な細かい個別的な変数を合計して、あるいは平均して得られる概念)を用いて、経済全体の動きを大づかみに把握することを目的としています。(駒沢大学経済学部では、『国民所得理論』という科目がこれらの問題を専門的に扱っています。)マクロ経済学の理論は、現在、政府による経済政策が経済全体に対して及ぼす影響と効果を分析したり論じたりする際に必要不可欠な思考の枠組を提供してくれますが、同時に、この分野は、正統派ケインジアン、ポスト・ケインジアン、マネタリスト、サプライサイドの経済学、合理的期待学派等、様々な学派が並存して各学派の間で活発な論争が行われている分野でもあります。また、ハロッド、ドーマー、ロビンソン、ソロー等によって発展させられた経済成長理論、ヒックス、カルドア、グッドウィン等によって発展させられた景気循環理論も、マクロ経済学から派生した分野とみなすことができます。

本講義では、これら二つの理論体系の基礎知識を以下の順序に従ってわかり易く解説します。

- | | |
|-------------|----------------------|
| I. ミクロ経済学 | II. マクロ経済学 |
| 1. 消費者行動の理論 | 1. 国民所得の概念 |
| 2. 企業行動の理論 | 2. 国民所得決定の理論 |
| 3. 市場均衡の理論 | 3. 貨幣と利子率 (IS・LM 分析) |
| 4. 不完全競争の理論 | 4. 財政・金融政策の効果 |

なお、教科書は、浅野・荒木・浅田『エコノミックス』改訂版(成蹊堂)を使用しますが、本講義の範囲を越えてもっと詳しくミクロ経済学とマクロ経済学を勉強したい受講者や本講義の修了者のために、下記の「指定図書」を推薦しておきます。

成績評価の方法

成績は年2回(前期・後期)行う筆記試験によって評価します。

教科書

浅野克巳・荒木勝啓・浅田統一郎著『エコノミックス』改訂版(成蹊堂)

参考書等

[指定図書・文献等]
 武隈慎一 著『ミクロ経済学』(新世社)
 中谷巖 著『入門マクロ経済学』(日本評論社)

科目名	担当者名	配当学科	単位
経済原論	あまの <small>の</small> みつ <small>のり</small> 天野光則	教職教科	4

講義のねらい

経済学は、商品・貨幣経済を基礎とする近代社会（＝資本主義社会）の生成・発展のなかで、「社会認識」の学問として誕生した。

人々の生活はそれまでの自給自足的な生活から、自分の必要とするものを商品・貨幣関係＝市場を通して充足する生活へと変わって行き、それにともない人々の意識や行動も共同体的意識が次第にうすれ、個人が自己の利益を優先し、「損得勘定」に従うようになっていった。こうして人々は、「利己心」を中心に市場を通して関係を取り結ぶようになり、こうした社会にあって個人と社会の関係がどのように「調和」するかということをめぐって経済学という学問は生まれたのである。経済学を一つの体系的な理論として示したのは、アダム・スミス『国富論』（1776年刊）であった。

スミスはイギリスにおける経済発展を考察しながら、近代社会が資本家・労働者・地主という三大階級からなり、階級間に貧富の差はあるけれども、分業にもとづく生産力の発展によってもっとも貧しい労働者階級にもその恩恵は及び、社会に「調和」が存在すると見なした。

しかし、18世紀末から19世紀初頭にかけての産業革命の進展とともに生産力は目ざましい発展を示しながら、資本主義社会の病理としての過剰生産恐慌は労働者を失業＝貧困に追いやり、社会の分裂・対立が大きな社会問題となった。この問題に真正面から取り組んだのが、マルクスであった。マルクスは資本主義社会を人類史における一つの歴史的・過渡的な社会ととらえ、そこにおける「経済的運動法則」の解明を意図して『資本論』（第一巻、1867年刊）を著わした。

本講義では、スミスからマルクスにいたるこうした経済学の流れを念頭におきながら、マルクスによって示された「資本主義の経済的運動法則」とはどのようなものであったかということ、明らかにして行きたい。

講義の内容・授業スケジュール

前期

第1篇 経済学の対象と方法

第2篇 商品・貨幣論

第3篇 資本・剰余価値論

後期

第4篇 資本蓄積論

第5篇 分配論（商業利潤論、利子論、地代論）

履修上の留意点

第2回の授業の出席者をもって受講登録者と見なすので、受講希望者は必ず出席すること。毎時間出席を取ることはしないが、適宜出席を取り、平常的評価として加味する。

成績評価の方法

前後期各2回、授業時に簡単なテストを行ない、出席状況を加味して成績評価を行なう。

教科書

平井規之他著『経済原論』（有斐閣）

参考書等

マルクス『資本論』第1巻（新日本新書）

内田義彦『社会認識の歩み』（岩波新書）

大塚久雄『社会科学の方法』（岩波新書）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 済 原 論	小 ^お 野 ^の 俊 ^{とし} 夫 ^お	教 職 教 科	4

講義のねらい

経済は現代社会の基本であり、経済学、特に経済学原論は広く社会諸科学を学習し理解するためには必須の学問である。この講義では、現代経済社会の仕組みと運行の仕方を理解し、正しく分析し得る力を身につけるためには不可欠な理論の基本を、いわゆる近代経済学の立場から体系的に解説する。

講義の内容・
授業スケジュール

講義は次の順序で行う。

1. 経済学発展史要説
2. ミクロ経済学：ミクロ的経済循環とミクロ経済学、消費者行動の理論、企業行動の理論（企業の生産技術と生産費、完全競争下の企業行動、独占企業の行動）、完全競争市場と独占市場、現代企業と市場の理論。
3. マクロ経済学：マクロ的経済循環とマクロ経済学、国民所得の諸概念、ケインズの有効需要原理と理論体系要説、ケインズ経済学体系（消費関数と貯蓄関数、国民所得の決定と投資乗数の理論、投資決定の理論、利子率決定の流動性選好理論、ケインズ理論体系と IS-LM モデル）、経済成長と景気変動、政府および外国貿易を考慮する一般的分析。

履修上の留意点

講義を理解するために経済に関する予備知識は必要としないが、学問はそもそも一つの体系であるから、常に出席して講義の順を追って理解して行かねばならない。

成績評価の方法

次の3点の総合評価による。

- (a) 講義への出席率
- (b) 後期の適当な時期に課するレポート提出
- (c) 後期の最終講義時間に行う教場試験。

教 科 書

小野俊夫編著『現代経済学の基礎』（学文社）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
民 法 I	<small>おお</small> 大 <small>みや</small> 宮 <small>たかし</small> 隆	教 職 教 科	4

講義のねらい

民法という法律は、日常の社会生活（財産関係と家族関係）を規律の対象とし、総則・物権・債権・親族・相続の五編に編別されている。本講の対象は、第一編総則、第二編物権である。なかでも総則は、全編に共通な規定と、どの編にも入れることができない規定を集めて構成されているので、抽象的な法文形式が多い。講義においては、具体例を挙げてわかりやすく説明したいと思っている。

講義の内容・授業スケジュール

- ① 民法の意義
- ② 民法典の編別
- ③ 民法の指導原理とその修正
- ④ 自然人
- ⑤ 法人
- ⑥ 物
- ⑦ 法律行為
- ⑧ 期間
- ⑨ 時効
- ⑩ 物権変動
- ⑪ 占有権
- ⑫ 所有権
- ⑬ 地上権
- ⑭ 永小作権
- ⑮ 地役権
- ⑯ 留置権
- ⑰ 先取特権
- ⑱ 質権
- ⑲ 抵当権

履修上の留意点

講義には六法持参のこと。講義終了時に次週の予告をするので、教科書を読んでくること。

成績評価の方法

年度末の定期試験と出席状況を総合して評価する。

教 科 書

玉田弘毅『図解民法講義 総則・物権』（住宅新報社）1,854円

参 考 書 等

講義の中で随時紹介します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
政 治 学 原 論	おお つか かつら 大 塚 桂	教 職 教 科	4

講義のねらい

私は、いままでイギリスの政治的多元主義と新自由主義、ならびにフランスの社会連帯主義を研究してきました。現在は、日本における多元的国家論の受容過程に関して勉強をしています。このような私の研究経歴からして、講義内容は少しばかり哲学的、観念的なものになるかもしれませんが。政治学のみならず、ひろく隣接領域（法学・哲学・歴史学・社会学・経済学）にもふれながら一年間の授業をしてみたいと思います。

私の研究室は、第2研究館8階（2835）にあります。研究上支障が生じたときや質問があるときには訪問してください。なお、研究室の電話番号は、3418-9377（直）です。

講義の目的

第一の目的は、将来教壇にたったときに役立つ基本的な知識の習得をめざすことです。

第二の目的は、社会科学の思考方法を会得することです。

第三の目的は、自己の意見を論理的にはっきりと述べられるようにすることです。

講義の内容・ 授業スケジュール

講義のすすめ方

政治学の基本問題を、一回一テーマ主義でとりあげます。ワン・ウェイの講義をするのではなく、学生諸君との対話・討論形式をとりいれて授業をすすめていきます（場合によっては、学生諸君の報告や模擬授業も）。質問には、はずかしがらずに積極的にこたえて授業を盛り上げてください。

授業では、政治学のみならず隣接科目にまで話がおよんでいきます。履修者はあらかじめ高校時代の「政治経済」の教科書や参考書などに目をとっておくとよいでしょう。

講義内容

講義でとりあげる問題は、以下のとおりです。

- | | |
|-----------------|----------|
| A政治の思想 | C日本の政治 |
| ～古代ギリシャ・ローマ政治思想 | ～明治国家の形成 |
| 中世政治思想 | 大正デモクラシー |
| 近代政治思想 | 軍部独裁 |
| 現代政治思想 | 戦後の政治 |
| B政治の仕組み | D国際政治 |
| ～議会 | ～国際連合 |
| 内閣 | N G O |
| 地方自治 | 国際関係 |
| 官僚制 | |
| 政党 | |
| 選挙 | |
| 世論 | |

履修上の留意点

将来教職を希望する人間が、教室に足を運ばないのはもつてのほかです。単位の認定にあたっては、出席を特に重視します。正当な理由があつて欠席する場合（実習・研修など）には、必ず届けを提出してください。

成績評価の方法

出席：50% 中間試験：20% 学年末試験：30%
以上の割合で評価します。
なお、追・再試験も実施します。

教科書

大塚桂編『政治学へのいざない』（成文堂）2,500円

参考書等

大塚桂『政治学原論序説』（勁草書房）3,296円

大塚桂『政治哲学入門』（法律文化社）2,900円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 宗 教 文 化 史	いけ がみ よし まさ 池 上 良 正	教 職 教 科	4

講義のねらい

主として東北地方や沖縄地方の民俗・民衆的な宗教現象の具体例を紹介しながら、日本の宗教文化を根底から支えてきた基盤の広がり、その独特の性格などを考えてみたい。具体的には、日本人の運命観、死生観、霊魂観、系譜へのこだわり、「のろい」「うらみ」などの情緒への対処、「平等」に対する感性、などが話題になろう。

講義の内容・
授業スケジュール

なるべく具体的な事例の考察を中心に話を進めたい。特に、東北地方のイタコ、カミサマ、沖縄地方のユタ、ムスシリなど、民間巫者などの総称によって捉えられてきた「野の宗教者」の世界に光を当てる。前期は東北地方、後期は沖縄地方の話が中心となる。

成績評価の方法

年度末のレポートによる。

教 科 書

特に指定しない。

参 考 書 等

授業中に適宜紹介する。

そ の 他

スライド、ビデオを適宜使用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
民 衆 宗 教 成 立 史	つ しろ ひろ ふみ 津 城 寛 文	教 職 教 科	4

講義のねらい

深層文化論と宗教学の接点にあって、民間信仰、民俗宗教、民衆宗教などの成立と基盤とを扱います。大伝統に対する小伝統、エリートに対する民衆、イデオロギーに対する非イデオロギー的な習慣習俗などに焦点を当てて、われわれの文化や社会や心の深層にある、民衆的な宗教性を浮き彫りにしたいと思います。

講義の内容・
授業スケジュール

主要テーマは下記の4つであり、前期は深層文化論を軸に、後期は民衆宗教論を軸に、講義を進めます。

- 前期
- ① 深層文化論の整理
 - ② 深層文化と宗教研究
- 後期
- ③ 民俗主義的な深層文化
 - ④ 新宗教の発生と展開

履修上の留意点

私語だけは慎んで下さい。

成績評価の方法

出席を参考に、主に前期後期のレポートで行います。

教 科 書

用いません。

参 考 書 等

深層文化論に関しては、拙著『日本の深層文化序説 ― 三つの深層と宗教』(玉川大学出版部)1995年を用います。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
宗 教 学 概 説	あらい 洗 けん 建	教 職 教 科	4

講義のねらい

実証的研究としての宗教学の立場から、我々現代日本人とのかかわりを念頭に置いて、世界の諸宗教について概説し、宗教を理解することがあらゆる人間の営み（諸文化、諸学問）を理解することとにかかわっているかを明らかにする。
この教科は教職科目であるので、できれば近代と宗教、憲法理念と宗教の問題にも言及したい。

講義の内容・授業スケジュール

宗教学の性格、原始宗教、民族宗教、仏教、キリスト教、イスラーム教、神道、新宗教運動、近代化、世俗化、信教の自由、政教分離などの諸問題について考える。

履修上の留意点

できるだけ出席し、事実を覚えることより、宗教学のものの見方を理解して貰いたい。したがって、原則として出席をとる。

成績評価の方法

試験またはレポートと、出席点を総合して評価する。

教科書

水野弘元、柴田道賢監修『宗教学ハンドブック』（世界書院）を持っていれば、参照すること。

参考書等

随時、紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
宗 教 学 概 説	いけ がみ よし まさ 池 上 良 正	教 職 教 科	4

講義のねらい

「宗教」とよばれる現象には、特定の教祖によって開かれ、制度的・教典的な背景や歴史をもった「世界宗教」とよばれるものから、共同体の生活慣習や年中行事に組み込まれた「習俗」、あるいは機能分化した近代社会に生きる個人の「生き甲斐」まで、多様な幅がある。また、教祖・聖者などの宗教的達人やエリートによって説かれた「思想」から、現世祈禱・死者供養・祭礼・禁忌・呪い、などとよばれるような庶民の「実践」まで、途方もない広がりをもっている。

本講義では、主として一般庶民の生活に根ざした、宗教の民俗・民衆的な側面に焦点を合わせ、宗教学の視点から、この側面を捉える方法や、その具体的な研究成果について考えてみたい。

講義の内容・授業スケジュール

講義形式によって、代表的な研究を紹介することを予定しているが、受講者の人数によっては、学生諸君に課題を与えて発表してもらうこともある。

成績評価の方法

レポートを予定しているが、試験に変更する可能性もある。

教科書

特に指定しない。

参考書等

授業中に適宜紹介する。
さしあたり、佐々木宏幹・村武精編『宗教学人類学』（新曜社）などが役に立つ。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
宗 教 学 概 説	つ 津 しろ 城 ひろ 寛 ふみ 文	教 職 教 科	4

講義のねらい

世界宗教史と日本宗教史を軸にして、原始宗教・古代宗教から現代の宗教現象まで、宗教としての共通点と、それぞれに固有の特性が明らかになるような講義にしたいと思います。

講義の内容・授業スケジュール

前期は世界宗教を軸に、後期は日本宗教史を軸に、講義を進めます。日本宗教史は概説ではなく、仏教関係の話題も重複のないように省き、興味深い話題に焦点をあてた各論にします。おおまかなスケジュールは次のとおりです。

前期

比較宗教学の前提、呪術と宗教、アニミズム・シャーマニズム、原始宗教・古代宗教、ヒンドゥー教と仏教、ユダヤ教・キリスト教・イスラム教、世界の新宗教運動

後期

固有信仰、神と仏、宗教者の群像、近代化の中の宗教、宗教と国家、宗教と教育

履修上の留意点

私語だけは慎んで下さい。

成績評価の方法

出席を参考に、主に前期後期のレポートで行ないます。

教 科 書

用いません。

参 考 書 等

その都度紹介します。

そ の 他

数回ビデオを用います。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
哲学概説	くにしまかずのり 国嶋一則	教職教科	4

講義のねらい

われわれは、生きてゆくための支えとなるものを求めざるをえない。「支え」となるものは価値のあるものである。価値とはいかなるものを明らかにするには、まず価値が、自然や人間や歴史などの存在するものと、いかなる関係にあるかを、さらにその前に、存在するものがいかなるものであるかを、明らかにしなければならない。

ところで、世界、人間、歴史などの存在するものが、いかなる仕方で存在するかという存在論の問題を考えるためには、われわれは何を、いかに認識しうるかという認識論の問題について知っておかねばならない。そしてまたそのためには、認識の真偽を論ずる真理問題が明らかにされておらねばならない。

以上、価値、存在、認識（知識）、真理という哲学思索を進めるべき段階を辿ったが、その段階は哲学の体系でもある。

講義の内容・授業スケジュール

前期は、哲学の基礎概念と思索を進めるための論理の学習。
後期は、体系的立場から、現代の主義を哲学的に考察する。

成績評価の方法

出席回数、筆記試験、レポート

教科書

学期のはじめに発表する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
哲学概説	すえきやすひこ 末木恭彦	教職教科	4

講義のねらい

哲学とは何であろう。そして、それは人生に如何なる意味を持つのであろうか。—哲学を学ぶ以前にこの様な問いがある。この問いにこそ、この講義を通じて探究を試みる。始めに述べた問いは、我々東アジアの人間にとっては極く自然である。何故なら、東アジアの学問の伝統の中には哲学なる学問は無かったからである。この地域では近代欧米諸国文化の強い圧力下に、新しい学問として哲学を成立させた。その時、唯翻訳するのではなく東アジアの伝統的学問を再構成して、哲学として成立させようと努力する一群の人々もいた。中国にあって、伝統をふまえて独自の哲学を試みた人々の仕事を紹介し、それを通じて冒頭の問いに我々なりの見解を持ちたい—そのような企図の下に、この講義を行う。

講義の内容・授業スケジュール

今年度は、中国の近代哲学者として最も世界に名を知られた馮友蘭を取挙げる。始めに彼の哲学の背景を理解するために、伝記を紹介する。その後、彼独自の哲学新理学の主要著作の中から『新事論』『新世訓』の学説を紹介する。

成績評価の方法

次のものを材料にして成績をつける。

1. 試験あるいはレポート
2. 平常の受講態度（年数回抜き打ちの理解調査を行う）
3. 受講をこえる積極的な学習（任意のレポート、質問〈書面で提出して貰う〉などで判断する）

教科書

『馮友蘭自伝』、馮友蘭『新事論』『新世訓』（ともに和訳はないので、必要箇所を講師が訳し編集したものをプリントして配布する。中文版については授業中に解説する）

参考書等

馮友蘭『哲学回憶録』（吾妻重二訳、『みすず』275号～284号）／柿村峻・吾妻重二訳『中国哲学史』（富山房）／島田虔次『新儒家哲学について』（同朋舎）

科目名	担当者名	配当学科	単位
倫理学概説	くぼ 保陽 一 <small>いち</small>	教職教科	4

講義のねらい

古代から現代にいたる倫理学の主な学説を学び、現代社会における人間の生き方の手掛かりを得ることをめざす。現代はしばしば「ポスト・モダン」の時代だと云われる。それは、近代の科学技術文明や社会制度が様々な問題を露呈し、その解決が求められているからだろう。けだし近代では、それまで結びついていた経済と政治、政治と宗教、個人と社会、人間と自然、学問(真)と道徳(善)と芸術(美)とが相互に分裂し、それぞれ独立の権限を主張するようになる一方、その前提から新たな総合が求められてもいる。けれども、いまだ—かつこの宗教や国家に代る—有効な統合原理は見出されえないでおり、そのため種々の混乱が生じている。そこで本講義では、近代の倫理学説を、一方で古代・中世の倫理学説との連関で取り上げると共に、他方で現代の倫理学説との連関で、批判的に考察することにする。

講義の内容・授業スケジュール

近代の倫理学 — 快樂主義、功利主義、社会契約と人権の思想、理性主義、カント等。
現代の倫理学 — ヘーゲル、マルクス、ニーチェ、ハイデガー、ハーバーマス等。

履修上の留意点

講義に対する積極的な取組みが受講の要件であり、そのために一年間で少なくとも古典を一冊読了するようにすること。

成績評価の方法

中間試験と期末試験、レポート等で評価する。

教科書

開講時に指示する。

参考書等

読むべき古典を含め、授業中に紹介する。

【職業】

科目名	担当者名	配当学科	単位
産業概説	まえ だ ゆき かず 前 田 幸 一	教職教科	4

講義のねらい

授業は'85（昭和60）年以降の日本の産業界の動向を業種別に流れをつかんでいく。

講義の内容・授業スケジュール

（総論）バブル経済と平成不況
 （各論）非鉄金属、建設、食品、紙・パルプ、化学、繊維、石油、エネルギー、鉄鋼、産業機械、造船、重電、家電、コンピューター、半導体、自動車、商社、流通、銀行、生損保、証券、住宅、不動産、運輸、サービス、レジャー、外食産業、通信、ノンバンク、
 なお、受講者の要望を聞きながらですが、今年度は工場見学などを授業に組んで、実施したいと考えています。

履修上の留意点

日経新聞などの経済・産業欄に目を通して授業に望んで欲しい。

成績評価の方法

当授業は多分に受講者が少ないと思しますので、ペーパーテスト等はしません。平常点で決めます。

教科書

高村寿一・小山博之編『日本産業史4』（日本経済新聞社）1,500円

参考書等

授業の際に提示します。

その他

授業での受講者は恐らく少人数であろう。そこで授業の初段階では私が講義をしていきますが、その後はゼミ形式で、皆で議論しながら授業をすすめていきます。

科目名	担当者名	配当学科	単位
職業指導	やま だ ゆう し 治 山 田 勇 治	教職教科	4

講義のねらい

職業指導（進路指導）は教職科目であるから、将来教員として役立つような講義内容にするように心掛け、なるべく教育現場の現状をふまえた上で、実践的な授業にするつもりである。

講義の内容・授業スケジュール

前期は、職業指導の基礎的概念である「職業」についての理解を深めるとともに、職業の中でも特に公認会計士を中心にした会計専門職業についてアメリカの場合と比較しながら、特に教育面を中心にして講義していきたいと考えています。

後期は、中学・高校を中心とした学校進路指導の現状とその問題点について文部省が過去3回にわたって実施した実態調査を中心にしてその現状と問題点を考えていくような授業をするつもりである。なお、時間的な余裕があれば学校で実施されている心理テストについて説明したいと考えています。

履修上の留意点

受講する学生は、積極的に問題意識をもって教育問題を考えるようにしてほしい。

成績評価の方法

授業中における課題などの提出や出席状況を考慮しながら、期末のレポート提出によって評価します。

教科書

開講時に指示。

参考書等

有本章・近藤大生編『現代の職業と教育』（福村出版）2,000円
 寺田晃・佐藤怜監修『進路指導』（中央法規出版）2,500円
 仙崎武・野々村新・渡辺三枝子編著『進路指導論』（福村出版）2,300円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
商 業 実 習	まえ だ ゆき かず 前 田 幸 一	教 職 教 科	4

講義のねらい

貿易における商品取引の基礎的な実務を習得するに目標をおいて授業を進めていく。

講義の内容・
授業スケジュール

授業は基本的に以下の項目で進めていきます。

- | | |
|------------------|-------------|
| 1. 輸出実務の概要 | 10. 為替の予約 |
| 2. 取引関係の創設 | 11. 海上保険契約 |
| 3. 取引条件の取決め | 12. 輸出検査と包装 |
| 4. 売買条件の取決めと契約成立 | 13. 輸出通関 |
| 5. 輸出信用状の照合 | 14. 船積み |
| 6. 約定品の調達 | 15. 船積書類 |
| 7. 輸出保険 | 16. 輸出決済 |
| 8. 輸出承認と認証の取付け | 17. 貿易クレーム |
| 9. 運送契約の締結 | |

成績評価の方法

筆記試験はしない。評価は平常点かレポート提出等によって行います。

教 科 書

開講時に指示します。

参 考 書 等

石田貞夫『貿易取引の実務』（教出版）
 渋谷源蔵『貿易実務』（同文館）
 藤田栄一『貿易取引の英語』（勁草書房）

【商 業】

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
職 業 指 導	やま だ ゆう じ 山 田 勇 治	教 職 教 科	4

(P.290) 参照

Ⅱ 学校図書館司書教諭講座

必修科目

科目名	担当者名	配当学科	単 位
学校経営と学校図書館 (前期)	やま だ せつ こ 山 田 節 子	図書(司)2・3・4必	2

講義のねらい

学校教育における学校図書館の果たす役割を明らかにし、学校図書館の理念、発達過程と課題・教育行政との関わり、学校図書館経営のあり方など、学校図書館全般についての基本的な理解をめざす。また司書教諭の任務と担うべき役割を明確にし、校内の協力体制作り、司書教諭としての研修の重要性にもふれる。さらに、学校図書館のメディア・学校図書館活動・他の館種を含めた図書館ネットワーク等についての基本的な理解を図る。

講義の内容・授業スケジュール

- 1 学校図書館の理念と教育的意義
- 2 学校図書館の発展と課題
- 3 教育行政と学校図書館
- 4 学校図書館の経営
- 5 司書教諭の役割と校内の協力体制、研修
- 6 学校図書館メディアの選択と管理、提供
- 7 学校図書館活動
- 8 図書館の相互協力とネットワーク

成績評価の方法

小論文とテストによる。

参考書等

- 全国 SLA 図書館学編集委員会編『学校図書館学1 学校図書館の原理と運営』
- 全国 SLA 編『司書教諭の任務と職務』

その他

講義・討論・ビデオ

科目名	担当者名	配当学科	単 位
読書と豊かな人間性 (後期)	やま だ せつ こ 山 田 節 子	図書(司)2・3・4必	2

講義のねらい

現代社会に生きる子どもの発達や、読みの多様化などの進展している実態に即した読書教育の理念を探る。さらに、子どもたちの読書生活の実情と読書資料の現状についての理解に基づき、子どもと本を結びつけ、読書の生活化を図る方法を探る。これらを通じて子どもたちの豊かな人間性の涵養に資するため、司書教諭の役割と自らの責務を中心に、活動の原理と方法、技能についても、具体的に体得してもらおう。

講義の内容・授業スケジュール

- 1 読書の意義と目的
- 2 子どもの読書実態と指導
- 3 読書資料の種類と活用
- 4 発達段階に応じた読書指導
- 5 子どもと本を結ぶための方法
- 6 読書指導推進活動と教員の責務
- 7 地域社会の関連施設等との連携

成績評価の方法

小論文とテストによる

参考書等

- 全国 SLA 編『学校図書館白書2 学校図書館と子どもの読書の現状と課題』
- 全国 SLA 編『司書教諭の任務と職務』

その他

講義・討論・ビデオ・演習

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
学校図書館メディアの構成 (前 期)	<small>みなもと</small> 源 <small>しょう</small> 昌 <small>きゅう</small> 久	図書(司)2・3・4必	2

講義のねらい

本講義は、学校図書館メディアの構成に関する理解および実務能力の育成を図る。

講義の内容・
授業スケジュール

1) 学校図書館メディアの概念的フレーム・ワーク 2) 分類法(表)の解説・演習
3) 目録の解説・演習 4) 資料組織の機械化 5) 多様な学習環と学校図書館メディアの配置

履修上の留意点

予習・復習をしっかりと行ってほしい。

成績評価の方法

平常点および試験の成績を併せて評価する。

教 科 書

『日本十進分類法 改訂9版』(日本図書館協会)セット定価 6,000円
『日本目録規則 1987年版 改訂版』(日本図書館協会)3,500円

参 考 書 等

講義中に指示する。

そ の 他

必要に応じて、ビデオを活用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
情報メディアの活用 (後 期)	<small>みなもと</small> 源 <small>しょう</small> 昌 <small>きゅう</small> 久	図書(司)2・3・4必	2

講義のねらい

学校図書館における多様な情報メディアの特性と活用方法の理解を図る。

講義の内容・
授業スケジュール

1) 情報化社会と人間 2) 情報メディアの特性と選択 3) 視聴覚メディアの活用
4) 学校図書館におけるコンピュータの活用 5) 情報検索

履修上の留意点

予習・復習をしっかりと行ってほしい。

成績評価の方法

平常点および試験の成績を併せて評価する。

教 科 書

情報科学技術協会編『CD-ROM 版情報検索の演習』(日外アソシエーツ)2,200円

参 考 書 等

講義中に指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
学習指導と学校図書館 (前期)(後期)	やま だ せつ こと 山 田 節 子	図書(司)2・3・4必	2

講義のねらい

学習において学校図書館が果たすべき役割は大きい。学習図書館は、児童生徒が、「自分で調べて学ぶ」学習を中心に、教育活動のさまざまな場面で、メディアを積極的に利用するよう指導し、それを活用する能力の育成を図らなければならない。
この科目は、その原理と方法を学ぶと共に教師に対するサービス・支援のあり方に関し、理解を深めることを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1 教育課程の展開と学校図書館
- 2 発達段階に応じた学校図書館メディアの選択
- 3 児童生徒の学校図書館メディア活用能力の育成
- 4 学習課程における学校図書館メディア活用の実際
- 5 学習指導における学校図書館の利用
- 6 学校図書館における情報サービス
- 7 教師への支援と働きかけ

成績評価の方法

小論文とテストによる。

参考書等

- 全国 SLA 編『これからの学校図書館と司書教諭の役割：改正学校図書館法マニュアル』
- 井澤純著『図書館学大系7 読書教育原論』（全国 SLA 刊行）

そ の 他

講義・討論・ビデオ・演習

Ⅲ 社会教育主事講座

(1) 必修科目

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
社 会 教 育 計 画	むら やま てる よし 村 山 輝 吉	社教主事2必	4

講義のねらい

かつて社会教育職員の専門性として、4P論（プランナー、プログラマー、プロデューサー、プロモーター）がいわれた。いま各自治体では住民の生活課題や地域づくりの課題に対応したきめ細かな生涯学習振興策とその計画化がもとめられている。この講義では、自治体の生涯学習計画の策定を中心に、できるだけ具体例に即して、ひろく生涯学習の方法、事業計画などの理論の理解を深められるようにしたい。

講義の内容・授業スケジュール

1. 生涯学習の方法と計画の今日的課題
2. 住民の課題と生涯学習計画
3. 生涯学習の方法と事業の計画・運営
4. 生涯学習と条件整備
5. 地域生涯学習計画の策定
6. 生涯学習計画と社会教育計画
7. 学習権の思想と社会教育計画の課題

履修上の留意点

できるだけ「生涯学習概論」を修得していることが望ましい。

成績評価の方法

出席、レポート、試験等により総合的に判定する。

教科書

酒匂・村山他編著『生涯学習の方法と計画』（国土社）2,800円

参考書等

そのつと紹介する。

その他

夏休み中に、各自、自分のまちの社会教育行政の実情について調査し、レポートにまとめることをもとめる。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
生涯学習概論	とよ た ち よ こ 豊 田 千 代 子	社教主事2必	4

講義のねらい

1965年に、ユネスコのポール・ラングランによって「生涯教育」が提唱されて以来、教育を生涯教育・生涯学習という視点で捉えることが、教育改革の国際的動向となっている。わが国でも、今日、生涯学習の視点からの教育の見直しが課題となっている。

授業では、主にわが国の生涯学習政策についての概要を把握し、その検討を通して、今日求められている学校教育改革・社会教育改革の方向性について考えていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

- ・生涯教育・生涯学習の理念
(ユネスコの生涯教育論)
- ・生涯教育・生涯学習の国際的動向
- ・わが国における生涯学習政策
 - ・臨教審答申－「生涯学習体系化」への動き
 - ・国レベルの政策－「生涯学習振興整備法」の制定とその後の動き
 - ・地方自治体における生涯学習政策の展開
- ・生涯学習と学校計画
- ・生涯学習と社会教育
 - ・社会教育の概要（定義・社会教育施設・学習方法・形態など）
 - ・成人教育としての社会教育

成績評価の方法

出席点、レポート等によって成績評価を行なう。

教科書

確井正久、倉内史郎編著『新社会教育』（学文社）2,000円

参考書等

適宜紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会教育実習	とよ た ち よ こ 豊 田 千 代 子	社教主事3必	4

講義のねらい

公民館、図書館などの社会教育施設や、教育委員会での実習をとおして、社会教育についての理解を深めることを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

- 事前指導 — 社会教育の具体的なイメージをつかむために、様々な社会教育実践を取りあげ、グループで報告する。
- 訪問指導 — 実習先訪問指導。
- 事後指導 — 実習をとおして学んだこと、疑問に思ったことなどについて報告する。実習報告書を作成する。

成績評価の方法

①実習ノート ②授業への参加度（授業での実習報告、報告書作成への取り組みなど）

教科書

小林文人編『公民館の再発見 — その新しい実践』（国土社）

参考書等

社会教育推進全国協議会編『新版 社会教育・生涯学習ハンドブック』（エイデル研究所）

その他

適宜、公民館などの施設見学を行なう。
実習報告書の作成に関しては、企画、編集、印刷、製本のすべてを自分たちで行なう。このこととおして、共同で学ぶ方法を身につけたり、共同で学ぶことの楽しさに気づいてほしい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
社 会 教 育 実 習	むら やま てる よし 村 山 輝 吉	社教主事3必	4

講義のねらい

学生が社会教育実習に主体的にとり組み、社会教育実践について理解を深めることを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

- ・社会教育実習の意義と心がまえ — これまでの実習の経験に学ぶ事前指導
- ・実習期間 — 個別の訪問指導
- ・実習後 — 個別の体験の整理・検討と共通する課題の追求。
〔例〕社会教育職員の専門性とはなにか。

成績評価の方法

平常の受講態度（出席、口頭発表、レポート、討議の質等）や実習先の評価等により総合的に判定する。

参 考 書 等

そのつと紹介する。

そ の 他

社会教育実習を受講する学生は、前年11月中におこなわれるガイダンスに必ず出席すること。

(2) 選択必修科目

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会教育行政	ひがし 東 とし 寿 たか 隆	社教主事2・3・4選	4

講義のねらい

憲法・教育基本法体制に沿った社会教育行政の本質について具体例を示しながら解明する。戦前・戦後の社会教育行政の歴史・社会教育法の成立の頃の実情、その後の社会教育行政の発展の状況・生涯学習行政の現情などを通して社会教育行政とは何かについて、社会教育主事などになった時に役立つような内容を明らかにしたい。

授業外に社会教育施設などに赴いてボランティア活動を積極的にやって欲しい。

教科書

島田修一編『生涯学習のあらたな地平』（国土社）2,718円＋税
月刊社会教育編集部『生涯学習時代の社会教育をつくる』（国土社）1,942円＋税

参考書等

社会教育推進全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック』（エイデル研究所）

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会教育施設	むら 村 やま 山 てる 輝 よし 吉	社教主事2・3・4選	4

講義のねらい

社会教育の方法や形態を考えるうえで、戦後のわが国では公民館をはじめとする図書館・博物館社会教育施設の重要性があらためて認識された。本講ではその社会教育施設の歴史と現状について考察を深め、それが抱える諸問題について、望ましい展望を拓きたいと考えている。

講義の内容・授業スケジュール

- ・社会教育施設とは何か
- ・社会教育施設にかかわる人々
- ・公民館の歴史と現状
- ・図書館の歴史と現状
- ・博物館の歴史と現状
- ・社会体育施設の歴史と現状
- ・その他の社会教育施設・関連施設
- ・社会教育施設をめぐる最近の動向と課題

それぞれできるだけ具体例・実践例を挙げて理解をはかるようにしたい。

履修上の留意点

できればいくつかの施設見学を実施したいと考えているが、学生自身もすすんで適宜、施設の利用見学、施設で行われている学級・講座・サークル活動等に参加して施設体験を豊かにしてほしい。

成績評価の方法

出席・受講態度等の平常点、試験、レポート等により総合的に判定する。

教科書

適宜指示または紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
成人学習論	ひがし 東 とし 寿 たか 隆	社教主事2・3・4選	4

講義のねらい	成人が学習することによって発達することを各地の社会教育の事例を通して明らかにする。始めに社会教育の本質について語り、公民館・図書館・博物館などの社会教育施設等で行う学習活動の事例について、さらに地域づくりについて、また国際問題などの実践について学習させたい。授業外に社会教育施設などでボランティア活動を積極的に行うことをすすめる。
教科書	福尾武彦編著『現代を生きる学び』（民衆社）2,800円＋税
参考書等	酒匂一雄・千野陽一・那須野隆一・村山輝吉・谷貝忍共編著『生涯学習の方法と計画』（国土社）2,718円＋税

科目名	担当者名	配当学科	単 位
女性と学習	や ぐち えつ こ 矢 口 悦 子	社教主事2・3・4選	4

講義のねらい	生涯学習が世界的潮流となった今日、学校以外の様々な場での学習が社会生活を支えている。そうした学習機会の提供について、特に女性問題（男性問題）の観点から検討を行うことが本授業のねらいである。
講義の内容・授業スケジュール	講義の前半では、ジェンダー、エンパワーメント等の概念を整理しつつ、基本的な視点の提示を試みる。後半では、具体的な学習事例を紹介し分析・検討を加える。
履修上の留意点	学生自身の問題関心に応えるような授業とするために、積極的な発言を求める。
成績評価の方法	レポート及びそれをもとにした発表の予定。
教科書	教科書は使用しない。必要な資料は配布する。
参考書等	授業の中で、必要に応じて紹介する。
その他	授業のタイトルが「女性と学習」となっているが、男性の受講を拒むものではありません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
企業内教育・職業訓練	しお かわ まさ と 塩 川 正 人	社教主事2・3・4選	4

講義のねらい

- この講義のねらいは「厳しい就職戦線に勝つ自分づくり」です。そのため毎回の授業は
1. 導入講義のあとは、対話と討論の授業とする。
 2. 大学卒業後の進路決定に直接役立つ授業とする。
 3. 就職を成功する決め手をつかむ授業とする。
 4. 企業と社会の現実をつかむ授業とする。
 5. 毎回、自己と対話し自己創造を積み上げる授業とする。

講義の内容・ 授業スケジュール

担当講師は、日本能率協会の経営コンサルタント。200社を超える各種企業の経営指導を担当してきている。講義内容は企業の指導で行う教育とコンサルティングの理論・技法を紹介しつつ、学生生活の「革新」を指導する。その骨子は

- 「考える授業」を行う。そのため
 - ・大学生生活の過ごし方を本気で考える学生だけを対象の授業とする。
 - ・卒業後の進む道を本気で考える学生だけを対象の授業とする。
- 「表現する授業」を行う。そのため
 - ・毎回、講師と学生、学生と学生による対話と討論を行なう。
 - ・自己表現の各種技法を習得し、就職試験などでの対応策を授業の中で体得する。
- 「実行する授業」を行う。そのため
 - ・授業で体得した内容を、大学生生活全般に活用する。
 - ・卒業後の進路開拓に活用する。

履修上の留意点

- ・本授業は三年生のための卒業後の進路開拓の支援を目指す授業です。授業の後半から就職準備が始まります。授業内容はそのまま就職への準備行動として展開します。
- ・必ず配布資料があります。討議のまとめもコピーします。各自ファイルを準備して下さい。

成績評価の方法

毎回の授業への参加内容を重視し併せて筆記試験も行います。

教 科 書

なし。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会体育Ⅰ (前期)	ふる た じゅん こ 古 田 潤 子	社教主事2・3・4選	2

講義のねらい

満ちて輝く心とからだ
他者とひびき合う豊かな関係
人間にとって本質的な生き方の問題を、自分のからだと向かい合うことから始めます。からだの感覚を手がかりに、からだの自然に気づき、自らの意思で、今を生きる確かさと自信を体得していきます。

講義の内容・
授業スケジュール

前期では、自然の原理に沿った動きで、ゆるやかに自分自身の心とからだを拓いていくことを主眼とします。具体的には、動きの基本となる三要素①余分な緊張を取り去る。②その時々姿勢におけるからだの最下部に全体重を任せ切る。③動きに最適な自然な呼吸。を目安とし、自己能力を発掘し、可能性を追求します。

履修上の留意点

からだの内的感覚に基づく履修内容なので連続受講が必要です。

成績評価の方法

平常授業（レポートも含む）

参考書等

野口三千三著『原初生命体としての人間』（三笠書房）
野口三千三著『野口体操からだに貞く』（柏樹社）
野口三千三著『野口体操重さに貞く』（柏樹社）
池田潤子執筆「からだのレッスン」雑誌『ひと』（太郎次郎社）
古田潤子「自然なからだのあり方を考える【門筒エリア】の発見と意義」
駒沢大学教育学研究論集第13号 1997年

そ の 他

授業は実技を主に行います。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会体育Ⅱ (後期)	ふる た じゅん こ 古 田 潤 子	社教主事2・3・4選	2

講義のねらい

後期では、他者との関係を豊かに拓いていくことを主眼とします。
環境の変化に応じて、的確に落ち着いて対処できる心とからだを、自らの力でとらえ育て自信を身に付けます。屋内、屋外のいろいろな場所での体験実習も考えています。
また、海外でのワークショップにおける豊富な経験をもとに様々な遊び道具の製作や、それを使った楽しい遊びも加味します。同時に日本人と外国人の考え方、感じ方、環境の変化に対する即応の仕方の違いなどについても一緒に研究をしていきます。

科目名	配当学科	単位
教育原理	社教主事2・3・4選	4

(P.233) 参照

科目名	配当学科	単位
教育心理学 (教育方法論を含む)	社教主事2・3・4選	4

(P.236) 参照

科目名	配当学科	単位
青年心理学 (教育方法論を含む)	社教主事2・3・4選	4

(P.238) 参照

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
社 会 心 理 学	つばい 井 健	社教主事2・3・4選	4

講義のねらい

この講義は、個人の社会的行動、対人関係、集団行動と個人、集団心理現象など、われわれが日常的に出会うテーマについて、社会心理学の興味深い研究成果を紹介する。社会心理学は、元来社会学と心理学の境界科学であり、実験、テスト、観察、調査など社会学と心理学の研究方法が用いられており、社会学の領域から見れば、かなり心理学的色彩の強い研究が含まれる。この講義では、境界科学としての特徴を生かし、具体的テーマを中心に、ビデオ教材を利用したり、小実験や心理テストなど多彩な方法を用いて授業を展開したいと考えている。

講義の内容・授業スケジュール

1. はじめに - 講義の方針と受講の仕方 -
2. 社会的自己のはなし - 自己過程の社会心理 -
3. 他者との関わり - 友人関係と対人魅力 -
4. 対人関係の心理 - 援助行動と社会的影響 -
5. 集団の中の個人 - 同調行動と意思決定 -
6. 文化現象と個人 - 異文化と日本人 -
7. 現代社会と個人 - 現代人の社会心理 -
8. その他 (社会的認知、社会的欲求、態度変容、リーダーシップなど)

履修上の留意点

1. 授業中に、小実験や心理テスト、エキササイズなどを行うことがあるので積極的に参加すること。
2. 授業内容は、通年テーマの概略である。授業の流れとの関係で内容や順序は変更することもある。
3. 授業中は配布プリントを参考にノートを取り、さらに深く研究する人は、紹介した文献を参考に自主的に学習することが望ましい。

成績評価の方法

1. 出席+毎時間の授業態度、感想、意見、質問など (30%)
2. 課題レポート・期末試験 (70%)

教 科 書

各テーマの授業時間に指示する。

参 考 書 等

各テーマの授業時間に指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
視 聴 覚 教 育	いい 飯 森 彬 彦	社教主事2・3・4選	4

(P.315) 参照

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
教 育 社 会 学	くま 熊 谷 一 乘	社教主事2・3・4選	4

(P.261) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単 位
教 育 史	きたむらみつこ 北 村 三 子	社教主事2・3・4選	4

(P.262) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単 位
教 育 調 査	すずき のりお 鈴 木 規 夫	社教主事2・3・4選	4

(P.263) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単 位
児 童 文 化	か がわ よし しげ 香 川 良 成	社教主事2・3・4選	4

講義のねらい

日本の児童青少年演劇史（大人による子供のための演劇）と、演劇教育史（子供自身による子供のための演劇）を中心にすえ、各時代の児童文学・児童文化の流れにも目を配りながら、それらの明治以後の展開の歴史を振り返ってみたい。

講義の内容・授業スケジュール

以上の講義と、取り上げる諸作品の受講者による研究発表とその講評とを併せながら授業を進めたい。

履修上の留意点

実習でやむをえない以外は、極力出席してもらいたい。

成績評価の方法

平常点と試験で成績評価を決めたい。

参 考 書 等

富田博之著『日本児童演劇史』（東京書籍）『日本演劇教育史』（国土社）菅忠道著『日本の児童文学 I 総論』（大月書店）

そ の 他

現在行われている演劇教育の記録ビデオを観たり、舞台のビデオを観たり、実際観劇するということも行いたい。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
現代社会の諸問題と教育	くま がい かず のり 熊 谷 一 乗	社教主事2・3・4選	4

(P.264) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単 位
青少年問題研究	讃岐真佐子	社教主事2・3・4選	4

(P.265) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単 位
青少年指導演習	平野学	社教主事2・3・4選	4

講義のねらい

青年期を生きる学生諸君が“青少年指導”について学ぶには微妙な難しさが伴う。まずかわる側自身、自らの歩みを見つめると共に、かかわりを通して更に色々なことを見つめる作業が大切になってこよう。ここではこうした認識を土台に、青年心理学や臨床心理学、カウンセリング学等の立場から、現代の青少年の状況やトピックス等論じつつ、その援助や指導のあり方について互いに学びたい。

講義の内容・授業スケジュール

“演習”科目でもあることから、できるだけ体験学習や討議の時間を多くとって行なっていきたい。一応年間予定としては下記の通りだが、受講者の希望も適宜取り入れて進めるつもりでいる。

《前期》

1. 互いに知り合うための、また自己理解を深めるためのエクササイズを実施。(4回)
2. 青少年について、主に発達の見点から自らのことを振り返りつつ学ぶ。(2回)
3. 援助の基本としてのカウンセリングについて、小グループ形式で主にデモンストレーションやロールプレイを通して体験的に学ぶ。(6回)

《後期》

4. 講師自身の援助例(不登校や非行に陥った青少年及び親へのカウンセリング)の提示と討議。(2回)
5. HIV・エイズ問題やカルト問題とそのカウンセリング(3回)
6. 夏休みレポートをもとに、受講者の様々な体験(ボランティア活動他)の報告と討議。(3回)
7. 1年間をまとめる意味で、河合隼雄氏等の文献のいくつかを輪読(分担発表)すると共に自由討議を行なう。特にカウンセリングと仏教との接点等についても互いに理解を深めたい。(2回)
8. その他(全体の振り返り他)。(2回)

履修上の留意点

讃岐真佐子講師による『青少年問題研究』を履修済であることが望ましい。

出席して討論に加わり、感想等も適宜記してもらい、いわばコミット型の共に築き上げる授業にしていきたく、意欲的な学生の参加を望みたい。(実習も行なうので安易な受講は避けてほしい。)

尚、授業の初日に年間の大まかな予定等お話するが、履修希望者からも何を学びたいか等、記してもらいたく、必ず出席願いたい。

成績評価の方法

学年末レポート(年間授業を振り返る形でのもの)、夏休みレポート(体験報告または読書感想)、平常点(出席等)の三本柱で行なう予定。

教科書

河合隼雄『カウンセリングを語る(上・下)』(創元社)各1,300円

参考書等

河合隼雄『カウンセリングを考える(上・下)』(創元社)各1,300円
 同 『大人になることのむずかしさ』(岩波書店)1,240円
 同 『ユング心理学と仏教』(岩波書店)1,800円
 佐治守夫他『カウンセリングを学ぶ』(東大出版会)2,800円
 他にも授業の中で随時紹介していきたい。

その他

VTRやテープ等も多く使用して、具体的に学べるようにしたい。

授業という限られた場ではあるが、受講者それぞれに自らの成長に資するものとなるよう、心がけて参りたい。

科目名	担当者名	配当学科	単位
博物館学Ⅰ（概論） （前期）	<small>お</small> 太 <small>た</small> 田 <small>き</small> 喜 <small>み</small> 美 <small>こ</small> 子	社教主事2・3・4選	2

(P.316) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単位
博物館学Ⅱ（資料論） （前期）	<small>た</small> け竹 <small>う</small> ち内 <small>じ</small> ゅん順 <small>い</small> ち一	社教主事2・3・4選	2

(P.316) 参照

IV 博 物 館 学 講 座

(1) 必修科目

科目名	担当者名	配当学科	単位
視聴覚教育	飯森彬彦 <small>い い も り あ き ひ こ</small>	学芸員2・3必	4

講義のねらい

視聴覚教育の背後にある基本的な考え方を理解する。
個々の視聴覚教材の基礎的な技法（教材の制作、利用の両面）を習得する。
変動する社会に即応し、メディアを活用する態度と能力を養う。

講義の内容・授業スケジュール

視聴覚教育の歴史とその思想的背景
コミュニケーションの理論と視聴覚教育
視聴覚教材の制作と利用
情報化社会における視聴覚教育
生涯学習時代とメディア
以上のような内容であるが、特に「視聴覚教材の制作と利用」に重点をおいて講義する。

履修上の留意点

年に2回程度課題を出し、作品の提出を求める。作品制作に要する経費の負担をあらかじめ予定しておくこと。(OHP シート代、マーカー代、35ミリフィルム代、現像代など)

成績評価の方法

提出作品と試験の成績に出席状況を加味して評価する。

教科書

使用しない。

参考書等

浅野孝夫・堀江固功編著『新視聴覚教育』（日本放送教育協会）
秋山隆志郎・岩崎三郎編著『視聴覚教育』（樹村房）
野津良夫編『視聴覚教育の新しい展開』（東信堂）
中野照海・佐賀啓男・赤堀正宣編著『メディアと教育』（小林書房）

その他

ビデオや写真などを多用して講義する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
考古発掘実習	飯島武次・酒井清治 <small>い い し ま た け つ ぐ さ か い きよ じ</small>	学芸員3・4必	2

講義のねらい

発掘技術の習得を目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

考古発掘実習の授業は、通常の教場での授業と夏休みの野外考古発掘実習からなっている。

履修上の留意点

夏休みの野外考古発掘実習は実習先の都合もあり、夏休み直前まで場所と日程が決定しないのが例年である。従って履修者は、博物館実習との関係等をよく考えあわせ、夏休みの計画の中に、発掘実習と館務実習以外の計画を先行して予定しないこと。夏休みの私的な計画は、発掘実習と館務実習の期間が決定した後には計画を作ること。

授業と野外考古発掘実習においては、授業連絡・授業教程の関係から無届けの欠席・遅刻は一切認めない。またいかなる理由があっても年度の第1回の授業には出席すること。以上の件に反した学生に対しては、教師側の時々の判断で履修を禁止することがある。これは勝手な欠席・遅刻が該当年度の野外考古発掘実習の計画・実行を妨げるからで、履修学生の協力を願う。

成績評価の方法

成績評価は平常点。

教科書

『考古学調査ハンドブックス1（野外編）』（雄山閣）1984年 2,800円

科目名	担当者名	配当学科	単 位
博物館学Ⅰ（概論） （前期）	おお きた きみこ 太 田 喜 美 子	学芸員 2 必	2

講義のねらい

博物館学講座（学芸員課程）の必修科目である。博物館法施行規則によると、「博物館学」6単位が必修である。この「博物館学Ⅰ」は2単位であり、6単位を充たすためには、あとふたつの「博物館学Ⅱ・Ⅲ（竹内講師）、各2単位」も履修していただかないと次年度へ進めないの注意を要する。

この講義では、「博物館法」をテキストにして、博物館の意義、学芸員の仕事等を理解してもらい、いっぽう「博物館学Ⅱ・Ⅲ」では、実際の学芸員の仕事や博物館の事業について、竹内順一講師に講義していただいている。

履修上の留意点

この「博物館学Ⅰ」は、年度初めの第1週の授業で、駒沢大学にあって、学芸員資格を取得する手続きと方法について、細かく説明するので、必ず出席すること。途中で（2回や3回目）出席して、手続きその他質問に来て、第1回目の教室で説明したことを、欠席者に特に丁寧に説明することはしないので注意しておいてもらいたい。

この授業は前期2単位の授業であるから、後期には無いはずであるが、実は後期になっても、数回教室に出席してもらうことにしている。したがって、水曜日3限目の後期については、「履修届」に書きこまないことをお勧めしたい。けれども、学科の必修科目にぶつかってしまうこともあるだろう。そういう方は、相談に来てほしい。

この「博物館学Ⅰ・Ⅱ」計4単位は、社会教育主事の選択科目にもなっているが、この場合も4単位履修していなければならないので、ⅠとⅡの両方を履修しないと通用しない。注意しておきたい。

そ の 他

学芸員資格を取得しようとしていながら、途中で、棄権する（あるいはせざるえないという）場合、社会教育主事に切り換えることは比較的易しいので、これまた相談されたい。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
博物館学Ⅱ（資料論） （前期）	たけ うち じゅん いち 竹 内 順 一	学芸員 2 必	2

講義のねらい

博物館資料の収集、整理保管、展示などについて、理論や実践方法に関する知識と技術の習得をめざす。またあわせてこれらの基礎として必要な博物館資料の調査研究活動の意義と方法について理解を深める。

講義の内容・授業スケジュール

収集活動は、博物館事業の出発点となる重要なものであるが、博物館の設立趣旨や経緯に基づき一定の制限があるものである。この制限下の収集が、結果として博物館の諸事業の個性化をもたらし、特色ある博物館像をつくりあげる。博物館のコレクションを論ずることによって、その博物館の特色を考える。また、具体的な収集手順について、学芸員の収集候補資料の調査からはじまり、収集委員会や買取評価委員会などの開催に至る制度上の手順と問題点を明らかにする。さらには、買取以外の寄贈・委託・交換・採取といった収集方法についても考える。

整理保管は、学芸員の職務として位置づけられているが、欧米ではレジストラと称する専門職が司る。この欧米との制度上の比較を行いつつ、資料の管理と登録の実際面を考察する。とくに収蔵庫内の静的な管理と展示や搬出搬入に関わる動的な管理との差異の理解を深め、同時にこの両者に共通する保存化学の基礎知識にふれる。

展示は特別展の開催に至る手順を、開催趣旨（テーマ）の決定から、出品リスト作成・出陳交渉・集荷・会場設営等をマニュアルとして把握する。研究は、文献主義ではなく、学芸員独自の「モノ主義」の立場を知る。

履修上の留意点

博物館法施行規則の改正にともない学芸員資格取得のための単位・科目変更へ留意。

成績評価の方法

定期試験（筆記）とレポート課題による。

参 考 書 等

授業中に指示する。

そ の 他

毎回レジュメを配布する。またスライドを使用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
博物館学Ⅲ (経営論・情報論) (後 期)	たけ うち じゅん いち 竹 内 順 一	学芸員 2 必	2

講義のねらい

博物館経営および博物館における教育普及活動について理解を図る。また博物館における情報の意義と、その活用方法について理解を図る。

講義の内容・
授業スケジュール

博物館の運営を行政と財政の二つの側面から考察する。とくに国公立の博物館と私立博物館の比較系統を加える。また近年注目されている「博物館経営 (ミュージアム・マネージメント)」についても理論と実際例を紹介し、他の芸術経営との相異と共通点を明らかにする。博物館の運営は、そこに勤務する職員の能力 (知恵) と、施設や設備と不可分な関係にある。いわばソフトとハードの両面から博物館の運営を考え、あわせて将来のあるべき姿としての専門職員の分業制についても論ずる。

教育普及活動は、昨今必要性があらためて認識されているが、その活動範囲はきわめて広く、展示品説明 (列品解説・ギャラリートーク)、ワークショップ、各種普及講座など入館者を前にして行なうものと、作品解説ラベル (題箋)、パネル板、図録作成など文章を中心とする活動の二種に大別される。この両者に共通する要諦は「わかりやすさ」であり、事例研究を通してこれを明らかにする。

博物館の対外活動は、「情報の発信」とみなすことができる。これを広義の情報提供とすれば、個々の博物館資料に関する知見は、狭義の情報である。この両者を考察しつつ、狭義の情報提供と活用方法を各種のメディア機器の特色とともに考える。

履修上の留意点

博物館法施行規則の改正にともない学芸員資格取得のための単位・科目変更留意。

成績評価の方法

定期試験 (筆記) とレポート課題による。

参 考 書 等

授業中に指示する。

そ の 他

毎回レジュメを配布する。またスライドを使用する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
博物館実習Ⅰ (館務)	飯島 武次・酒井 清治 太田喜美子	学芸員3・4必	2

履修上の留意点

この授業は4月第1週から、明年の最終講義まで、1回でも欠席・遅刻・早退すると、単位が取得不可能なので注意してほしい。この方法は、本学の博物館講座開設以来20数年間不変であるので、君だけ特別に単位を出しましょう、というわけにはいかない。

この講義時間に出るということは、君が企画専任者である特別展の開幕日開幕時に君がきちんと会場にいるかどうかということと同じに考えなさい、ということである。

この洗礼に対応して下さるお陰だと思うが、本学卒業生の学芸員就職率は、都内大学で、断然高く、また、学芸員としても、非常に高く評価されている。

毎週の授業の他に、主として、夏期休暇中に、一つの博物館で、学芸員実習を行う。この実習は、他の大学の実習生と一緒に行うため、他流試合的な趣きももっている。日頃の授業時と同じように、絶対に遅刻・欠席してはいけない。一度、そういうことをすれば「駒大には遅刻した学生がいる」と、10年ぐらいは言われ続けるので、注意してほしい。また、多くの実習博物館に本学出身の学芸員の方がいらっしゃるの、その先輩に迷惑をおかけすることにもなる。実習は夏期に行く館が80%を占めるが、別の時期に行く館もあるので、夏休みに海外短期留学などする方も相談に来てほしい。

この科目は、本学の博物館講座の締切りになる実習なので、特に心を引き締めて履修していただきたい。「博物館学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」・「博物館実習Ⅲ(見学)」に先だって、この科目を履修することはできない。つまり、この「博物館実習Ⅰ(館務)」を3年生次に履修して、「博物館学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」あるいは「博物館実習Ⅲ(見学)」を4年生次に履修してはいけない、ということである。履修にあたっての細かい事柄は、その都度、教室で話をする。後期には実習した館の実習内容につき報告会をするので、きちんとまとめることを忘れぬよう。

科目名	担当者名	配当学科	単位
博物館実習Ⅱ (収集)	酒井 清治・太田喜美子 國見 徹・久保田昌希 佐々木 真・佐藤 元英 所 理 喜夫・廣瀬 良 弘	学芸員3・4必	2

講義のねらい

博物館活動の主たる3本柱のうちの「博物館資料の収集」の方法の勉強をする。博物館学芸員は、学芸員の個性を活かさなければならぬ面と、個性を殺さなければならぬ面がある。「博物館実習Ⅱ(収集)」では、一つの博物館が何年あるいは何十年にもわたって資料を収集し続けていても、恰かも、常に一人の人が収集してきたかともみえるような統一性が必要である。また、一つの展示をするにしても、その企画に参画する数人のスタッフの成果は、バラバラであってはならないのである。

その意味では、この「博物館実習Ⅱ(収集)」はあまりに個性豊かな人・あるいは協調性の乏しい人には、かなりきつまいようである。この実習は、必ず合宿して実施しているの、共同生活を知ろうとする意欲の有無がかなり影響をもっているらしい。

博物館学芸員を目指して履修している学生が、学芸員課程を断念するきっかけは、たいてい、この実習の直後であることが多い。つまり、合宿して収集実習を終えた時点で、これほど協調性が必要なら、自分には不向きである、と思いこんでしまうのであろう。そう自覚したら、確かに、君は学芸員に不向きなのかもしれない。そうした場合には、とんとん、個人的に相談に来てほしい。

また、本学で学芸員資格を取るための実習は、「Ⅰ(館務)」・「Ⅱ(収集)」・「Ⅲ(見学)」の3つが必修であるが、「Ⅱ(収集)」の代わりに、「考古発掘実習」を履修しても、学芸員課程の「実習Ⅱ(収集)」に読みかえることができる。ただし、発掘は、真夏の炎天下で1か月間参加することが必要なので、この科目を必修とする、考古学専攻生以外の方には勧められない。

この実習で、今年度予定しているのは、

1. 長野県北佐久郡望月町での近世文書調査と石仏収集調査実習。
2. 同上町での石仏収集調査実習。
3. 長野県飯田市周辺での石仏調査。

履修上の留意点

年度第1回目の授業に必ず出席のこと。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
博 物 館 実 習 Ⅲ (見 学)	酒井 清治・太田喜美子 まつもと のぶみち 松本 信道	学芸員2・3必	2

講義のねらい

本学での博物館実習は、2年次に行くこの実習と、3年次で行う、「Ⅰ（館務）」と「Ⅱ（収集）」の3つが規定されている。

つまり、この実習は、君がこの課程で、初めて行なう、学外での実習ということになる。都内あるいは周辺の博物館で見学をするのであるが、基本的には、見学館は10館。見学の度にレポートを提出する。そのレポートを添削して、原稿用紙の使い方から、字数のまとめ方等、かなり、しっかり、指導することになっている。

履修の方法は、なんといっても、学外の博物館見学であるから、当然、1コマ90分内では無理である。そのため、履修にあたっては、学生の都合を充分、考えに入れたうえで、できるかぎり柔軟に対応して、あぶれてしまう人がでないように留意するつもりである。そのために、相談しなければならないことがあるので、年度第1週には必ず出席してほしい。学生の都合を汲んでA～Cの3組ぐらいに分けて、異なる見学方法をとることになると、今年度は、履修希望者が非常に多くなると予測されるので、第1週に、出席した人数で組分けしてしまう。結果的に、第1週に欠席すると、はみ出してしまうことになる。

この授業は、水曜日の3・4限を通して行うことになるのだが、3限目あるいは5限目に学科の必修科目とぶつかってしまうこともある。そのような問題をもつ人は、必ず、第1週に出席してほしい。第1週の授業終了後に、個人的に相談に来て、もう、対応不能なので、その場合は、翌年履修する以外に方法が無い。

本学の学芸員課程が厳しい、とよく言われるが、学芸員という、貴重な文化財を扱う仕事の養成課程なのであるから、厳し過ぎるなどとは思わないようにしてほしい。それだからこそ本学出身の学芸員が高い評価を受けているのであるから。

科 目 名	配 当 学 科	単 位
教 育 原 理	学芸員2必	4

(P.233) 参照

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
生 涯 学 習 概 論	とよ た ち よ こ 豊 田 千 代 子	学芸員2・3必	4

(P.302) 参照

(2) 選択必修科目

科目名	担当者名	配当学科	単 位
インド仏教文化史	奈 良 康 明	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

インド仏教を「教理」としてではなく、「文化」としてとらえて、検討したい。ここに「文化」とは生活様式、行動様式としての文化であり、「仏教徒」という社会を構成する人々（出家修行者および在家信者を含む）が、事実として、何を考え、どのように生活していたかをさぐる。したがって、悟りのレベルにある修行や教理、悟りに基づく倫理的生き方などは、無論、仏教である。同時に、功德を積んで良き後生を願う観念や行動、六道輪廻の理解、通過儀礼、祖先崇拝、呪術、祈願儀礼、占星等も仏教徒の生活「文化」である。両者は宗教的レベルと機能を異にするが故に、相互補完の形で共存し、その共存のあり方が興味ある研究対象である。又、インド仏教（徒）はそれを生み、育てたヒンドゥー世界とどうかかわり、如何に位置づけられるか、も興味ある研究テーマである。資料は梵語、パーリ（そして漢訳）語の経・律典と碑文、考古学的遺品等が中心となる。文献学的操作を経て得られた結果は、当時の仏教徒の現実の生活文化と、教団が主張するところとは大きなギャップのあることを示しているし、この構造は中国、韓国、日本ないし東南アジアのテラヴァーダの仏教文化でも同様である。そして、このギャップこそが仏教（宗教）教団の社会への定着・発展のダイナミズムとしてとらえられるべきものである。

以上の問題意識のもとに今年度は、おおよそ次のテーマにしたがって講義したい。

講義の内容・授業スケジュール

1. 仏教を「文化」としてとらえるとはどういうことか。
 「仏教」をどうとらえるか
 「文化」とは何か？
 仏教（宗教）の二つのレベル：「世間」（自我充足）と出世間（自己凝視）
 仏教文化の「表層」と「基層」
 仏教文化研究の方法論：M. Spiro, M. Ames、他
2. 古代インドにおける仏教文化とヒンドゥー文化。
 民族宗教としてのヒンドゥー教（世界）
 ヒンドゥー教の特徴：神観念・宗派・特定の教義のないこと・ダルマ
 カースト・ヴァルナ制度と仏教
 古代インドの仏教徒とヒンドゥー教徒の関係（特にカーストをめぐる）
3. 仏教文化における業・輪廻思想の意味。
 古代インドにおける業・輪廻思想の成立
 業思想の構造と機能（含む 死後世界の構造と機能）
 一般的業論の「自覚的業論」への昇華
 懺悔の思想と実践
 業と果報の関係
 業の止滅と改変
4. 功德観念の文化史的発展。
 善業と功德（punya）・悪業と悪徳（papa）
 「作功德→生天」の図式的倫理的・宗教的意味
 功德観念の「出世間レベル」への関係付けられない昇華
 功德の廻向（adesana）と廻向（parinama）
 死者儀礼・祖先崇拝儀礼における功德観念
 「生天」観念の発展と解脱の関係
5. 「餓鬼」（preta）研究。
 ヒンドゥー教におけるプレータと祖霊祭
 古代インド仏典にみる「餓鬼世界」の住人としての餓鬼
 古代インド仏典にみる死者儀礼と関わる餓鬼
 『ペータヴァットゥ』『ヴィマーナヴァットゥ』における餓鬼供養の構造と意味
 テラヴァーダ仏教における餓鬼観念の変遷と儀礼
 中国、日本における餓鬼供養の構造と変遷

科目名	担当者名	配当学科	単 位
中国仏教文化史	なが い まさ し 永 井 政 之	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

ここでいう「文化」とは、現代の我々が日常的にイメージするそれではなく、「人間の営み」としての文化である。そのような文化を中国の歴史の上で見えていこうとするのが、本講義の主眼となる。言葉をかえていうなら、各時代を通じて中国人と仏教がどのような関係にあったかということになる。

今年度は、主として宋という中央集権国家に組み込まれた「禅宗」が、政治・経済・社会とどのように対応していったかを考える。

本来は「方外」の士であるべきにも関わらず、中国の仏教者は、その当初から国家権力への配慮を余儀なくされる。それが伽藍や教団の盛衰に直結していたからである。このような二律背反の世界を抱えつつも、彼らは仏教の中国的な理解に励み、またその受容に努力する。このことは現代に生きる我々にとってもさまざまな示唆をあたえるのではないか。

成績評価の方法

成績評価は平常点に期末試験の結果を加味する。

教科書

必要なテキストは授業において指示する。またコピーを配布する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日本仏教文化史	はかま や のり あき 袴 谷 憲 昭	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

私は日本の「仏教文化」について講義する資格を有しないと自らは思っている。それを私は仏教学部に申し出ているが、私の思うとおりをやって頂いてよい、ということなので、通常の講義と思って出る方は、失望と落胆を味わうことになると思うので遠慮されたい。この授業は講義ではなく、『国体の本義』の批判的な講読を通して、日本における「仏教文化」の問題点を考えていこうという、むしろ演習であると了解されたい。

講義の内容・授業スケジュール

『国体の本義』を冒頭より演習形式で読みすすめる。最初の数時間のみは、本書の成立状況等について講義するが、これが1年間続くのだとは、履修登録の際には決して考えないでもらいたい。

履修上の留意点

教科書はもとより関連諸文献を自ら読もうとする者でない限りは履修は無理と思われるので、その点留意されたい。

成績評価の方法

平常点とする。

教科書

『国体の本義』(昭和12年3月、文部省刊)。もちろん、現物を今求めることは難しいが、図書館には多数所蔵されているので、借り出すかコピーするかして授業には必ず持参してもらいたい。

参考書等

家永三郎『日本文化史』第二版(岩波書店)1982年 600円
袴谷憲昭『法然と明恵——日本仏教思想史序説——』(大蔵出版)1998年 4,800円+税

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
禪 美 術	えびおとし 海老根 聰 郎	学芸員2・3・4選	4

講義の内容・
授業スケジュール

日本の中世の絵画世界を、禅宗画僧による歴史として述べていく。鎌倉・南北朝・室町時代を対象とする。それらの画風の源泉は中国にあるから、合わせて、中国禅宗の中で描かれた絵画についても述べる。
授業は毎回スライドを映写する。

成績評価の方法

年度末に授業で述べたところから出題した筆記試験を行ない評価する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
仏 教 美 術	やま した ゆう じ 山 下 裕 二	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

仏像や仏画を見れば、だれもがそれを「仏教美術」だと認識する。だが、きらびやかな色彩の花鳥画や、落ちついた水墨の動物画にも、仏教的なイメージは流れこんでいる。この講義では、一見「仏教美術」とは思われないような作品をあえてとりあげて、読み解いていくこととする。

講義の内容・
授業スケジュール

①江戸時代の画家・伊藤若沖 ②南宋時代の画家・牧谿 ③江戸時代初期の風俗画・彦根屏風、他にも適宜多数の作品を紹介し、最新の研究論文を読んでもらう。

履修上の留意点

仏教美術に対する固定化したイメージを捨てて講義に臨んでほしい。

成績評価の方法

レポートにより評価する。

教 科 書

なし。

参 考 書 等

参考文献は適宜コピーして配布する。

そ の 他

スライド・ビデオを多用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
仏 教 民 俗 学	須 藤 寛 人 <small>す とう ひろ と</small>	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

葬儀や、先祖崇拜、位牌・仏壇といったものを通して、多くの日本人は仏教と接していると思われる。こういった日常的な仏教との接点を手がかりとして、大宗教としての仏教が民間に浸透していった経緯を本講義では考察したいと思います。また今日の日常的な仏教的な営みの背景にある民俗的基盤の歴史と意味を再考することによって、仏教とのこれまでとは違った接し方のきっかけになればと思います。

講義の内容・
授業スケジュール

以下の三点を以て、本講義の枠組みとし、盆行事や彼岸などの具体的事例を交えながら考察を行っていきたいと思います。

a. 祖先祭祀

祖先とは何か、先祖との違いは何かを明確にすることからはじめる。今日の日本仏教における寺院の主たる活動が、死者の葬式と追善供養からなっており、追善供養は祖先祭祀を民俗的背景として成り立っていることから、祖先祭祀は重要なテーマであると考えられる。

b. 葬送儀礼

葬式は多くの日本人にとって最も「仏教的」であることを再認識させられる出来事である。しかし、ほとんどの場合、そこでなに行われているのかは、一般の人には知らされていない。そこで、民俗的事例をあげながら葬式の構成を明らかにそこにどういう意味があるのかを明らかにする。

c. 仏壇・位牌・墓

多くの日本人にとって最も馴染み深い「仏教的」なものが、仏壇・位牌や、墓であろう。これらのものが、拜む対象になる所以を民俗的背景から明らかにする。

履修上の留意点

遅刻・欠席はできるだけなくしてください。私語は慎んでください。

成績評価の方法

試験・レポート等で総合的に評価します。

教 科 書

教科書は用いませんが、講義の内容に沿って資料を配付します。

参 考 書 等

適宜紹介したいと思います。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 民 俗 学	たに ぐち みつび 谷 口 貢	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

日本民俗学は世代をこえて伝承されてきた習俗・慣習の考察を通して、日本社会に展開する生活文化を究明する学問である。民俗はよく「民族」と混同されるので注意を要する。本講義は、民俗学をはじめて学ぶ人のための入門編として、基礎的知識をしっかりと把握できるようにしたい。また近年、国際的視野をもった人材の育成が叫ばれているが、真の国際理解の前提には、自国の伝統文化に対する一定の素養をもつことが益々大切になってきている。講義では、こうした点にも配慮していく予定である。

講義の内容・
授業スケジュール

本年度は「日本人の一生」をめぐる民俗文化に焦点をあてながら、生活文化において何が変化し、何が持続しているのかを検証し、われわれの現在の生活のありようを再考していくことにしたい。年間の講義予定は以下に掲げるとおりで、各々2回程に分けて行う。

- 第1講 家族と社会
- 第2講 産育儀礼－出産と子育て－
- 第3講 子どもと遊び
- 第4講 若者の民俗文化
- 第5講 成人儀礼
- 第6講 婚姻儀礼
- 第7講 女性の民俗文化
- 第8講 交際と贈答
- 第9講 老人の民俗文化
- 第10講 日本人の靈魂観
- 第11講 葬送儀礼
- 第12講 墓と先祖祭祀

成績評価の方法

夏休みの課題としてレポートの提出を求める。したがって受講者の成績評価は、夏期レポートと学年末の筆記試験の合計をもって行うものとする。

教 科 書

本講義では教科書は使用しない。

参 考 書 等

谷口貢・他編『現代民俗学入門』（吉川弘文館）

科目名	担当者名	配当学科	単位
美術史概説	矢野陽子	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい	美術史とはどういう学問か、その方法にはどんなものがあるかを具体例を通して考えながら、西洋美術史の基礎知識を学んでいきます。
講義の内容・授業スケジュール	研究分野としての美術史に関して以下のような視点で講義を進めます。 美術史の起源 西洋美術史学の方法と歴史 原作、複製、文献 描写と解釈 合わせて古代から現代への流れを概観していきます。
成績評価の方法	前期レポートと学年末試験によって評価する予定です。
参考書等	マーク・ロススキル著 中森義宗訳『美術史とはなにか』（日貿出版社） マルシア・ポイント著 木下哲夫訳『はじめての美術史』（スカイドア） 高階秀爾監修『カラー版西洋美術史』（美術出版社） このほか適宜、授業中に参考文献を紹介しします。
その他	スライドで具体的に数多くの作品を見ながら、授業を行ないます。

科目名	担当者名	配当学科	単位
現代美術	矢野陽子	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい	現代美術は難しい、つまらないという声をよく聞くが、確かにルネサンスや印象派の美術に比べ、現代美術の作品は理解しにくいものが多い。しかし、美術作品は、現代のものに限らず、ただ好きなものを眺めていればわかるというものではない。理解するためには、制作された当時の社会背景や、作者の意図などを正確に知る必要がある。現代美術は、現代という時代と、そこに生きている我々のあり方を反映していると言ってよい。したがって、現代美術の考え方や表現技術を理解することは、我々の生活と決して無関係なものではなく、現代社会の問題点を考える手がかりになりうるだろう。
講義の内容・授業スケジュール	現代美術とは、一般に20世紀の美術を言う。この授業では、めまぐるしい変化をとげながら、新鮮で多様な表現を生み出してきた現代美術の流れをつかみ、それぞれの運動、主張、作品の特徴を理解することを目的とする。20世紀の美術は、それ以前の美術の歴史の継承と断絶であるから、19世紀美術から講義を始めることになる。前期では19世紀中頃（写実主義、印象主義など）から20世紀初頭までを、後期では抽象絵画の誕生以降、1960年代の多様な美術までを見ていく予定である。
履修上の留意点	美術史を学ぶには、実物を見ることが大変重要である。展覧会や美術館に積極的に足を運んでほしい。
成績評価の方法	前期レポートと学年末試験で評価する。
参考書等	参考図書として、ニコラ・スタンゴス編 宝木範義訳『20世紀美術』（パルコ出版） 美術出版社編集部編『現代美術入門』（美術出版社） を挙げておく。このほか適宜、授業中に文献を紹介する。
その他	授業では毎回スライドを使用する。また必要な資料はコピーを配布する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
地 形 学	こ 池 一 之 こ い け か ず ゆ き	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

地形学は、地表の形態とその形成過程を研究する学問で、山がちで変化に富む日本列島には種々の地形が分布している。このため、日本列島は地形研究の上では、世界的にみても好都合な場所である。世界の最先端の研究が多く輩出している。まず、地形学の基礎的な概念から説明し、時に最先端の研究成果や地形変化事象（各種の災害など）にも言及する。

講義の内容・授業スケジュール

年間の授業スケジュールの概要は次の通りである。

1. 地形学の成り立ち、
2. 地表を変化させる種々の営力と地形の分類、
3. 地表水の働きと地表の変化（マスウェスティング、種々の河成地形、組織地形）
4. 海水の働きと地形、
5. 地球内部の力によって形成される地形（火山地形など）
6. 地形発達

履修上の留意点

地理学の中ではかなり理学的（地球科学の1分野でもある）な色彩の強い学問分野である。高校時代に地学を履修していることが望ましい。

成績評価の方法

基本的には、学年末試験の成績で評価する。出席など平常点はあまり加味しない。

教科書

貝塚爽平著『発達史地形学』（東京大学出版会）3,400円＋税

参考書等

貝塚爽平・小池一之ほか編『写真と図でみる地形学』（東京大学出版会）4,532円
小池一之ほか訳『一般地質学Ⅱ』（東京大学出版会）3,708円

その他

授業は講義形式で、最新の情報を知らせるプリント類を多く配布するとともに、スライド、ビデオなどを使用する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
第 四 紀 学	す ず き た け ひ こ 鈴 木 毅 彦	学芸員3・4選	4

講義のねらい

第四紀とは現在を含む最も新しい地質時代であり、今からさかのぼること約170万年間をいう。現在の地球上でみられる地形、気候、人類の姿の大部分は、第四紀におきた現象の累積として説明できる。本講義のねらいは、第四紀の地形と気候の変化、人類の歴史をふりかえり、その結果として現在があること、また、将来を予測するためには過去を知ることが重要であることを理解することである。

講義の内容・授業スケジュール

講義内容は、氷期-間氷期サイクルに関連する気候と海面の変化、第四紀の地形編年と層序の2項目を中心に、地殻変動、火山活動、植生、土壌、人類などの変遷史をテーマとしてとりあげる。第四紀学は歴史学であるので講義にあたっては具体的な事例を題材とする。その際にはなるべく身近な事例（関東地方、日本列島など）を取り上げるが、内容によっては全地球が対象となることはいうまでもない。

履修上の留意点

講義の中心は第四紀の歴史であり地質学的な側面が多いが、現在の地球の姿、すなわち自然地理学的な関心・知識を有することが望ましい。

成績評価の方法

筆記試験、および各自が各々の関心に応じて適当な単行本ないしは学術論文を選び、それについての評論を行ない、成績評価とする。また、講義中に簡単な作業などを要求することもある。

教科書

日本第四紀学会編『百年・千年・万年後の日本の自然と人類』（古今書院）2,233円

参考書等

貝塚爽平著『東京の自然史』（紀伊国屋書店）1,650円

その他

OHP、スライド、時にビデオを用いて講義を行なう。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
考 古 学 概 説 I 〔 日 本 〕	さか い きよ し 酒 井 清 治	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

日本考古学の現状は、細分化された研究が増加している。しかし、細分化された研究を理解する上にも、自ら卒論テーマとして研究する上にも、考古学の基礎なくしては成り立たない。

講義の内容・
授業スケジュール

日本考古学の研究史、最新の発掘調査事例を紹介しながら、日本考古学の概説をしたい。

履修上の留意点

遅刻をしないこと。

成績評価の方法

定期試験で採点。

参 考 書 等

鈴木公雄『考古学入門』（東大出版会）
安蒜政雄『考古学キーワード』（有斐閣）
江上波夫『考古学ゼミナール』（山川出版社）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
考 古 学 概 説 II 〔 外 国 〕	い い じ ま たけ つぐ 飯 島 武 次	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

東洋考古学概説の講義を行う。地域的には中国を中心に話をし、中国考古学研究の現状を理解してもらう。

講義の内容・
授業スケジュール

時代的には、旧石器時代から開始して、新石器時代・殷周時代・秦漢時代・南北朝時代を経て、隋唐時代までの講義を完了することを目標に授業をすすめていく。

履修上の留意点

欠席・遅刻をしないこと。

成績評価の方法

成績評価は学年末の試験で行うが、授業内容および試験の内容は、考古学専攻者としては一般的な常識であるのでよく勉強して臨むこと。

参 考 書 等

飯島武次『夏殷文化の考古学研究』（山川出版社）1985年
飯島武次『中国新石器文化研究』（山川出版社）1991年
飯島武次『中国周文化考古学研究』（同成社）1998年

そ の 他

スライドやビデオを多用する予定である。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 文 化 史 I	ひろ せ りょう こう 廣 瀬 良 弘	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

日本の文化の歴史が、社会の生産や生産組織の問題と深くかかわっていたことに留意し、朝廷・公家・武家ばかりでなく、民衆も文化の創造にかかわっていったことを明らかにする。

講義の内容・
授業スケジュール

日本文化の流れを概観し、平安期から江戸期にかけての文化について講述する。つぎのような順序で授業を進めていくが、とくに①～⑦の項目に重点を置く。

- ① 日本文化史概観
- ② 平安期の文化と中世文化、中世文化の成立
- ③ 中世文化史研究の動向
- ④ 中世文化の展開
- ⑤ 室町文化（北山・東山文化）
- ⑥ 禅宗と文化
- ⑦ 京都と大名領国の文化
- ⑧ 下剋上の世と文化
- ⑨ 桃山文化
- ⑩ 宣教師たちがみた日本の文化と南蛮文化
- ⑪ 近世文化史研究の動向
- ⑫ 寛永文化
- ⑬ 元禄文化と化政文化

履修上の留意点

日頃、身のまわりにある道具や私たちの“しぐさ”にも歴史・文化がみえかくれするものである。物・道具にも文化・歴史を感じとれる感覚を養ってほしい。また、受講中は、図書館に文化史・美術史などの資料やビデオが所蔵されているので大いに活用してほしい。

成績評価の方法

定期試験の結果、出席状況など。

教 科 書

とくに指定しない。必要な資料は随時コピーを配布する。

参 考 書 等

授業中に随時示していく。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
西洋文化史 I	さ さ き まこと 佐々木 真	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

近世末から近代にかけて、ヨーロッパ諸国において戦争や軍隊が有していた意味について講義をする。軍隊のあり方やその機能、国家による戦争の遂行は、近代国家や近代社会の形成に非常に大きな影響を与えており、最近ではそのような視点に立った研究が見られるようになった。本講義では、そのような研究動向をふまえ、フランスを主な題材として、近世から近代への移行において、戦争や軍隊がどのような役割を果たしたのかを考える。

講義の内容・
授業スケジュール

講義のサブテーマとしては、以下のものを考えている。

1. 絶対王政期の軍隊と戦争（戦術の変化、軍隊の実態、軍制改革、王権と戦争）
2. フランス革命と戦争（革命下の軍制改革、兵士と市民的自由）
3. 近代社会と戦争・軍隊（国民化・近代システムと軍隊、国家と軍隊、総力戦体制）

履修上の留意点

授業中に紹介する文献をなるべく多く読み、広い知識を身につけてほしい。

成績評価の方法

成績は学年末に行う筆記試験の成績に、不定期に調査する出席点を加算して判定する。

教科書

教科書は特に指定しない。

参考書等

参考文献は、授業中に随時紹介するが、主要なものとしては以下のようなものがある。
アルフレート・ファークツ『ミリタリズムの歴史』（福村出版）
山内進『略奪の法観念史』（東京大学出版会）

そ の 他

授業は講義形式で行う。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
考 古 学 特 講 II	たか はま しゅう 高 浜 秀	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

ハンガリーから中国の北にかけて広がるユーラシア北方草原（ステップ）地帯では、古来牧畜を主な生業とする人々が暮らしていた。ここでは農耕に依存する定住民の文化とは異なった文化が発達したが、紀元前1千年紀の初め頃（前10世紀～7世紀頃）に開始された騎馬による遊牧は、この地域の文化を大きく変えた。生活形態や物質文化のきわめて類似した文化がここに数多く形成されたのである。これは西アジアや中国などの定住民に大きな影響を与えるとともに、東西交渉の道としても機能することになった。これらの文化はまとめて初期遊牧民文化、あるいは代表的な民族の名を取って、スキタイ系文化とも呼ばれている。中国の北、現在の内蒙古からモンゴル国にかけての地域は、なかでも重要な地域であり、この文化の形成に大きな役割を果たしたと考えられる。講義では中国の北を中心として、初期遊牧民文化形成の問題を扱う。中国の時代区分では殷代から漢代までに相当する。

履修上の留意点

この地域の考古学の最新の成果を伝える日本語の参考書はきわめて少ない。講義に出席することが必要である。

成績評価の方法

成績はレポートにより評価する予定。講義に関連した題目を出題する。

教 科 書

教科書はない。

参 考 書 等

参考書や参考文献は、講義の初めなどに適宜指示する。

そ の 他

講義を中心とし、プリント、スライドおよびビデオを時に応用して使用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
考 古 学 特 講 IV	や の かず ゆき 矢 野 和 之	学 芸 員 2・3・4 選	4

講義のねらい

近年、遺跡の保存と活用の必要性が叫ばれている。考古学・歴史学専攻の学生は、将来地方自治体の教育委員会に籍をおき、文化財保護行政に携わるケースが多いと思われる。
このため、単に遺跡の発掘調査のみならず遺跡整備や遺跡博物館の計画を担当するものと考えられるので、文化財の保存計画の基本となる理念、計画プロセス、保存技術等を理解しておく必要がある。

講義の内容・
授業スケジュール

- ・文化財の保存と活用の理念
- ・日本建築史（古代）概要
- ・遺構とその上部構造隊の復元
- ・保存計画概論
- ・保存科学、保存工学概論
- ・まちづくりと文化財
- ・計画策定の実務
- ・国内の事例
- ・海外の事例・文化財保存の国際機関

以上を一部演習を混じえながら講義する。

履修上の留意点

特にないが、人文系の知識だけでなく、理科系の知識も必要となる。

成績評価の方法

試験、演習提出物。

教 科 書

なし。

参 考 書 等

適宜指示。

そ の 他

講義は、スライド、OHP、ビデオ（保存工事の記録等）を使用する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
西域美術史	まつ だいら みわ こ 松 平 美 和 子	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

中国が漢代以来「西域」と呼んでいた地域はパミール高原の東側の東トルキスタンであるが、後には西トルキスタン、そしてアフガニスタンやイラン以西の諸国も西域と呼ばれるようになる。講義では東トルキスタンからイランまでを広義の西域と考え、いわゆるシルクロードとして大いに繁栄したこの地域の考古美術品の中に東西文化混淆の様子を探りたい。

講義の内容・授業スケジュール

- ① イラン装飾文様とその東伝
イラン美術に見られる「葡萄唐草文」、「花喰鳥文」、「王冠飾り」、「有翼人物像」などの装飾モチーフの変化について。
- ② クシャーナ朝美術とその意義
東西文化の接点であるクシャーナ朝の遺跡と遺品について。
- ③ タクラマカン砂漠周辺のオアシス都市の美術
狭義の西域美術であるクチャ、トゥルフアン、ホータン、敦煌などの美術について。

成績評価の方法

学年末と夏期休暇後の二回のレポートで評価する。

教科書

講義時にプリントを配布する。

参考書等

講義時に適宜紹介する。

その他

具体的な美術作品を対象とする学問なので、毎時間スライド・ビデオを多く用いる。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
宗教人類学	さ さ き こう かん 佐 々 木 宏 幹	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

宗教は人類文化の最古層に属すると考えられている。宗教人類学は人間の営みとしての宗教文化を文化人類学、社会人類学、民俗学の方法と理論に拠って研究する学問である。

人間にとって、人類にとって宗教とはなにかという問題を、人類学や民俗学の研究成果を十分に利用しながら追究し、人間が生きているということの意味の考察につなげていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

以下のような内容を企図している。1. 文化と人間、2. 社会と世界観、3. 宗教の原形形態、4. 人間と動物、5. 民族宗教、6. 世界宗教、7. アニミズム・多神教・一神教の関係、8. 仏教・キリスト教・イスラム教、9. 民族問題と宗教、10. 環境問題と宗教、11. 習合宗教、12. アジア宗教の特色、13. 日本宗教の特色、14. 新宗教とは、15. 「ほとけさま」と日本人。

講義には必要に応じて資料を配布し、またスライドやビデオを使用し、理解の助けにしたい。

履修上の留意点

ときどき出席をとり、評価の参考にする。
夏休み中に「故郷の宗教行事」（仮題）のようなレポートを書いてもらうことを考えている。

成績評価の方法

講義内容にそったレポート作製。400字詰原稿用紙5枚～8枚程度（参考文献名を明記すること）。

教科書

佐々木宏幹著『聖と呪力の人類学』（講談社）840円

参考書等

佐々木宏幹著『宗教人類学』（講談社）980円

V 社会福祉主事講座
社会福祉士基礎

(1) 必修科目

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
社 会 福 祉 原 論	伊 藤 秀 一 <small>いとう しゅういち</small>	社福主事2必	4

講義のねらい

社会福祉は、かつて、慈善事業、感化救済事業などと呼ばれていたものが、時代とともに拡大し、組織的に発展して、今日では、社会を組み立てていくための不可欠の仕組み、すなわち「社会制度」のひとつになったものである。そして、その制度の内容は、今日の時代なりの貧困をかかえながら、人間性を回復するために他からの援助を必要とする人に対し、対人関係を媒介として、有形無形のサービスを提供することである。

本講では、社会福祉がこのように変化してきた跡をたどり、なぜ、今日社会福祉が現代社会の生活環境基盤として確立されねばならないのかについてのあらましを述べることに重点をおく。また、この講義は、1年次の必修科目であるため、他の1年次配当の科目との関連を考慮しつつ、社会福祉についての基礎知識を整理するとともに、社会福祉の今日的な動向と課題についての理解を深めることを主なねらいとする。

講義の内容・授業スケジュール

- 1 現代社会における社会福祉の意義
 - 1) 社会福祉の意味
 - 2) 社会福祉と関連する諸概念
 - 3) 社会福祉の対象と主体
 - 4) 社会福祉の補充性
- 2 社会福祉の歴史的発展
 - 1) 欧米における社会福祉の発展
 - 2) わが国における社会福祉の発展
- 3 社会福祉の組織と運営
 - 1) 社会福祉法制
 - 2) 社会福祉法制の体系
 - 3) 社会福祉事業の経営主体
 - 4) 福祉の措置
 - 5) 社会福祉の経費
- 4 社会福祉の分野
 - 1) 公的扶助（生活保護）
 - 2) 児童福祉
 - 3) 老人福祉
 - 4) 障害者福祉
- 5 社会福祉の方法
 - 1) ケースワーク
 - 2) グループワーク
 - 3) コミュニティワーク
- 6 社会福祉における人の問題
 - 1) 人の問題の重要性
 - 2) 社会福祉従事者の動向
 - 3) 職種の問題
 - 4) 社会福祉職員の専門職論
 - 5) ボランティアの問題
- 7 社会保障と社会福祉
 - 1) 社会政策と社会事業
 - 2) 社会保障と社会福祉

成績評価の方法

評価は、前期末と年度末の2回の試験の総合評価とする。

教科書

仲村優一著『社会福祉概論』（誠信書房）

参考書等

講義の内容を上記のテキストのみでは十分にカバーすることができないので、講義の進行にあわせて必要な参考文献を紹介する。なお、本講の内容は極めて広い範囲にわたるので、この参考文献にもとづいて各自学習を深めることを求めたい。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会福祉原論	ふな 船 みず 水 ひろ 浩 ゆき 行	社福主事2必	4

講義のねらい

「社会福祉」という言葉は、現代社会ではとてもポピュラーな言葉となっている。新聞、テレビ等においても、しばしば目にし、また耳にする。選挙があれば、国政・地方、首長・議員いずれのレベルでも多くの候補者がその充実を公約に掲げる。

しかしながら、改めて「現代社会における社会福祉とは何なのであろうか」とか、「社会福祉の援助や活動とはどのようなものなのであろうか」とか、「社会福祉の基盤となっている考え方はどのようなものなのであろうか」といったことを問われた時、多くの人々はなかなか上手く答えることができないのが現実と思われる。

本講の主題は、上記にあげたような社会福祉を学んでいくにあたってのベースとなる点を学習していくことにある。

講義の内容・ 授業スケジュール

- 1 現代社会における社会福祉の理念とその意義
- 2 社会福祉の対象と援助の形態、方法
- 3 社会福祉サービスの体系
- 4 社会福祉の法体系、実施体制、財政
- 5 社会福祉の動向

成績評価の方法

年度末の定期試験により実施します。詳細は、授業時に提示します。

教科書

仲村優一『社会福祉概論』（誠信書房）

参考書等

随時、紹介します。

(2) 選択科目

科目名	担当者名	配当学科	単位
法学（福祉）	小林弘人	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

社会福祉法制として理解されている各種の法令の意義・内容を理解することを目標とする。具体的には、社会福祉の組織、活動、財政、争訟に関する法令の解説をなるべく平易に説明をする。

講義の内容・授業スケジュール

①憲法と社会福祉、②民法と社会福祉、③社会福祉の法、④社会福祉の組織、⑤社会福祉の財政、⑥社会福祉の争訟、⑦公的扶助の法、⑧児童福祉の法、⑨単身家庭福祉の法、⑩心身障害者福祉の法、⑪身体障害者福祉の法、⑫精神薄弱者福祉の法、⑬老人福祉の法

成績評価の方法

出席、年2～3回のレポート、期末テストなどを総合的に勘案して評価する。

教科書

小林弘人著『高齢化社会における社会福祉の法』（創成社）3月末刊行予定

科目名	担当者名	配当学科	単位
社会福祉発達史	林千代	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

いつの時代にも、人々の生活不安は自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には、常に多くの問題が生じ人々は生活困難におちいった。社会事業は資本主義社会の成立とともに生成した。主に、英国、日本を中心に（部分的に米国にもふれる）社会福祉へ至る歩みを講述する。対象の存在と問題解決の方法、方法の意図や施策の背景をなす社会福祉の思想、その関連等が内容となる。一定の歴史的物産である社会福祉、その本質は何か、その現状は等々を考えるためにこそ、歴史を学ぶ意義がある。

教科書

特になし

参考書等

今岡 他編『社会福祉事業発達史』（ミネルヴァ書房）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
リハビリテーション論	なる かわ よし お 生 川 善 雄	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

リハビリテーションとは、障害のある人が人間らしく生きる権利の回復、すなわち『全人的復権』である、といえよう。

本講義においては、リハビリテーションの理念、医学・教育・職業の3領域のリハビリテーションについての概略、社会的リハビリテーションの基本問題の学習を通して、障害のある人が人間らしく生きる権利をどのように回復してゆくべきかについて考察する。

講義の内容・
授業スケジュール

まず、リハビリテーションの理念に触れる。次いで、医学、教育、職業、社会の4領域のリハビリテーションについての概説を行ない、それら4領域の関連性についても言及する。これら4領域のリハビリテーションのうちでも、社会的リハビリテーションは、障害者福祉との関連も深いといえるので、本講義においても主としてこれに多くの時間をあてる予定である。しかし、社会的リハビリテーションは、医学的リハビリテーションや職業的リハビリテーションに比べて、その考え方や技術の枠組みはいまひとつ確立されていないといえよう。そこで、社会的リハビリテーションについては、諸々の社会的リハビリテーションに関する研究を取り上げながら、検討していきたい。すなわち、障害者の社会活動への参加、障害者のQOLとADL、障害者をめぐる環境、障害者と家族、障害者の自立ならびに自立援助、地域に根ざしたりハビリテーション、施設リハビリテーション、社会的リハビリテーションの種々の方法などをとりあげながら、社会的リハビリテーションの基本問題を論じていきたい。

履修上の留意点

履修者は「人間らしく生きる権利の回復」という語句の意味を考えながら、学習を深めてほしい。

成績評価の方法

授業中の小課題に対する回答と、テストにより評価する。

教 科 書

特に指定しない。

参 考 書 等

- ・小島蓉子・奥野英子編著『新・社会リハビリテーション』（誠信書房）1994
- ・上田 敏『リハビリテーションを考える』（青木書店）1983

そ の 他

講義形式で進める。何回かビデオを使用する予定である。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
社 会 保 障 論	<small>なが</small> 長 <small>お</small> 尾 <small>じょう</small> 譲 <small>し</small> 治	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

現代社会における私たちの生活は、多くの場合、働いて収入を得ることによって成り立っている。これにより、食べるもの、着るもの、住むところなどを手に入れる。しかし、働く力を失った人、働く機会に恵まれない人など、所得を得ることができない人々はどうするのであろうか。また、人々の生活そのものを荒廃させかねない、病気やケガになったらどうするのであろうか。

社会保障は、このような所得の欠乏、疾病への対応として、所得と医療の保障を主たる目的に形成されてきた。そして、現代社会においては、各国それぞれの文化、社会・経済の状況等の諸要因により、構造、形態、財源等に相違は見られるものの、人々の生活の維持、向上のために必要不可欠の政策であり、制度となっている。

本講義では、この社会保障が、どのような考え方に基づいて形成されてきたものであるのかを踏まえた上で、現代社会における社会保障の役割と意義はどのような点にあるか、わが国における社会保障制度の現状と課題はどのようなものであるのか、を中心に考察していく。

講義の内容・授業スケジュール

- | | | |
|---|-----------------|--------------|
| 1 現代社会における生活問題 | 2 社会保障の史的展開 | 3 社会保障の理念 |
| 4 社会保障の概念、範囲、規模 | 5 社会保障の財政 | 6 社会保障の機能 |
| 7 社会保障の問題点と今後の課題 | 8 わが国の社会保障制度の体系 | |
| 9 わが国の社会保障各制度の沿革と概要 | | |
| 1) 年金保険 2) 医療保険 3) 労災保険 4) 雇用保険 5) 公的扶助 6) 児童手当 | | |
| 7) その他 | | |
| 10 民間保険の役割 | 11 社会保障の実施体制 | 12 社会保障研究の動向 |

成績評価の方法

年度末試験に出席点を加味して評価する。

教科書

福祉士養成講座編集委員会編集『改訂社会福祉士養成講座5 社会保障論』（中央法規）

参考書等

総理府社会保障制度審議会事務局編『社会保障統計年報』（法研）
厚生省大臣官房政策課監修『社会保障入門』（中央法規）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
家 庭 福 祉 論	いわ 岩 上 真 珠	福祉主事2・3・4選	4

講義のねらい

個人と家庭のウェルビーイングはいかにして達成されるのか。講義では、親と子のウェルビーイングと家庭福祉の問題を、男女平等社会の役割分担のあり方や家族の多様化をふまえて考えてみたい。

講義の内容・授業スケジュール

講義は、次のような内容で進めていきたい。

- 1) 「ウェルビーイング」の考え方
- 2) 家庭の機能とは何か
- 3) 少子化・高齢化と家庭機能の変化
- 4) 個人化社会と家庭福祉
- 5) 男女平等社会と子育てサポート
- 6) 家族の多様化と子どもの福祉

履修上の留意点

問題意識をもって聴講してもらいたい。また随時意見や感想をレポートしてもらおう予定である。

成績評価の方法

小レポート、期末試験、および平常点（出席状況を含む）で評価する。

教 科 書

特に指定しない。

参 考 書 等

講義中、適宜指示する。

そ の 他

講義を主体とする。必要なプリント類は随時配布する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
社会福祉計画論	かわ 川 廷 宗 之 <small>か かわ てい もと ゆき</small>	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

問題対応的なサービス提供から予防福祉的な側面も強調されるように変化してきたことよって起きている近年の社会福祉サービスの領域の拡大は、そのサービス提供を組織的計画に行なわなければならない段階に到達しつつある。このような需要の増大に対応した行政計画の考え方は、建設領域や産業振興領域において戦後の長い蓄積がある。が、福祉領域においては、計画化の歴史は短い。その理由は、福祉には建設や産業振興とは違う要素が多く、計画的展開に馴染みにくかったことや、問題対応的な福祉サービスから抜けきれなかったためである。とすれば、福祉計画を考える時、これらの産業計画や建設計画と、福祉計画の性格がどのようにことなるのかが考察されなければならない。

さらに、計画は実際の市民生活に多大な影響を与える実践である。その意味では、計画をどう作るのか、その手法も大きな問題となる。

講義の内容・授業スケジュール

上記のような問題意識にもとづいて、福祉を中心のその計画（国家計画、地域計画、地域福祉計画、施設経営計画、市民生活の計画、等々）について学ぶが、その前提としては、福祉運営管理等についてもふれておく必要がある。ソーシャル・アドミニストレーションの理論についての学習や日本における施設の運営管理上の課題などについても触れる予定である。

理論的内容を前期、実践的な計画技術についての考察や演習を後期に履修する。講義内容やスケジュールの詳細については、開講第1～2回の授業で説明する。なお、受講者数にもよるが、実際の計画立案技術の演習等も行なう予定であるので、それらの演習には、質問や意見の提案など積極的な関わりを期待している。

履修上の留意点

この講義では、開講第1～2回で全体のスケジュール等を説明するので、必ず第1回から出席していただきたい。途中からの受講では事実上単位習得は難しいと理解してほしい。

社会計画はすぐれて実践的に学ばないと理解しがたい点も多い。そのため、授業ごとに資料を探したり読んで来る簡単な課題がだされることも多い。従って、欠席すると授業で何をしているのか理解できなくなる可能性が高いので、なるべく欠席しないように、又、実習等でやむを得ず欠席する場合は、受講する友人に内容を聞いておいてください。

なお、文学部社会科学福祉コースの学生以外の諸君が選択する場合は、この科目が社会福祉原論や社会福祉援助技術総論などで学ぶ福祉に関する基礎的な知識を前提として開講されている点を理解して、関係領域についての文献を読むなどの自己学習を並行して行っていただきたい。特に、社会福祉援助技術総論にてでくるソーシャルワークの基本的な考え方やコミュニティ・オーガニゼーション理論などについては、必ず習得しておいていただきたい。

成績評価の方法

日常的な課題の提出状況、授業への質問や、意見を積極的に出しているかどうか、などに見る授業への参加度、期末に行なわれるレポートの提出、出席状況（最低出席日数の確保）等を配慮して、評価する。

教科書

第1回目の授業時に指定する。

参考書等

- ① 高田真治『社会福祉計画論』（誠信書房）1979年
- ② R. パールマン A. グリン著 岡村重夫 監訳『コミュニティ・オーガニゼーションと社会計画』（全国社会福祉協議会）1980年
- ③ 全社協編『地域福祉計画——理論と方法——』（全国社会福祉協議会）1984年

その他

計画の立案演習を行う過程で、若干の資料代やコピー代が必要になると予想される。出来るだけ負担を軽くするようにするが、一部の学習経費の自己負担は止むを得ないので、若干の教材費については予定して選択してもらいたい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
国 際 社 会 福 祉 論	やまもと まみ 山 本 真 実	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

国際社会における福祉、社会福祉における国際化、「国際社会福祉」を捉える視点に定義はない。日本以外の国の生活を通して、社会福祉とは何かを考えること、また国際社会において発生する軋轢や衝突、問題等に対応し解決していくものとして社会福祉をどのように考えるかを考察していくことを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

二つの柱を通して国際社会福祉の理解を深めていく。まず、一つは福祉先進国と言われる北欧の社会福祉制度・サービス、ベトナムやフィリピン等の途上国の社会福祉制度、生活等各国の実情を通して、日本の社会福祉の現状や考え方について振り返り、見直すこと。二つ目は、国際社会において発生する貧困、戦争、児童労働、異文化への理解等テーマごとにどのような取り組みがあるかを学習し、生活を支える社会福祉制度の在り方について考察する。

履修上の留意点

特に社会福祉の基礎がなくても構わない。

成績評価の方法

出席状況（カード）、レポート、試験の総合評価により評価する。

教 科 書

特になし。

参 考 書 等

適宜授業中に紹介。

そ の 他

ビデオ使用。
適宜感想を記入するカードを配布。
積極的な討議、意見発表を高く評価する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
保 健 福 祉 論	<small>なが</small> 長 <small>お</small> 尾 <small>じょう</small> 譲 <small>じ</small> 治	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

保健福祉学とは、保健学・福祉学、及び関連諸科学を統合し、これまでのように為政者の都合によるサービス提供に代わって、利用者の立場に立ったサービスのあり方を考える新しい社会福祉の分野である。本講義では、保健福祉学の視座に基づいて、従来の社会福祉諸サービスを再構成し、これからの生活関連諸サービスの動向と課題について考えていきたい。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1 保健福祉とは
保健福祉の歴史／保健福祉学の視座
- 2 日本のヘルスケア制度の体系
健康保険／国民健康保険／老人保健／福祉医療／クライアントの人権とこれからのヘルスケア
- 3 ライフサイクルと保健福祉
児童／成人／老人／ターミナル・ケア／女性と保健福祉
- 4 傷病別に見た保健福祉
身体障害／知的障害／精神障害／難病・結核／ハンセン病／AIDS
- 5 リハビリテーションと保健福祉
リハビリテーションの理念と実際／福祉機器・用具サービス
- 6 保健福祉の国際的動向
先進諸国／開発途上国／日本
- 7 保健福祉の課題
保健福祉計画／規制と情報公開／バイオエシックスとインフォームド・コンセント

成績評価の方法

年度末試験に出席点を加味して評価する。

参 考 書 等

追って紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
公 的 扶 助 論	いとう しゅういち 伊 藤 秀 一	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

本講の中心的なテーマは、わが国の生活保護制度をどのように位置づけ、どのように方向づけるかである。

講義内容としては、上述した問題意識のもとに、以下の項目について講じていく予定である。併せてイギリスの福祉権運動（Welfare rights work）の動向等にも触れる。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 現代社会と公的扶助
2. 低所得問題対策の概要
3. 生活保護制度のしくみ
4. 生活保護の最近の動向
5. 生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方

成績評価の方法

出席状況、小テスト、学年末定期試験を総合して評価する。

教 科 書

なお、テキスト等については開講時に指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
障 害 者 福 祉 論	<small>なる</small> 生 <small>かわ</small> 川 <small>よし</small> 善 <small>お</small> 雄	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

障害者福祉は、①障害のある人々の障害状況を可能なかぎり軽減し、障害のない人々と同様の生活条件を享受できるようにすること、②障害がある故に入学しにくい、就職しにくい、などの社会常識の根底に潜む障害者観の歪み（差別や偏見など）を変革すること、の2つの面が課題となってくる、ともいえよう。

今日のわが国の障害者福祉は、行政努力、当事者運動、国民の人権意識などを反映して、さらには、国際障害者年の各種の国際会議などの影響もあり、制度的にも実践的にもかなり発展してきている。

本講義においては、上記のことをふまえ、障害問題、障害者に関する諸研究を整理し、大きく変化しつつある今日の福祉状況を見つめながら、障害者福祉の課題について検討していきたい。

講義の内容・授業スケジュール

内容としては、障害者福祉の基底に流れる理念、障害者の自立、障害の概念、障害者の実態と福祉ニーズ、身体障害者、知的障害者、精神障害者に対する福祉施策・制度、保健・医療、雇用、所得保障などの障害者福祉の関連施策、障害者福祉における民間活動、障害者福祉にたずさわる専門職・ボランティア、障害者の家族支援、障害者に対する相談援助活動などについて言及する。

履修上の留意点

履修者は、障害者福祉の課題を念頭に置きながら、学習を深めてほしい。

成績評価の方法

授業中の小課題に対する回答と、テストにより評価する。

教科書

特に指定しない。

参考書等

- ・星野貞一郎 他編『障害福祉論入門 改訂版』（有斐閣双書）1982
- ・福祉士養成講座編集委員会 編『障害者福祉論』（中央法規）1996

その他

講義形式で進める。何回かビデオを使用する予定である。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
老人福祉論	とう じゅう みつ まさ 東 條 光 雅	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

老人虐待の多発、家族介護の深刻化、社会保険料の負担増、老齢年金の減額、介護保険の導入決定等、老年期や高齢者に関する事柄が、近年富にマスメディアを賑わしている。こうした事柄が騒がれる背景は、世界一の「人生80年」という長寿化の進行と急激な少子化による日本社会の高齢化である。

わが国の高齢化の度合いはいよいよ欧米社会のそれに匹敵するまでとなり、近未来の21世紀には人類未曾有の高齢社会を迎えようとしている。その21世紀に高齢者となるのは、現在“青・壮年期”にある人々である。これから一層高度化してゆく高齢社会、深刻化してゆく高齢者問題にどのように準備し対応してゆくかは、日本社会にとって大変重要な問題である。

本講義では、社会的対策としての老人福祉の制度・政策についてのみでなく、対象者理解の観点から高齢者や老年期の特性をも含み、幅広く講じてゆきたい。

講義の内容・授業スケジュール

前期⇒人口高齢化の意味と状況

わが国における高齢者の生活実態及び高齢者像
老年期の心身の状況、etc.

後期⇒わが国における高齢者対策の歴史

老人福祉対策・サービスの現状および課題
今後の高齢化社会にむけて、etc.

履修上の留意点

この授業は講義形式で進めてゆくが、毎回受講生を指名して質問に回答してもらったり、意見発表をしてもらう。内職や居眠りは出来ないので、そのつもりで履修すること。

成績評価の方法

出席点、夏季休暇中のレポート、年度末の定期試験の3つを総合して評価する。しかし、評価は原則的には年度末試験の得点によって行う。出席率が70%を切る（諸実習による公欠は出席扱いとする）場合は、試験そのものの受験を認めない。また、夏季休暇中のレポート点は、定期試験での得点がボーダーラインに位置する学生においてのみ考慮するものである。

教科書

冷水豊編『老人福祉論』（メヂカルフレンド社）

冷水豊編『老人福祉－政策・処遇の視点と方法－（第三版）』（海声社）2,000円

参考書等

適宜紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
児童福祉論	前期：山本真 後期：許斐有	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

本講義では、「児童福祉」を《社会的子育てシステム》と捉え、現行の児童福祉の法制度を検討しながら、子どもを養育する社会の責任および公的責任、子育てに対する公的・社会的支援・援助のあり方を考察する（子ども家庭福祉論）。また、児童福祉法の成立・展開課程や子どもの権利条約等の検討を通して、子どもの権利の基本的な考え方および児童福祉法の基本理念を学び、《子どもの権利擁護システム》としての児童福祉法制度について理解を深める。なお、これらの参考として、カナダの子ども家庭サービスについても言及したい。

講義の内容・授業スケジュール

- 1) 子どもの現状と子どもの人権
- 2) 子ども家庭政策の展開と最近の動向
- 3) 子どもの権利の考え方
- 4) 児童福祉法の理念
- 5) 子ども家庭福祉に関する法制度
- 6) 子ども家庭福祉サービスの現状と課題
- 7) 児童虐待の実態と相談援助の実際
- 8) カナダの子ども家庭サービス

履修上の留意点

受講学生には、児童福祉を知識として学ぶだけでなく、子どもが権利の主体であるという新たな理念を正しく理解し、子どもと家庭に対する支援・援助のあり方を自分なりに考えることを期待している。

成績評価の方法

主として学年末の試験によるが、レポート等の成績を加味することもある。

教科書

許斐有『子どもの権利と児童福祉法』（信山社）
『社会福祉小六法』（出版社は問わない）

参考書等

永井憲一・寺脇隆夫編（許斐共著）『解説・子どもの権利条約』（日本評論出版社）
ささやななえ（権名篤子原作）『凍りついた瞳——子ども虐待ドキュメンタリー』（集英社）ほか

科目名	担当者名	配当学科	単位
女性福祉論	林千代	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

戦後のある時期“婦人福祉”という概念が登場した。以来、唯一、女性を対象としている社会福祉事業は、売春防止法に基づいて制度化されている婦人保護事業である。しかし、女性という特性ゆえに遭遇する生活上の困難は多様であり、何らかの解決策を必要としている。女性福祉という概念はまだまだ成熟しているとはいえないが、売買春問題を基底に据えて、婦人保護事業の現実から女性の福祉阻害の実態をとらえ、女性の人権復権の検討を課題としたい。それは当然、男性の人権侵害を問いつけることになる。

教科書

特になし。

参考書等

林千代編『慈愛寮に生きた女性たち』（東京創文社）
林千代編『現代の女性と売買春』（ドメス出版）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
医 療 福 祉 論	<small>りる</small> 春 <small>み</small> 見 <small>しづ</small> 静 <small>こ</small> 子	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

保健・医療の領域における専門職としての医療福祉職の実践について理解する。
医療ソーシャルワークがどのような学問を基礎とし、どのようなフィールドでいかなる援助技術を用いてなされるかを学ぶ。

講義の内容・
授業スケジュール

- 教科書に沿って
- 1 社会福祉とソーシャルワーク
 - 2 医療・保健機関におけるソーシャルワークの特徴
 - 3 医療について 健康の概念、病気の概念
医療機関の組織と医療従事者のチームワーク
疾病分類
疾病に関する知識
 - 4 医療ソーシャルワーカーの役割 MSWの歴史、ワーカーの課題
総合病院のソーシャルワーカー、精神科領域、老人病院、
援助手段としての社会資源
 - 5 医療ソーシャルワークの実際
援助技術の方法（ケースワーク、グループワーク）、面接
の方法、外来段階の援助、入院段階の援助

履修上の留意点

時々小グループで検討することがあるので、積極的に参加して欲しい。希望する人には医療機関の実習を紹介する。

成績評価の方法

出席点と期末試験の点数で評価する。

教 科 書

出川哲也著『臨床医療ソーシャルワーク』（誠信書房）2,500円

そ の 他

毎年、医療機関の見学の機会を設けている。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
地域福祉論	わたなべかずくに 渡 辺 一 城	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

我が国の社会福祉の流れはいま正に大きな転換期にある。80年代後半から今日にかけて議論されてきた制度改革におけるキーワードはいうまでもなく「地域福祉」であり、これが社会福祉を進めていく上での基本的な考え方となっている。従って、地域福祉は、社会福祉の一分野ないしは方法というより、それらを総合化した社会福祉の現代的形態として理解される必要がある。それは限りなく地域における住民の現実の生活に着目した、かつ新しい福祉を切り開く視点を内包した領域であるといえることができる。

本講義では、こうした前提を踏まえ、これから社会福祉に関わる上で必要な地域福祉の視点や課題を学ぶことを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

講義の内容は主として次の事項を扱う。

- ・ 地域福祉の理念や概念、内容
- ・ 地域福祉の歴史的展開
- ・ 在宅福祉サービスのあり方と供給方法
- ・ 地域福祉の主体形成と福祉教育
- ・ ボランティア活動や NPO 活動とその支援
- ・ 地域福祉を推進する機関と組織（社会福祉協議会、ボランティアセンター、共同募金会のあり方や、関係機関や仲介調整組織との関係など）
- ・ 地域福祉を支えるコミュニティワーカーの役割
- ・ 小地域におけるインフォーマルネットワークのあり方
- ・ 地域福祉計画の策定とコミュニティワークの展開 など

成績評価の方法

出席、テストなどにより評価を行う。

教科書

大橋謙策著『地域福祉論』（放送大学教育振興会）

参考書等

大橋謙策・宮城孝編『社会福祉構造改革と地域福祉の実践』（東洋堂企画出版社）
牧里毎治・野口定久・河合克義編『地域福祉』（有斐閣）

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会学(福祉)	橋爪敏 <small>はしづめ さとし</small>	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

この講義は、社会福祉士ならびに社会福祉主事を目指す学生に「社会学」についての基本的な知識の提供を目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

講義のねらいで述べたように、この「社会学(福祉)」の授業は社会福祉士、社会福祉主事の資格取得に関わるものである。しかし、こうした資格に関わる受験対策そのものをねらいとするものではない。また、「福祉社会学」を論ずるものでもない。あくまでも、「社会学」の基礎知識の習得がねらいである。したがって、社会学の歴史、社会集団の類型、現代社会の諸問題などを取り上げることとする。

履修上の留意点

この授業は、すでに社会学についての若干の予備知識のあるものと、まったくの初心者も受講すると言う、変則的なところがあるが、初心者に判り易く語ることを主にしていきたい。

成績評価の方法

成績評価は、講義内容に関わる基本的な問題について、学年末におこなうペーパー・テストによって評価する。

教科書

福祉士養成講座編集委員会編『改訂 社会福祉士養成講座12/社会学』(中央法規出版)

参考書等

安藤喜久雄ほか編『社会学概論』(学文社)
 安藤喜久雄ほか編『わかりやすい社会学』(学文社)
 高尾・橋爪編『社会学の基礎』(犀書房)
 R.ニスペット『現代社会学入門1～4』(講談社学術文庫)

科目名	担当者名	配当学科	単 位
心理学(福祉)	高橋良博 <small>たか はし よし ひろ</small>	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

社会福祉の現場で、必要とされる「心理学」の基礎的な知識を、習得することを目的とする、講義である。

講義の内容・授業スケジュール

講義の予定としては、まず、心理学的なものの見方を身につけ、次に、社会福祉に関連するトピックスをとり上げてゆく。具体的には、以下の項目について、1年間を通し重点的にふれてゆく。①心理学の歴史と現状に対する理解 ②人間の心理学的理解に関する基礎概念 ③人間の成長・発達と諸問題 ④心理学的な人間理解に基づく援助技術
 また、心理学研究の雰囲気にもふれるため、適宜、供覧実験や人格テストの体験なども折込ながら講義を進めてゆく予定である。

成績評価の方法

筆記試験・レポートなどの提出物、その他、平常点(講義への出席状況や、参加度)などを総合して評価を行う。

教科書

福祉士養成講座編集委員会 編集『改訂 社会福祉士養成講座11 心理学』(中央法規) 2,500円